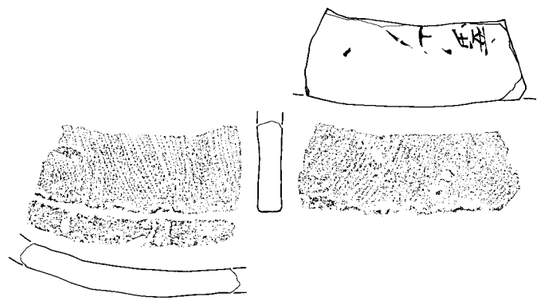
水戸市埋蔵文化財調査報告第14集

大　串　遺　跡

（第７地点）

－介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－



２００８

水戸市教育委員会

水戸市埋蔵文化財調査報告　第14集

大串遺跡（第７地点）

二〇〇八

水戸市教育委員会

調査区全景

調査区全景（南から）

調査区全景（西から）

水戸市埋蔵文化財調査報告第14集

大　串　遺　跡

（第７地点）

－介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２００８
水戸市教育委員会

ごあいさつ

「大串遺跡」は，那須茶臼岳を水源とする那珂川右岸の台地上に位置しております。

「大串遺跡」の周辺には，『常陸国風土記』に記載のある国指定史跡「大串貝塚」や6世紀後半に築造された首長墓とみられる「北屋敷古墳」，奈良・平安時代に交通の要衝として機能した平津駅家の関連集落とみられる「梶内遺跡」など多くの重要遺跡が残されており，古くから政治・文化の中心地域のひとつとして繁栄してきたと考えられます。

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は，工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復すことができないため，私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。

近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で，埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが，本市においてもその意義や重要性を踏まえ，文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に努めているところです。

このたびの調査は，当該遺跡内に介護老人保健施設の建設が計画され，遺跡への影響が予想されたため，文化財保護の観点から十分に協議を重ねた結果，遺跡の現状保存が困難であるとの結論に至り，次善の策として発掘調査を実施し，記録の上での保護措置を講ずることとしたものです。

ところが，本発掘調査により，正倉院に関連する区画溝や倉庫とみられる掘立柱建物跡などが確認されるとともに，各種の遺物が出土し，本市の古代史研究はもとより，古代地方官衙の実態を考えていくうえでも大変貴重な資料が発見されました。調査の開始時には記録保存を予定しておりましたが，遺構の重要性を鑑み，事業者である医療法人鳳香会に保存について申し入れをしたところ，多大なる御理解と御協力により，これらの重要遺構を地下に保存することができました。

ここに刊行する本書が，かけがえのない貴重な文化財に対する意識の高揚と学術研究等の資料として，広く御活用いただければ幸いです。

終わりに，本調査に当たり多大なる御理解と御協力をいただきました医療法人鳳香会の皆様，並びに種々の御指導，御助言をいただきました文化庁文化財部記念物課，茨城県教育庁文化課，水戸市史跡等整備検討専門委員の皆様方に心から感謝を申し上げます。

平成20年３月

水戸市教育委員会
教育長　鯨岡　武

例　　言

1．本書は介護老人保健施設建設に伴い，有限会社日考研茨城により行われた発掘調査報告書である。

2．本書は，下記の遺跡を収録したものである。

本調査　　大串（おおくし）遺跡（第７地点）水戸市大串町字仲道584-1外に所在する。

3．（有）日考研茨城が医療法人　鳳香会からの委託を受けて，茨城県教育委員会および水戸市教育委員会の指導のもとに発掘調査を下記の期間に実施した。

4．発掘調査組織は下記のとおりである。

調査担当者	大渕　淳志	日本考古学協会員　（有）日考研茨城調査研究室長
調査員	遠藤　啓子	（有）日考研茨城調査研究員
事務局	鯨岡　　武	水戸市教育委員会教育長
	小澤　邦夫	水戸市教育委員会教育次長
	仲田　　立	水戸市教育委員会文化振興課長
	中里誠志郎	水戸市教育委員会文化振興課長補佐
	宮崎　賢司	水戸市教育委員会文化振興課文化財係長
	川口　武彦	水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事
	関口　慶久	水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事
	緑川　義規	水戸市教育委員会文化振興課文化財係主事
	新垣　清貴	水戸市教育委員会文化振興課文化財係埋蔵文化財専門員
	渥美　賢吾	水戸市教育委員会文化振興課文化財係埋蔵文化財専門員
	木本　挙周	水戸市教育委員会文化振興課文化財係埋蔵文化財専門員

整理作業は，水戸市教育委員会の指導のもとに，小川和博（日本考古学協会員（有）日考研茨城代表取締役）・大渕淳志・遠藤啓子・大渕由紀子・大久保敦子・中野富美子・大野美佳（以上（有）日考研茨城）が行った。

5．本書の編集は，川口武彦の指導・助言の下，小川和博・大渕淳志が行った。

6．本書の執筆は，小川和博・大渕淳志のほか，川口武彦・木本挙周・渥美賢吾・関口慶久・株式会社京都科学があたった。文責はそれぞれ文末に記載した。

7．本書で使用した図面の方位は全て座標北である。

8．本書中の色調に関する表現は新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修2000年版）に従った。

9．遺構および遺物の写真撮影は大渕淳志・小川和博が行った。なおPL.16　８－１の赤外線写真は，独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室による撮影。

10．記録および出土遺物は，水戸市教育委員会が保管している。

11．発掘調査から本書の刊行に至るまで，下記の方々・諸機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です（敬称略・順不同）。

【個人】浅野啓介，青山俊明，荒井秀規，飯島一生，石川隆司，板橋正幸，出浦　崇，
大橋泰夫，岡本東三，片平雅俊，川井正一，川崎純徳，川尻秋生，瓦吹　堅，
木下　良，木村友則，木本雅康，木本好信，黒澤彰哉，黒済玉恵，後藤一成，
後藤道雄，斎藤弘道，坂井秀弥，清水昭博，清野孝之，高島英之，武部健一，
知久裕昭，鳥羽政行，長谷川　聡，馬場　基，三井　猛，森　郁夫，山路直充，
山中敏史，山本　崇，横倉要次，吉村武彦，渡辺晃宏

【機関】茨城県教育庁文化課，独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所，文化庁文化財部記念物課，水戸市大串貝塚ふれあい公園，明治大学古代学研究所，株式会社京都科学，有限会社三井考測，埋蔵文化財の保存処理いしかわ

12. 調査には以下の者が参加した。
相田三郎，井澤良忠，井澤しつい，小沢明子，小野　豊，梶井秀夫，河井眞一，菊池　等，佐賀　実，佐藤　實，沢田すみ江，塩澤和紀，藤岡　勤，緑川覚吾，皆川典子，谷中　昌

13. 遺構の略称に使用した記号は以下の通りである。
掘立柱建物跡：SB　竪穴建物跡：SI　溝跡：SD　土坑：SK　攪乱：K

14. 遺構のうち掘立柱建物跡と竪穴建物跡の番号については，水戸市教育委員会が同時期に行った駐車場部分の確認調査で確認されたものと通番としている。

本文目次

あいさつ
例言
本文目次
挿図目次
写真図版目次
表目次
第１章　調査に至る経緯と調査経過
　１－１　調査に至る経緯 …… 関口 …… 1
　１－２　発掘作業の経過 …… 大渕・小川・関口 …… 2
　１－３　整理等作業の経過 …… 小川・大渕 …… 3
第２章　遺跡の周辺環境
　２－１　地理的環境 …… 川口 …… 4
　２－２　歴史的環境 …… 渥美・川口 …… 4
　２－３　大串遺跡における既往の調査 …… 川口 …… 8
第３章　検出された遺構と遺物
　３－１　先土器時代 …… 小川・大渕 …… 11
　３－２　縄文時代 …… 小川・大渕 …… 11
　３－３　古墳時代 …… 小川・大渕 …… 17
　３－４　奈良・平安時代 …… 小川・川口・木本 …… 18
　３－５　中世以降 …… 小川・大渕・川口 …… 53
第４章　総括
　４－１　土地利用の変遷 …… 小川 …… 66
　４－２　区画溝SD03出土炭化米と床束建物SB04の構造と性格について …… 川口 …… 67
　４－３　出土瓦の考察 …… 木本 …… 72
　４－４　課題と展望 …… 川口 …… 77
附編　正倉院区画溝SD03出土炭化米の保存・強化処理 …… 川口・株式会社京都科学 …… 79
引用・参考文献

挿図目次

第１図　試掘調査のトレンチ配置と確認された遺構の分布（Ｓ＝１：1，000）…… 2
第２図　調査地点の位置（国土地理院発行１：25,000「磯浜」に加筆）…… 4
第３図　大串遺跡と周辺の遺跡分布・地形（茨城県遺跡地図１：25,000に加筆）…… 5
第４図　遺構配置図 …… 10
第５図　基本層序 …… 11
第６図　土坑(SK01・05)実測図 …… 13
第７図　土坑(SK06・09・14)実測図 …… 14
第８図　調査区内出土縄文時代の遺物 …… 15
第９図　竪穴建物跡(SI01)実測図 …… 16
第10図　竪穴建物跡(SI01)出土遺物 …… 17
第11図　4号建物跡(SB04)実測図 …… 19
第12図　4号建物跡(SB04)柱穴断面(1) …… 20
第13図　4号建物跡(SB04)柱穴断面(2) …… 21
第14図　4号建物跡(SB04)柱穴断面(3) …… 22
第15図　4号建物跡(SB04)柱穴断面(4) …… 23
第16図　4号建物跡(SB04)柱穴断面(5) …… 24
第17図　4号建物跡(SB04)出土遺物 …… 24
第18図　7号建物跡(SB07)実測図 …… 26
第19図　8号建物跡(SB08)実測図 …… 29
第20図　8号建物跡(SB08)柱穴断面(1) …… 30
第21図　8号建物跡(SB08)柱穴断面(2) …… 31
第22図　8号建物跡(SB08)柱穴断面(3) …… 32
第23図　8号建物跡(SB08)柱穴断面(4) …… 33
第24図　8号建物跡(SB08)柱穴断面(5) …… 34
第25図　8号建物跡(SB08)柱穴断面(6) …… 35
第26図　8号建物跡(SB08)出土遺物 …… 35
第27図　9号建物跡(SB09)実測図 …… 37
第28図　9号建物跡(SB09)柱穴断面(1) …… 38
第29図　9号建物跡(SB09)柱穴断面(2) …… 39
第30図　12号建物跡(SB12)実測図 …… 40
第31図　２号竪穴建物跡(SI02)実測図 …… 41
第32図　２号竪穴建物跡(SI02)出土遺物 …… 41
第33図　３号竪穴建物跡(SI03)実測図 …… 42
第34図　３号竪穴建物跡(SI03)出土遺物 …… 43
第35図　１号溝跡(SD01)実測図 …… 44
第36図　１号溝跡(SD01)出土遺物(1) …… 45
第37図　１号溝跡(SD01)出土遺物(2) …… 46
第38図　３号溝跡(SD03)実測図(1) …… 47
第39図　３号溝跡(SD03)実測図(2) …… 48
第40図　３号溝跡(SD03)出土遺物(1) …… 49
第41図　３号溝跡(SD03)出土遺物(2) …… 50
第42図　３号溝跡(SD03)出土遺物(3) …… 51
第43図　３号溝跡(SD03)出土遺物(4) …… 52
第44図　5号建物跡(SB05)実測図 …… 54
第45図　6号建物跡(SB06)実測図 …… 55
第46図　10号建物跡(SB10)実測図 …… 56
第47図　11号建物跡(SB11)実測図 …… 57
第48図　2号溝跡(SD02)実測図 …… 59
第49図　2号溝跡(SD02)出土遺物 …… 60
第50図　竪穴状遺構(SK02・03・04)実測図 …… 62
第51図　土坑(SK07・08)実測図 …… 63
第52図　土坑(SK10・11・12・13・15・16・17・18)実測図 …… 64
第53図　土坑・その他出土遺物 …… 65
第54図　大串遺跡第７地点における土地利用の変遷 …… 68
第55図　床束建物の緒類型 …… 70
第56図　3121型式軒丸瓦（1：4） …… 73
第57図　山田寺跡出土軒瓦（1：4） …… 73
第58図　台渡里廃寺跡長者山地区出土重弧文軒平瓦 …… 73
第59図　常陸国古代交通路 …… 74
第60図　多賀城系軒丸瓦変遷図 …… 74
第61図　多賀城出土軒丸瓦(左)と台渡里廃寺跡長者山地区出土3117型式軒丸瓦(右) …… 76
（『平成18年度　台渡里廃寺跡長者山地区－範囲確認調査現地説明会資料－』より転載）
第62図　長者山地区正倉配置図 …… 76
（『平成18年度　台渡里廃寺跡長者山地区－範囲確認調査現地説明会資料－』より転載）

写真図版目次

PL.1　遺跡遠景、先土器時代試掘グリット、陥し穴SK01、陥し穴SK05
PL.2　1　竪穴建物跡SI01、2.3　竪穴建物跡SI01遺物出土状況、4　竪穴建物跡SI03、5　竪穴建物跡SI03遺物出土状況
PL.3　掘立柱建物跡SB04全景、掘立柱建物跡SB04　P1、掘立柱建物跡SB04　P2
PL.4　掘立柱建物跡SB04　P3、掘立柱建物跡SB04　P4、掘立柱建物跡SB04　P9、掘立柱建物跡SB04　P10
PL.5　掘立柱建物跡SB04　P11、掘立柱建物跡SB04　P12・P30・P31、掘立柱建物跡SB04　P13、掘立柱建物跡SB04　P13
PL.6　掘立柱建物跡SB04　P15、掘立柱建物跡SB04　P16、掘立柱建物跡SB04　P17、掘立柱建物跡SB04　P18
PL.7　掘立柱建物跡SB05、掘立柱建物跡SB06、掘立柱建物跡SB07
PL.8　掘立柱建物跡SB08全景、掘立柱建物跡SB08、掘立柱建物跡SB08　P1・P35
PL.9　掘立柱建物跡SB08　P2・P23・P24、掘立柱建物跡SB08　P9・P20・P21、掘立柱建物跡SB09
PL.10　溝SD01、溝SD01硬化面、溝SD01遺物出土状況
PL.11　溝SD03全景、溝SD03遺物出土状況、溝SD03遺物出土状況、溝SD03炭化米出土状況
PL.12　竪穴状遺構SK01、竪穴状遺構SK04、土坑SK11
PL.13　1．調査区内出土縄文時代の遺物、2．竪穴建物跡SI01出土遺物
PL.14　1～6　4号建物跡SB04出土遺物、7～12　8号建物跡SB08出土遺物、13・14　竪穴建物跡SI02出土遺物
PL.15　竪穴建物跡SI03出土遺物
PL.16　1～12　堀SD01出土遺物、13～15　堀SD03出土遺物(1)
PL.17　1～15　堀SD03出土遺物(2)
PL.18　1～14　堀SD03出土遺物(3)
PL.19　1～8　堀SD03出土遺物(4)、9～17　堀SD02出土遺物、18　土坑SK02出土遺物　19　表採資料

表目次

第１表　大串遺跡と周辺遺跡一覧 …… 6
第２表　大串遺跡における既往の調査 …… 9
第３表　SB04柱穴属性一覧 …… 18
第４表　SB07柱穴属性一覧 …… 25
第５表　SB08柱穴属性一覧 …… 28
第６表　SB09柱穴属性一覧 …… 36
第７表　SB12柱穴属性一覧 …… 36
第８表　SB05柱穴属性一覧 …… 53
第９表　SB06柱穴属性一覧 …… 53
第10表　SB10柱穴属性一覧 …… 56
第11表　SB11柱穴属性一覧 …… 56
第12表　郡衙遺跡で確認されている床束建物一覧 …… 71
第13表　官衙および官衙関連遺跡で確認されている床床建物ⅡＡ類一覧 …… 71
付表１．土器観察表 …… 85
付表２．瓦観察表 …… 86
付表３．鉄製品観察表 …… 90
付表４．土製品観察表 …… 90

第１章　調査に至る経緯と調査経過

１－１　調査に至る経緯

平成18年12月１日，大串町584番1他における介護老人保健施設の開発計画に伴う埋蔵文化財の照会が，事業者である医療法人鳳香会理事長 林義智（以下，事業者）から，水戸市教育委員会（以下，市教育委員会）生涯学習課文化財係に提出された（教生第1173号）。

当時，開発予定地区は埋蔵文化財包蔵地には該当していなかったが，大串遺跡（水戸市遺跡№176）に隣接していること，開発地一帯が近世寺院である善徳寺跡（浄土宗，那珂郡瓜連常福寺末）に比定されていたことから，事前の試掘・確認調査の協力を事業者に要請した。

試掘・確認調査は平成19年２月５日・６日の２日間にわたって実施した。トレンチ１～３を設定し掘削したところ（第１図），７世紀前葉の竪穴建物址３軒（SI06～08）と，掘込地業を３箇所で確認した（SB01～03）。これにより，当該地区が大串遺跡の一角にあたることが明らかとなったが，とりわけ掘込地業が検出されたことは当該地区に官衙関連施設を想定させる，貴重かつ予想外の発見であった。そしてこの発見を受け，本地点を大串遺跡第７地点と定めた。

試掘調査は事業者の全面的協力を得て実施したが，包蔵地外であることを含めて所与の条件下での調査を余儀なくされたため，試掘・確認調査は十全に行われたとは言い難かった。掘込地業の性格を把握するためには，調査体制を整えた上で相当期間をかけて実施することが必要となる。追加調査は必至の情勢であったが，それよりも当面の問題となったのは，申請建物の計画基礎が掘込地業よりはるかに深いレベルにまで及んでしまう事実であった。

市教育委員会は平成14年以来，那賀郡衙周辺寺院に比定されている台渡里廃寺跡の史跡整備事業を推進している。そこから約13㎞離れた大串の地で同時代の官衙関連遺構が把握されたことは，台渡里廃寺跡の性格解明及び史跡整備事業とも無関係ではない。記録保存による遺跡の物理的影響を最小限に止め，この一級の発見を後世へ伝えることが最良の策であることは自明であった。そこで市教育委員会は，本遺構を郷土の貴重な歴史遺産として，現状のまま後世に残したい旨を事業者側に伝えた。

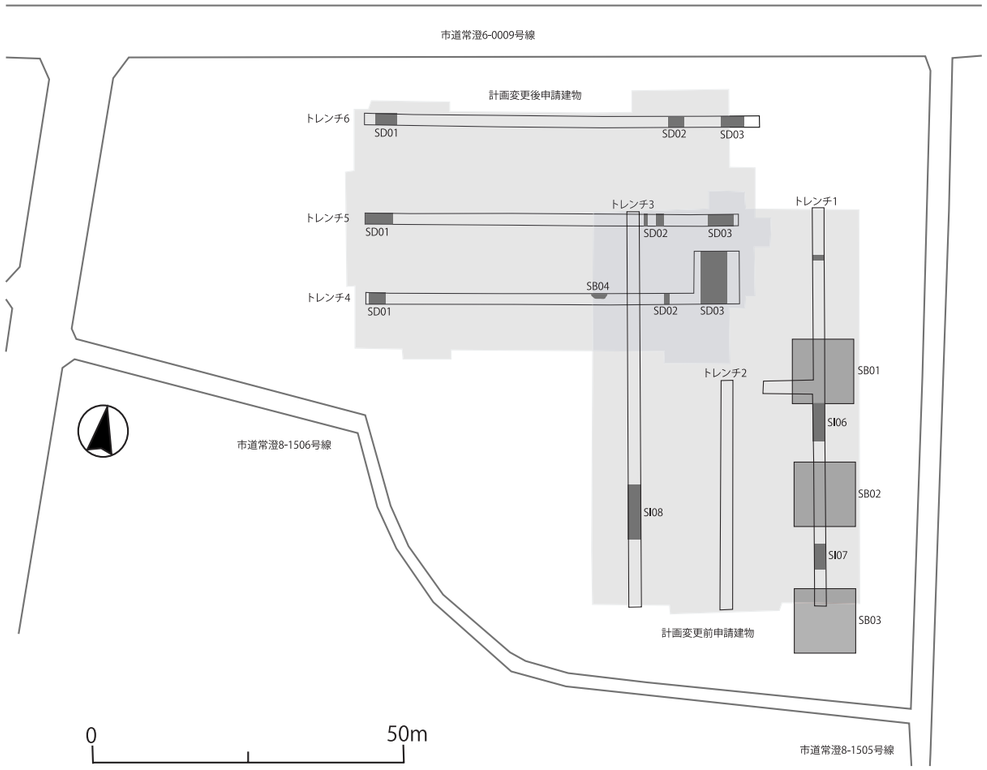
事業者は市教育委員会の意向に対して全面的な理解を示し，早急に計画変更を検討，掘込地業を避けたプランを提示した（第１図中の「計画変更後申請建物」）。これにより，掘込地業の現地保存が確定した。

しかしながら計画変更後の申請建物設置予定部分については，試掘トレンチを入れていなかったため，再び試掘・確認調査を実施し，埋蔵文化財の有無を確認する必要があった。

2回目の試掘・確認調査は，２月26日・27日・３月８日の３日間をかけて実施した（第1図トレンチ４～６）。掘削の結果，各トレンチの東西端において断面V字状の堀跡が2条並行している状況が確認された（SD01・03）。ことにSD３は幅４m，確認面からの深さ2.2mという，中世城館の堀を想起させるような壮大な規模で，出土遺物や周囲の遺構展開状況からみて古代に帰属することは明らかであり，当該地区が地方官衙関連遺跡であることを補強する貴重な発見であった。ここにおいて，またも遺跡の保存を含めた取り扱いについて協議する必要に迫られたのである。

再三にわたる事業者との協議及び，茨城県教育委員会（以下，県教委）・水戸市史跡等整備検討専門委員の助言を受け，市教育委員会は，限られた敷地のなかで堀（SD01・03）と掘込地業（SB01～03）のすべてを回避して建物を配置することは実質上不可能であることから，掘込地業を現地保存し，堀を記録保存するプラン（第１図　計画変更後申請建物の位置に建築するプラン）で調整する方針を固め，事業者もそれに応じた。

事業者から計画変更後の図面が揃い，文化財保護法第93条第１項の規定に基づき，事業者から県教育委員会教育長へ埋蔵文化財発掘の届出が提出された（教生第1242号）。県教育委員会教育長からは文第2055号にて回答があり，工事着手前に発掘調査を実施し，調査の結果重要な遺構等が発見された場合には，その保存等について別途協議をす



第１図　試掘調査のトレンチ配置と確認された遺構の分布（Ｓ＝１：1,000）

る旨の勧告があった。

これを受けて事業者は，有限会社日考研茨城と発掘調査業務委託契約を締結した。また市教育委員会・事業者・受託者間における三者協定を締結し，平成19年３月19日より発掘調査を実施することとなった。

なお，掘込地業（SB01～03）を中心とする部分については今回の発掘調査の対象外ではあるが，前述したように詳細な性格を把握するための範囲確認調査を，別途実施する必要性があった。そのため本調査と並行して，平成19年４月12日より市教育委員会による範囲確認調査が実施された。この調査成果については，後日市教育委員会の編集になる報告書を刊行する予定である。

（関口）

１－２　発掘作業の経過

大串遺跡第７地点の本調査では，試掘調査によって把握されていたSD01・03ばかりでなく，床束建物SB04や大型の掘立柱建物SB08，巨大な柱穴を有する竪穴建物SI01などの注目すべき遺構と，「厨」銘墨書須恵器蓋や「□小川里」銘文字瓦，SD03覆土から検出された炭化米などの重要遺物が次々と発見され，当該地区に正倉を伴う地方官衙があることが明白となった。

そしてこのことは，堀・掘立柱建物・竪穴建物といった遺構群が遺跡の理解のために重要であり，SB01～03を現地保存するのみでは，郷土の歴史遺産を後世に伝えるには不充分であることを顕在化させたのである。ここにおいて

市教育委員会は，現地保存に向けた３度目の協議を事業者と構えることとなった。

協議の結果，事業者は遺跡の重要性について理解を示し，重要遺構を避けて基礎を入れる建築計画を検討・実施することとなった。このような事業者の全面的協力により，第7地点で確認された重要遺構（SD01・02，SB04・08，SI01）は適切な保護措置がとられ，貴重な成果を将来の世代に伝えることが実現したのである。

この方針が決定した後は，発掘調査方針も大きな変更を余儀なくされ，現地保存が決定した重要遺構については全掘をせず，遺構の性格を把握するための必要最低限の掘削に止めることになった（なおSB01は方針決定前にセクションベルトを残して全掘している）。

発掘調査の成果は，学会はもとより地元でも大きな話題を呼び，『広報みと』№1169号に特集が組まれたほか，テレビ・新聞紙上でも大きく取り上げられ，６月２日に開催された現地説明会も盛況であった。

今回の調査では，水戸市域の古代史のなかでも特筆すべき成果を得ることができたが，それに付け加えて，最終的に施設の下に重要遺構が保存されることになったことは，調査内容に匹敵するもう一つの成果と言って過言ではない。この成果は，遺跡の重要性を理解し，3度にわたる計画変更に応じた事業者の協力があったからこそ実現できたものである。その事業者による英断をここに改めて強調しておきたい。

（大渕・小川・関口）

１－３　整理等作業の経過

今回対象となった当該遺跡の調査範囲は，事前に試掘調査を実施したにも係わらず当初の予想をはるかに超える成果を得ることとなった。とくに掘立柱建物跡群の広がりに関しては，全く予測できず市内はもとより県内外において重要な位置づけが可能であるという認識で一致したため，すでに保存が確定している掘立柱建物跡群に加え，今回新たに検出された掘立柱建物跡についても保存のための調査方法が求められた。その結果，基本的に柱穴の掘形調査はすべて半截のみで終了させ，その埋土の詳細な実態把握に努めた。こうした保存のための調査は，むしろ全掘調査という通常調査よりも時間を費やすこととなり，現場調査における当初予算の範囲内では処理できなく，整理予算までも注ぎ込むこととなった。そのため整理作業は要領よく短期間に処理しなければならなくなってしまったが，掘立柱建物跡や堀跡をはじめ，竪穴建物などきわめて貴重な遺構の検出，そして出土遺物の内容の豊富さは，明らかに地方官衙関連遺跡の存在を確実にし，市もしくは県の指定文化財以上に重要な遺跡のひとつとして注目されることとなった。そのため報告書の刊行を含めると当初予算範囲内で納めるのはかなり困難であろうと思われた。しかし，幸いにも事業者による予算の増額や補助金処理など関係諸機関の全面的な協力を得ることができ，ここに一通りの整理を実施することができた。

整理作業については，出土品の整理・遺構図面修正のほか炭化米の保存・処理，文字資料の赤外線写真撮影や資料分析などを委託した。まず出土した遺物のうち瓦・須恵器・土師器，石器等は洗浄後，順次遺物番号の注記作業を行い，あわせて接合作業も実施し，続けて土器，鉄器，石器の実測および瓦の採拓等を行う。また現場で測量した遺構等の図面の修正，トレース。さらに遺物のトレースを行う。印刷用の版下を作成する際，遺構トレースは１/30および1/40を基本に，遺構の大きさによって拡大，縮小した。また遺物トレースは報告書の出来上りにおいて土器，鉄器，石器類が１/３，瓦類が1/4になるように仕上げた。なお，正倉院区画溝SD03より出土した炭化米については現場にて原状のまま取り上げ，展示等に活用できるよう国・県の補助金をもって専門の業者に委託した。

つぎに現場で撮影した記録写真については，カラースライドは現像後スライドファイルに，白黒フィルムは現像とベタ焼き処理し，ネガアルバムにそれぞれ収納した。

報告書刊行後は出土品と記録写真，図面類すべて水戸市教育委員会へ一括返却を行い，博物館等の展示や学校教育，研究資料として活用，検索できるよう処理した。

（小川・大渕）

第２章　遺跡の周辺環境

２－１　地理的環境

大串遺跡は，北緯36度19分56秒，東経140度32分30秒（世界測地系）の茨城県水戸市大串町字仲道584-１ほかに所在する縄文時代，古墳時代，奈良・平安時代，中・近世の複合遺跡である。調査地点は，那珂川と涸沼川に挟まれた標高17.5mの台地の南側平坦面上に位置しており，低地との比高は12.5mである（第２図）。遺跡は東西720m，南北420mの範囲に広がっており，遺跡の一部は，「国指定史跡　大串貝塚」と「大串古墳群」，「長福寺古墳群」と重複している（第３図）。

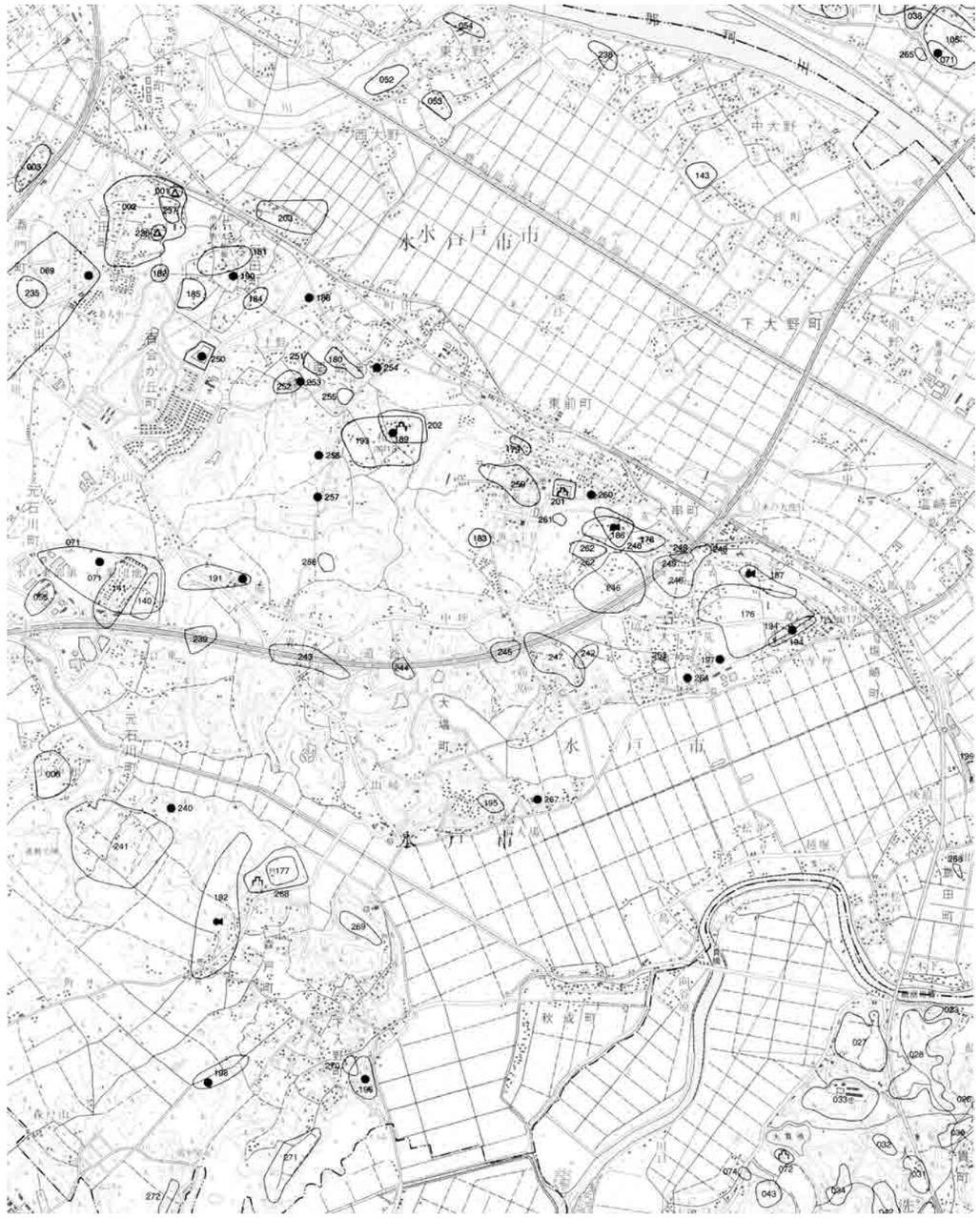
２－２　歴史的環境

大串遺跡が立地する那珂川下流域の台地上には先土器時代から近世に至るまでの多数の集落跡と古墳，城館跡が確認されているが（第３図，第１表），紙数の都合により以下では本遺跡に深く関わる周辺の古墳時代～奈良・平安時代の遺跡に限定して概観する。

（１）古墳時代

大櫛台地における古墳時代の動向をみてみると，前期から終末期まで連綿と続いていることがわかる。前期古墳では大場天神山古墳がある。かつて耕作中に波文帯三角縁神獣鏡が不時発見された。内区を欠失する資料のため詳細不明だが，類例をみる限り三神三獣の舶載鏡で同笵資料は見当たらない（岸本　1992）。現在のところ日本列島における舶載鏡の東限である。これに先行するとみられる古墳は，同一台地上では管見に触れない。しかし当該台地の谷を挟んで南の台地上にある森戸古墳群内では，発掘資料でないものの二重口縁底部穿孔壺が２個体報告されている（郡

第２図　調査地点の位置（国土地理院発行１：25,000「磯浜」に加筆）



第３図　大串遺跡と周辺の遺跡分布・地形（茨城県遺跡地図１：25,000に加筆）

第１表　大串遺跡と周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	種　別	所在地	遺　　物	備　　考
001	谷田貝塚	貝塚	谷田町下ノ内	縄文(前)	昭和47年発掘調査
002	谷田遺跡	集落跡	谷田町下ノ内	縄文(前～晩)・古墳(後)	
003	塙坪遺跡	集落跡	酒門町塙坪	弥生(後)・奈良・平安	
006	下畑遺跡	集落跡	元石川町下畑	縄文(中～後)・古墳(後)	昭和59年発掘調査
056	元石川権現台遺跡	集落跡	元石川町権現台	弥生・古墳	湮滅
069	谷田古墳群	古墳群	酒門町付外	古墳	前方後円1(2), 円5
071	江東古墳群	古墳群	元石川町江東外		円6(10?)
140	乗越沢遺跡	集落跡	元石川町乗越沢	縄文(後)・古墳	
175	大串貝塚	貝塚	塩崎町1015-2外	縄文(前・後)	S11, S18, S60年調査, S45年に国の史跡指定
176	大串遺跡	集落跡/官衙跡/火葬墓	塩崎町1016外	縄文(草創・前・後)・古墳・奈良・平安	S62, S63, H6, H8, H14年調査
177	森戸遺跡	集落跡	森戸町塙	先土器	湮滅
178	向山遺跡	集落跡	大串町向山	縄文(前)・古墳・奈良・平安	S24年調査
179	東前遺跡	集落跡	東前町道漢坂	縄文・古墳(前)	湮滅
180	芳賀遺跡	集落跡	栗崎町宿	奈良・平安	
181	六地蔵寺遺跡	集落跡	六反田町818外	弥生(後)・古墳(前)・奈良・平安	
182	西谷津遺跡	集落跡	六反田町西谷津	古墳・奈良・平安	
183	小原遺跡	集落跡	東前町原	弥生(後)・古墳・奈良・平安	
184	新地遺跡	集落跡	六反田町新地	古墳(前～中)・奈良・平安	
185	薄内遺跡	集落跡	六反田町薄内	先土器・縄文(早～後)・弥生(前～後)・古墳(前・後)・奈良・平安・近世	平成19年調査
186	金山塚古墳群	古墳群	大串町原	古墳(後～終)	後円0(1), 円3(5), 金山塚S26年発掘
187	大串古墳群	古墳群	大串町山海2251	古墳(後～終)	後円1, 円1(5)
188	栗崎北古墳	古墳	栗崎町北1751	古墳(後～終)	円1, 横穴式石室
189	愛宕神社古墳	古墳	栗崎町上平	古墳(後～終?)	円1
190	六地蔵寺古墳	古墳	六反田町薄内	弥生・古墳(後)	後円?1
191	小山古墳群	古墳群	大場町小山外	古墳(後～終?)	円3
192	森戸古墳群	古墳群	森戸町大六天外	先土器・縄文(早～後)・古墳(前・後～終)	後円1, 方0(1), 円15(17)
193	上平遺跡	集落跡	栗崎町上平	古墳・奈良・平安	
194	長福寺古墳群	古墳群	塩崎町寺前	古墳(後～終?)	円7
195	涸沼台古墳群	古墳群	大場町荻久保	古墳(後～終?)	円7?
196	下入野古墳群	古墳群	下入野町冨士山	古墳(後～終)	円8
197	善徳寺古墳	古墳	大串町仲道2301	古墳(後～終?)	円1
198	下入野西古墳群	古墳群	下入野町水走外	古墳(後～終?)	円6
201	椿山館跡	城館跡	東前町金山外	中世	土塁一部残存
202	和平館跡	城館跡	栗崎町上平	中世	土塁一部残存
203	六反田広町遺跡	集落跡	六反田町広町1334外	古墳(前～中)	
235	町付遺跡	集落跡	酒門町町付	古墳(前)・奈良・平安	平成19年調査
236	仲通り貝塚	貝塚	谷田町下ノ内	縄文(前)	
237	下ノ内遺跡	集落跡	谷田町下ノ内	縄文(晩)	
239	中ノ割遺跡	集落跡	圷大野町天神脇	先土器・縄文土器(早～後)・奈良・平安	H3年調査
240	小仲根権現古墳	古墳	元石川町中ノ割942外	古墳(後～終?)	円1
241	小仲根遺跡	集落跡	元石川町小仲根	縄文(中)・古墳(後)・平安	平成14年調査
242	高原古墳群	古墳群	大場町高原・狐塚	奈良・平安・近世	円2, H3年調査
243	小山遺跡	集落跡	大場町仲原・天神	縄文(中～後)	H3年調査
244	諏訪前遺跡	集落跡	大場町諏訪前455外	縄文・古墳・奈良・平安	H2年調査
245	沢幡遺跡	集落跡	大場町沢畑936外	縄文・奈良・平安	H2年調査
246	梶内遺跡	集落跡	大串町梶内	先土器・古墳(後)・奈良・平安・近世	H2～5, 7年調査
247	高原遺跡	集落跡	大串町高原・後原	縄文・弥生(後)・古墳・奈良・平安・中世・近世	H2年調査
248	北屋敷遺跡	集落跡	大串町北屋敷744-1外	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	H3年調査
249	北屋敷古墳群	古墳群	大串町北屋敷774-1外	縄文(早～中)・弥生(後)・古墳(中～後)・奈良・平安・中世・近世	H3・H6年調査
250	六反田古墳群	古墳群	百台が丘町		湮滅
251	伊豆屋敷跡	城館跡	栗崎町宿	古墳(後)・奈良・平安・中世	土塁3条, 溝1条, H9年調査
252	上野遺跡	集落跡	栗崎町上野	奈良・平安	
253	仏性寺古墳	古墳	栗崎町上野1985	古墳(後～終?)	円1
254	フジヤマ古墳	古墳	栗崎町新屋1612	古墳(後～終?)	円0(1), S26年調査, 湮滅
255	藤元遺跡	集落跡	栗崎町藤元	古墳	
256	諏訪神社古墳	古墳	栗崎町諏訪下	古墳(後～終?)	円1
257	千勝神社古墳	古墳	栗崎町打越2398	古墳(後～終?)	円1
258	打越遺跡	集落跡	栗崎町打越	奈良・平安	
259	東前原遺跡	集落跡	東前町原	古墳・奈良・平安	
260	住吉神社古墳	古墳	東前町金山	古墳(後～終?)	円1
261	大串原館跡	城館跡	大串町原	中世	方形状の土塁
262	大串原遺跡	集落跡	大串町原	縄文(前)・奈良・平安	
263	宮前遺跡	集落跡	大串町宮前	奈良・平安	
264	東畑古墳	古墳	大串町東畑	古墳	円1
267	天神山古墳	古墳	大場町天神山	弥生(後)・古墳(前)	
268	久保山館跡	城館跡	森戸町久保山・塙	中世	土塁3条(鎌倉・室町)
269	西ノ崎遺跡	集落跡	下入野町西ノ崎	古墳・奈良・平安	
279	道西遺跡	集落跡	六反田町道西	先土器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安	平成16年調査, 湮滅
281	涸沼川河床遺跡	包蔵地		縄文(早～晩)・弥生(中)・近世	

(井上・蓼沼・仁平・根本　1999)に加筆

司　1973)。これらの古墳の立地する台地の涸沼川を挟んで東側の台地上の大洗町域には，学史上著名な鏡塚古墳・車塚古墳がある。古墳時代前期のかなり早い段階から水陸交通の結節点として重要視され，奥津城が営まれた結果であるといえよう。

大串遺跡内では，前期末から中期前半にかけての良好な竪穴建物跡が確認されている。とくに出土した土師器高坏をみると，中実脚部から中空脚部への変遷過程が明らかになる資料群であり，今後編年上重視されるべき資料といえよう（井上　1994，井上・金子　1996)。同時期と目される資料が北屋敷遺跡にもみられる（井上・千葉　1995，梶山　1993)。これらの知見をみると，当該台地における集落の展開は，上記の古墳営造以後に，より活発になったといえるかもしれない。これに後続する中期の集落は北屋敷遺跡にあるらしく，竪穴建物跡２軒が検出された（梶山同書)。

大串遺跡周囲の台地縁辺に多くの古墳が立地する大串古墳群がある。この立地条件は無論涸沼をはじめとした水上交通路に対するデモンストレーションの意味もあろう。発掘調査の進展がなく詳細不明だが，東京国立博物館所蔵資料に「東茨城郡常澄村稲荷神社境内出土資料」がある。内容は，五獣鏡・銅環・直刀・鉄鏃・壺鐙・兵庫鎖・素環鏡板付轡などが出土しており，中期後半から後期にかけての副葬品の内容である（東京国立博物館　1980)。ここに在地首長層たるべき被葬者の想定できる稲荷神社古墳を仮称しておきたい。

後期・終末期には，北屋敷古墳群，下入野古墳群，森戸古墳群があげられる。発掘調査の進展がみられた北屋敷古墳群をみると，埴輪をもたず，礫床切石積みの横穴式石室をもち，副葬品として直刀・刀子・鉄鏃などがみられた１号墳（梶山1993前掲)，市指定文化財の武人埴輪をはじめ巫女埴輪など人物埴輪を豊富に伴う2号墳がある（井上・千葉　1995)。これらは当該地域における古墳の編年作業を俟つよりほかないが，常陸における傾向として埴輪を樹立しない前方後円墳はおおむね７世紀前半代におさまる点を指摘できるから，これらの古墳は，６世紀後半から７世紀前半にかけてのものであろう。また，本格的な調査は行われていないが，森戸古墳群は，前方後円墳１基，円墳17基，方墳１基から構成される古墳群であるが，前方後円墳である第1号墳からは，踏査により円筒埴輪，楯形埴輪，家形埴輪，馬形埴輪が墳丘上で採集されており，６世紀代の築造と推定される。また，墳丘形態は未詳であるが，第２号墳からは歯の表現がされた人物埴輪も出土しており（吉川　1991)，楯持ち埴輪であった可能性が高い。

同時期には，この周辺で積極的に集落が形成されていたらしいが，刊行済みの報告書で明らかなのは梶内遺跡と小仲根遺跡である。資料は少ないが，梶内遺跡では６世紀後半代に３棟，７世紀前半代に６棟の竪穴建物跡が営まれていた（樫村　1995)。大串遺跡内外における当該時期の資料は今後も増加すると予測されよう。また，森戸古墳群に近接する小仲根遺跡では６世紀後半から６世紀末に営まれたとみられる一辺が７mを超える大型の竪穴建物跡が検出されている（川口・小川・大渕　2002)。

以上，当該地域において古墳時代に帰属する資料はきわめて多く，いくらかの断絶は想定されるものの，断続的に造墓活動がみられ，それに対応する集落の存在が指摘できる。とくに官衙関連遺跡たる大串遺跡において古墳時代後期の資料が多くみられることは，常陸国那賀郡衙推定地である台渡里遺跡群との決定的な相違点であり，ここに大串遺跡の特色がみられる。

（渥美・川口）

（２）奈良・平安時代

奈良・平安時代の集落跡のうち，発掘調査でその一部でも実体が明らかになっているものを列挙すると，中ノ割遺跡，諏訪前遺跡，沢幡遺跡，梶内遺跡，高原遺跡が挙げられる。なかでも梶内遺跡は，７世紀から10世紀まで，途中希薄になる時期が存在するものの，比較的長く継続する大規模遺跡として注目される。「舎人」や「長」などの墨書土器や９点の須恵器円面硯が出土していることから，一般的な村落ではなく，官衙施設に付随する計画村落としての性格を思わせる。また，伊豆産と目される須恵器壺G，猿投産あるいは東濃産とおぼしき灰釉陶器や緑釉陶器など

が一定量出土していることから，当該遺跡は，涸沼から鹿島灘へと抜ける水上交通を利用して発達したものとしてみることができよう。以上の２点から，当該遺跡は，『常陸国風土記』那賀郡条の冒頭にみられる津駅「平津駅家」に付随するいわゆる官衙関連集落として位置づけられ，場所を違えども古墳時代以来連綿と遺跡が継続するから，当該地域は，古代那賀郡芳賀郷の中心地として理解されるものである（樫村 1993）。

これに近接する遺跡として高原遺跡がある。台渡里遺跡群同様に，官衙関連遺跡周辺には，竪穴住居跡が密集して展開し，都市的な景観をなしていたと予測される（梶山 1993）。近年では，高原遺跡に隣接する高原古墳群における試掘・確認調査で，奈良時代後半期の土師器・須恵器がまとまって出土した。当該遺跡はこれまで考えられていた範囲よりも広く展開していた可能性が高い。他方，沢幡遺跡は，竪穴建物跡に伴って梶内遺跡等よりもやや新しい土器群がまとまって出土しており（梶山同書），古代土器編年に欠かせない資料となっている。その時期は９世紀後葉以降に下るものが圧倒的に多い（渥美 2004）。古代の集落跡の展開ぶりにおいて，９世紀後葉にひとつの画期を予測することができ，興味深い。

これらの集落遺跡のほかに注目されるのは，火葬墓跡である。大串遺跡では，東海産と思しき須恵器短頸壺が出土しているほか，小山古墳群付近出土といわれる須恵器短頸壺２個体は，いずれも市内谷津町外に所在する木葉下窯跡群産であった（渥美・吉澤 2003）。これらは，いずれも不時発見によるものであるが，そのほかの共伴遺物が確認されず，ほぼ単体での発見とみられるので，いずれも蔵骨器と考えてよかろう。

また，下入野古墳群の周辺では出土地点が明確でないものの，台渡里廃寺跡所用瓦と同じ3127型式軒丸瓦の出土が確認された（黒澤　1994）。生産遺跡である可能性も予測しておいたほうがよいだろう。

（渥美・川口）

２－３　大串遺跡における既往の調査

大串遺跡の周辺においてはこれまで常澄村教育委員会，水戸市教育委員会によって6地点で発掘調査が実施されている。以下，調査の概要をみてゆこう（第２表）。なお，戦前の調査および大串貝塚における既往の調査については（井上　1991）に詳しいのでそちらを参照されたい。

第１地点は昭和62（1987）年に実施された常澄中学校体育館およびテニスコート建設に伴う確認調査地点である。調査は常澄中学校体育館およびテニスコート建設部分に試掘溝が設定され，円形周濠墓１基と溝状遺構１条が検出された。

第２地点は昭和63（1988）年に実施された「大串貝塚周辺におけるふれあいのまちづくり事業」に伴う本調査地点である。調査区は遺構・遺物に影響を及ぼすと考えられる建物部分を中心に3地点に分けられ，それぞれ試掘溝を設定し，遺構が検出された箇所を拡張し，調査する方法を採用した。その結果，縄文時代の土坑２基，古墳の周濠１条，古墳時代前期の竪穴建物跡５棟，時期不明の溝状遺構３条，時期不明のピット３基が検出された。本調査により，縄文時代後期の遺構がはじめて確認されるとともに，かつては大串古墳群の一部を形成していたと考えられる墳丘の削平された方墳も確認され，大串古墳群の広がりを把握することができた。

第３地点は平成６（1994）年に実施された水戸市道常澄８―1495号線の拡幅に伴う本調査地点である。調査は新たに拡幅する部分のみならず，既存の道路下も対象とした。その結果，古墳時代前期の竪穴建物跡９棟，奈良・平安時代の竪穴建物跡２棟が確認された。本調査では，第２次調査で確認された古墳時代前期の集落跡の広がりを把握するとともに，はじめて奈良・平安時代の集落の一部を確認することが出来た。第４地点は平成８（1996）年に実施された常澄中学校増改築工事に伴う本調査地点である。この調査では，縄文時代前期花積下層式・関山式期の竪穴建物跡が４棟検出され，これまで日常生活に使用された土器や石器・骨角器，食物残滓としての貝層しか確認されていなかった大串貝塚との有機的関連性が明らかとなった。また，第４号竪穴建物跡の覆土中からはヤマトシジミとマガキを主体とする貝層が交互に検出された。本調査により大串貝塚人の居住域の一部が確認されるとともに，大串貝塚

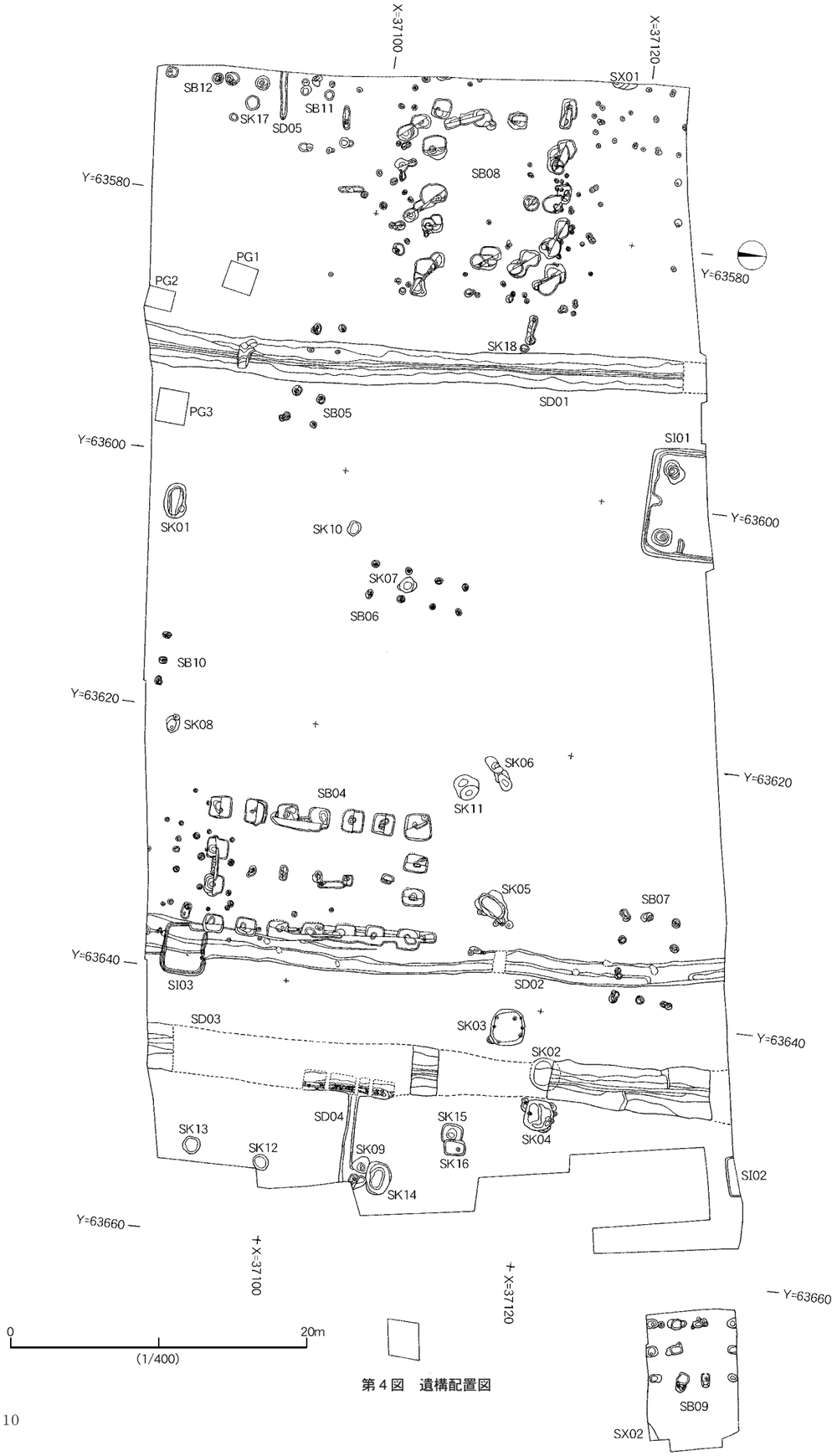
第２表　大串遺跡における既往の調査

地点名	調査期間	担当者	調査種別/調査原因/調査面積	検出された遺構・遺物
第1地点	昭和62年10月	井上義安	確認調査 常澄中学校体育館建設 347.5㎡	円形周溝墓1, 溝状遺構1
				縄文土器(前), 土師器(古), 須恵器(奈・平)
第2地点	昭和63年11月25日 ～ 平成1年1月25日	井上義安	本調査 大串貝塚ふれあい公園建設 3,000㎡	竪穴建物跡5, 溝状遺構3, 古墳周濠1, 土坑2, ピット3
				縄文土器(早・後期)・石鏃, 土師器(古)・土玉・土錘・紡錘車・管玉・砥石・炉石・鉄製鎌・鉄製刀子
第3地点	平成6年2月23日 ～ 平成6年3月28日	井上義安	本調査 市道常澄8―1495号線拡幅工事 1,500㎡	竪穴建物跡11, 溝状遺構1
				縄文土器(前・後期)・敲石, 土師器(古)・土玉・土錘・紡錘車・管玉・砥石・礫器, 土師器(奈)・須恵器(奈)・砥石・鉄製鎌
第4地点	平成8年2月15日 ～ 平成8年3月8日	井上義安	本調査 常澄中学校増改築工事 590㎡	竪穴建物跡4, 貝層1
				縄文土器(前期)・有舌尖頭器・石鏃・礫器・敲石・凹石・磨石・磨製石斧・軽石・釣針・刺突具・貝刃・未製品・加工痕のある鹿角・貝・獣骨・魚骨
第5地点	平成14年12月20日 ～ 平成15年1月9日	川口武彦	本調査 都市計画道路3・5・106号延伸線道路改良工事 1,075㎡	竪穴建物跡3, 溝跡1
				土師器, 須恵器, 土玉, 軽石製品
第6地点	平成17年4月6日	関口慶久・新垣清貴	試掘調査 個人住宅建設 3.8㎡	なし

人たちが国の史跡指定を受けている斜面貝層のみならず，自らがかつて利用していた竪穴建物跡にも採集した貝を投棄していたことが明らかとなった。さらに，有舌尖頭器が出土したことからこの台地で縄文時代草創期から狩猟活動が展開していたことも明らかとなった。第５地点は，平成13（2001）年に実施された都市計画道路３・５・106号延伸線道路改良工事に伴う本調査地点である。この調査では，古墳時代前期の竪穴建物跡２軒と奈良時代の竪穴建物跡１軒，断面が薬研状を呈する奈良・平安時代の溝跡１条が確認され，第３地点・第４地点で確認されていた古墳時代前期の集落の広がりを確認することが出来た。第６地点は平成17（2005）年に実施された個人住宅建設に伴う試掘調査地点であるが，遺構・遺物は確認されなかった。

以上の既往の調査成果から，大串遺跡は，縄文時代草創期から土地利用が開始され，縄文時代前期花積下層式期に台地縁を中心に集落が形成され，その後，古墳時代前期には台地中央の平坦部に集落が展開し，奈良・平安時代に至るまで断続的に土地利用が展開した複合遺跡であったことが理解できる。

（川口）



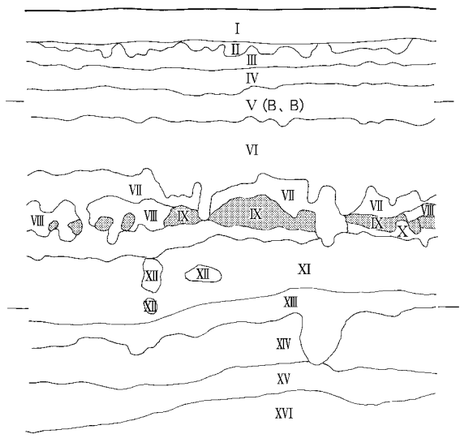
第４図　遺構配置図

第３章　検出された遺構と遺物

３－１　先土器時代

先土器時代に比定される石器がSD01の覆土中より１点出土したことから，調査区の南端に先土器時代の遺構・遺物を確認するためのトレンチを3箇所設定し（PG１～PG３），掘り下げた（第４図）。いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。また，PG２の南壁面を利用して基本層序（第５図）の確認も行った。基本層序の注記は下記のとおりである。

（小川・大渕）



Ⅰ　表土層(黒褐色土10YR3/2)　耕作土
Ⅱ　明褐色ローム(7.5YR6/2)　ソフトローム　炭化粒子を僅かに含む　締りに欠け粘性に欠ける
Ⅲ　黄褐色ローム(10YR5/8)　ハードローム　Ⅱ層と同じ色調を呈するがかなり硬く粘性がある
Ⅳ　明黄褐色ローム(10YR7/6)　白色粒子を僅かに含む　締りがあり粘性にとむ
Ⅴ　褐色ローム(10YR4/4)　第二黒色帯に相当する　締りがあり粘性がある
Ⅵ　黄褐色土(10YR5/6)　白色粒子を僅かに含む　締りがあり粘性にとむ
Ⅶ　にぶい黄褐色ローム(10YR5/3)　白色粒子を僅かに含む　締りがあり粘性にとむ
Ⅷ　青灰色ローム(5B6/1)　鹿沼パミス層の粒子を含み締まりがあり堅緻である
Ⅸ　鹿沼パミス(浅黄橙色10YR8/3)　ローム粒子は粗い　締りがあり粘性に欠ける
Ⅹ　褐色ローム(10YR4/6)　鹿沼パミス層の粒子を含み締りがあり堅緻である
Ⅺ　にぶい黄褐色ローム(10YR4/3)　白色粒子を僅かに含み締りがあり堅緻である
Ⅻ　灰オリブローム(5Y6/2)　締りにやや欠け粘性にとむ
ⅩⅢ　黄褐色ローム(10YR5/6)　締りがあり粘性にとむ
ⅩⅣ　にぶい黄褐色ローム(10YR5/3)　白色粒子を僅かに含み締りがあり粘性にとむ
ⅩⅤ　黄褐色ローム(10YR5/8)　締りがあり堅緻である
ⅩⅥ　灰黄褐色ローム(10YR4/2)　礫を含む締りがあり粘性が強い

第５図　基本層序

３－２　縄文時代

縄文時代に比定される遺構としていわゆる陥し穴状土坑が２基と土坑３基が検出された。いずれも遺物を伴っていないが，覆土の堆積状況および遺構の形状から当該期のものと判断した。陥し穴状土坑は2基とも主軸の方向は異なっているが，調査区の北西から南東方向に向かって埋没谷が入り込んでおり，その等高線に沿って，主軸を設置した可能性が高い。

（１）　１号陥し穴状土坑（SK01）

調査区の南端のやや西よりの位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された（第４図）。形態は楕円形を呈し（第６図），規模は東西軸2.7m，南北軸1.8mである。遺構確認面から下底面までの深さは2.0mで，断面形状はややフラスコ状となっている。下底部では，東西軸2.5m，南北軸0.75mである。主軸方向はN-95°-Eを指す。底面は中央部がやや高まっているが，ほぼ平坦である。覆土は15層に分層され，自然堆積の様相を呈している。

（２）　５号陥し穴状土坑（SK05）

調査区の中央やや北よりの位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された（第４図）。形態は楕円形を呈し（第６図），規模は東西軸1.1m，南北軸3.0mである。遺構確認面から下底面までの深さは2.1mで，断面形

状はややフラスコ状となっている。下底部では，東西軸0.35～0.45m，南北軸0.95～1.0mである。主軸方向はN-35°-Eを指す。底面は中央部がやや高まっているが，ほぼ平坦である。覆土は21層に分層され，自然堆積の様相を呈している。

（３） ６号土坑（SK06）

調査区の中央やや東よりの位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された（第４図）。形態は楕円形を呈し（第７図），規模は東西軸3.0m，南北軸1.1mである。遺構確認面から下底面までの深さは0.25～0.45mで，断面形状はややすり鉢状となっている。主軸方向はN-40°-Eを指す。底面は南側が部分的に深くなっているが，ほぼ平坦である。覆土は４層に分層され，自然堆積の様相を呈している。

（４） ９号土坑（SK09）

調査区東端の壁際の位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SK14に南接している（第４図）。形態は円形を呈し（第７図），規模は東西軸1.25m，南北軸1.35mである。遺構確認面から下底面までの深さは0.5mで，断面形状はややすり鉢状となっている。主軸方向はN-０°-Eを指す。底面は中央部深くなっている。覆土は８層に分層され，自然堆積の様相を呈している。

（５） 14号土坑（SK14）

調査区東端の壁際の位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SK09に北接している（第４図）。形態は円形を呈し（第７図），規模は東西軸2.5m，南北軸1.85mである。遺構確認面から下底面までの深さは0.1～0.35mで，断面形状は中央が深くなる形状を呈している。主軸方向はN-90°-Eを指す。覆土は5層に分層され，自然堆積の様相を呈している。

（小川・大渕）

（６）調査区内の出土遺物

調査区内の縄文時代遺構外で出土した縄文時代の遺物として，土器と石器がある。土器は中期後半から後期前半に比定されるもので，いずれも小破片である。また石器は磨石類と石鏃である。

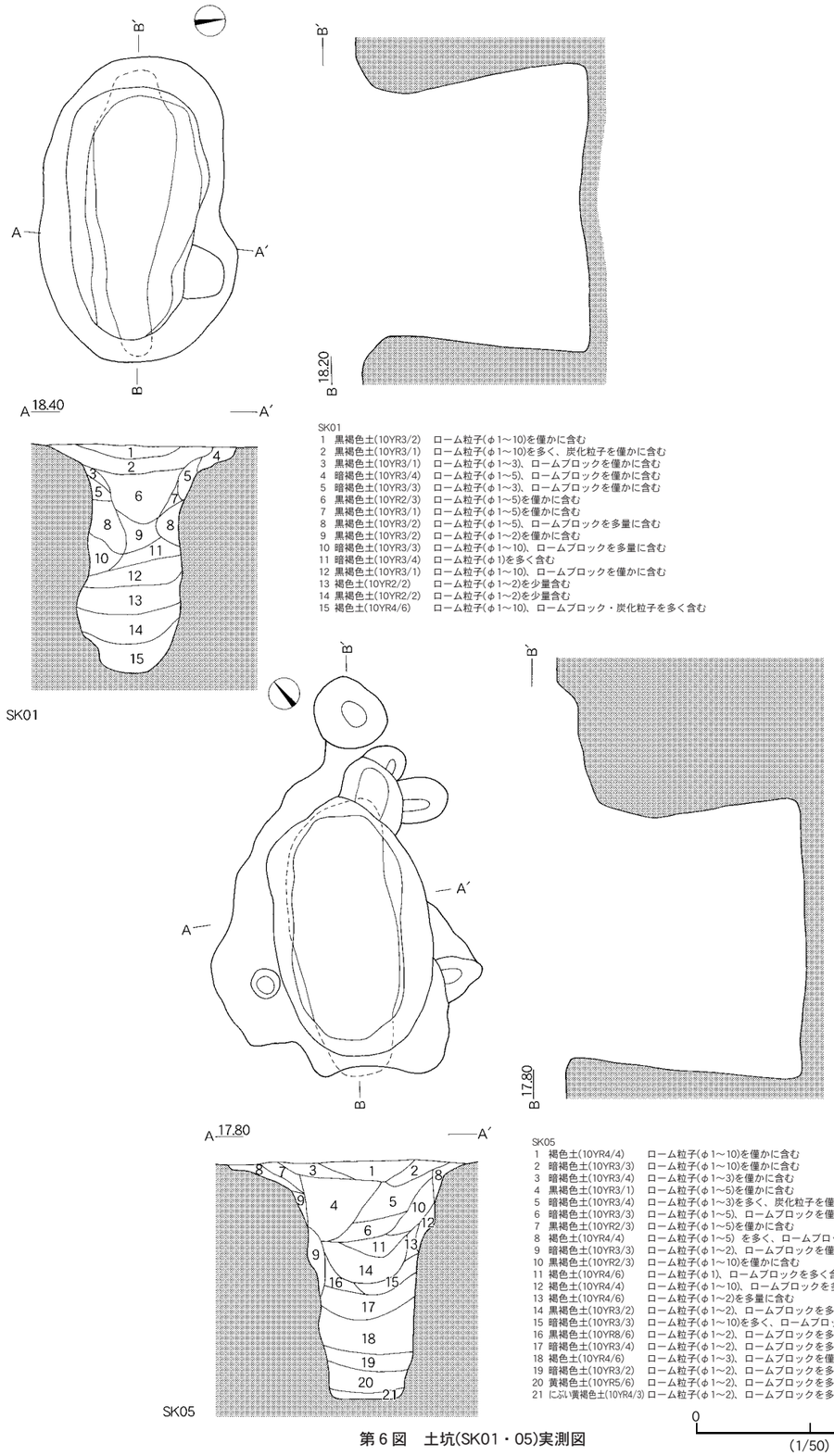
１） 縄文土器（第８図１～18）

中期の土器　１はキャリパー形の深鉢。胴部破片。二本一組の沈線間を磨消，磨消懸垂文を垂下させる。縄文地文は単節ＬＲである。2の器形は胴部に若干の括れを有する深鉢。口縁部上端の無文帯が狭い。縄文地文は単節ＲＬ縄文。加曽利Ｅ３式。

後期の土器　３～５は称名寺式期の深鉢。３は口縁部破片。沈線により区画された口縁部無文帯は幅広となる。縄文地文は無節Ｌ。４・５は胴部破片。二本の平行描線による交互充填施文。いずれも無節Ｌ縄文を施文する。６～９，14・15は堀之内１式。６～９は胴部破片で，縄文地文に竹管の内側を用いた二本もしくは三本の沈線による意匠文。14・15は条線による波状文を施文している。10は波状口縁で，波頂部下に円孔が穿ってある。11～13は堀之内２式。11は波状口縁の深鉢で，波頂部下に８字状貼付を付し，縄文地文に竹管の内側を用いた平行沈線を描線として幾何学文を描く。12・13は胴部破片であるが，やはり平行沈線による意匠文を施文する。16～18は縄文地文の粗製土器である。16の口唇部は尖頭状を呈する。

２） 石器（第８図19～23）

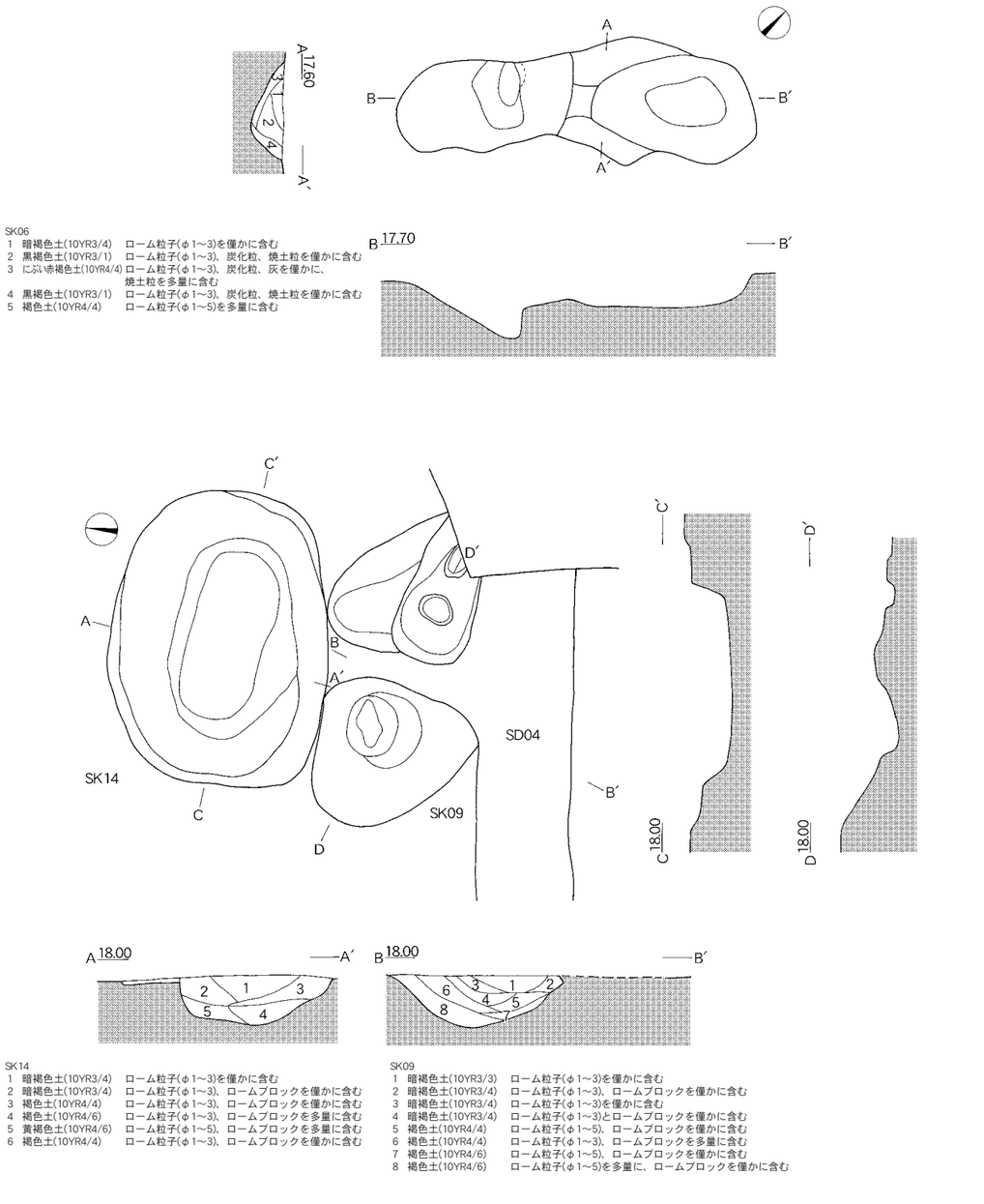
磨石類　19は安山岩製の磨石。楕円形の礫の縁辺に使用痕があり，図左側辺と先端部に磨痕が認められる。長さ11.18cm，幅6.549cm，厚さ5.129cm，重量535.8gを測る。20は砂岩製で楕円形の自然礫に使用痕があり，図表面



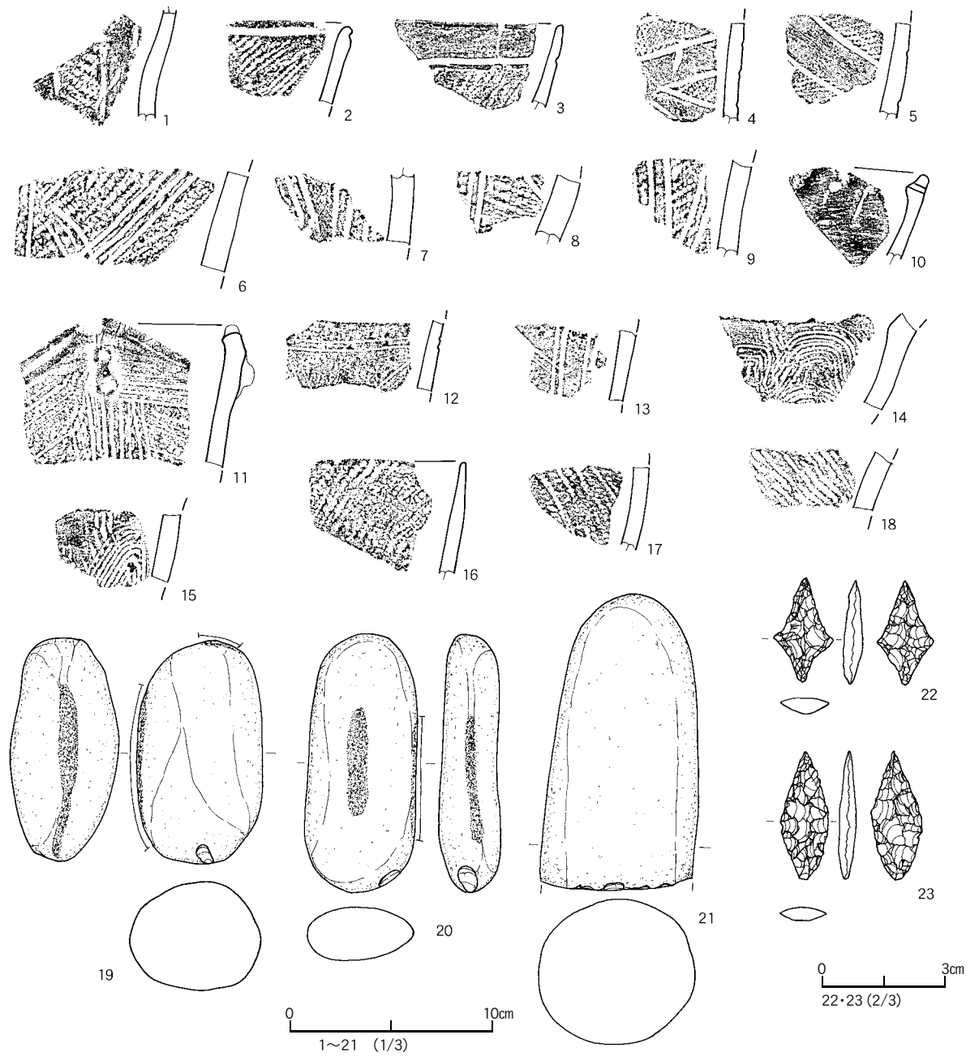
SK01
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を僅かに含む
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く、炭化粒子を僅かに含む
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)、ロームブロックを僅かに含む
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～5)、ロームブロックを僅かに含む
5　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～3)、ロームブロックを僅かに含む
6　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
7　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
8　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～5)、ロームブロックを多量に含む
9　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
10 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを多量に含む
11 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1)を多く含む
12 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを僅かに含む
13 褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～2)を少量含む
14 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～2)を少量含む
15 褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロック・炭化粒子を多く含む

SK05
1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～10)を僅かに含む
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～10)を僅かに含む
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～3)を多く、炭化粒子を僅かに含む
6　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～5)、ロームブロックを僅かに含む
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
8　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～5)　を多く、ロームブロックを僅かに含む
9　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～2)、ロームブロックを僅かに含む
10 黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～10)を僅かに含む
11 褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1)、ロームブロックを多く含む
12 褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを多量に含む
13 褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～2)を多量に含む
14 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～2)、ロームブロックを多量に含む
15 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～10)を多く、ロームブロックを僅かに含む
16 黒褐色土(10YR8/6)　ローム粒子(φ1～2)、ロームブロックを多量に含む
17 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～2)、ロームブロックを多量に含む
18 褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～3)、ロームブロックを僅かに含む
19 暗褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～2)、ロームブロックを多量に含む
20 黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～2)、ロームブロックを多量に含む
21 にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子(φ1～2)、ロームブロックを多量に含む

第６図　土坑(SK01・05)実測図



第７図　土坑(SK06・09・14)実測図

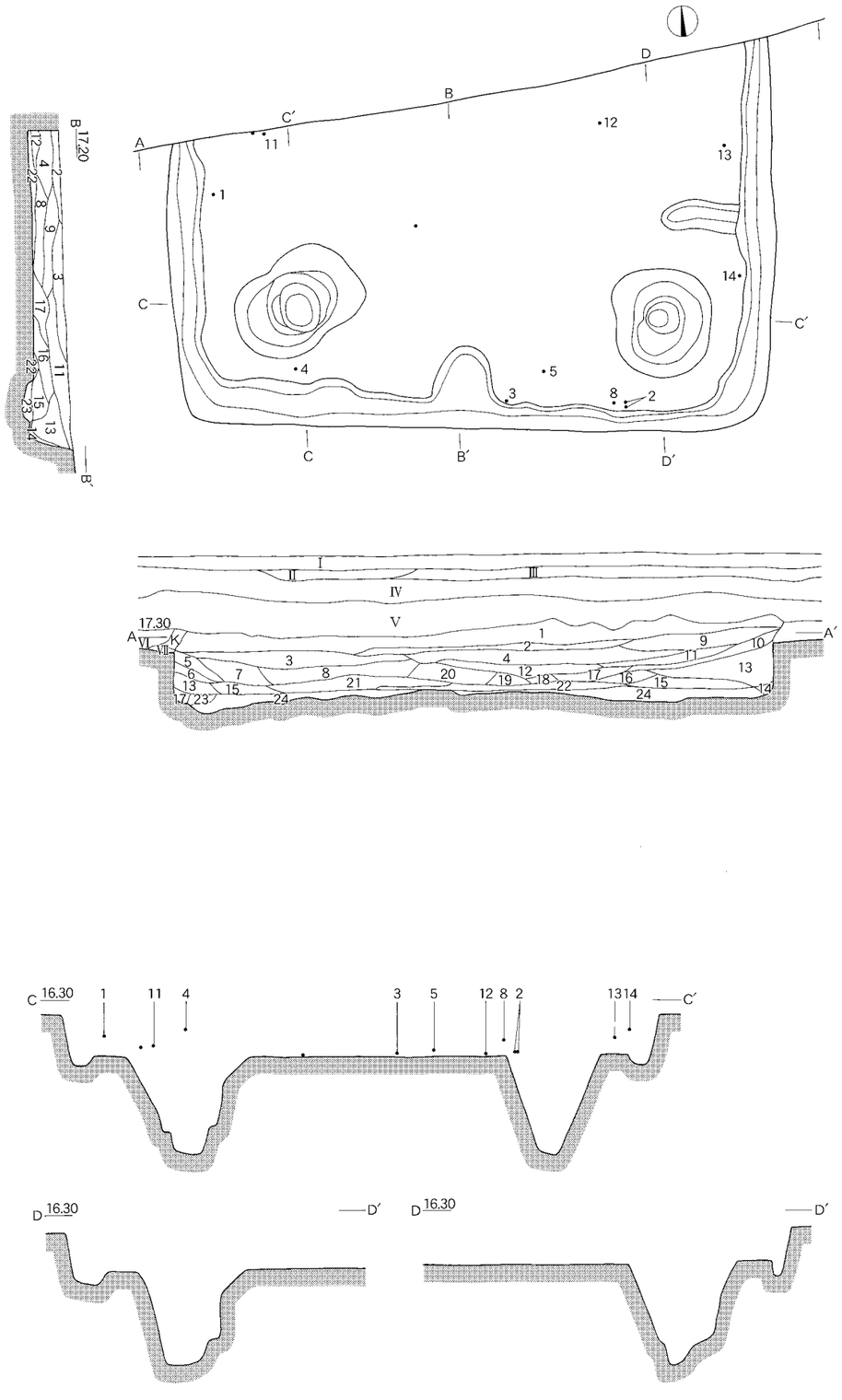


第８図　調査区内出土縄文時代の遺物

中央と右側縁に磨痕が残置されている。長さ12.711cm，幅5.485cm，厚さ3.084cm，重量305.5gを測る。21は砂岩製で欠損品である。比較的大きな楕円形の自然礫を素材とし，部分的に磨面が確認できる。現存長14.053cm，幅7.469cm，厚さ7.061cm，重量1065.5gを測る。

石鏃　22はチャート製の基部が比較的長く突出する凸基有茎鏃である。表裏面とも丁寧な調整剥離が施されている。現存長2.576cm，幅1.358cm，厚さ0.47cm，重量0.98gを測る。23もチャート製で，尖頭器状の尖基鏃である。やはり表裏面とも丁寧な調整剥離であるが，基部はわずかであるが尖部加工を回避している。長さ3.124cm，幅1.222cm，厚さ0.382cm，重量1.24gを測る。

（小川）



第９図　竪穴建物跡(SI01)実測図　0　2m　(1/80)

３－３　古墳時代

古墳時代に比定される遺構として竪穴建物跡が１棟検出された。

（１）１号竪穴建物跡（SI01）

位　　置　調査区北端のやや西よりの位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された（第４図）。

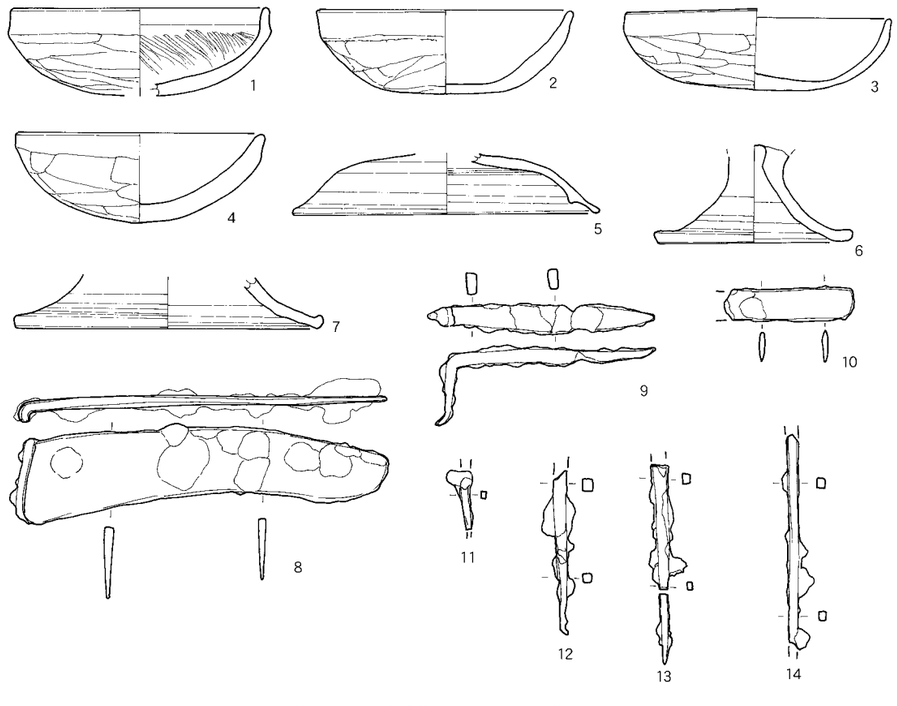
規模・構造　東西軸8.7m，南北軸5.6m以上である（第９図）。遺構確認面から床面までの深さは1.0mで，壁の直下には幅0.35～0.7m，深さ0.2～0.3mの周溝が途切れることなく巡っている。東側の周溝から西方向に幅0.4mの溝状のものが延びているが，これは間仕切り溝の可能性がある。また，南側の周溝の中央部から北側に向かう幅0.4～0.9mの突出部があるが，出入り口ステップであろうか。床面には柱穴2基が確認されている。柱穴のうち西側のものは東西軸1.9m，南北軸1.6m，深さ1.6mと大きく，平面形状二つの円が重なったような状況を呈することから柱抜き取り穴と重複しているか，柱の立て替えが行われていたとみられる。東側の柱穴は東西軸1.45m，南北軸1.6m，深さ1.7mである。柱穴の深さが同じであることから，柱材には規格材が用いられていたと推定される。床面は全体的に平坦である。主軸方向はN-５°-Wを指す。

覆　　土　23層に分層され，人為堆積の様相を示していることから，官衙造営に際して人為的に埋め戻された可能性が高い。

遺　　物　土師器の坏４点，内面にかえりを有する須恵器坏蓋１点，高坏もしくは高台付埦の脚部２点のほかに，鉄製の刀子２点，鉄製の鎌１点，鉄釘４点が出土している（第10図）。

造営時期　出土遺物から７世紀末葉頃とみられる。

（小川・大渕）



第10図　竪穴建物跡(SI01)出土遺物　0　10cm　(1/3)

3－4　奈良・平安時代

奈良・平安時代に比定される遺構として，掘立柱建物跡５棟，竪穴建物跡２棟，溝跡２条が検出された。

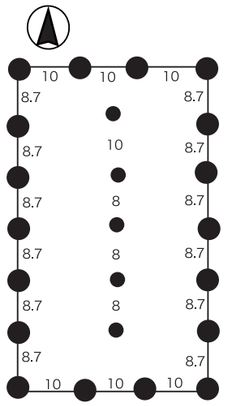
（１）４号建物跡（SB04）

位　　置　本建物跡は，調査区の中央から南にかけての位置でやや東に寄った地点で検出されている（第４図）。第３号溝跡（SD03）から西へ7.5mの位置にある。

形　　式　掘立柱建物である。

規　　模　本建物は，桁行15.6m，梁行9.0m。側柱の掘方は正方形を呈し，一辺が1.4m～2.0mで，建物棟通りには一辺0.7m～1.0mの束柱が5基検出されている（第11図・第３表）。主軸方位はN-０°-E。

構　　造　桁行の柱間は2.6m（8.7尺）等間で，梁行の柱間は3.0m（10尺）等間。桁行６間，梁行３間の南北棟で，建物の中央に５基の束柱とみられる柱穴を持つことから，板敷きの揚床を持つ床束建物とみられる。廂は伴わない。柱痕跡の大きさは直径0.2～0.5mである。Ｐ１～P18の深さの最大深度は0.7～1.2mであるが，東側の柱列よりも西側と南側・北側の柱列の深さの方がやや深い傾向にある。柱材には長さの揃った規格材ではないものを利用したことから，柱穴の掘削深度に差が現れているとみられる。束柱については，北側のＰ19とＰ20のみが3.0m（10尺）の柱間となっているのに対し，Ｐ20から南側のＰ23までは2.4m（８尺）の等間となっている。束柱の柱痕跡の直径は0.2～0.4mで，柱穴の掘削深度は0.1～0.35mである。



SB04 模式図

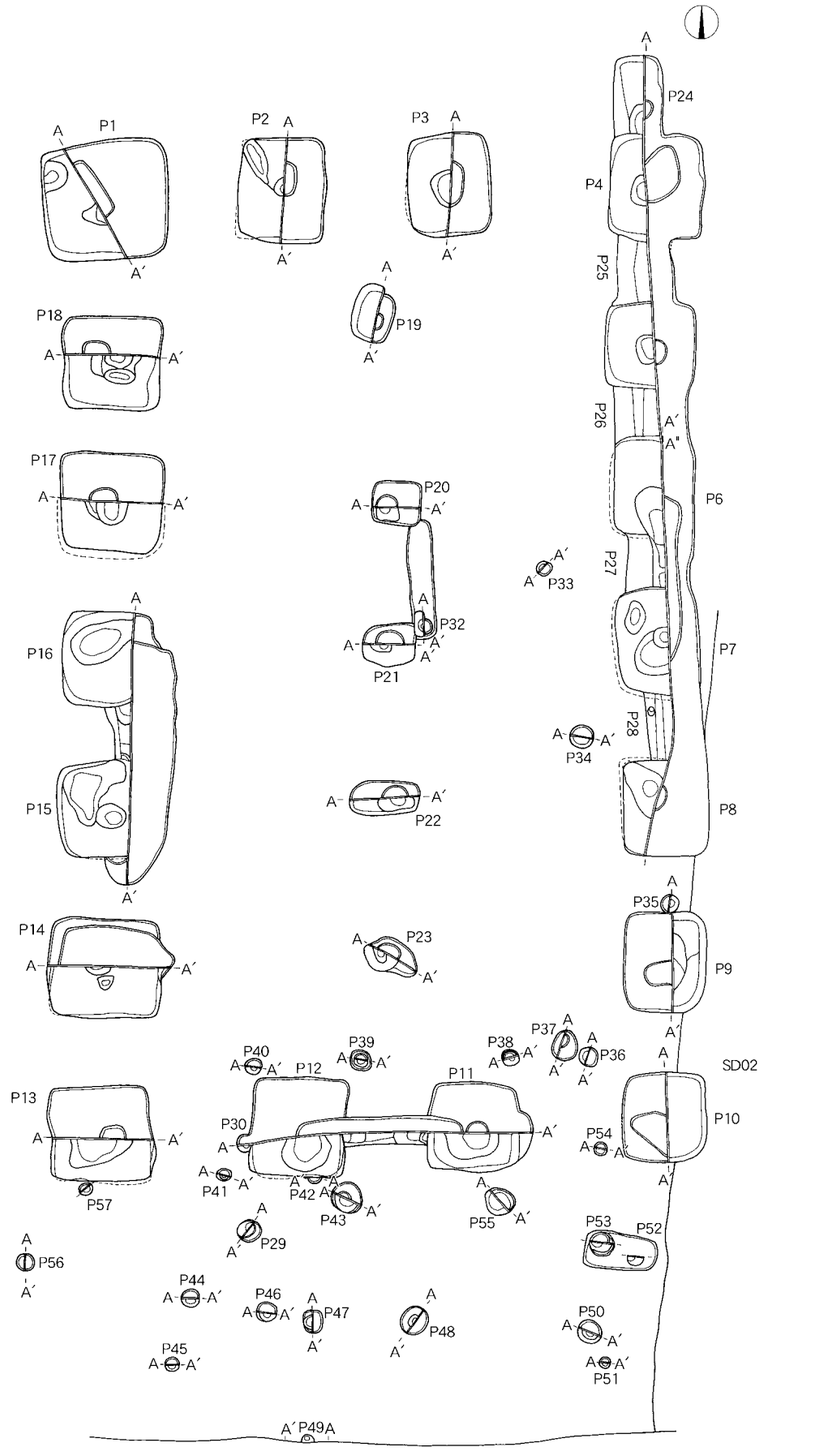
第３表　SB04柱穴属性一覧

柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)	柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)
P1	2.00	2.00	0.9～1.0	—	P15	1.2以上	1.60	0.9～0.95	—
P2	1.50	1.70	0.90	0.30	P16	1.50	1.60	1.00	—
P3	1.30	1.70	0.90	—	P17	1.55	1.75	0.9～1.1	0.30
P4	1.60	1.80	0.7～0.9	0.50	P18	1.60	1.50	0.9～1.1	0.20
P5	1.50	1.45	0.7～0.9	0.20	P19	0.70	1.00	0.3～0.35	0.20
P6	1.40	1.60	0.75	—	P20	0.80	0.70	0.1～0.2	0.30
P7	1.40	1.80	0.75～0.85	—	P21	0.90	0.70	0.30	0.40
P8	1.40	1.60	0.8～0.95	0.45	P22	0.60	1.20	0.10	0.30
P9	1.30	1.70	0.5～0.7	—	P23	1.00	0.70	0.15～0.3	0.30
P10	1.40	1.50	0.70	0.30	P24	0.80	1.30	0.25～0.5	—
P11	1.50	1.50	1.20	0.30	P25	0.90	1.20	0.4～0.45	—
P12	1.50	1.60	1.0～1.1	—	P26	0.75	1.20	0.45～0.55	—
P13	1.70	1.60	1.1～1.2	0.25	P27	0.80	1.00	—	—
P14	1.90	1.65	0.95～1.0	0.35	P28	0.90	1.10	0.25～0.30	—

造営過程　北側のＰ２～Ｐ３，東側のＰ９～P10，南側のP11～P12，西側のP13～P1は全て独立して柱穴を掘削しているのに対し，東側のＰ４～Ｐ８については，当初，布掘り状に掘削し（P24～P28），掘方を埋めた後に独立してＰ４～Ｐ８を再度，掘削する工法を採用している点で異なっている。

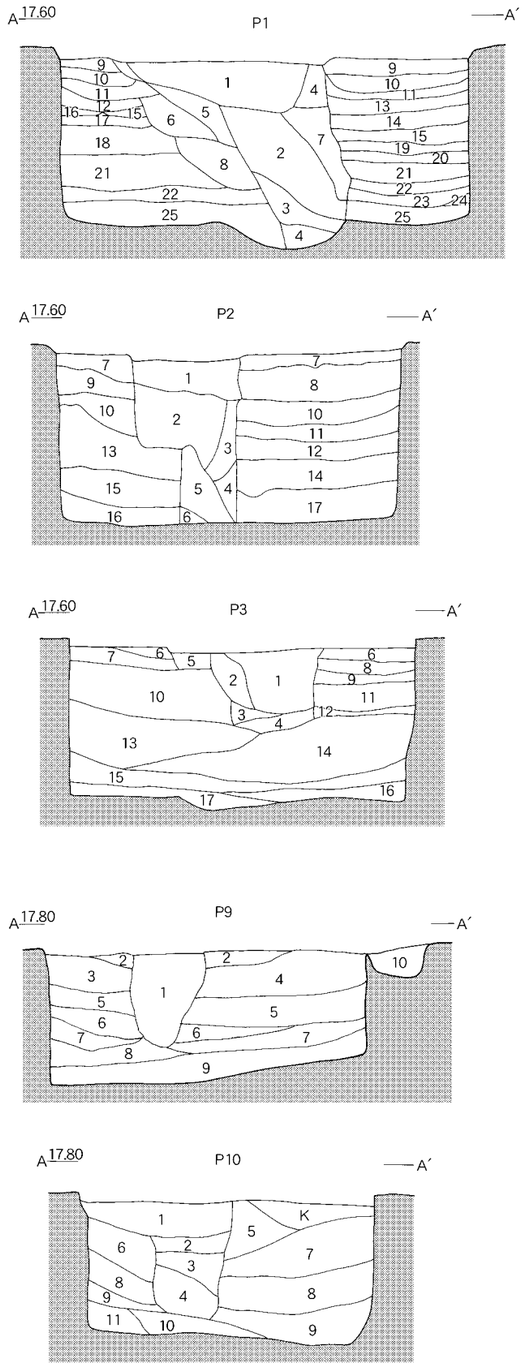
廃絶過程　柱痕跡や柱抜取穴から炭化粒子や炭化材，炭化米が出土していることから，焼失したとみられる。北西隅のＰ１は北西方向から，北東隅のＰ４は北東から，南東隅のP10は南東から，南西隅のＰ13は南西から柱抜取穴が掘られて柱が抜き取られている（第11図）。北側のＰ２については明確な抜取穴は確認できなかったが，半截を行ったところ，柱痕跡の上にやや幅広の炭化粒子を含む土層が確認されたことから（第12図），柱を切り取った可能性がある。Ｐ６とＰ７は柱抜取穴P27の中央から南北２方向に向かって柱が抜き取られている（第11・13図）。同様の抜き取り方法は，P11とP12，P15とP16にもみられる（第11・14図）。

造営時期　８世紀第Ⅰ四半期に帰属するとみられるSI03を切って造営されていることから，８世紀第Ⅱ四半期以



第11図　4号建物跡(SB04)実測図

0　4m
(1/100)



SB04(P1)
1　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに、炭化粒子を多く含む
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに、炭化粒子を多量に含む
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに、炭化粒子を多く含む
4　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに、炭化粒子を多量に含む
5　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに、炭化粒子を僅かに含む
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く、炭化粒子を僅かに含む
7　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～5)を多く、炭化粒子を多く含む
8　黄橙色(10YR8/8)　ロームブロックを多量に、炭化粒子を僅かに含む
9　灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒子(φ1～2)を多く、黒色粒子を僅かに含む
10　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子(φ1～15)を多く、黒色粒子を僅かに含む
11　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
12　黄橙色土(10YR8/8)　ローム粒子(φ1～3)を多量に含む
13　褐色土(10YR4/4)　ロームブロック、黒色粒子を多く含む
14　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
15　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
16　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
17　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
18　黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロックを多量に含む　堅緻である
19　明黄褐色土(10YR7/6)ローム粒子(φ1～10)を多量に含む
20　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～10)を僅かに含む
21　黄橙色土(10YR7/8)　ロームブロックを多量に含む　締りがあり堅緻である
22　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
23　明黄褐色土(10YR7/6)ローム粒子(φ1～10)を多く含む
24　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
25　黄橙色土(10YR7/8)　ロームブロックを多量に含む

SB04(P2)
1　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに、炭化粒子を多量に含む
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに、炭化粒子を多く含む
3　灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒子(φ1～2)、炭化粒子を僅かに含む
4　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～2)、炭化粒子を僅かに含む
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1)を多く、炭化粒子を僅かに含む
6　灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒子(φ1～2)を多く含む
7　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
8　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含み、締りがある
9　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子(φ1～8)を多く含む
10　明黄褐色土(10YR7/6)ローム粒子(φ1～10)を多量に、黒色粒子(φ1～3)を僅かに含む
11　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
12　明黄褐色土(10YR7/6)ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを多量に含む
13　にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを多量に含む
14　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～5)、ロームブロックを多量に含む
15　にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム(φ1～10)を多量に含む　締りがある
16　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを僅かに含む
17　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む

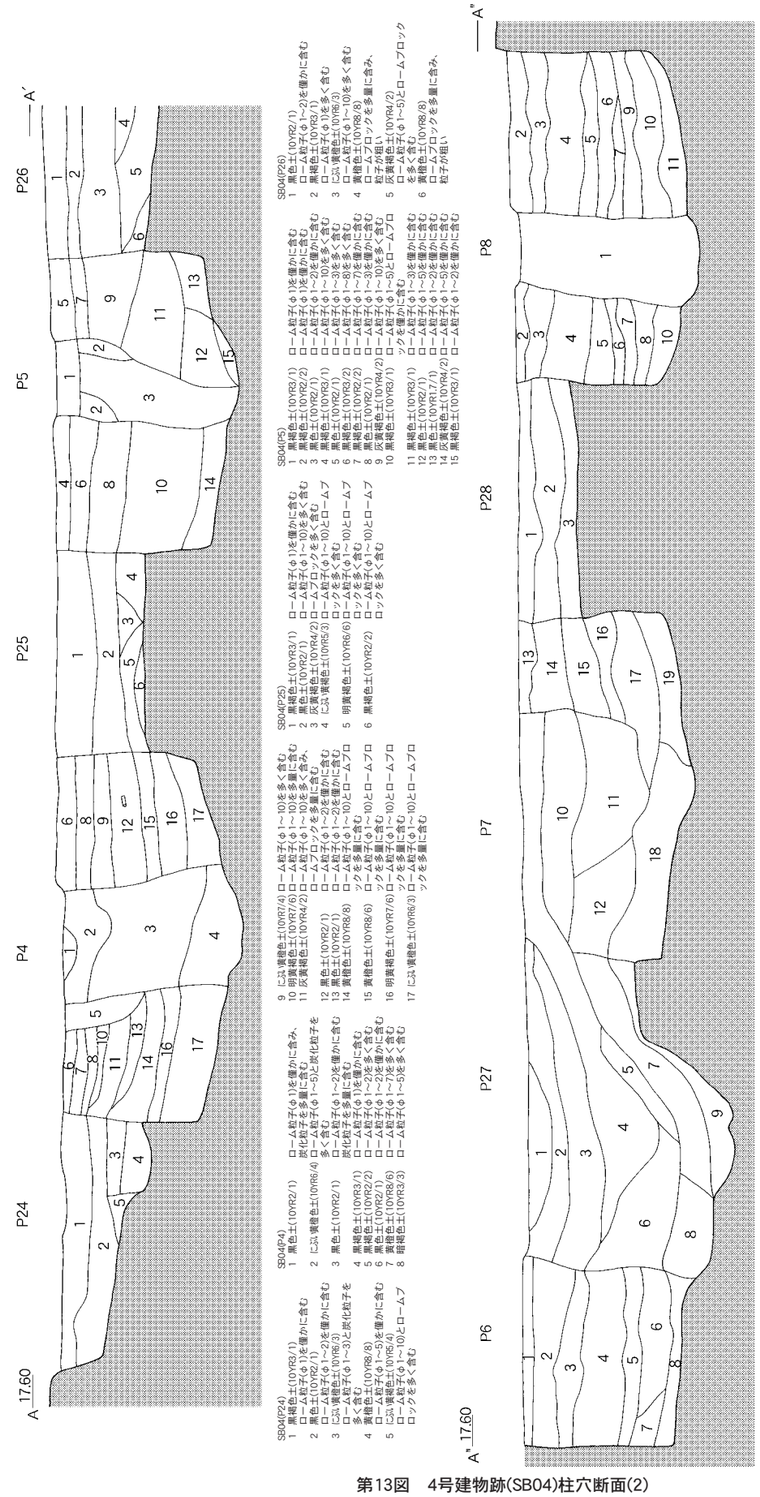
SB04(P3)
1　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに、炭化粒子を多量に含む
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)、炭化粒子を僅かに含む
3　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1)を多く、炭化粒子を僅かに含む
5　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～5)を多く、炭化粒子を僅かに含む
6　黄橙色土(10YR7/8)　ロームブロックを多量に含む　堅緻である
7　灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒子(φ1～5)を多く、黒色粒子を僅かに含む
8　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む　締りがある
9　灰黄褐色土(10YR5/2)ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを多量に含む
10　灰黄褐色土(10YR5/2)ローム粒子(φ1～10)を多く含む
11　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む　締りがある
12　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～2)を多量に含む
13　明黄褐色土(10YR7/6)ローム粒子(φ1～10)を多量に含む　締りがある
14　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む　締りがある
15　黄橙色土(10YR8/8)　ローム粒子、ロームブロックを多量に含む
16　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
17　黄橙色土(10YR8/8)　ローム粒子、ロームブロックを多量に含む

SB04(P9)
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～5)を多く、炭化粒子を僅かに含む
2　黄橙色土(10YR8/8)　ローム粒子、ロームブロックを多量に含む
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く、炭化粒子を僅かに含む
4　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く、炭化粒子を僅かに含む
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く、炭化粒子を僅かに含む
6　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
7　明黄褐色土(10YR7/6)ローム粒子(φ1～5)を多く含む
8　黄橙色土(10YR8/6)　ローム粒子、ロームブロックを多量に含む
9　灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒子(φ1～5)、ロームブロックを多く含む
10　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに、炭化粒子を多く含む

SB04(P10)
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに、炭化粒子を多く含む
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに、炭化粒子を多く含む
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに、炭化粒子を多く含む
4　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～3)を多く、炭化粒子を僅かに含む
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
6　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
7　灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒子(φ1～8)を多く含む
8　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
9　黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロックを多量に含む　粒子が粗い
10　明黄褐色土(10YR6/8)ロームブロックを多量に含む
11　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む　締りに欠ける

第12図　4号建物跡(SB04)柱穴断面(1)

0　1m
(1/30)



SB04(P26)
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
3　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1)を多く含む
4　に公黄橙色土(10YR6/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
5　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
6　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
7　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
8　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
9　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
10　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
11　暗褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
12　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
13　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
14　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
15　に公黄橙色土(10YR6/4)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
16　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子(φ1～5)と炭化粒子を僅かに含む
17　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
18　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
19　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む

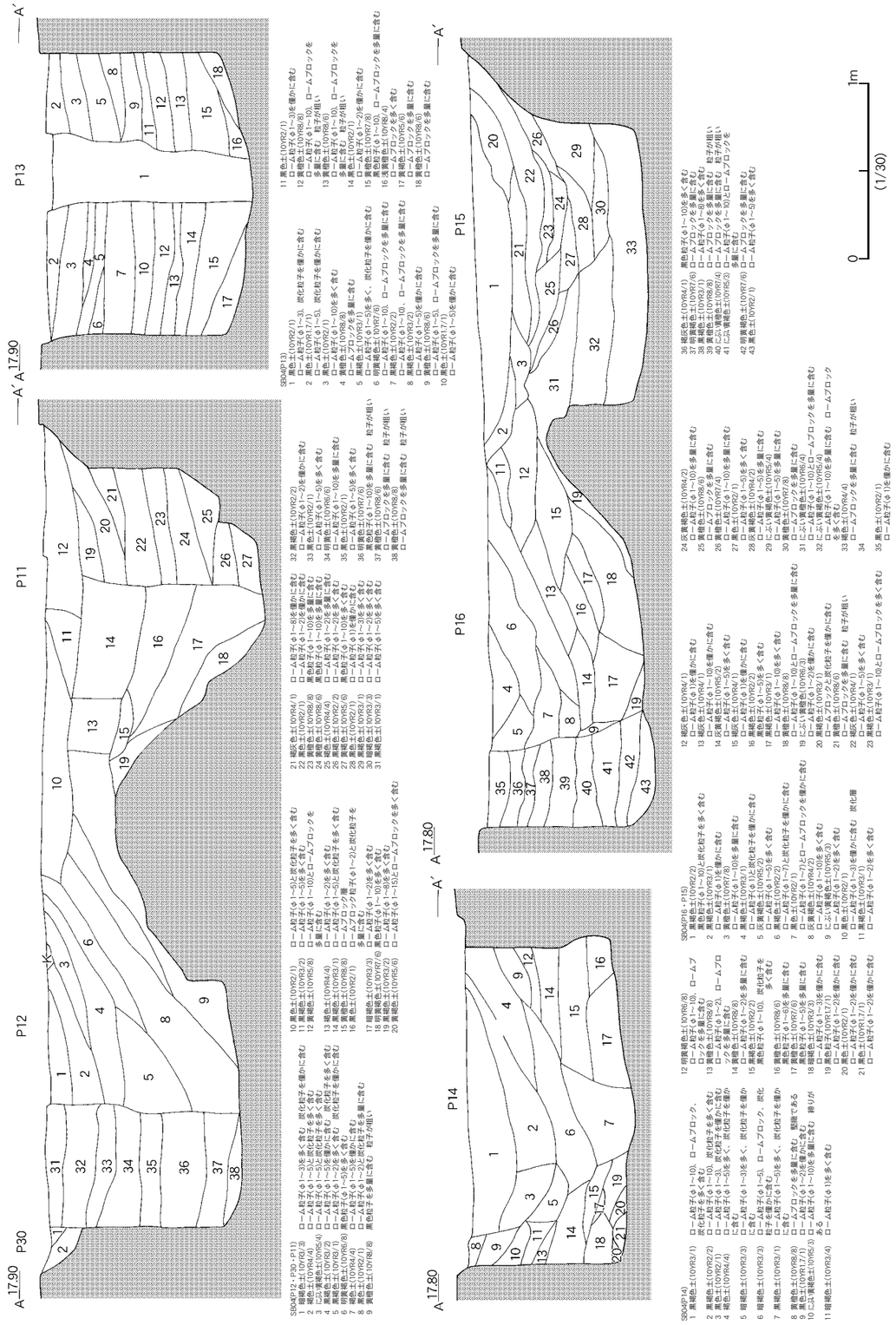
SB04(P27)
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)と炭化粒子を僅かに含む
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)と炭化粒子を僅かに含む
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)と炭化粒子を僅かに含む
4　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)と炭化粒子を僅かに含む
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
6　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
7　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
8　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
9　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
10　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
11　暗褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
12　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
13　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
14　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
15　に公黄橙色土(10YR6/4)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
16　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子(φ1～5)と炭化粒子を僅かに含む
17　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
18　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
19　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～5)とロームブロックを多く含む

SB04(P28)
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
3　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
5　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
6　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
7　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
8　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
9　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
10　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
11　暗褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
12　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
13　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
14　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
15　に公黄橙色土(10YR6/4)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
16　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子(φ1～5)と炭化粒子を僅かに含む
17　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
18　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
19　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～5)とロームブロックを多く含む

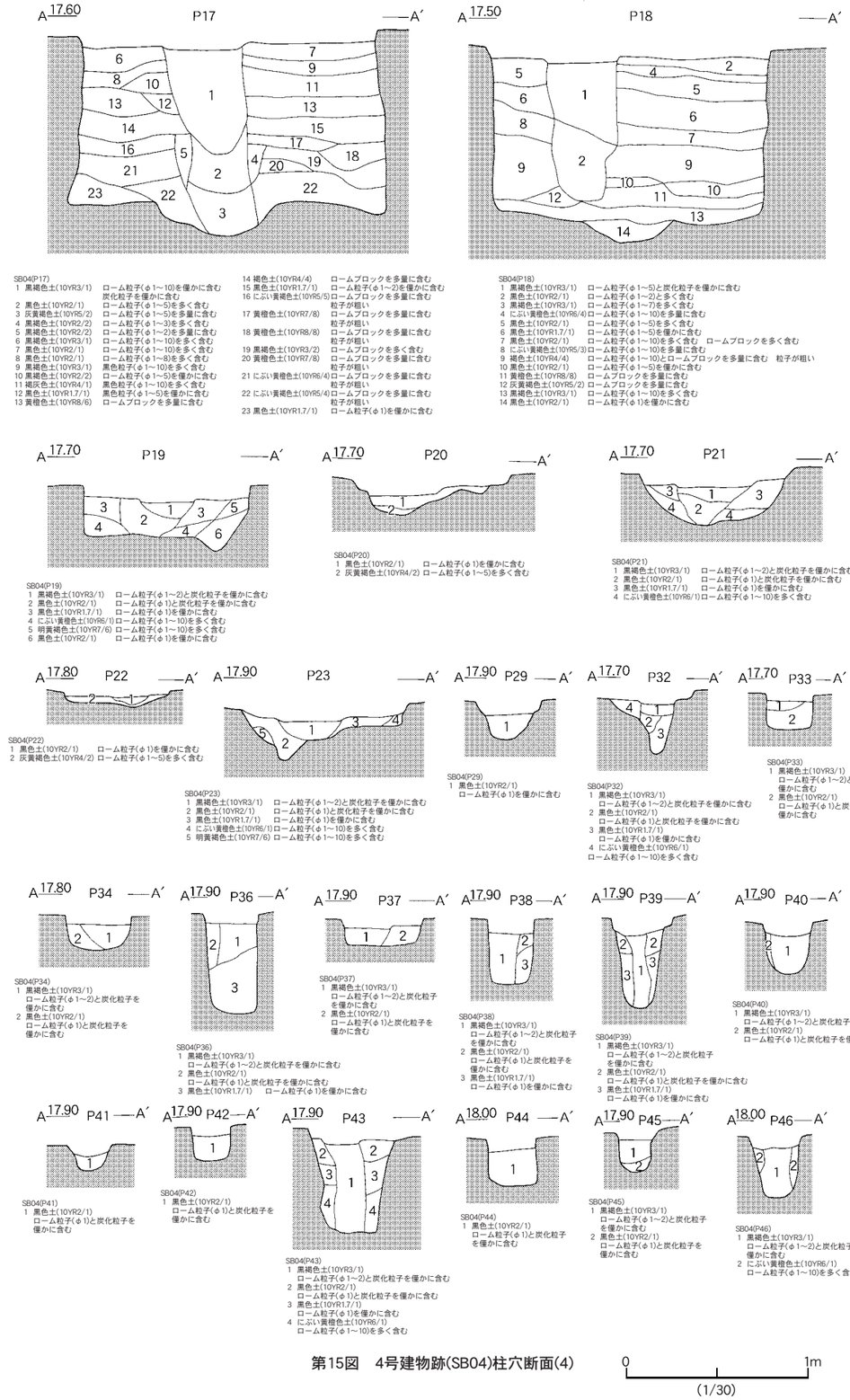
SB04(P6)
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
3　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
4　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
5　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
6　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)と、ローム粒子(φ1～10)とロームブロックを多く含む
7　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
8　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む

1m
0　(1/30)

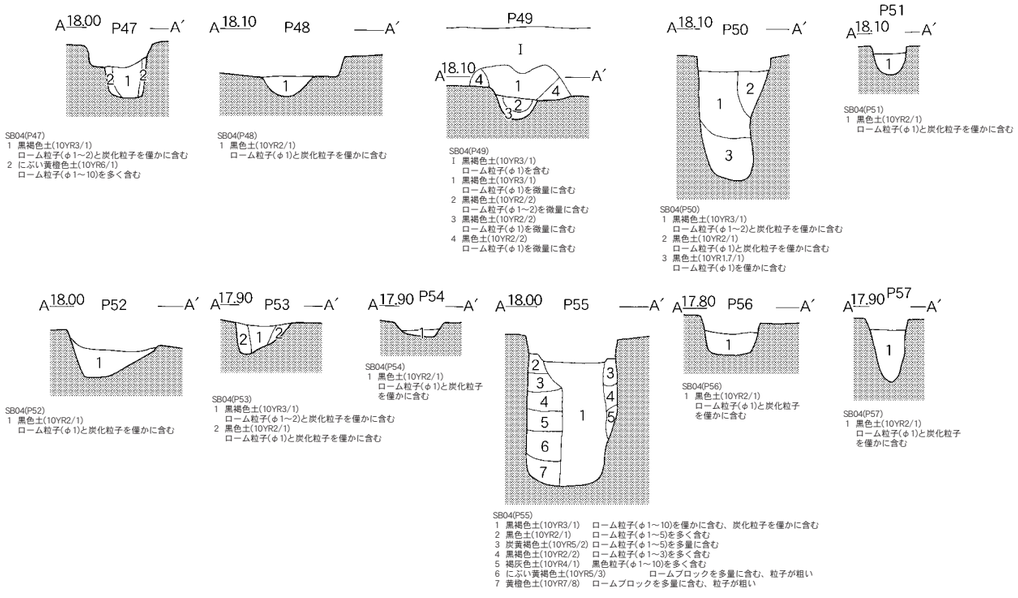
第13図　4号建物跡(SB04)柱穴断面(2)



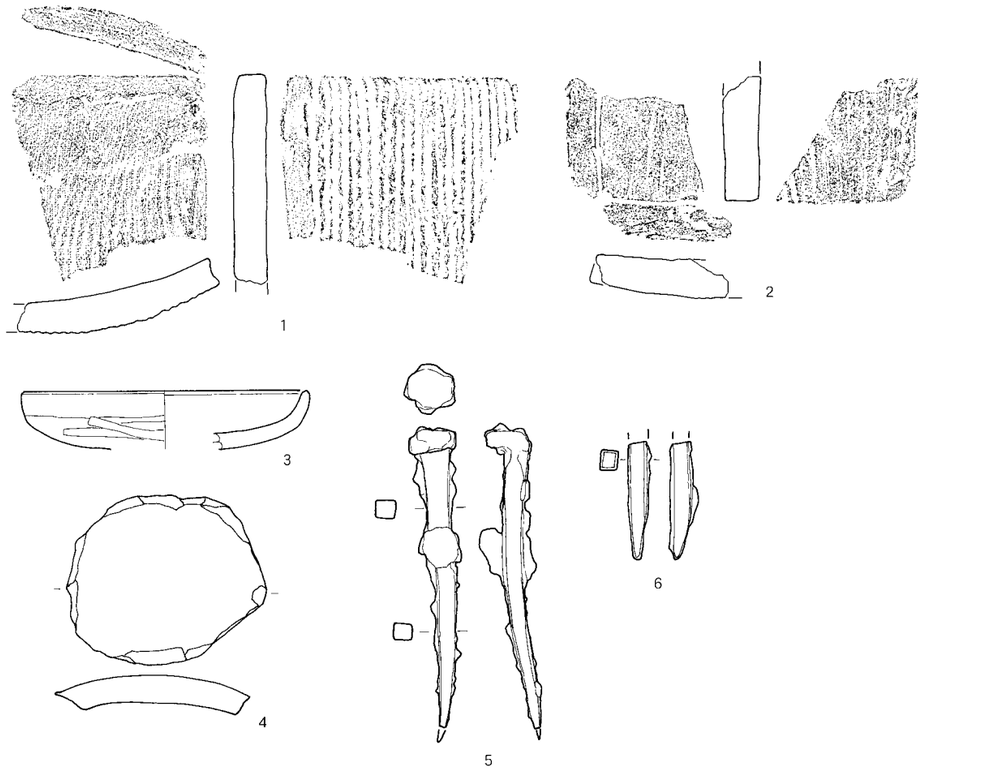
第14図　4号建物跡(SB04)柱穴断面(3)



第15図　4号建物跡(SB04)柱穴断面(4)



第16図　4号建物跡(SB04)柱穴断面(5)



第17図　4号建物跡(SB04)出土遺物

降と判断される。

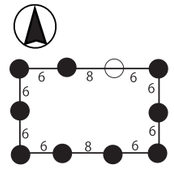
遺　　物　平瓦２点，土師器坏１点，須恵器甕（円盤として再利用）１点，鉄釘２点が出土している（第17図）。

（２）７号建物跡（SB07）

位　　置　本建物跡は，調査区の中央から西にかけての位置で2号溝跡（SD02）と重複する形で検出されており，２号溝跡に切られている（第４図）。

形　　式　掘立柱建物である。

規　　模　建物は，桁行6.0m，梁行3.6m。柱掘方は円形を呈し，直径が0.45m～0.90mである（第４表）。主軸方位はN-０°-W。



SB07 模式図

構　　造　桁行３間，梁行２間の側柱建物である（第18図）。廂は伴わない。桁行の柱間は中央のみが2.4m（８尺）で隅寄りの柱間は1.8m（６尺）で，梁行の柱間は1.8m（６尺）等間。柱痕跡の大きさは直径0.1～0.25mである。Ｐ１～Ｐ８の深さの最大深度は0.25～0.75mであり，北西側のＰ１とＰ８の掘削深度が他の柱穴よりも浅い（第18図）。柱穴の深さが一定していないことから，柱材には長さの揃った規格材を利用していなかったとみられる。

第４表　SB07柱穴属性一覧

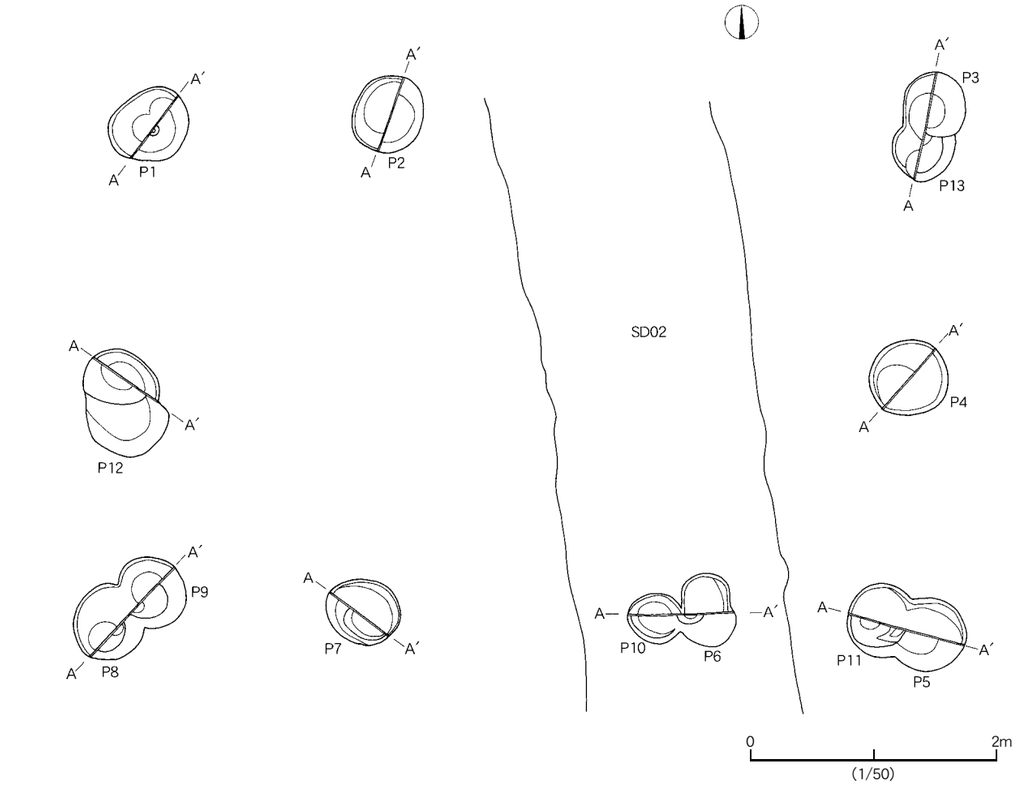
柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)	柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)
P1	0.65	0.60	0.35～0.4	—	P8	0.60	0.65	0.35	—
P2	0.55	0.65	0.35～0.4	—	P9	0.55	0.60	0.30	0.20
P3	0.50	0.50	0.35	0.25	P10	0.45	0.40	0.15	—
P4	0.65	0.60	0.15～0.2	—	P11	0.5以上	0.60	0.15～0.2	0.25
P5	0.60	0.65	0.30	—	P12	0.70	0.90	0.3～0.4	—
P6	0.45	0.60	0.40	0.20	P13	0.50	0.5以上	0.20	—
P7	0.60	0.55	0.18～0.2	—					

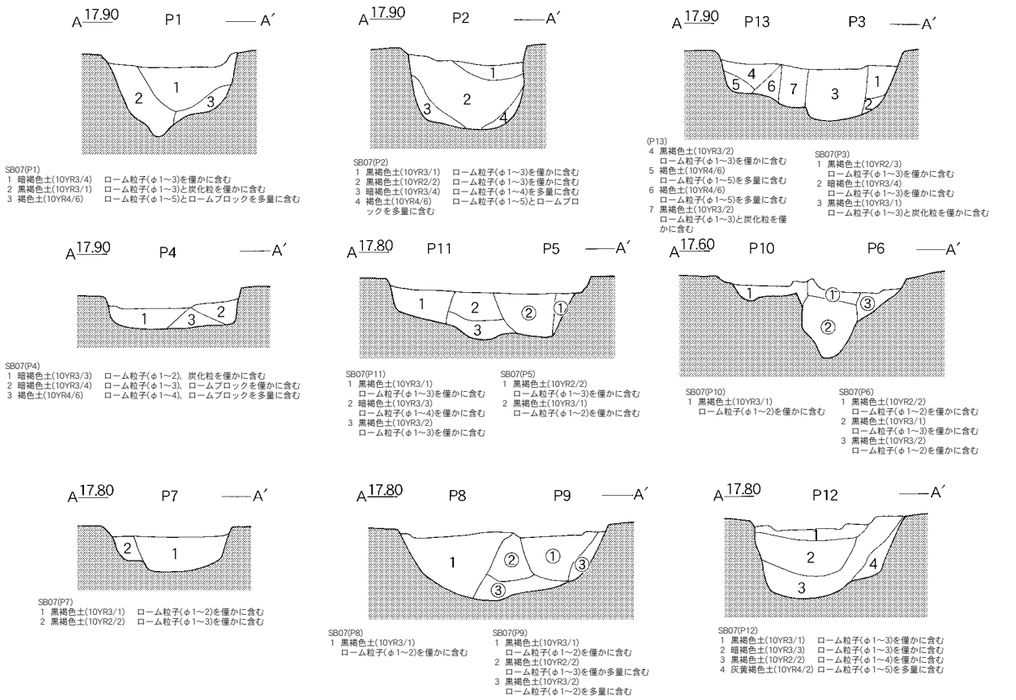
造営過程　北東隅のＰ３・13，南東隅のＰ５・P11，南側列のＰ６・P10，南西隅のＰ８・Ｐ９，西側の列のP12については柱の立て替えが行われている（第18図）。

廃絶過程　柱痕跡が明瞭に残されていることから，柱の抜き取り等は行われていない。

造営時期　SB05やSB06と同じ主軸であることから同時期の可能性が高い。

遺　　物　なし。





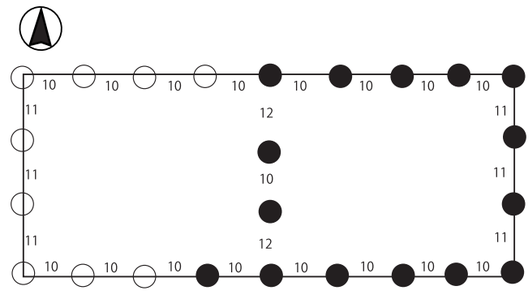
第18図　7号建物跡(SB07)実測図

（３）８号建物跡（SB08）

位　　置　本建物跡は，調査区の最西端の位置で検出されている（第４図）。

形　　式　掘立柱建物である。

規　　模　建物は，桁行15.0m以上，梁行9.9m。柱掘方は円形もしくは隅丸方形を呈し，直径が0.9m～1.92mである（第５表）。主軸方位はN-０°-W。



SB08 模式図

構　　造　桁行５間以上，梁行３間の側柱建物である（第19図）。桁行の柱間は3.0m（10尺）等間。梁行は3.3m（11尺）等間。中央には間仕切りとみられる柱穴が2基（P13・P14）確認されている。間仕切りの柱穴の柱間は，側柱との柱間3.6m（12尺）であり，P13とP14の柱間は3.0m（10尺）となっている。このP13・P14を中心と考えると桁行８間，梁行３間の側柱建物となり，桁行24.0m，梁行9.9mの大きさに復元される。後述するように，柱の立て替えが行われていることから，建て替えが行われている。古い建物をSB08a，新しい建物をSB08bとする。SB08a・SB08bの柱痕跡の大きさは直径0.2～0.5mである。P３・P４・P７～P11・P15・P28～P29・P33～P37・P38・P41・P85・P96の深さの最大深度は0.4～1.5mであり，P３・P10・P28・P36・P37の掘削深度は他の柱穴よりも浅い。柱穴の深さが一定していないことから，柱材には長さの揃った規格材を利用していなかったとみられる。また，周囲には柱穴よりも小さいピットが直線上に巡らされているが，一定間隔には並ばないことから廂や目隠し塀などではなく，造営時・改修時に伴う足場柱穴と考えられる。P12・P18・P19・P23～P25・P42～P48・P55～P59・P61～P66・P69・P71～P74・P86・P89・はSB08aの足場柱穴とみられ，P17・P20・P22・P26・P49～P51・P53・P54・P60・P68・P75・P76・P87・P88・P93・P94はSB08bの足場柱穴とみられる。

P2・P5・P6・P30・P32・P39・P52・P67・P70・P78～P84・P90～P92・P95は性格不明の柱穴である。

造営過程　南東方向に0.5m柱の立て替えが行われていることから，建て替えが行われている。古い建物をSB08a，新しい建物をSB08bとする。ただし，P5とP28は切り合い関係からP38とP27よりも古く位置づけられ，SB08aとSB08bの柱穴とすると柱筋の並びが悪いことから，造営当初にP5とP28の位置に柱穴を掘削したが，柱の並びが悪いと判断したことから，両柱穴を埋め戻してP38とP27の位置に再掘削したと考えたい。

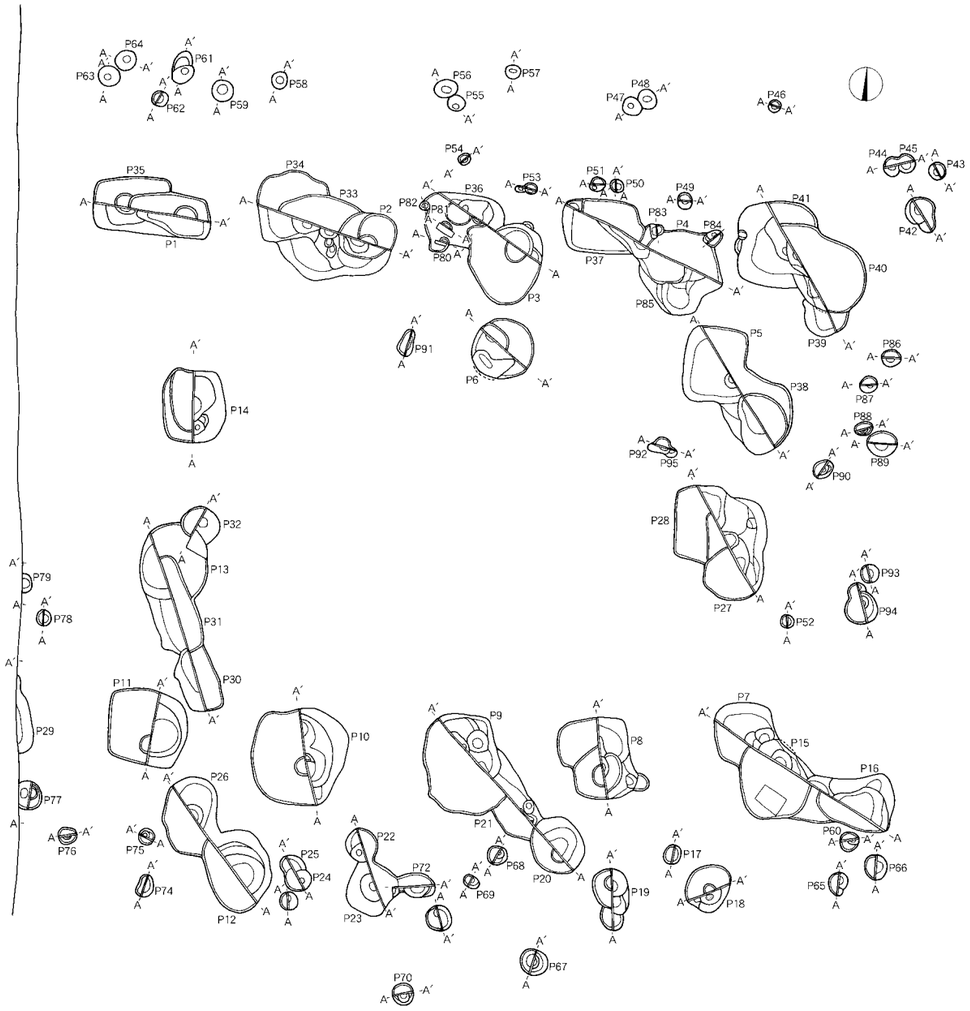
廃絶過程　P1・P16・P21・P27・P31・P40は柱抜取穴および柱切取穴と考えられることから，柱の抜き取りが一部の柱穴で行われている。

造営時期　SB04，SB12と主軸が同じであることから，同時期の可能性を想定しておきたい。

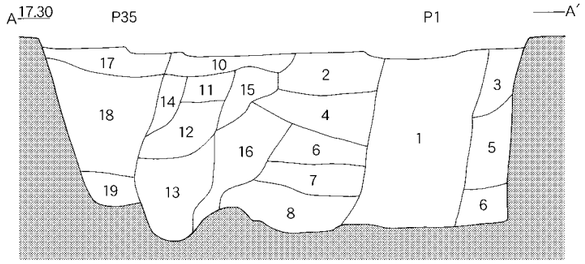
遺　　物　内面黒色処理土師器埦２点（うち「岡（異体字）ヵ」銘墨書土器１点），内面黒色処理土師器坏１点，須恵器無台坏１点，須恵器盤もしくは高坏１点，鉄釘１点が出土している（第26図）。

第５表　SB08柱穴属性一覧

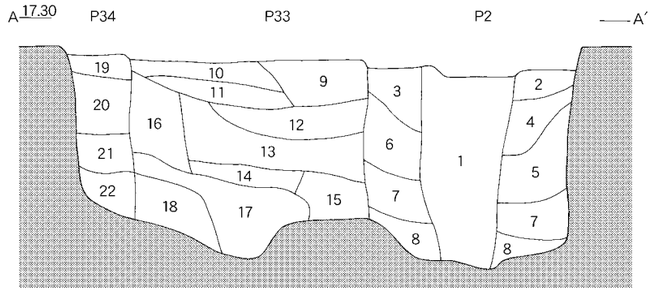
柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)	柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)
P1	1.60	0.90	0.90	0.40	P49	0.20	0.20	0.26	—
P2	1.20	1.10	1.10	0.30	P50	0.25	0.22	0.25	—
P3	1.60	1.00	0.75	0.20	P51	0.25	0.22	0.22	—
P4	1.60	1.70	1.15	0.30	P52	0.20	0.25	0.18	—
P5	1.20	1.70	0.90	0.25	P53	0.20	0.15	0.06	—
P6	1.00	1.50	0.80	—	P54	0.25	0.22	0.18	0.10
P7	1.10	1.20	0.95	—	P55	0.35	0.30	0.12	—
P8	1.36	0.92	0.90	—	P56	0.45	0.35	0.28	—
P9	1.48	1.20	0.84	—	P57	0.30	0.25	0.18	0.14
P10	1.88	1.92	0.40～1.10	0.34	P58	0.30	0.30	0.30	—
P11	1.52	1.56	1.36	0.42	P59	0.40	0.40	0.52	0.12
P12	1.32	1.60	1.36	—	P60	0.40	0.38	0.36	—
P13	1.32	1.52	1.20	—	P61	0.45	0.65	0.10～0.2	—
P14	1.24	1.44	1.10	—	P62	0.35	0.30	0.14	—
P15	1.40	1.50	1.45	—	P63	0.40	0.40	0.60	—
P16	1.50	1.15	1.20	0.30	P64	0.40	0.40	0.40	—
P17	0.36	0.40	0.30	—	P65	0.40	0.50	0.16	—
P18	0.90	0.95	0.20～0.30	0.12	P66	0.45	0.50	0.34	0.16
P19	0.70	0.90	0.20～0.40	0.14	P67	0.55	0.50	0.44	—
P20	1.04	1.12	0.16～0.50	—	P68	0.40	0.40	0.24	—
P21	1.00	0.80	0.20～0.72	—	P69	0.30	0.30	?	?
P22	0.65	0.65	0.14	—	P70	0.40	0.45	?	?
P23	1.00	1.00	0.34	—	P71	0.50	0.50	?	?
P24	0.50	0.45	0.40	—	P72	0.70	0.50	?	?
P25	0.50	0.40	0.26	—	P73	0.35	0.35	?	—
P26	1.55	1.10	0,28～0.36	—	P74	0.35	0.45	0.20	—
P27	1.20	1.00	0.40	—	P75	0.32	0.32	?	?
P28	1.20	1.40	0.70	0.30	P76	0.38	0.35	?	?
P29	—	1.50	—	—	P77	0.55	0.55	0.30～0.50	—
P30	1.30	0.80	0.82～1.00	—	P78	0.30	0.30	?	?
P31	0.80	1.96	0.70	—	P79	0.38	0.38	0.38	?
P32	0.80	0.70	0.40	—	P80	0.20	0.20	0.10	—
P33	1.60	1.70	1.00	—	P81	0.25	0.25	0.10	—
P34	1.40	1.40	0.90	—	P82	0.20	0.20	0.22	—
P35	1.00	1.50	1.00	0.35	P83	0.25	0.25	0.28	0.12
P36	1.40	1.60	0.55	0.20	P84	0.35	0.35	0.40	0.16
P37	1.50	1.10	0.70	—	P85	1.60	0.90	1.20	—
P38	1.40	1.50	1.30	—	P86	0.40	0.35	0.20	0.16
P39	0.80	0.80	0.20	—	P87	0.35	0.30	0.20	—
P40	1.40	1.60	1.40	—	P88	0.35	0.30	0.16	—
P41	1.60	1.70	1.00	—	P89	0.60	0.50	0.14	0.16
P42	0.55	0.70	0.20～0.34	0.16	P90	0.40	0.35	0.24	—
P43	0.35	0.35	0.30	—	P91	0.55	0.35	?	?
P44	0.30	0.40	0.10	—	P92	0.45	0.35	?	?
P45	0.35	0.35	0.18	—	P93	0.35	0.35	0.16	—
P46	0.25	0.25	0.12	—	P94	0.65	0.80	—	—
P47	0.35	0.35	0.14	—	P95	0.20	0.20	0.16～0.20	—
P48	0.35	0.35	0.24	—	P96	1.20	1.00	1.50	0.50



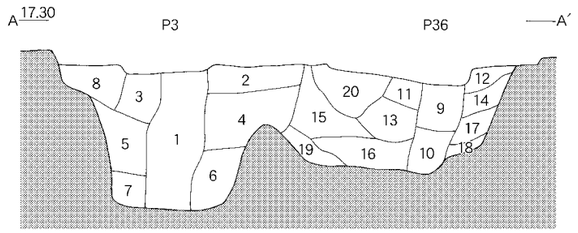
第19図　8号建物跡(SB08)実測図



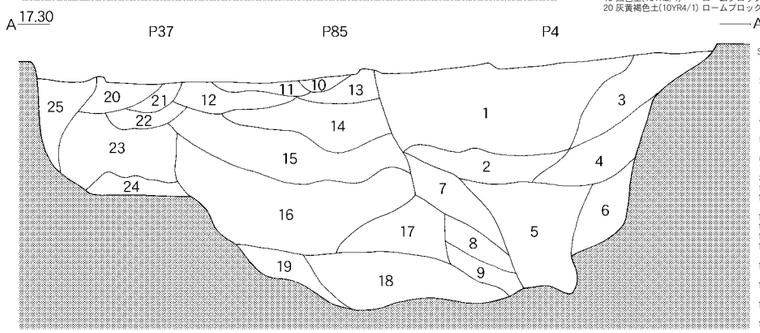
SB08(P1)・(P35)
1 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を多く含む
2 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
3 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子・ロームブロックを多く含む
4 黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
5 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1)を多く含む
6 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子僅かに含みしまりがある
7 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含む
8 黄橙色土(10YR8/6)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
9 黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを多く含む
10 灰黄褐色土(10YR1/2)　ローム粒子を多量に含む
11 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含む
12 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多量に含む
13 黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子を僅かに含み締りがある
14 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を多く含む
15 明黄褐色土(10YR7/6)　ローム粒子(φ1～2)を多量に含む
16 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子を僅かに含む
17 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子を多く含む
18 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子を僅かに含みしまりがある
19 黄橙色土(10YR8/6)　ロームブロックを多く含み粒子が粗い



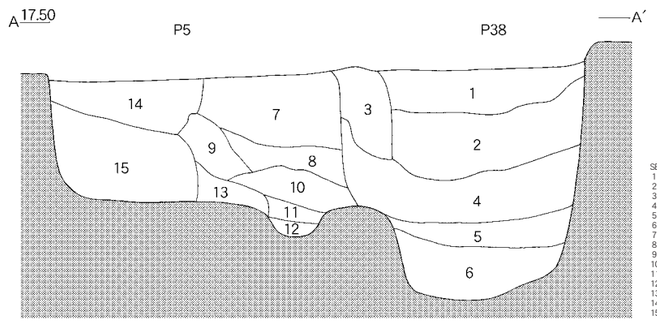
SB08(P34)・(P33)・(P2)
1 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を多く含む
2 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
3 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
4 暗褐色土(10YR2/4)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
5 黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
6 にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
7 黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～2)を多量に含み粒子が粗い
8 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
9 灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子を多く含む
10 黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含む
11 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
12 褐色土(10YR4/4)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
13 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
14 黒褐色土(10YR2/1)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
15 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム粒子・ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
16 黄橙色土(10YR8/6)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含み粒子が粗い
17 黄橙色土(10YR8/8)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含み粒子が粗い
18 黄橙色土(10YR7/8)　黒色粒子を多く含みロームブロックを多量に含む
19 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子を僅かに含みしまりがあり、堅緻である。
20 黄橙色土(10YR7/8)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
21 明黄褐色土(10YR7/6)ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
22 黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロックを多く含みしまりがあり堅緻で密である



SB08(P36)・(P3)
1 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含みしまりがかなりある
2 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
3 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
3 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
4 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
5 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
5 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を多量に含む
6 暗褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
7 黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
8 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～8)を多く含む
9 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
10 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
11 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
12 黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多く含む
13 黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
14 黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロックを多量に含む
15 黄橙色土(10YR8/8)　黒色粒子とロームブロックを多量に含み粒子が粗い
16 明黄褐色土(10YR6/8)黒色粒子とロームブロックを多量に含み粒子が粗い
17 黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多く含む
18 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
19 黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多く含む
20 灰黄褐色土(10YR4/1)ロームブロックを多く含む



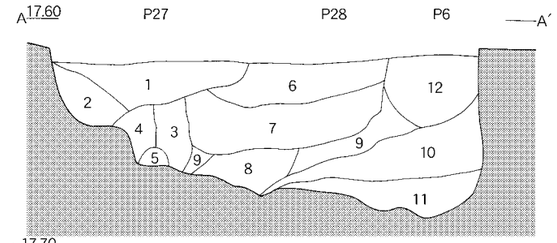
SB08(P37)・(P4)・(P85)
1 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子・ロームブロックを多く含みしまりがある
2 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子・ロームブロックを多く含みしまりがある
3 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子・ロームブロックを多く含みしまりがある
4 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子・ロームブロックを多く含みしまりがある
5 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子・ロームブロックを多く含みしまりがある
6 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
7 黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
8 黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
9 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子・ロームブロックを多く含む
10 褐灰色土(10YR5/1)　ロームブロックを多量に含みしまりに欠ける
11 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子・ロームブロックを多く含む
12 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1-7)を多く含む
13 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
14 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む
15 褐色土(10YR4/4)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含み粒子がやや粗い
16 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む
17 黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む
18 黄橙色土(10YR8/6)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
19 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
20 黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多く含む
21 褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含み粒子が粗い
22 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子・ロームブロックを多く含み粒子が粗い
23 黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子を微量に含みしまりがある
24 黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
25 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む



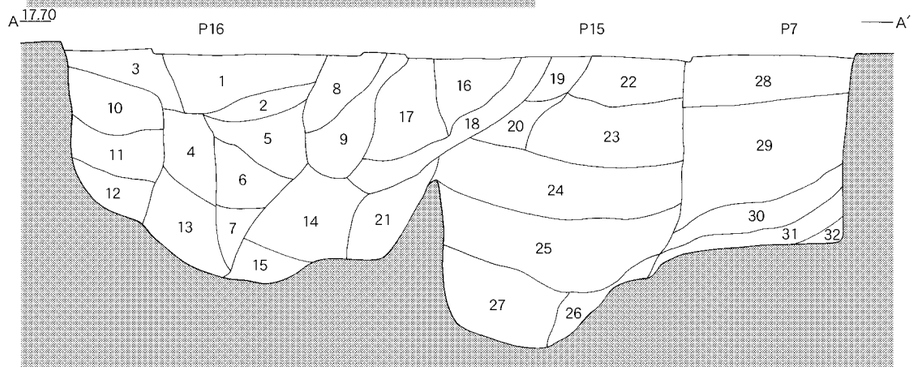
SB08(P5)・(P38)
1 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
2 黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～10)を多量に含む
3 明黄褐色土(10YR7/6)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
4 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～12)を多く含む
5 明黄褐色土(10YR6/6)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
6 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
7 暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを多く含む
8 黄橙色土(10YR8/8)　ブロックを多量に含み粒子が粗い
9 黄橙色土(10YR8/6)　ブロックを多量に含み粒子が粗い
10 明黄褐色土(10YR6/6)ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
11 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
12 浅黄橙色土(10YR8/4)ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
13 にぶい黄橙色土(10YR7/4)ロームブロックを多く含む
14 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3) を僅かに含みしまりがある
15 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～5)を多く含みしまりがある

第20図　8号建物跡(SB08)柱穴断面(1)

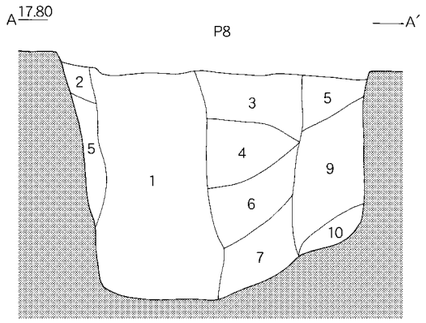
0　1m
(1/30)



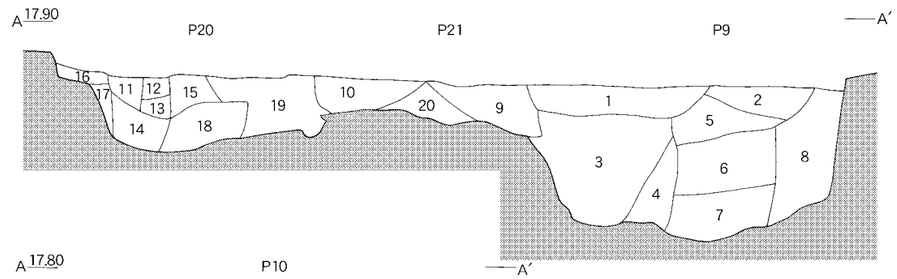
SB08(P27)・(P28)・(P6)
1 暗褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1)を多く含む
2 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
3 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
4 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
5 にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム粒子を多く含む
6 褐色土(10YR4/4)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含む
7 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含む
8 明黄褐色土(10YR7/6)ロームブロックを多量に含む粒子が粗い
9 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含む
10 明黄褐色土(10YR7/6)ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
11 黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
12 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含む



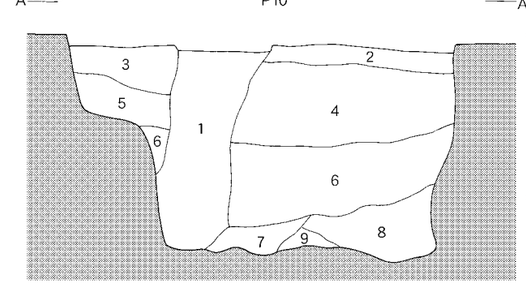
SB08(P15・P16・P7)
1 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
2 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～2)とロームブロックを多く含む
3 にぶい黄褐色土(10YR5/4)ロームブロックを多く含む
4 灰黄褐色土(10YR4/2)ロームブロックと鹿沼パミスを多く含む
5 にぶい黄褐色土(10YR6/4)ロームブロックと鹿沼パミスを多量に含み粒子が粗い
6 灰黄褐色土(10YR4/2)ロームブロックと鹿沼パミスを多量に含み粒子が粗い
7 褐色土(10YR4/4)　ロームブロックと鹿沼パミスを多量に含み粒子が粗い
8 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)と鹿沼パミスを多く含む
9 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～2)と鹿沼パミスを多く含む
10 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロックを多く含む
11 にぶい黄褐色土(10YR5/4)ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
12 黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
13 黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多く含む
14 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
15 黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを多く含む
16 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
17 にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム粒子(φ1～2)を多く含む
18 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含みしまりがある
19 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1)を多く含みしまりがある
20 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1)を多く含みしまりがある
21 明黄褐色土(10YR7/6)ロームブロックを多く含み粒子が粗い
22 暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを多く含む
23 黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを多量に含む
24 黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックと鹿沼パミスを多量に含み粒子が粗い
25 明黄褐色土(10YR5/6)ロームブロックと鹿沼パミスを多量に含み粒子が粗い
26 黒色土(10YR2/1)　ロームブロックと鹿沼パミスを多量に含み粒子が粗い
27 黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロックと鹿沼パミスを多く含み粒子が粗い
28 黒褐色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含みしまりがある
29 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含みしまりがある
30 にぶい黄褐色土(10YR5/4)ロームブロックと鹿沼パミスを多量に含み粒子が粗い
31 黒色土(10YR2/1)　ロームブロックと鹿沼パミスを多量に含み粒子が粗い
32 にぶい黄橙色土(10YR6/4)ロームブロックを多量に含み粒子が粗い



SB08(P8)
1 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
2 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
3 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子とロームブロックを多く含む
4 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子とロームブロックを多く含む
5 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子とロームブロックを多く含む
6 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子とロームブロックと鹿沼パミスを多量に含む
7 暗褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
8 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒子(φ1)を多量に含む
9 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を微量に含みしまりがある
10 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子とロームブロックを多く含む



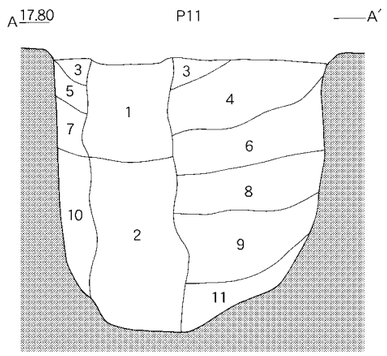
SB08(P20・P21・P9)
1 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～2)を多く含みしまりがある
2 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
3 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を微量に含みしまりがある
4 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
5 黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子とロームブロックを多く含む
6 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)を僅かに含む
7 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
8 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を微量に含みしまりがある
9 褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
10 黄褐色土(10YR5/8)　ロームブロックを多く含む
11 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を微量に含む
12 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1)を微量に含む
13 黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
14 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム粒子(φ1～10)を多く含む
15 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1)を微量に含む
16 黄褐色土(10YR5/8)　ローム粒子(φ1)を微量に含む
17 明黄褐色土(10YR6/6)　ローム粒子(φ1)を微量に含む
18 暗褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
19 明黄褐色土(10YR6/8)　ロームブロックを多く含む
20 黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い



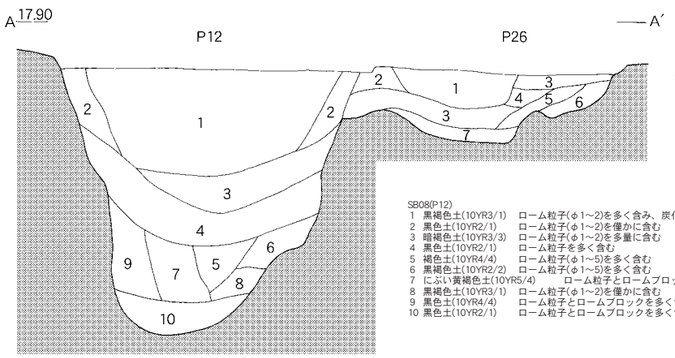
SB08(P10)
1 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
2 暗褐色土(10YR3/4)　ローム ブロック・鹿沼パミスを多く含む
3 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
4 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子・ロームブロック・鹿沼パミスを多く含む
5 黒褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを多量に含む
6 暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを多く含む
7 黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックを多く含む
8 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
9 黄褐色土(10YR5/8)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い

第21図　8号建物跡(SB08)柱穴断面(2)

0　1m
(1/30)

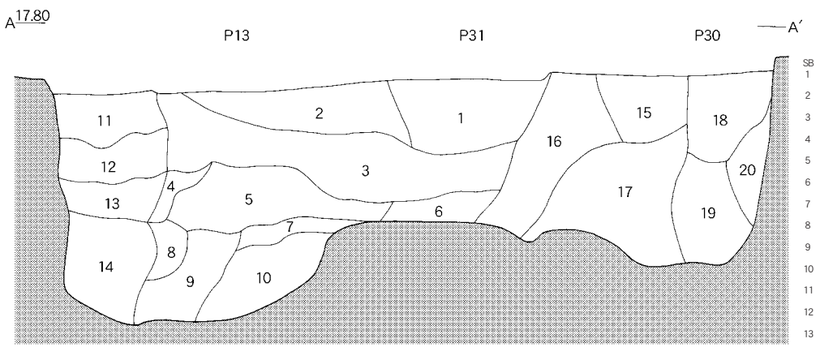


SB08(P11)
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含みロームブロック、鹿沼パミスを多量に含む
5　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
6　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～4)を多く含む
7　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含む
8　にぶい黄褐色土(10YR5/3)ローム粒子(φ1～5)とロームブロック、鹿沼パミスを多量に含む
9　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多く含む
10 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
11 黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多量に含む

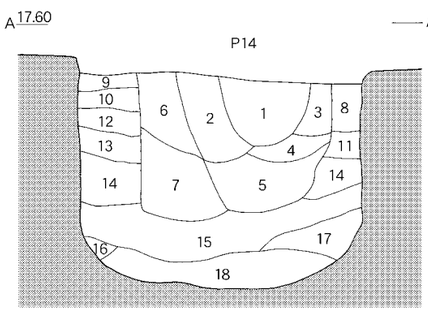


SB08(P26)
1　明黄褐色土(10YR7/6) ローム粒子(φ1～2)を多量に含む
2　灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子を多く含む
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
4　ロームブロック
5　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子僅かに含む
6　黄橙色土(10YR7/8)　ローム粒子とロームブロックを多量に含む
7　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を僅かに含む

SB08(P12)
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含み、炭化粒子を僅かに含む
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～2)を多量に含む
4　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子を多く含む
5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
6　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子とロームブロックを多量に含む
8　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
9　黒色土(10YR4/4)　ローム粒子とロームブロックを多く含む
10 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子とロームブロックを多く含む



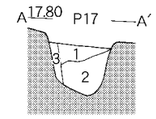
SB08(P13)・(P31)・(P30)
1　褐色土(10YR4/4)
ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
2　暗褐色土(10YR3/3)
ローム粒子(φ1～5)を多く含みしまりがある
3　黒褐色土(10YR2/3)
ローム粒子(φ1～5)を多く含みしまりがある
4　黄褐色土(10YR5/6)
ローム粒子(φ1～5)を多量に含みしまりがある
5　黄橙色土(10YR8/8)
ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
6　暗褐色土(10YR3/4)
ローム粒子(φ1～2)を多量に含む
7　黒色土(10YR2/1)
ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
8　褐色土(10YR4/6)
ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
9　黒褐色土(10YR3/1)
ローム粒子(φ1～2)を多く含む
10 黄橙色土(10YR8/8)
ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
11 にぶい黄褐色土(10YR5/4)
ローム粒子(φ1～10)を多量に含む
12 褐灰色土(10YR4/1)
ローム粒子(φ1～10)を多く含む
13 黄褐色土(10YR5/8)
ローム粒子(φ1～10)を多く含む
14 褐色土(10YR4/6)
ローム粒子(φ1～10)を多量に含む
15 褐色土(10YR4/4)
ロームブロックを多く含む
16 明黄褐色土(10YR7/6)
ロームブロックを多量に含む
17 黄褐色土(10YR5/6)
ロームブロックを多量に含む
18 暗褐色土(10YR3/3)
ローム粒子(φ1～2)を多く含む
19 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
20 黄褐色土(10YR5/6)
ロームブロックを多量に含み粒子が粗い



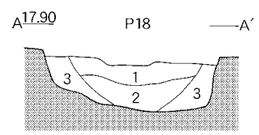
SB08(P14)
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1)と炭化粒子を多く含む
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～3)と炭化粒子を多量に含む
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
4　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1)を多く含む
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
6　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～2)を多量に含む
7　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子・ロームブロックを多く含む
8　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含む
9　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
10 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子を僅かに含む
11 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～2)を多量に含む
12 明黄褐色土(10YR6/6)ローム粒子・ロームブロックを多量に含む
13 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
14 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
15 黄橙色土(10YR7/8)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
16 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子を多量に含む
17 黄橙色土(10YR8/6)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
18 黄橙色土(10YR8/8)　ローム粒子・ロームブロックを多量に含む　堅緻で粒子が粗い

第22図　8号建物跡(SB08)柱穴断面(3)

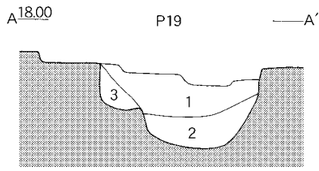
0　1m
(1/30)



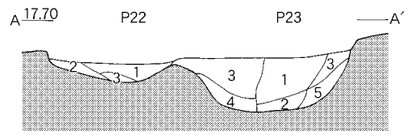
SB08(P17)
1　黒褐色土(10YR3/1)
ローム粒子(φ1～2)を多く含み、
炭化粒子を僅かに含む
2　黒色土(10YR2/1)
ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)
ローム粒子とロームブロックを
多量に含む



SB08(P18)
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含み、
炭化粒子を僅かに含む
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～2)を多量に含む

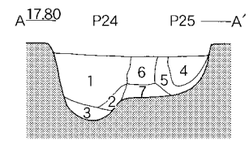


SB08(P19)
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含み、炭化粒子を僅かに含む
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒子とロームブロックを多量に含む



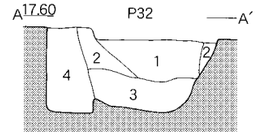
SB08(P22)
1　黒色土(10YR2/1)
ローム粒子(φ1～10)を多く含む
2　黒褐色土(10YR2/2)
ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
3　黄褐色土(10YR5/6)
ロームブロックを多く含む

SB08(P23)
1　黒褐色土(10YR3/1)
ローム粒子(φ1～2)を微量に含む
2　褐色土(10YR4/4)
ローム粒子(φ1～10)を多く含む
3　黒褐色土(10YR3/2)
ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
4　黄褐色土(10YR5/6)
ロームブロックを多く含む
5　黒褐色土(10YR2/2)
ローム粒子(φ1)を僅かに含む

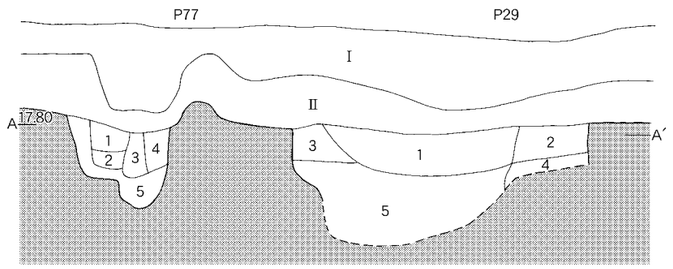


SB08(P24)
1　黒褐色土(10YR3/1)
ローム粒子(φ1～2)を多く含み、
炭化粒子を僅かに含む
2　黒色土(10YR2/1)
ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
3　暗褐色土(10YR3/3)
ローム粒子(φ1～2)を多量に含む

SB08(P25)
4　黒褐色土(10YR3/1)
ローム粒子(φ1～2)を多く含み、炭化粒子
を僅かに含む
5　暗褐色土(10YR3/3)
ローム粒子(φ1～2)を多量に含む
6　褐色土(10YR4/4)
ローム粒子(φ1～5)を多く含む
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)
ローム粒子とロームブロックを多量に含む



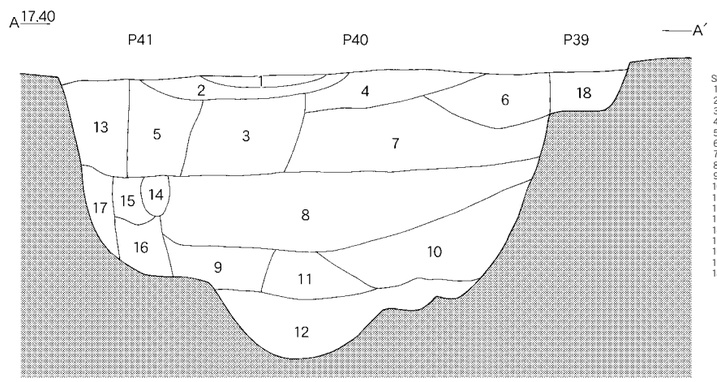
SB08(P32)
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を多量に含む
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
3　灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子(φ1～5)を多く含む
4　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
5　暗黄褐色土(10YR7/0) 黒色粒子を多量に含む
粒子が粗い



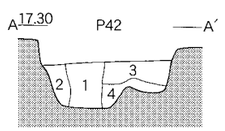
SB08(P29)(P103)
Ⅰ　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
Ⅱ　黒褐色土・暗褐色土(10YR3/3)
ローム粒子(φ1)を多く含む

SB08(P29)
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
2　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1)を微量に含む
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を微量に含む
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む

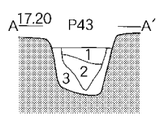
SB08(P103)
1　黄橙色土(10YR7/8)　ロームブロックを多量に含む
2　灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子(φ1)を多く含む
3　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
4　明黄褐色土(10YR6/8) ローム粒子(φ1～2)を多量に含む
5　暗褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1)を微量に含む



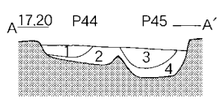
SB08(P41)・(P40)・(P39)
1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子を僅かに含みしまりがある
2　黄橙色土(10YR2/1)　ロームブロックを多く含み粒子が粗い
3　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックを多く含みしまりがややある
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
5　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを多く含む
6　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～7)を多く含みしまりがある
7　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックを多量に含む
8　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックを多量に含む
9　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを僅かに含む
10 黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多量に含む
11 黄橙色土(10YR7/8)　ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
12 にぶい黄橙色土(10YR7/4)ロームブロックを多量に含み粒子が粗い
13 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含みしまりがある
14 黄橙色土(10YR8/6)　ロームブロックを含む
15 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
16 黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを僅かに含みしまりがある
17 黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含みしまりがある
18 黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多く含む



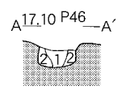
SB08(P42)
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含み、
炭化粒子を僅かに含む
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～2)を多量に含む
4　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む



SB08(P43)
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含み、
炭化粒子を僅かに含む
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～2)を多量に含む



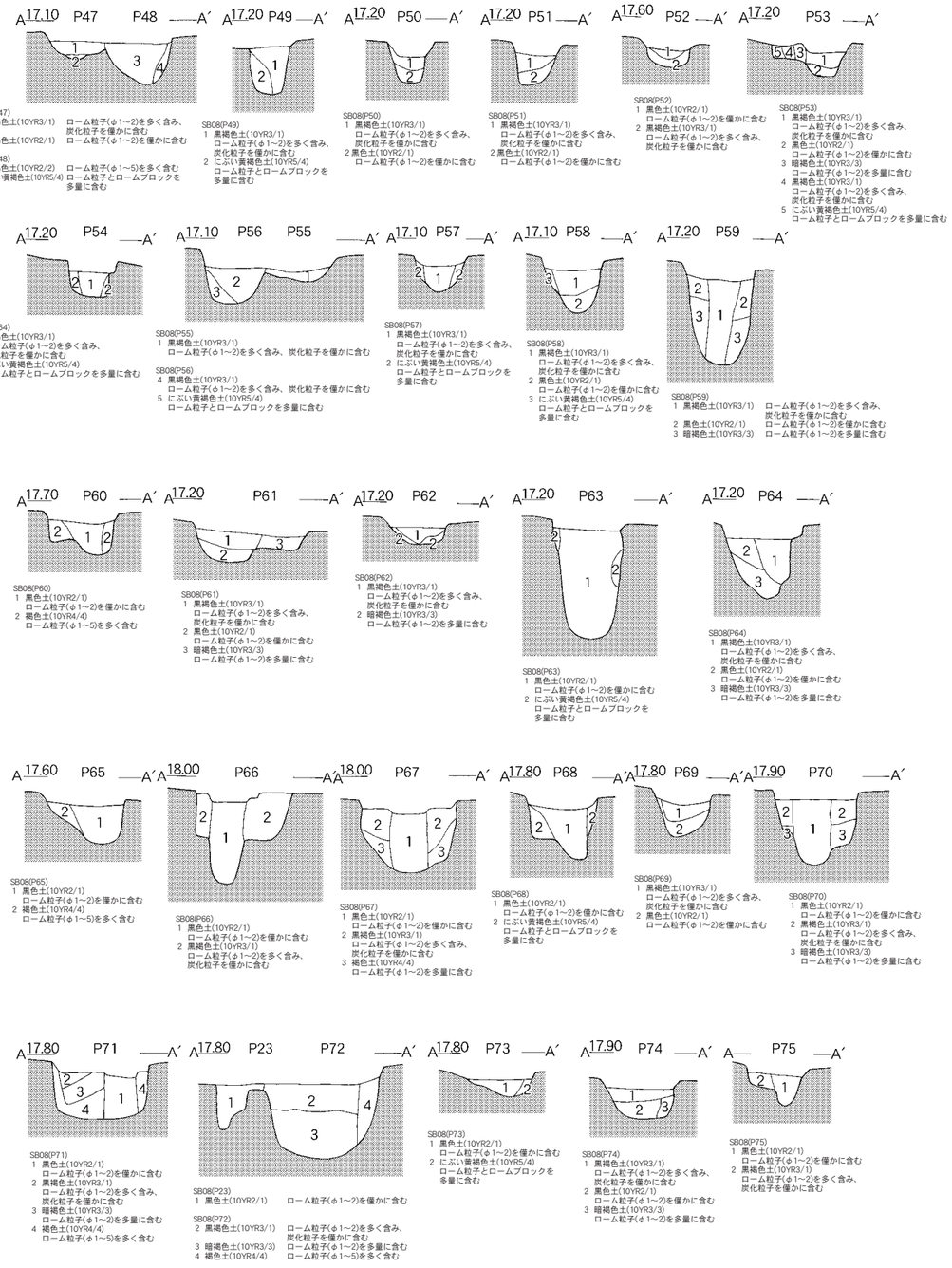
SB08(P44)
1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含み、
炭化粒子を僅かに含む
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)を僅かに含む
SB08(P45)
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム粒子とロームブロックを
多量に含む



SB08(P46)
1　黒褐色土(10YR3/1)
ローム粒子(φ1～2)を多く含み、
炭化粒子を僅かに含む
2　暗褐色土(10YR3/3)
ローム粒子(φ1～2)を多量に含む

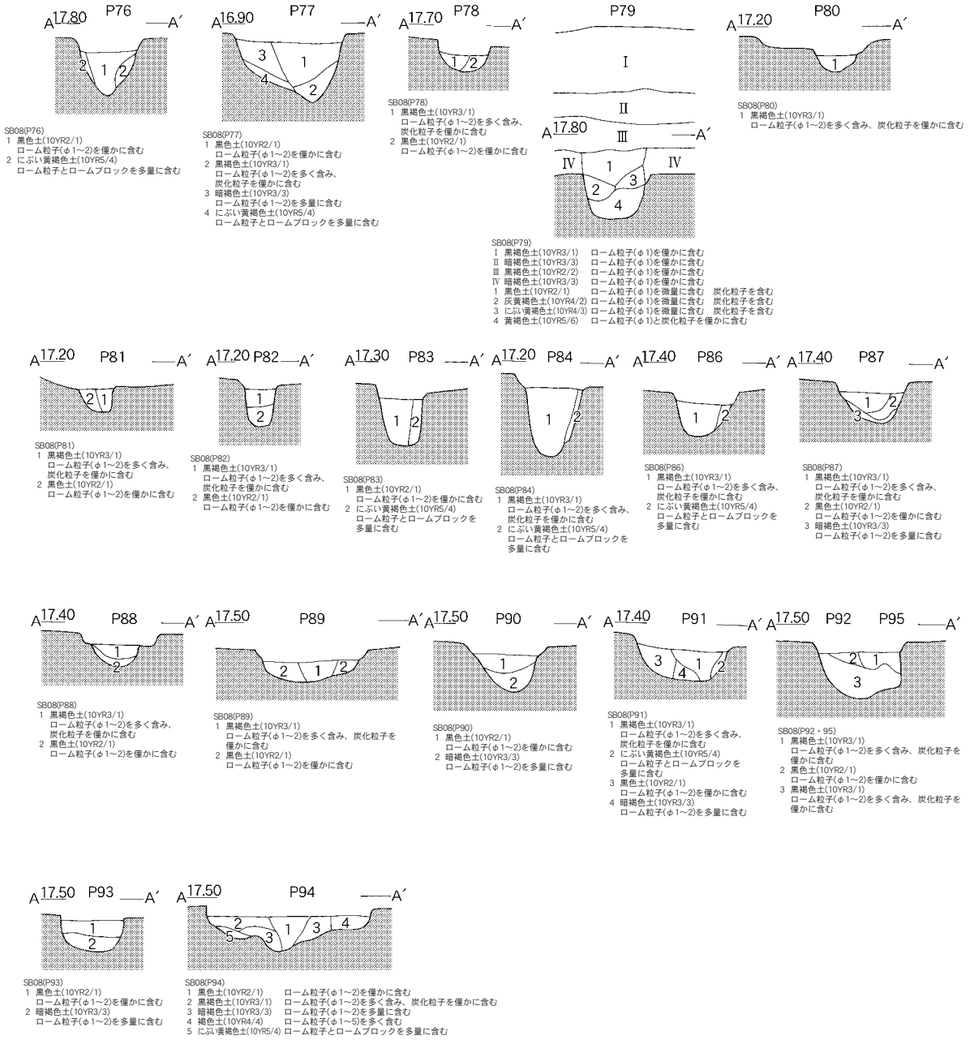
第23図　8号建物跡(SB08)柱穴断面(4)

0　1m
(1/30)



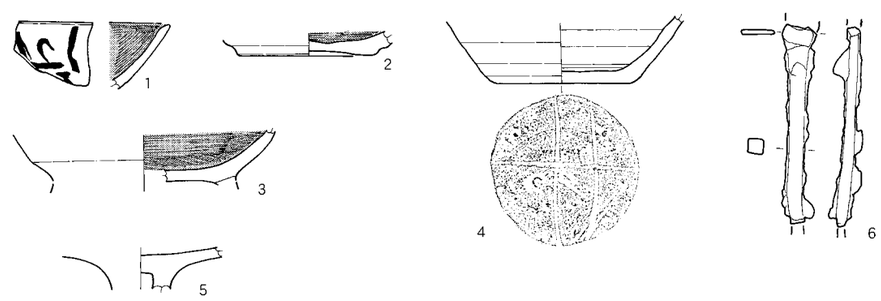
第24図　8号建物跡(SB08)柱穴断面(5)

0　1m
(1/30)



第25図　8号建物跡(SB08)柱穴断面(6)

0　1m
(1/30)



第26図　8号建物跡(SB08)出土遺物

0　10cm
(1/3)

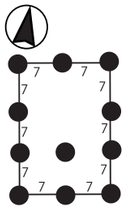
（４）９号建物跡（SB09）

位　　置　本建物跡は，調査区の北東端の位置で検出されている（第４図）。

形　　式　掘立柱建物である。

規　　模　建物は，桁行6.3m，梁行4.2m（第27図）。柱掘方は円形および方形を呈し，大きさは0.3m～1.05mである（第６表）。主軸方位はN-35°-W。

構　　造　桁行3間，梁行2間の側柱建物である。桁行・梁行ともに柱間は2.1m（７尺）等間。柱痕跡の大きさは直径0.15～0.2mである。Ｐ１～P16の深さの最大深度は0.1～0.7mであり，北西側のＰ１とＰ２，南西隅のＰ８，P12の掘削深度が他の柱穴よりも深い。柱穴の深さが一定していないことから，柱材には長さの揃った規格材を利用していなかったとみられる。



SB09 模式図

造営過程　南西隅のＰ８・P12については柱の立て替えが行われている。

廃絶過程　柱痕跡が明瞭に残されていることから，柱の抜き取り等は行われていない。

造営時期　SB07やSB04，SB08，SB12と主軸は異なるが，同時期の可能性を想定しておきたい。

遺　　物　なし。

第６表　SB09柱穴属性一覧

柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)	柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)
P1	0.80	0.75	0.70	0.20	P9	0.65	0.30	0.30	—
P2	0.70	0.65	0.50	0.15	P10	0.35	0.65	0.25	—
P3	0.95	0.60	0.20	—	P11	0.70	1.30	0.3～0.5	0.16
P4	0.60	1.05	0.3～0.5	—	P12	0.45	0.50	0.40	—
P5	1.45	0.85	0.25～0.4	—	P13	0.45	0.35	0.25	—
P6	0.60	0.90	0.1～0.18	—	P14	0.75	0.80	0.50	—
P7	0.75	0.95	0.15～0.35	—	P15	0.50	0.45	0.15～0.25	0.15
P8	0.70	0.85	0.35～0.45	0.15	P16	0.20	0.25	0.30	—

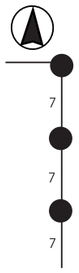
（５）12号建物跡（SB12）

位　　置　本建物跡は，調査区の南西端の位置で検出されている。

形　　式　掘立柱建物である。

規　　模　建物は，南北4.2m以上。東西2.1m以上。柱掘方は円形・隅丸方形を呈し，直径（一辺）が0.45m～0.65mである（第７表）。主軸方位はN-1°-E。

構　　造　部分的にしか調査が行われていないため，桁行，梁行ともに柱間の数や建物構造は不明である。現状では柱穴が３基（２間分）確認されており，その柱間は2.1m（７尺）等間である（第30図）。柱痕跡の大きさは直径0.25～0.3mである。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４の深さの最大深度は0.4～0.7mであり，南側のＰ４の掘削深度が他の2基の柱穴よりも浅い。柱穴の深さが一定していないことから，柱材には長さの揃った規格材を利用していなかった可能性がある。



SB12 模式図

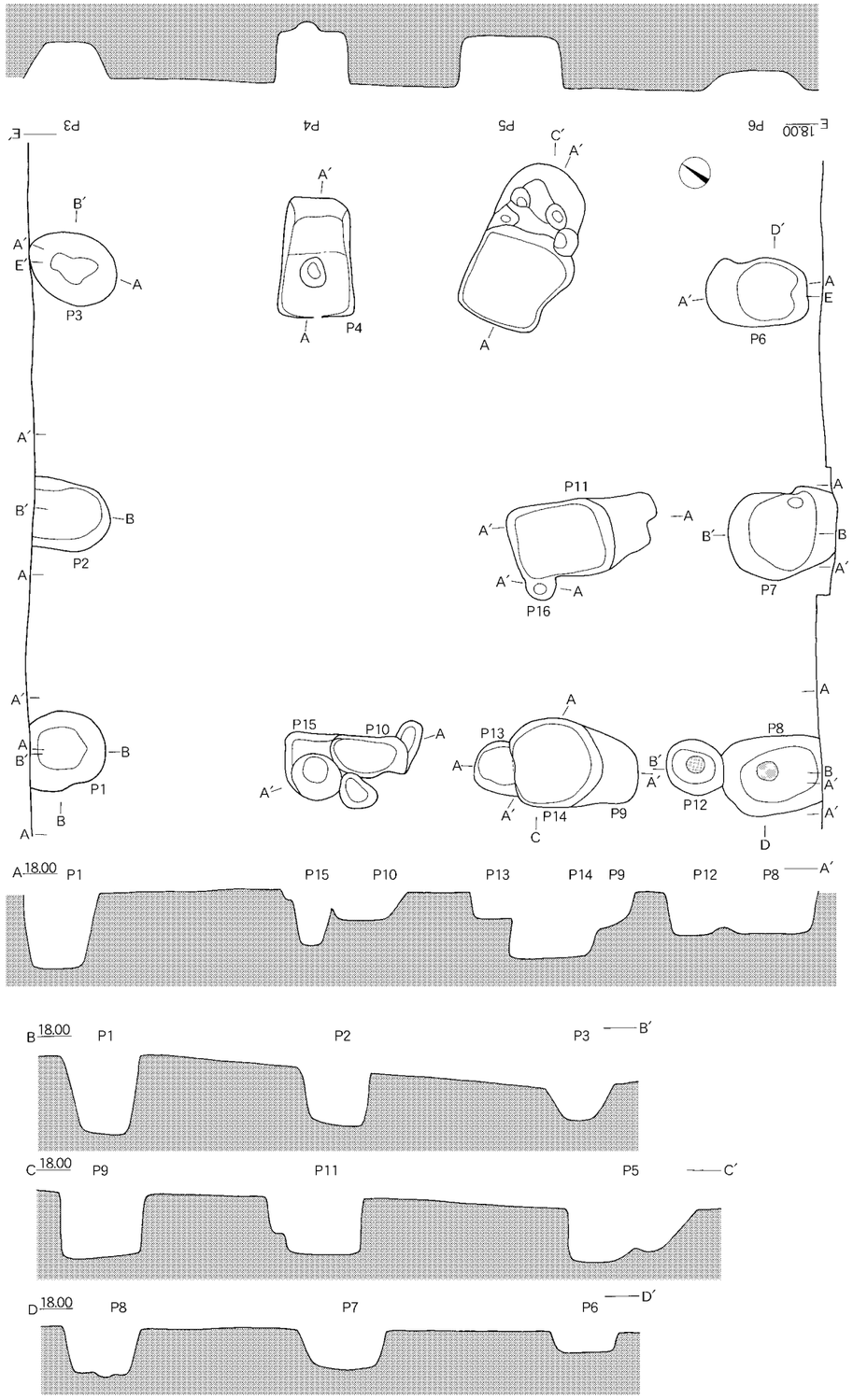
廃絶過程　柱痕跡が明瞭に残されていることから，柱の抜き取り等は行われていない。

造営時期　SB08やSB04と主軸方向が一致することから，同時期の可能性が高い。

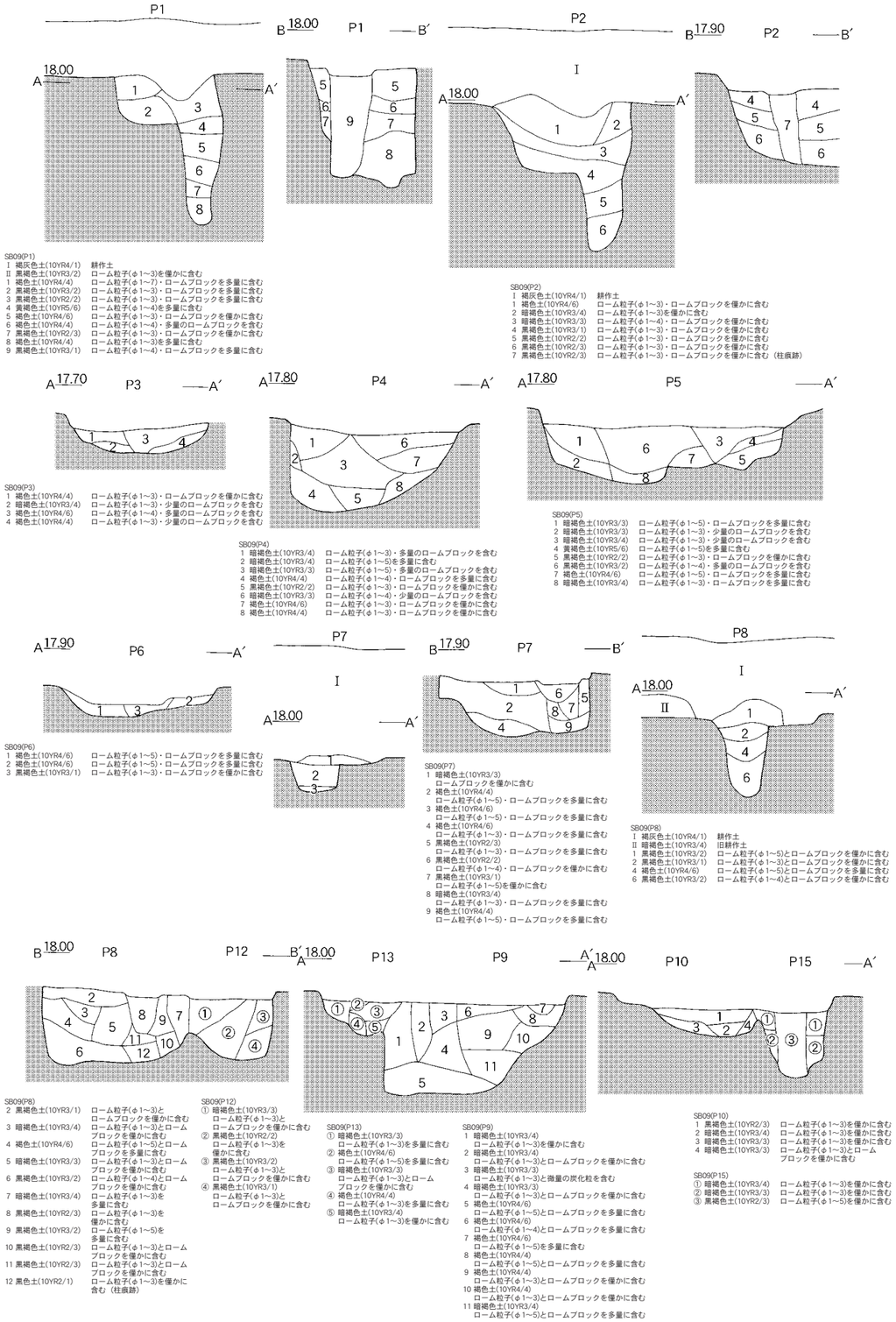
遺　　物　なし。

第７表　SB12柱穴属性一覧

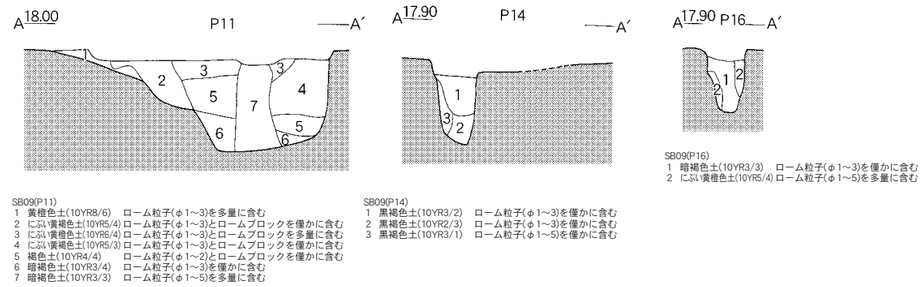
柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)
P1	0.60	0.65	0.70	0.30
P2	0.65	0.65	0.40	—
P3	0.50	0.50	0.5～0.7	0.25
P4	0.45	0.50	0.40	0.22
P5	0.35	0.35	0.15	—



第27図　9号建物跡(SB09)実測図



第28図　9号建物跡(SB09)柱穴断面(1)



第29図　9号建物跡(SB09)柱穴断面(2)

（６）２号竪穴建物跡（SI02）

位　　置　調査区北端の東よりの位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された（第４図）。

規模・構造　東西軸3.2m，南北軸0.8m以上である。遺構確認面から床面までの深さは0.9mであるが，壁の直下には周溝が認められなかった。出入り口ピットや支柱穴については調査区外に延びているものとみられる（第31図）。床面は全体的に平坦である。主軸方向はN-０°-Wを指す。

覆　　土　８層に分層され，自然堆積の様相を示している。

遺　　物　土師器の甕１点，須恵器坏１点が出土している（第32図）。

造営時期　出土遺物から９世紀１四半期とみられる。

（７）３号竪穴建物跡（SI03）

位　　置　調査区南端の東よりの位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された（第４図）。

規模・構造　東西軸4.2m，南北軸3.6mである。遺構確認面から床面までの深さは0.4mである。壁の直下には壁の直下には幅0.2～0.4m，深さ0.1mの周溝が途切れることなく巡っている。出入り口ピットや柱穴は確認されなかった。また，カマドについては，SD02に切られているため，残存していないものとみられる（第33図）。床面は全体的に平坦である。主軸方向はN-０°-Wを指す。

覆　　土　５層に分層され，自然堆積の様相を示している。

遺　　物　土師器甕１点，須恵器無台坏４点，須恵器坏蓋１点，須恵器甕１点，平瓦１点，丸瓦１点，鉄製鎌２点，鉄製刀子１点，不明鉄製品１点が出土している（第34図）。

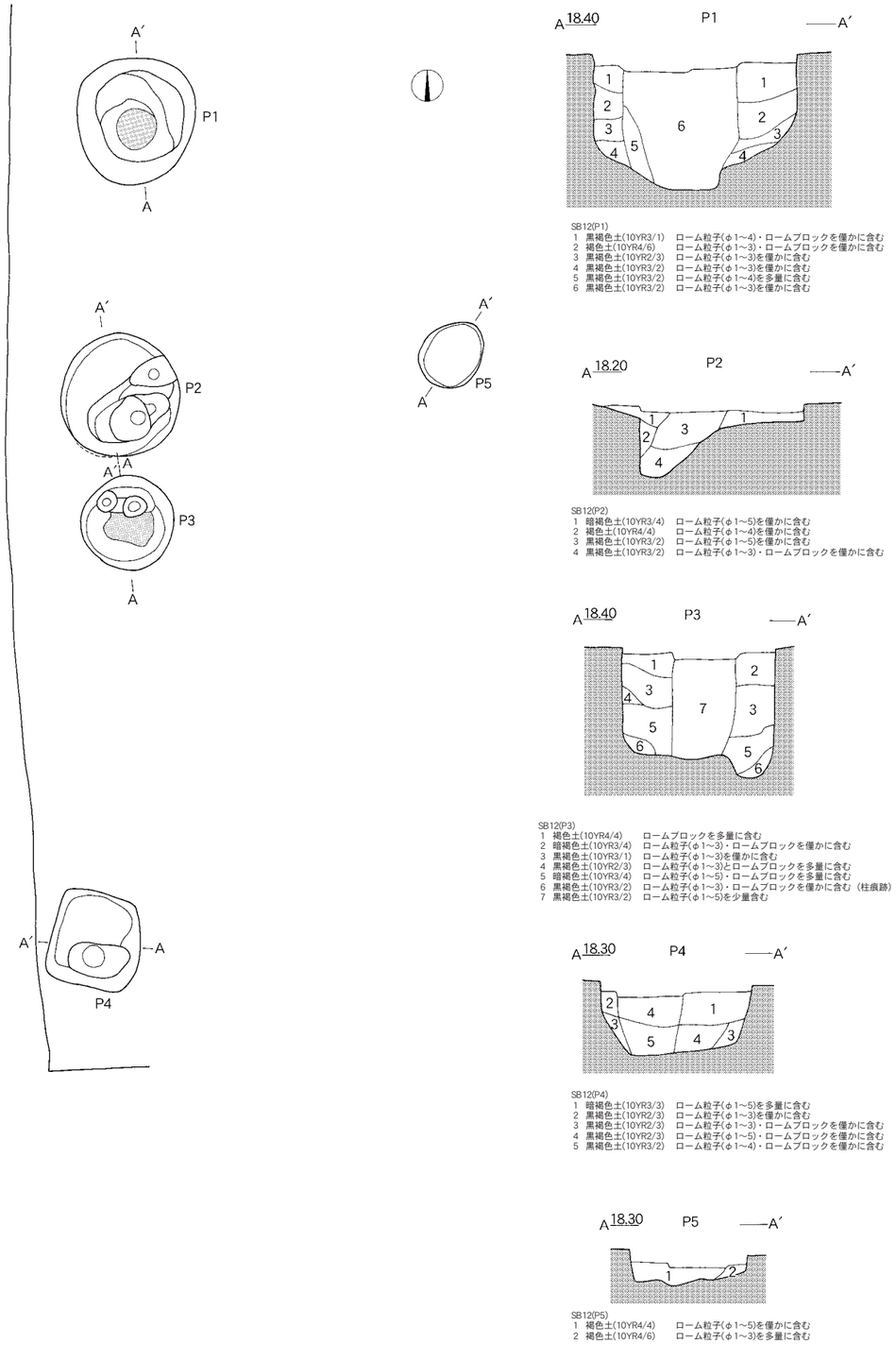
造営時期　出土遺物から８世紀１四半期とみられる。

（８）１号溝跡（SD01）

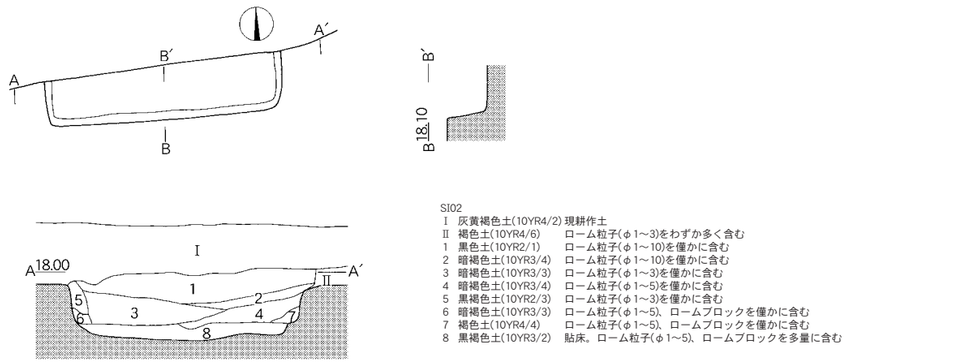
位　　置　調査区の西側のやや東に寄った位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SB08の東へ5.0mの位置である（第４図）。

規模・構造　長さ43.8m，上面幅2.6～3.2m，底面幅0.3～0.4mで，断面はV字状を呈する。遺構確認面から底面までの深さは1.5～1.6mである。主軸方向はN-０°-Wを指し，南側ではやや南西方向に傾いていることから（第35図），SB08やSB12を囲繞する溝の可能性が高い。

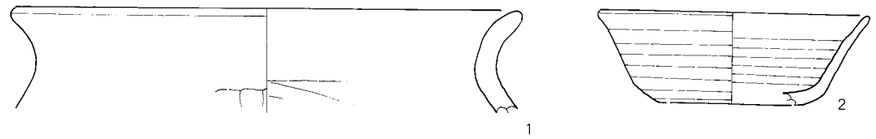
覆　　土　部分によって異なるが，12～21層に分層され，人為堆積の様相を示している。土層セクションのD-D



第30図　12号建物跡(SB12)実測図　0 1m (1/30)



第31図　２号竪穴建物跡(SI02)実測図　0 2m (1/80)



第32図　２号竪穴建物跡(SI02)出土遺物

‘部分では覆土中に硬化面が検出されており，土橋状に機能していた可能性がある。

遺　　物　三重弧文軒平瓦１点，平瓦７点（うち墨書瓦１点），丸瓦１点，須恵器坏蓋１点，須恵器甕１点，土玉1点が出土している（第36・37図）。

造営時期　SB08やSB12と主軸方向が一致するとともに，これらの建物を囲繞している可能性が高いことから，８世紀第２四半期頃に造営されたとみられる。

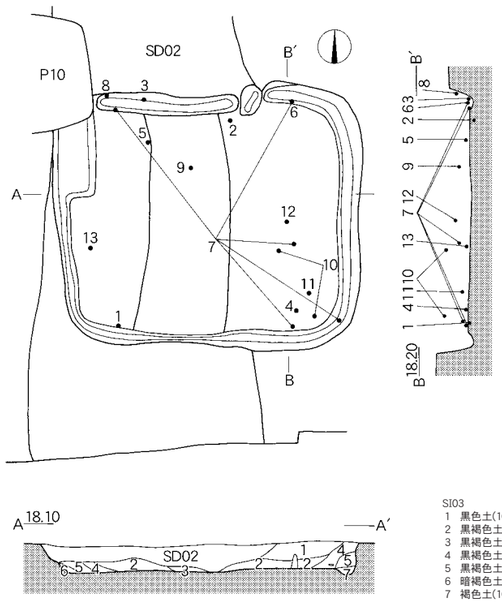
廃絶過程　人為的に埋め戻されており，９世紀第２四半期頃の須恵器が出土していることから，９世紀第２四半期には廃絶しているとみられる。

（９）３号溝跡（SD03）

位　　置　調査区の東側にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SB04の東へ約7.5mの位置である（第４図）。

規模・構造　長さ46.0m，上面幅3.0～4.0m，底面幅0.3～0.5mである。遺構確認面から底面までの深さは1.8～2.1mである（第38・39図）。主軸方向はN-０°-Wを指し，覆土上層から中層にかけて穎稲や穀稲の炭化米が含まれていること，SB09や水戸市教育委員会が実施した保存目的の確認調査で本溝の南東より検出された，礎石建物SB01～SB03を囲繞する溝と考えられる。

覆　　土　部分によって異なるが，17～26層に分層され，人為堆積の様相を示している。



第33図　3号竪穴建物跡(SI03)実測図

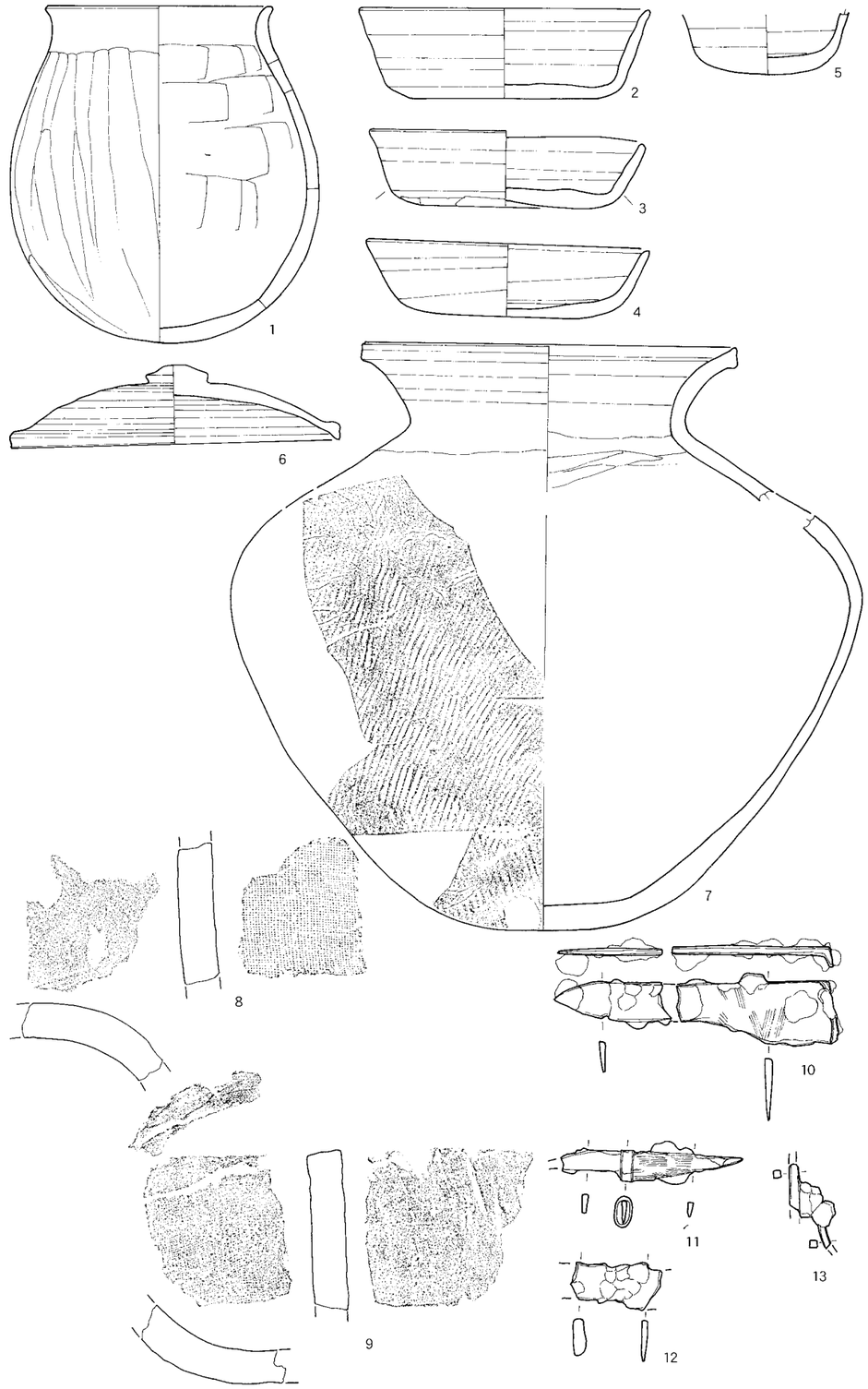
0　2m
(1/80)

遺　　物　自然遺物として，覆土上層から中層にかけて炭化米が出土しており，頴稲のブロックを原状のままで取り上げることに成功した。人工遺物としては，丸瓦９点，平瓦23点（うち文字瓦１点），須恵器有台坏２点，須恵器坏蓋２点，須恵器瓶類１点，土師器甕１点，土玉１点が出土している（第40～43図）。

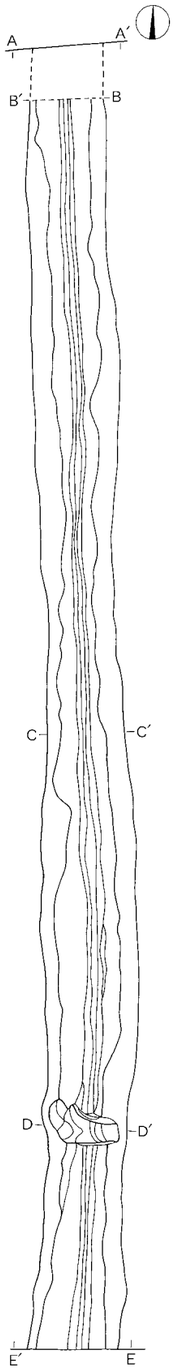
造営時期　SB04やSB12と主軸方向が一致するとともに，SB09や水戸市教育委員会が実施した保存目的の確認調査で本溝の南東より検出された，礎石建物SB01～SB03を囲繞していると考えられることから，８世紀第２四半期頃に造営されたとみられる。

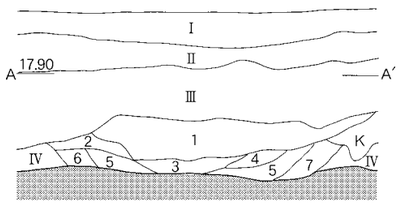
廃絶過程　人為的に埋め戻されており，９世紀第２四半期頃の須恵器が出土していることから，９世紀第２四半期には廃絶しているとみられる。

（小川・川口・木本）

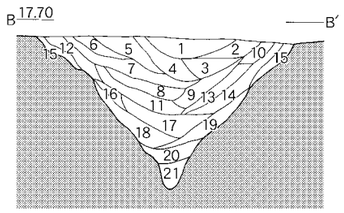


第34図　3号竪穴建物跡(SI03)出土遺物

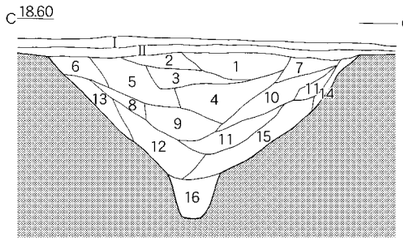




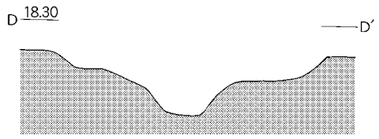
SD01(a-a)
Ⅰ　灰褐色土(10YR4/1)　耕作土
Ⅱ　にぶい黄褐色土(10YR5/4) 耕作土(埋め戻し土層)
Ⅲ　灰黄褐色土(10YR4/2) 旧耕作土
Ⅳ　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1)を多く含む
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～10)・ロームブロックを多く含む
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～10)・ロームブロックを多く含む
4　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～10)・ロームブロックを僅かに含む
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1)を多く、ロームブロックを僅かに含む
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く、ロームブロックを僅かに含む
7　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～10)を僅かに含む

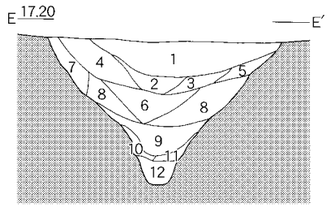


SD01(b-b)
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
2　暗褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)・ロームブロックを多く含む
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～10)・ロームブロックを僅かに含む
4　暗褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)・ロームブロックを多く含む
5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1)を多く含む
6　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～10)を多量に含む
7　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～10)・ロームブロックを僅かに含む
8　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～5)・ロームブロックを多量に含む
9　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～10)を多く、ロームブロックを僅かに含む
10 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)・ロームブロックを僅かに含む
11 褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～10)を多量に、炭化粒を僅かに含む
12 褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1)を多量に含む
13 黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～10)・ロームブロックを僅かに含む
14 褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1)・炭化粒を僅かに含む
15 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～10)を多量に、ロームブロックを僅かに含む
16 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～7)を多量に含む
17 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～10)・ロームブロックを僅かに含む
18 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～10)を多量に、ロームブロックを僅かに含む
19 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1)を多量に含む
20 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)・ロームブロックを僅かに含む
21 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～2)・ロームブロックを多く含む



SD01(c-c)
Ⅰ　灰褐色土(10YR4/1)　耕作土
Ⅱ　灰黄褐色土(10YR4/2) 旧耕作土
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1)・ロームブロックを僅かに含む
2　にぶい黄褐色土(10YR3/4) ローム粒子(φ1)・ロームブロックを僅かに含む
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
4　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～10)を多く、ロームブロックを僅かに含む
5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～10)を多く、ロームブロックを僅かに含む
6　暗褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを僅かに含む
7　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを僅かに含む
8　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
9　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを僅かに含む
10 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを多量に含む
11 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを僅かに含む
12 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
13 暗褐色土(10YR4/2)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを僅かに含む
14 褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
15 暗褐色土(10YR4/2)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを僅かに含む
16 黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～7)を多く含む

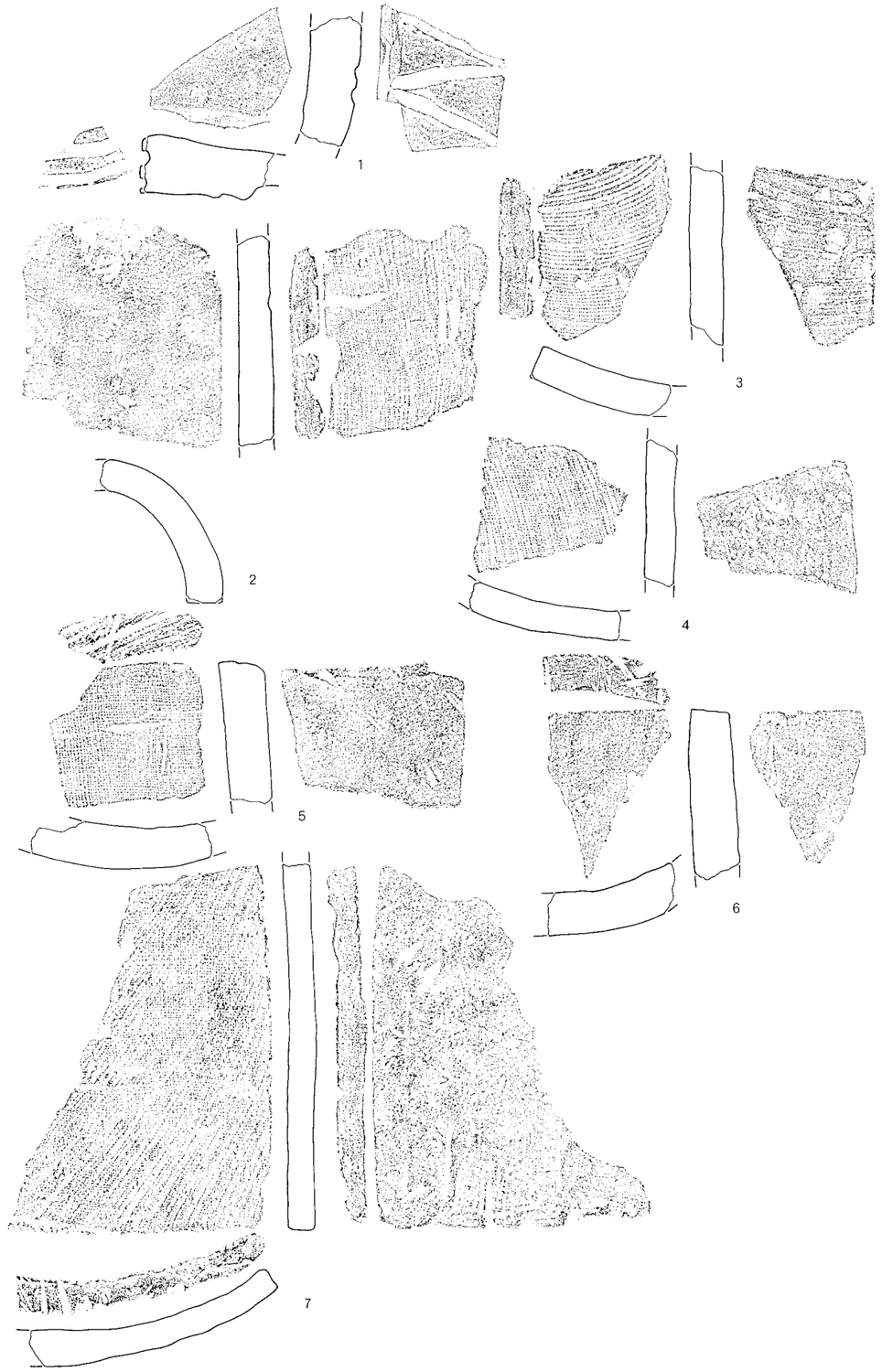




SD01(e-e)
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)、ロームブロックを僅かに含む
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1)・ロームブロックを僅かに含む
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1)を多量に含む
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1)・ロームブロックを僅かに含む
5　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を多く含む
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く、ロームブロックを僅かに含む
7　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を多く含む
8　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
9　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く、ロームブロックを僅かに含む
10 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを多量に含む
11 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～10)、ロームブロックを多く含む
12 褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～10)(φ1)を僅かに含む

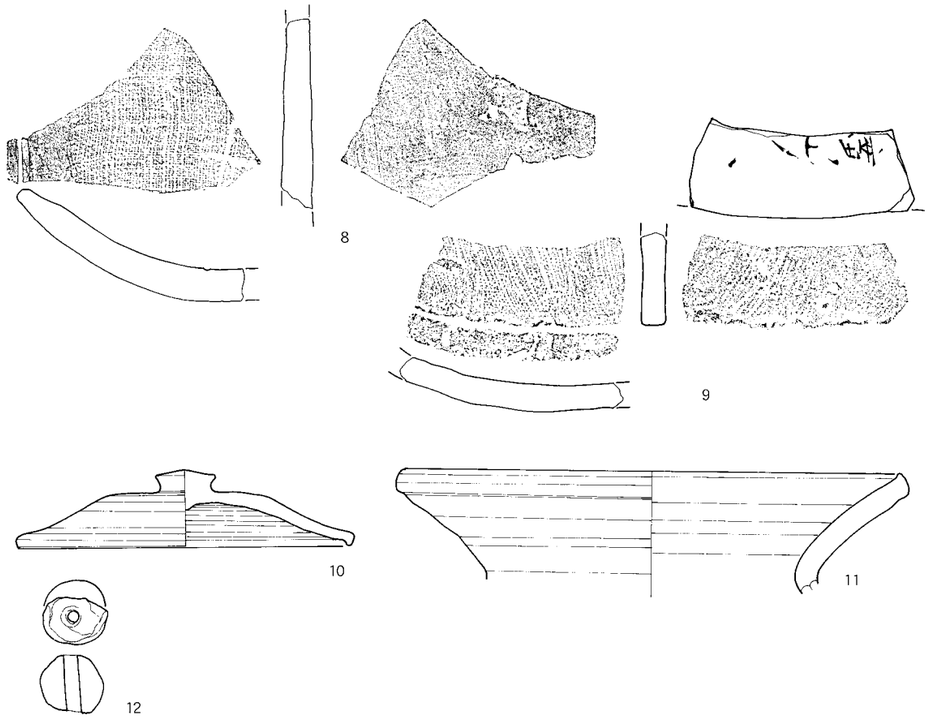
第35図　1号溝跡(SD01)実測図

0　2m
(1/60)



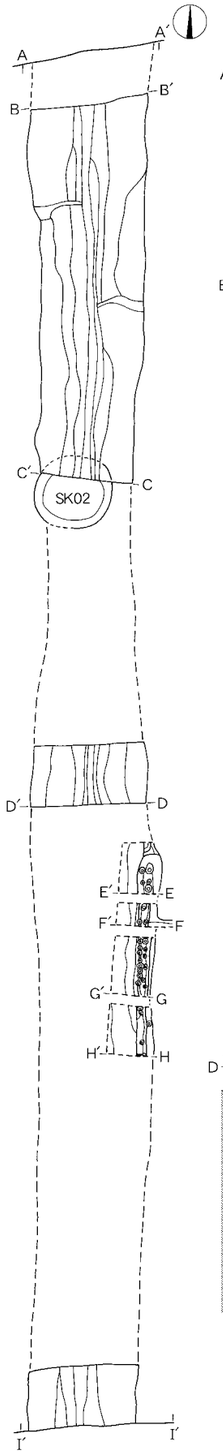
第36図　1号溝跡(SD01)出土遺物(1)

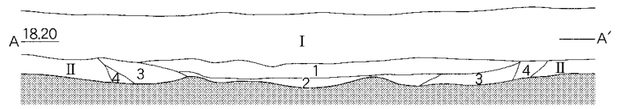
0　10cm
(1/3)



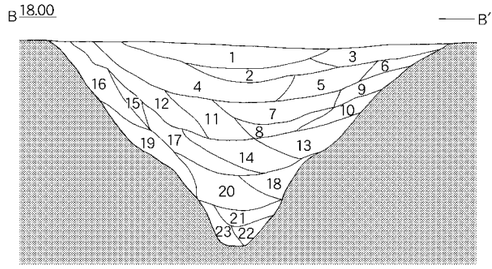
第37図　１号溝跡(SD01)出土遺物(2)

0　10cm
(1/3)

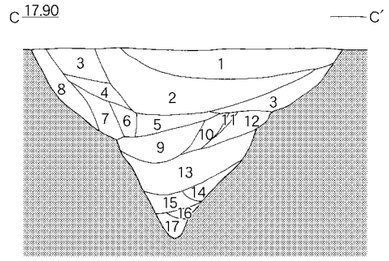




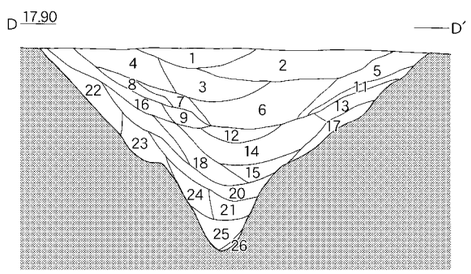
SD03(a-a)
Ⅰ　暗褐色土(10YR3/1)
Ⅱ　褐色土(10YR6/12)
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
3　黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
4　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む



SD03(b-b)
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
4　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～5)を僅かに含む
5　暗褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
6　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
7　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
8　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
10　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
11　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
12　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～7)を多く含む
13　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
14　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを多く含む
15　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
16　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
17　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
18　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
19　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
20　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含みローム ブロックを僅かに含む
21　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
22　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
23　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む



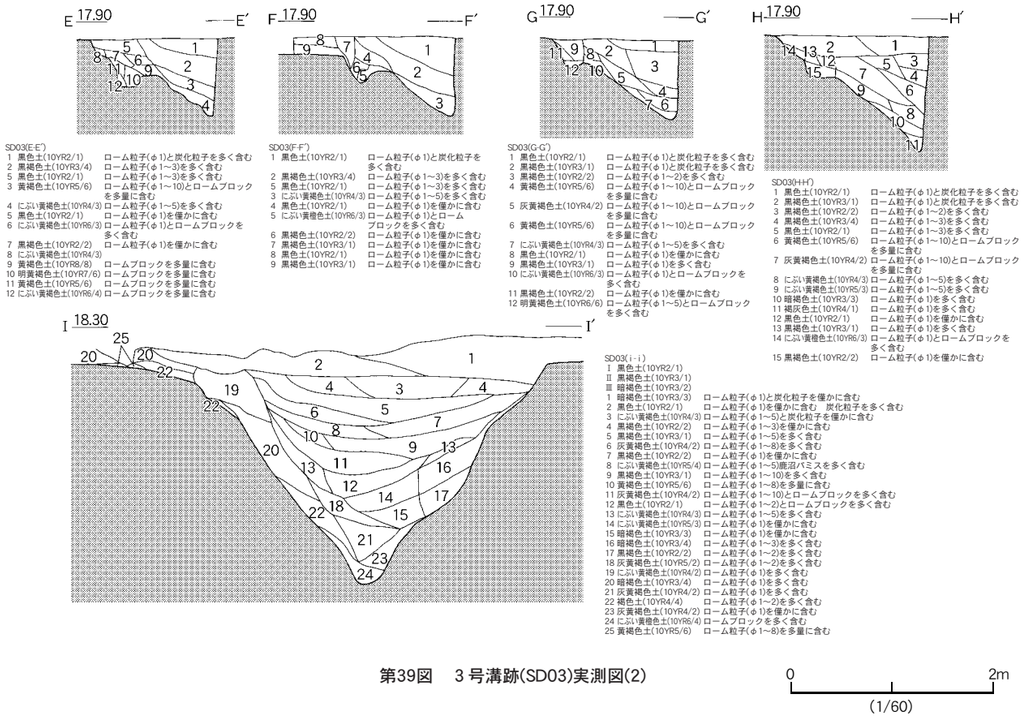
SD03(c-c)
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1)とローム ブロックを僅かに含む
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
6　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
7　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1)を多く含む
8　にぶい黄褐色土(10YR6/4)　ローム粒子(φ1)を多く含む
9　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含みローム ブロックを僅かに含む
10　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含みローム ブロックを僅かに含む
11　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を多く含む
12　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
13　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
14　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
15　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
16　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
17　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～10)を多く含みローム ブロックを僅かに含む



SD03(d-d)
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
2　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを僅かに含む
3　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを僅かに含む
4　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを多く含む
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1)を多く含む
6　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子(φ1～10)を多く含みローム ブロックを僅かに含む
7　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～10)を多く含みローム ブロックを僅かに含む
8　黄橙色土(10YR8/6)　ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを多量に含む
9　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを多量に含む
10　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～10)を多く含みローム ブロックを僅かに含む
11　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
12　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
13　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を多く含む
14　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
15　黄褐色土(10YR5/8)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
16　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～5)を多く含みローム ブロックを僅かに含む
17　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1)を多く含む
18　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
19　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
20　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
21　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
22　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
23　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子(φ1)を多く含む
24　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
25　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子(φ1)を多く含む
26　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～5)とローム ブロックを多く含む

第38図　３号溝跡(SD03)実測図(1)

0　2m
(1/60)



SD03(E-E′)
1 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)と炭化粒子を多く含む
2 黒褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
5 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
3 黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを多量に含む
4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子(φ1～5)を多く含む
5 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
6 にぶい黄褐色土(10YR6/3) ローム粒子(φ1)とローム ブロックを多く含む
7 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
8 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
9 黄褐色土(10YR8/8)　ローム ブロックを多量に含む
10 明黄褐色土(10YR7/6)　ローム ブロックを多量に含む
11 黄褐色土(10YR5/6)　ローム ブロックを多量に含む
12 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム ブロックを多量に含む

SD03(F-F′)
1 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)と炭化粒子を多く含む
2 黒褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
5 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子(φ1～5)を多く含む
4 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
5 にぶい黄橙色土(10YR6/3) ローム粒子(φ1)とローム ブロックを多く含む
6 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
7 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
8 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
9 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む

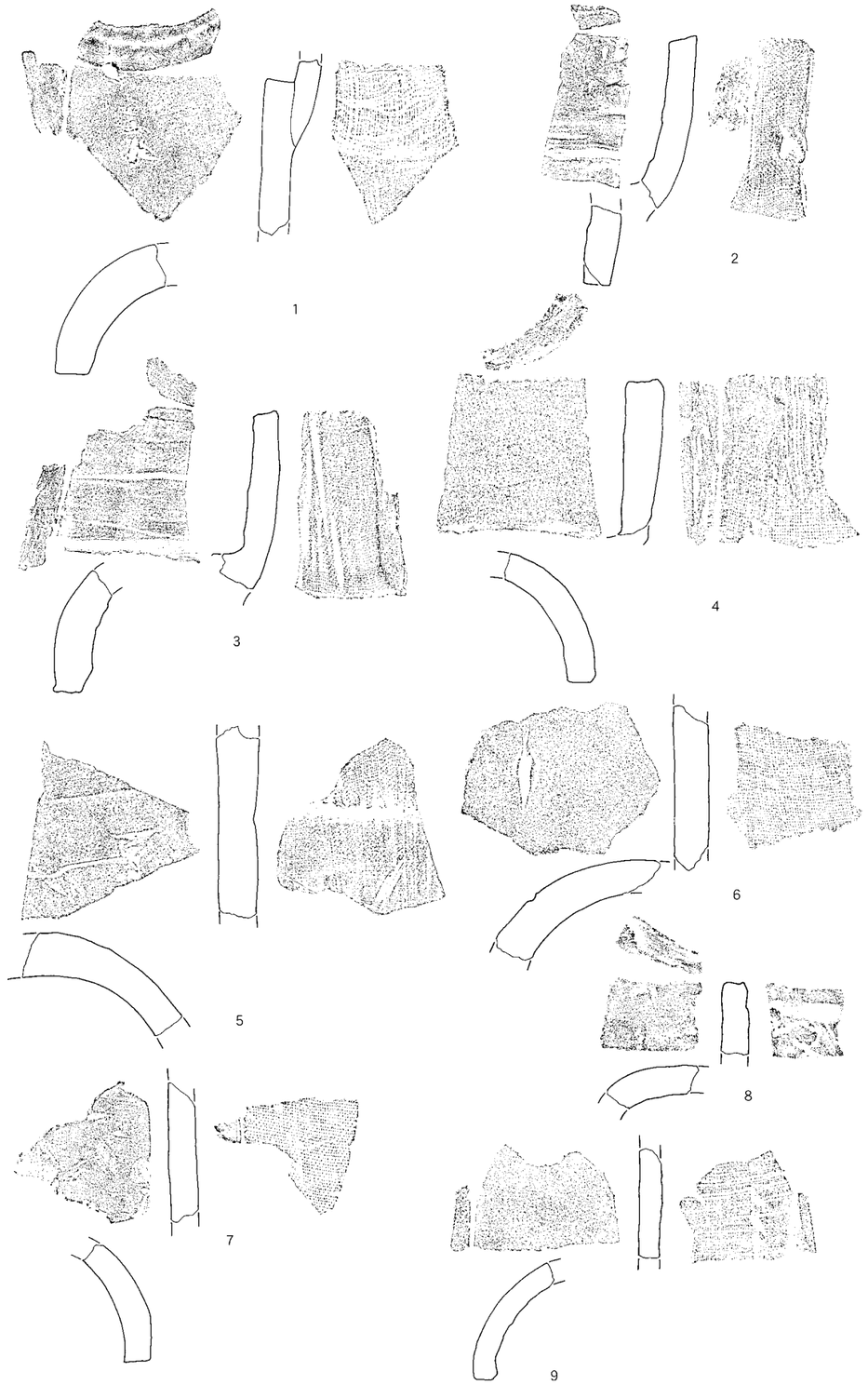
SD03(G-G′)
1 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)と炭化粒子を多く含む
2 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)と炭化粒子を多く含む
3 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
4 黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを多量に含む
5 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを多量に含む
6 黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを多量に含む
7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子(φ1～5)を多く含む
8 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
9 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を多く含む
10 にぶい黄褐色土(10YR6/3) ローム粒子(φ1)とローム ブロックを多く含む
11 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
12 明黄褐色土(10YR6/6) ローム粒子(φ1～5)とローム ブロックを多く含む

SD03(H-H′)
1 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)と炭化粒子を多く含む
2 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)と炭化粒子を多く含む
3 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
4 黒褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
5 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
6 黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを多量に含む
7 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを多量に含む
8 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子(φ1～5)を多く含む
9 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒子(φ1～5)を多く含む
10 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を多く含む
11 褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子(φ1)を多く含む
12 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
13 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1)を多く含む
14 にぶい黄橙色土(10YR6/3) ローム粒子(φ1)とローム ブロックを多く含む
15 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む

SD03(I-I′)
Ⅰ 黒色土(10YR2/1)
Ⅱ 黒褐色土(10YR3/1)
Ⅲ 暗褐色土(10YR3/2)
1 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)と炭化粒子を僅かに含む
2 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む　炭化粒子を多く含む
3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子(φ1～5)と炭化粒子を僅かに含む
4 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
5 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～5)を多く含む
6 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子(φ1～8)を多く含む
7 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
8 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒子(φ1～5)鹿沼パミスを多く含む
9 黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～10)を多く含む
10 黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～8)を多量に含む
11 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子(φ1～10)とローム ブロックを多く含む
12 黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～2)とローム ブロックを多く含む
13 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子(φ1～5)を多く含む
14 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒子(φ1)を僅かに含む
15 暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1)を僅かに含む
16 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～3)を多く含む
17 黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
18 灰黄褐色土(10YR5/2) ローム粒子(φ1～2)を多く含む
19 にぶい黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子(φ1)を多く含む
20 暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1)を多く含む
21 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子(φ1)を多く含む
22 褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～2)を多く含む
23 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子(φ1)を僅かに含む
24 にぶい黄橙色土(10YR6/4) ローム ブロックを多く含む
25 黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子(φ1～8)を多量に含む

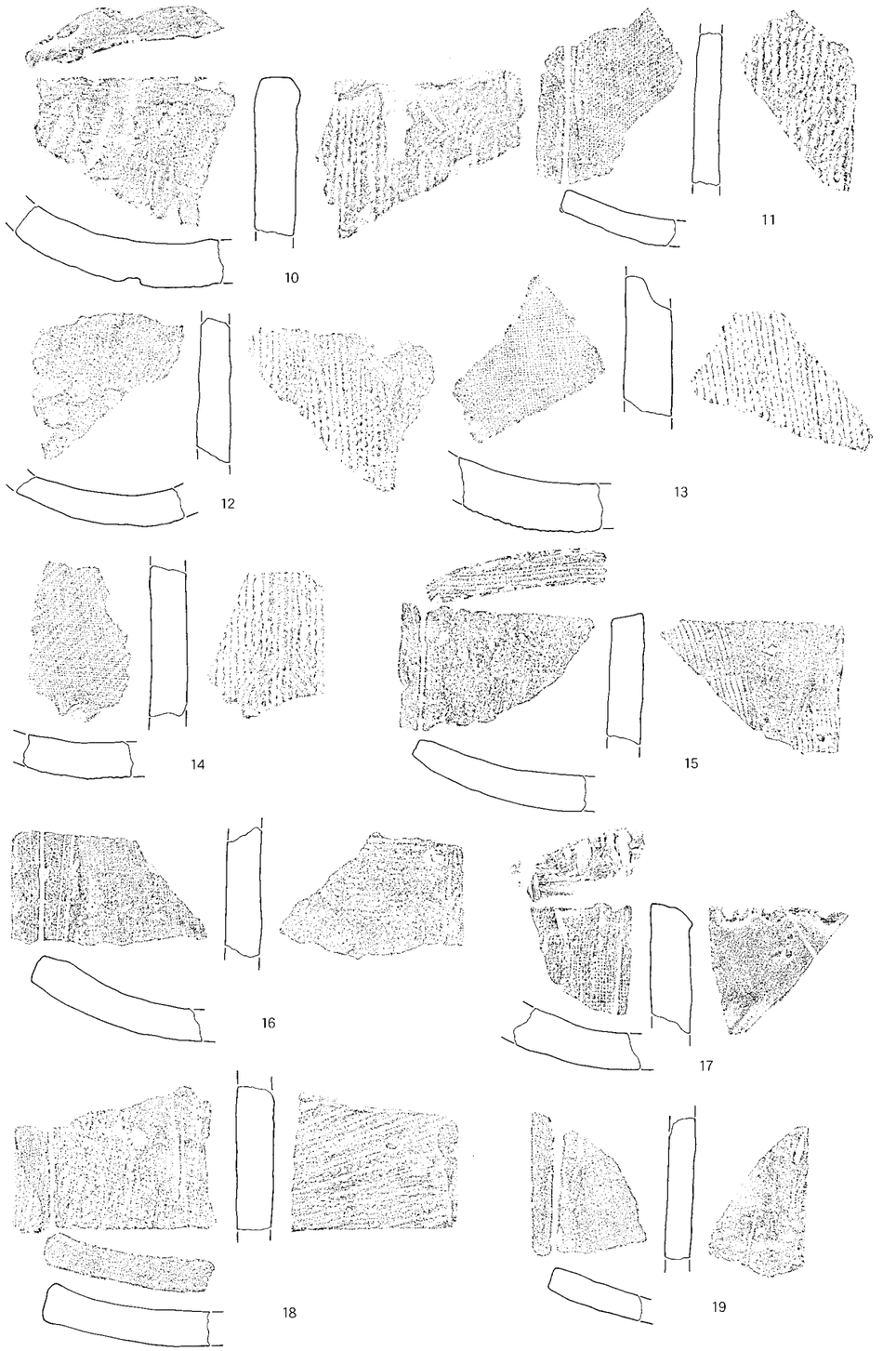
第39図　3号溝跡(SD03)実測図(2)

0　2m
(1/60)

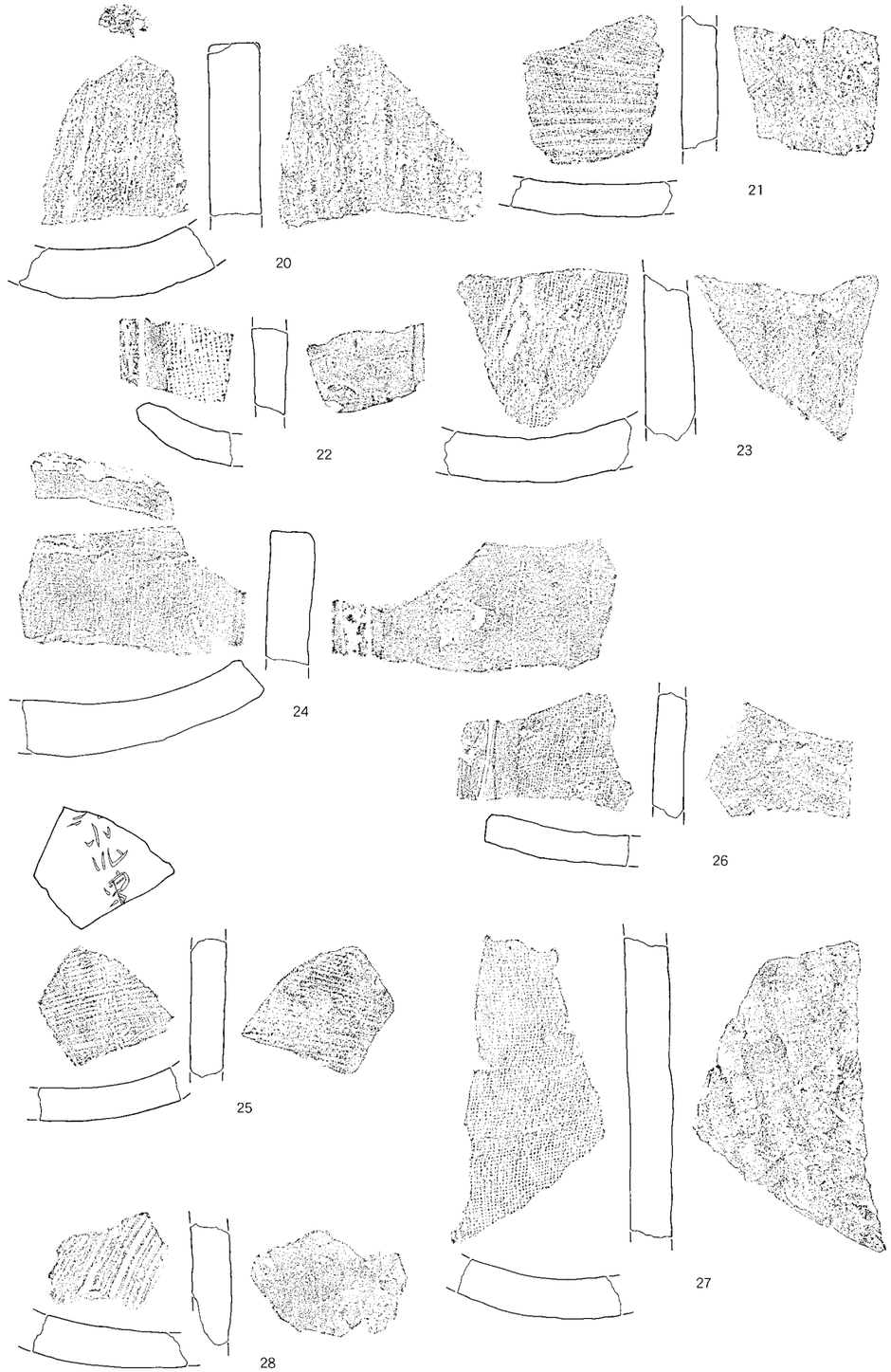


第40図　3号溝跡(SD03)出土遺物(1)

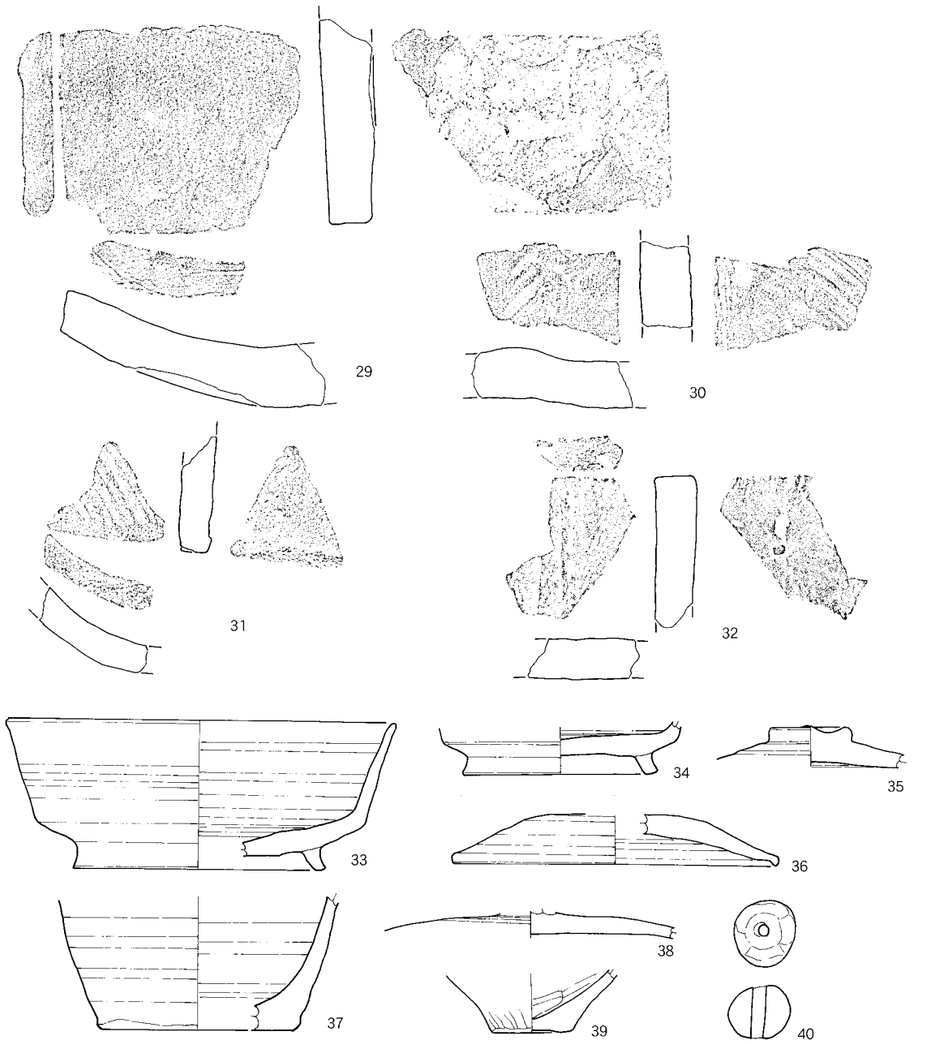
0　10cm
(1/3)



第41図　3号溝跡(SD03)出土遺物(2)　0　10cm　(1/3)



第42図　3号溝跡(SD03)出土遺物(3)　0　10cm　(1/3)



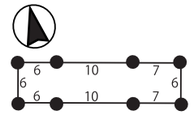
第43図　３号溝跡(SD03)出土遺物(4)

３－５　中世以降

中世以降に比定される遺構として，掘立柱建物跡４棟，溝跡３条，土坑13基が検出された。

（１）５号建物跡（SB05）

位　　置　本建物跡は，調査区の中央から西にかけての位置でSD01と重複して検出されている（第４図）。



SB05 模式図

形　　式　掘立柱建物である。

規　　模　建物は，桁行7.5m，梁行2.1m（第44図）。柱掘方は円形を呈し，直径が0.3m～0.8mである（第８表）。主軸方位はN-15°-E。

第８表　SB05柱穴属性一覧

柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)
P1	0.50	0.50	0.70	0.15
P2	0.30	0.35	—	—
P3	0.60	0.60	0.70	—
P4	0.45	0.45	0.70	0.20
P5	0.70	0.55	0.70	0.25
P6	0.70	0.75	0.80	0.15
P7	0.45	0.55	—	—
P8	0.75	0.60	0.65	0.15
P9	0.45	0.50	0.25	—

構　　造　SD01と切り合っており，SD01の覆土を掘り下げた時点でＰ２やＰ７が確認されたことから，中央の柱穴２基を確認できていないが，桁行４間，梁行１間の側柱建物と推定される（第44図）。桁行の柱間は７尺（2.1m）と６尺（1.8m），５尺（1.5m）で，梁行の柱間は７尺（2.1m）等間。柱痕跡の大きさは直径0.15～025mである。Ｐ１～Ｐ８の深さの最大深度は0.65～0.8mであり，柱穴の深さは一定していることから，柱材には長さの揃った規格材を利用したとみられる。

造営過程　SD01の埋没後に掘削されており，南西隅のＰ８と南東隅のＰ５・Ｐ９については立て替えが行われている。

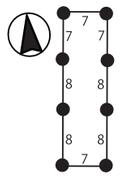
廃絶過程　柱痕跡が明瞭に残されていることから，柱の抜き取り等は行われていない。

造営時期　SD01の埋没後以降。

遺　　物　なし。

（２）６号建物跡（SB06）

位　　置　本建物跡は，調査区の中央から西にかけての位置で検出されている（第４図）。



SB06 模式図

形　　式　掘立柱建物である。

規　　模　建物は，桁行6.9m，梁行2.1m（第45図）。柱掘方は円形を呈し，直径が0.45m～0.7mである（第９表）。主軸方位はN-７°-E。

第９表　SB06柱穴属性一覧

柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)
P1	0.55	0.40	0.40	—
P2	0.45	0.55	0.75	0.10
P3	0.45	0.45	0.55	0.15
P4	0.55	0.55	0.65	0.25
P5	0.60	0.50	0.70	0.20
P6	0.50	0.65	0.60	0.20
P7	0.50	0.50	0.60	0.20
P8	0.50	0.50	0.25	0.15

構　　造　桁行３間，梁行１間の側柱建物である（第45図）。桁行の柱間は７尺（2.1m）と８尺（2.4m）で，梁行の柱間は７尺（2.1m）等間。柱痕跡の大きさは直径0.1～0.25mである。Ｐ１～Ｐ８の深さの最大深度は0.25～0.75mであり，北西側のＰ１とＰ８の掘削深度が他の柱穴よりも浅い。柱穴の深さが一定していないことから，柱材には長さの揃った規格材を利用していなかったとみられる。

廃絶過程　柱痕跡が明瞭に残されていることから，柱の抜き取り等は行われていない。

造営時期　SB05と主軸が近似していることから同時期の可能性が高い。

遺　　物　なし。

SB05(P1)
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～4)とロームブロックを僅かに含む
2　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む

SB05(P3)
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～5)とロームブロックを多量に含む
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～3)を多量に含む
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～4)を多量に含む
6　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む(柱痕跡)
7　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む

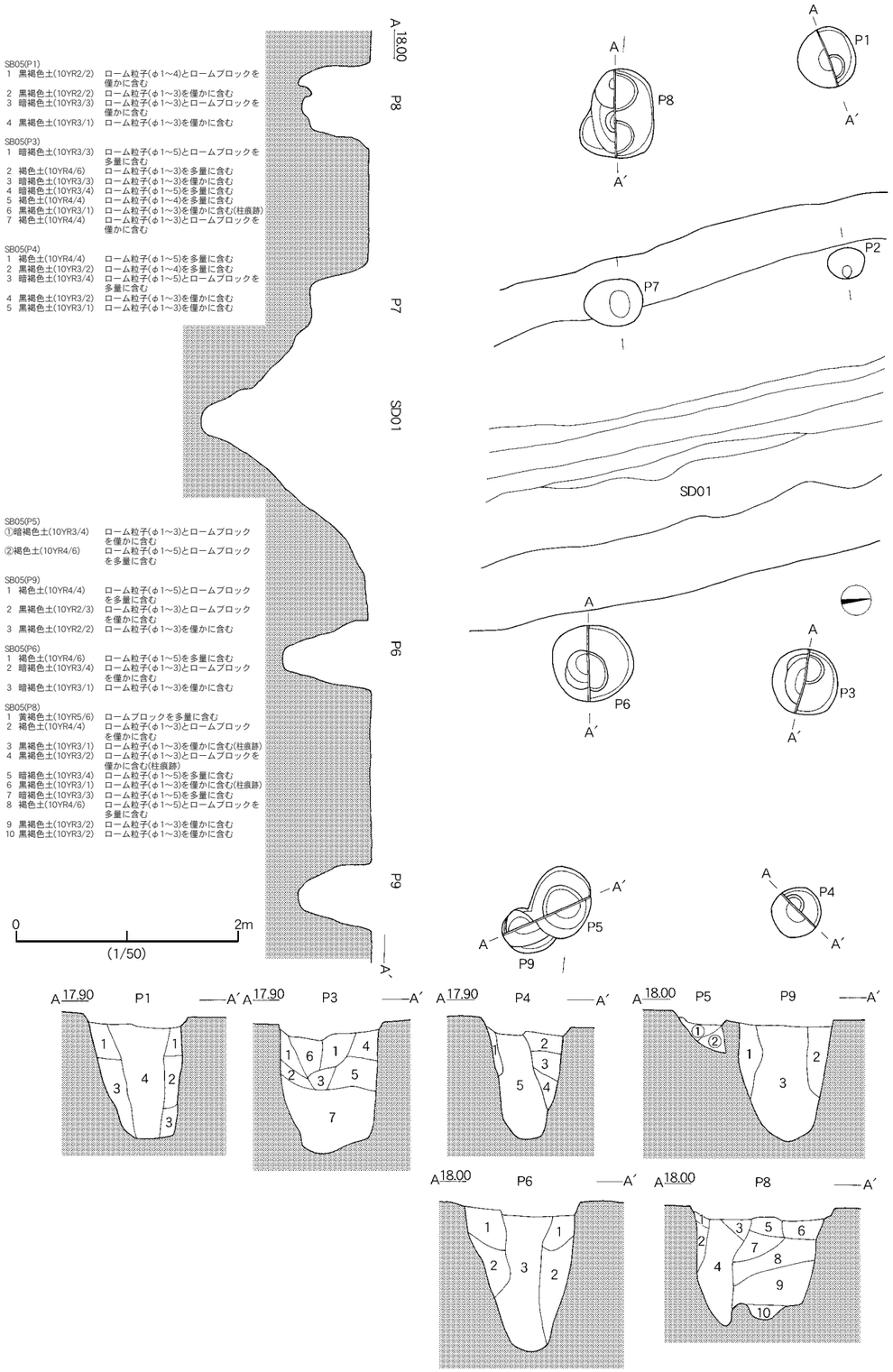
SB05(P4)
1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～4)を多量に含む
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～5)とロームブロックを多量に含む
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む

SB05(P5)
①暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む
②褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～5)とロームブロックを多量に含む

SB05(P9)
1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～5)とロームブロックを多量に含む
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む
3　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む

SB05(P6)
1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む
3　暗褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む

SB05(P8)
1　黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックを多量に含む
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む(柱痕跡)
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む(柱痕跡)
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
6　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む(柱痕跡)
7　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
8　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～5)とロームブロックを多量に含む
9　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
10　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む



第44図　5号建物跡(SB05)実測図

SB06(P1)
1　黒色土(10YR2/3)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～5)とロームブロックを多量に含む
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む

SB06(P2)
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む(柱痕跡)

SB06(P8)
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む

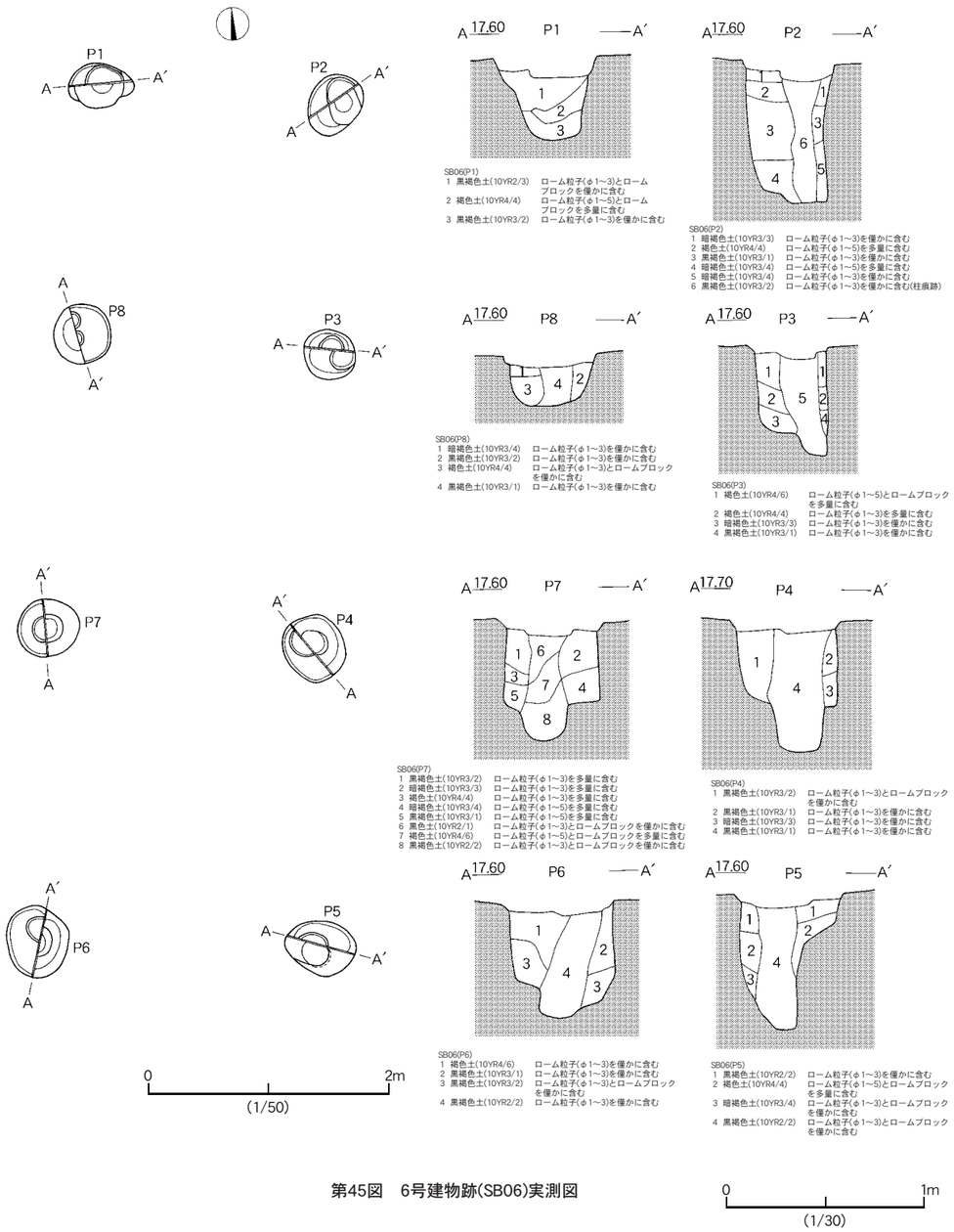
SB06(P3)
1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～5)とロームブロックを多量に含む
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～3)を多量に含む
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む

SB06(P7)
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～3)を多量に含む
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～3)を多量に含む
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～3)を多量に含む
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～5)を多量に含む
6　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む
7　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～5)とロームブロックを多量に含む
8　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む

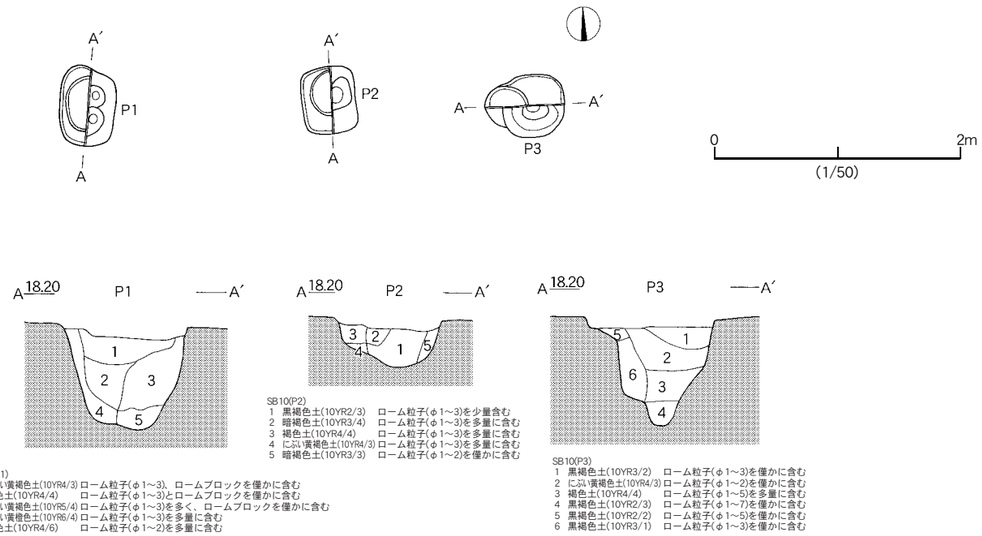
SB06(P4)
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む

SB06(P6)
1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む
4　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む

SB06(P5)
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～3)を僅かに含む
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子(φ1～5)とロームブロックを多量に含む
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む
4　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子(φ1～3)とロームブロックを僅かに含む



第45図　6号建物跡(SB06)実測図



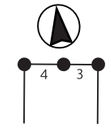
第46図　10号建物跡(SB10)実測図

（３）10号建物跡（SB10）

位　　置　本建物跡は，調査区中央の最南端の位置で検出されている（第４図）。

形　　式　掘立柱建物である。

規　　模　建物は柱列が同一方向に一列のみしか確認されていないため，南北距離は不明である（第46図）。東西3.6mで，柱掘方は隅丸方形を呈し，一辺が0.45m～0.65mである（第10表）。主軸方位はN-５°-E。



SB10 模式図

構　　造　建物は柱列が同一方向に一列のみしか確認されていないため，側柱建物であるのか，総柱建物であるのかは不明。西側の柱間は７尺（2.1m）で東側の柱間は5尺（1.5m）。柱痕跡の大きさは直径0.15mである。Ｐ１～Ｐ３の深さの最大深度は0.25～0.55mであり，中央のＰ２の掘削深度が他の柱穴よりも浅い。柱穴の深さが一定していないことから，柱材には長さの揃った規格材を利用していなかったとみられる。

第10表　SB10柱穴属性一覧

柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)
P1	0.45	0.65	0.55	0.15
P2	0.50	0.55	0.25	0.15
P3	0.65	0.55	0.55	0.15

造営過程　柱の立て替え等は行われていない。

廃絶過程　柱痕跡が残されていることから，柱の抜き取り等は行われていない。

造営時期　SB05やSB06，SB11と主軸が近似していることから，同時期の可能性が高い。

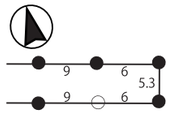
遺　　物　なし。

（４）11号建物跡（SB11）

位　　置　本建物跡は，調査区最西端のやや南に寄った位置で検出されている。

形　　式　掘立柱建物である。

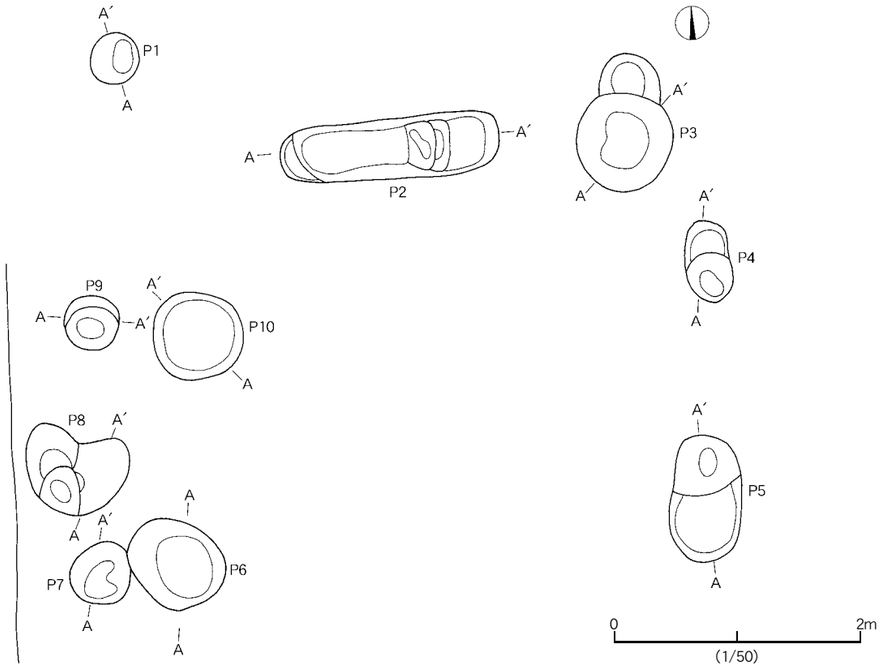
規　　模　建物は，桁行5.7m以上，梁行1.6m～2.1m。柱掘方は円形・長蛇円形を呈し，直径が0.3m～1.8mである（第47図・第



SB11 模式図

第11表　SB11柱穴属性一覧

柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡の直径(m)
P1	0.40	0.30	0.24	—
P2	1.80	0.52	0.20～0.28	—
P4	0.38	0.66	0.08～0.16	—
P9	0.44	0.46	0.34	0.16



第47図　11号建物跡(SB11)実測図

11表)。主軸方位はN-10°-E。

構　　造　桁行３間以上，梁行１間の側柱構造である。桁行の柱間は８尺（2.4m）～９尺（2.7m）の不等間で，梁行の柱間も5.3尺（1.6m），6.3尺（1.9m），７尺（2.1m）と不等間である。柱痕跡の大きさは直径0.16mである。P１～P９の深さの最大深度は0.08～0.34mであり，北西側のP２とP９の掘削深度が他の柱穴よりも浅い。柱穴の深さが一定していないことから，柱材には長さの揃った規格材を利用していなかったとみられる。

造営過程　北東隅のP4，南東隅のP5については柱の据え変えが行われている。

廃絶過程　柱痕跡が残されていることから，柱の抜き取り等は行われていない。

造営時期　SB05やSB06，SB10と主軸が近似していることから，同時期の可能性が高い。

遺　　物　なし。

（５）２号溝跡（SD02）

位　　置　調査区の東側にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SB04の東約7.5mの位置にある（第４図）。

規模・構造　長さ45.0m，上面幅1.8～3.2m，底面幅1.3～2.4mである（第48図）。遺構確認面から底面までの深さは0.2～0.35mである。主軸方向はN-0°-Wを指しているが，北側でやや西に振れている。

覆　　土　部分によって異なるが，２～５層に分層され，自然堆積の様相を示している。

遺　　物　三重弧文軒平瓦１点，平瓦５点，土師器甕１点，須恵器有台坏１点，須恵器坏蓋１点，古瀬戸の陶器片１点が出土している（第49図）。

造営時期　SB04やSI03を切って構築されていることから平安時代以降に造営されたとみられる。

廃絶過程　古瀬戸の陶器片が出土していることから，15世紀には埋没が始まっているとみられる。

（６）4号溝跡（SD04）

位　　置　調査区の東端にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SD03を切っている（第４図）。

規模・構造　長さ7.0m，上面幅0.7～0.8m，底面幅0.4～0.6mである。主軸方向はN-0°-Wを指している。

覆　　土　２層に分層され，自然堆積の様相を示している。

遺　　物　なし。

造営時期　SD03を切っていることから平安時代以降に造営されたとみられる。

廃絶過程　不明。

（７）５号溝跡（SD05）

位　　置　調査区の西端にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SB11の南へ約3.0mの位置である（第４図）。

規模・構造　長さ3.8m，上面幅0.6m，底面幅0.25mである。主軸方向はN-０°-Wを指している。

覆　　土　２層に分層され，自然堆積の様相を示している。

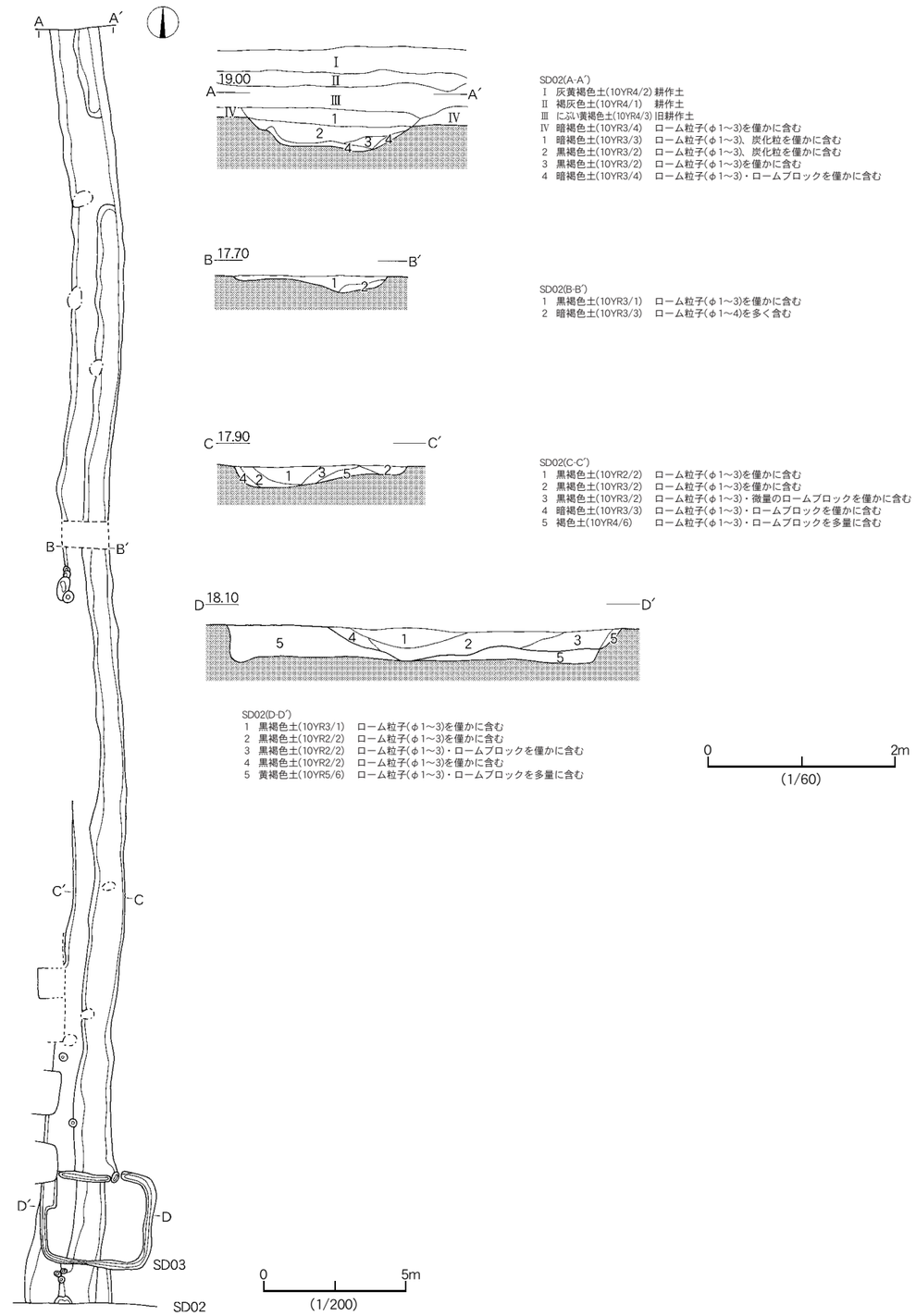
遺　　物　なし。

造営時期　覆土の様相から中世以降に造営されたとみられる。

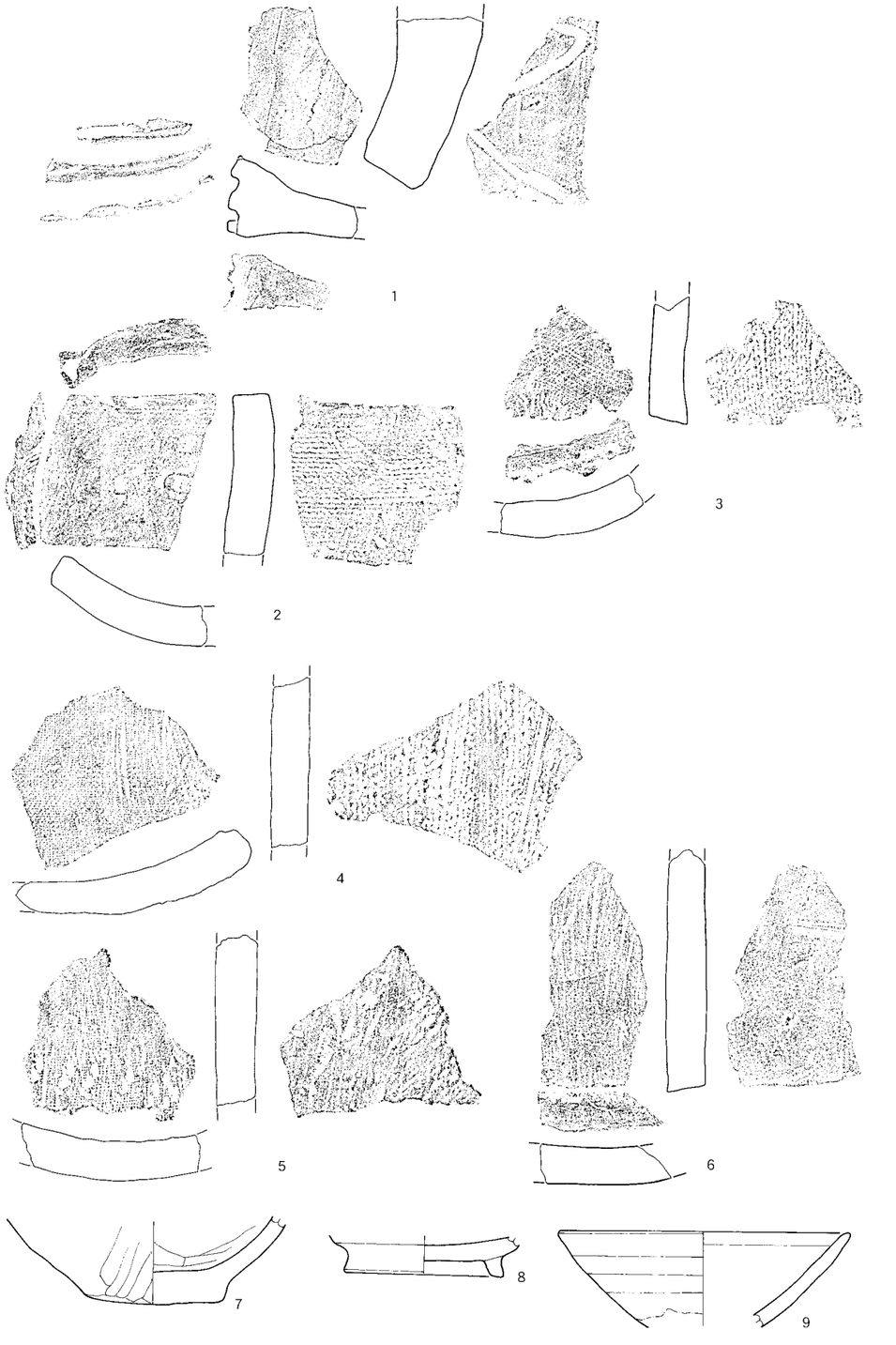
廃絶過程　不明。

（８）２号土坑（SK02）

調査区の東端よりの位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された（第４図）。奈良・平安時代の



第48図　2号溝跡(SD02)実測図



第49図　2号溝跡(SD02)出土遺物

溝SD03が埋没した後に掘り込んで構築されている。形態は楕円形を呈し，規模は東西軸2.5m，南北軸2.35mである（第50図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.6mで，断面形状はややすり鉢状となっている。主軸方向はN-0°-Eを指す。底面はほぼ平坦である。南東部分から炭化物がブロック状に検出されている。覆土は３層に分層され，人為的堆積の様相を呈している。遺物は軒丸瓦１点，須恵器甕底部１点が出土している（第53図）。

（９）３号土坑（SK03）

調査区の東よりの位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SD03の西へ1.0mの位置である（第４図）。形態は隅丸方形を呈し，規模は東西軸2.7m，南北軸2.6mである（第50図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.6mで，底面の壁際に直径15～25cmのピットが７箇所確認されている。ピットの深さは20～25cmである。主軸方向はN-０°-Eを指す。底面は平坦である。南東部分から粘土がブロック状に検出されている。覆土は７層に分層され，人為的堆積の様相を呈している。

（10）４号土坑（SK04）

調査区の東よりの位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SD03の東0.3mの位置である（第４図）。形態は楕円形を呈し，規模は東西軸2.4m，南北軸2.6mである（第50図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.5mで，底面の壁際に直径20～25cmのピットが3箇所確認されている。ピットの深さは10cmである。主軸方向はN-０°-Eを指す。底面は中央がやや窪んでいる。南西部分から粘土がブロック状に検出されている。覆土は５層に分層され，人為的堆積の様相を呈している。

（11）7号土坑（SK07）

調査区の中央よりやや西の位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SB06と重複している（第４図）。形態は楕円形を呈し，規模は東西軸1.1m，南北軸1.5mである（第51図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.15～0.25mである。主軸方向はN-10°-Wを指す。断面形状はすり鉢状となっている。覆土は４層に分層され，自然堆積の様相を呈している。

（12）8号土坑（SK08）

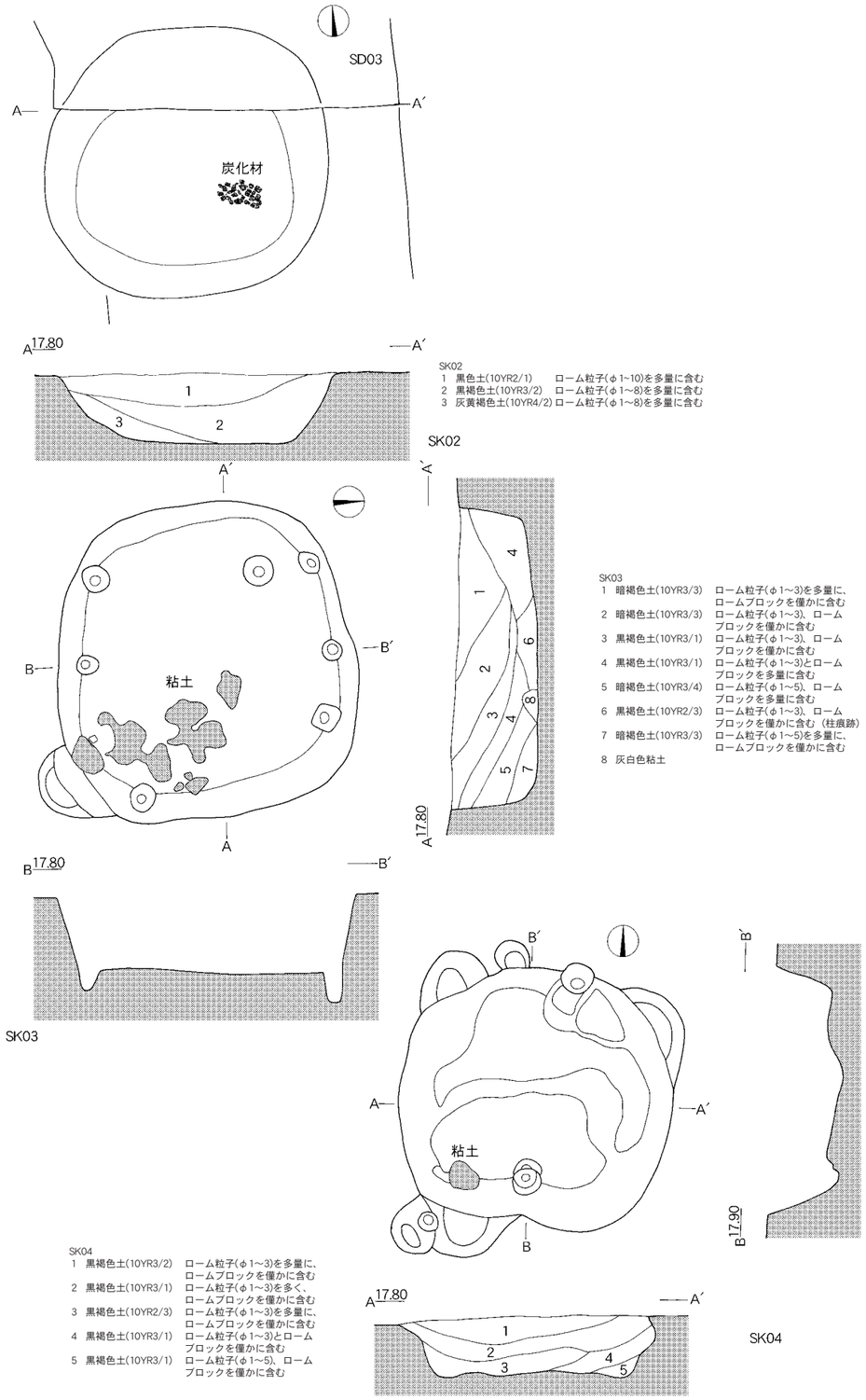
調査区の中央の南端にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SB10の北東2.4mの位置である（第４図）。形態は楕円形を呈し，規模は東西軸1.4m，南北軸1.0mである（第51図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.15～0.2mである。主軸方向はN-110°-Eを指す。断面形状はすり鉢状となっている。覆土は４層に分層され，自然堆積の様相を呈している。

（13）10号土坑（SK10）

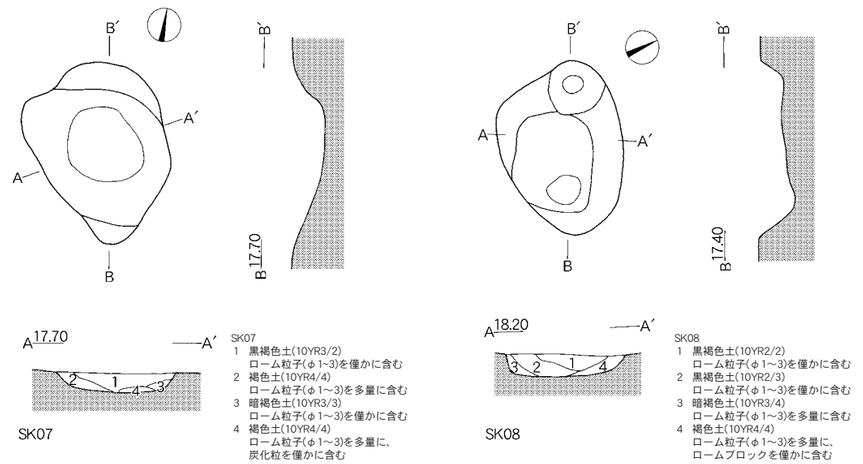
調査区の中央の南端にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SK10の南西5.0mの位置である（第４図）。形態は楕円形を呈し，規模は東西軸1.1m，南北軸1.0mである（第52図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.18～0.2mである。主軸方向はN-90°-Eを指す。断面形状はすり鉢状となっている。覆土は５層に分層され，自然堆積の様相を呈している。

（14）11号土坑（SK11）

調査区の中央のやや東よりの位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SK06の南東1.2mの位置である（第４図）。形態は円形を呈するが覆土の様相から２つの土坑が切り合っているようである。規模は東西



第50図　土坑(SK02・03・04)実測図　0　2m　(1/50)



第51図　土坑(SK07・08)実測図　0　2m　(1/50)

軸0.95m，南北軸1.0mである（第52図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.15～0.25mである。主軸方向はN-35°-Eを指す。断面形状はすり鉢状となっている。覆土は５層に分層され，自然堆積の様相を呈している。焼土粒・炭化粒が含まれる点で他の土坑と異なっている。

（15）12号土坑（SK12）

調査区の中央のやや東よりの位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面でで検出された。SK06の南東1.2mの位置である（第４図）。形態は円形を呈し，規模は東西軸1.2m，南北軸1.18mである（第52図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.18～0.20mである。主軸方向はN-０°-Eを指す。断面形状はすり鉢状となっている。覆土は３層に分層され，自然堆積の様相を呈している。

（16）13号土坑（SK13）

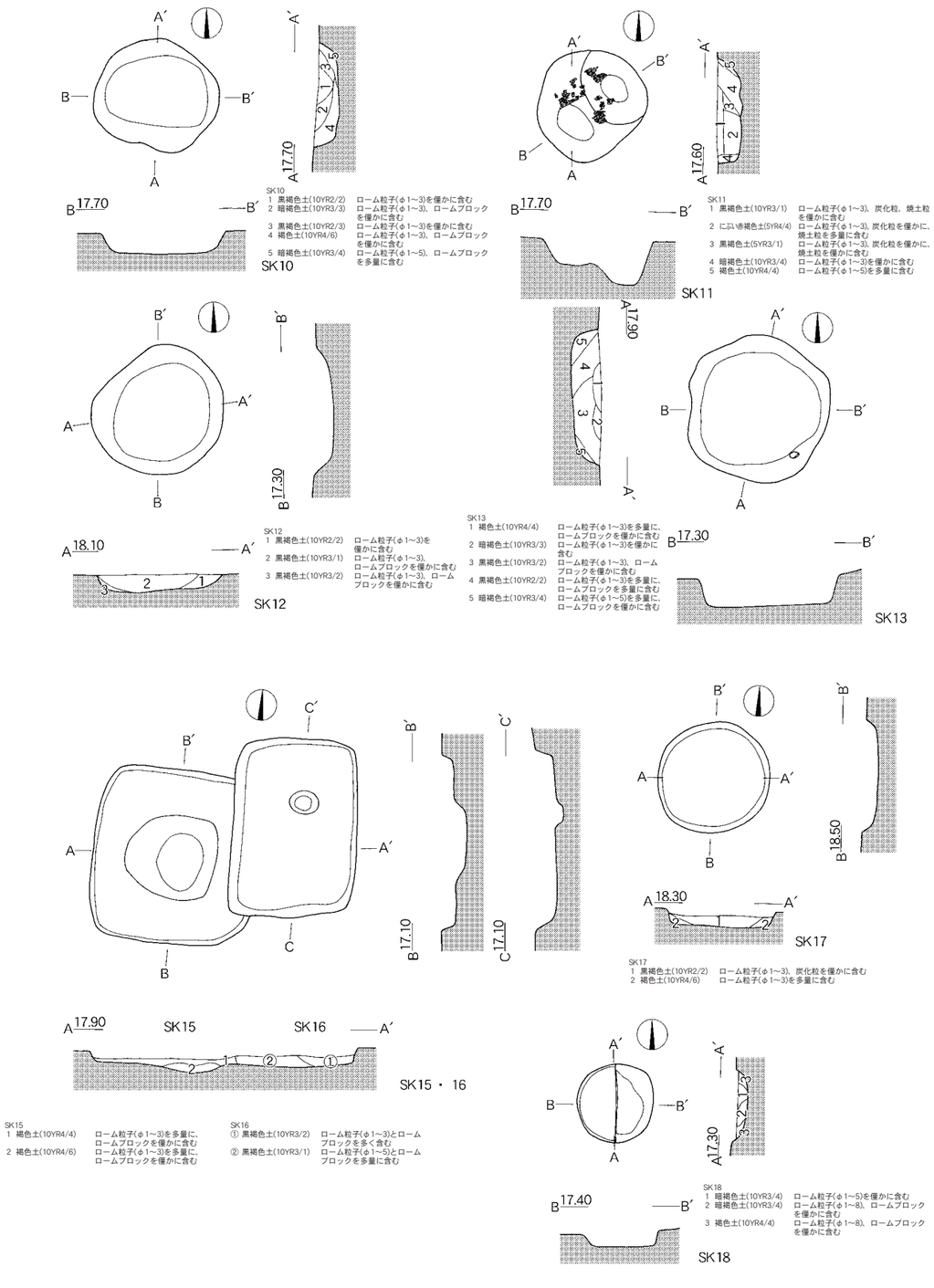
調査区の南東部の位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SD03の東4.6mの位置である（第４図）。形態は不整円形を呈し，規模は東西軸1.25m，南北軸1.2mである（第52図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.2～0.25mである。主軸方向はN-０°-Eを指す。断面形状はすり鉢状となっている。覆土は５層に分層され，人為的堆積の様相を呈している。

（17）15・16号土坑（SK15・SK16）

調査区の東端にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SD03の東2.2mの位置である（第４図）。２つの土坑が切り合っており，SK15がSK16により切られている。いずれも形態は隅丸方形を呈する。

SK15の規模は東西軸1.4m，南北軸1.55mである（第52図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.1～0.15mである。主軸方向はN-０°-Eを指す。断面形状はすり鉢状となっており，中央が円形に窪んでいる。柱穴の可能性もあるが，これに対応する柱列は確認されていない。覆土は2層に分層され，人為的堆積の様相を呈している。

SK16の規模は東西軸1.1m，南北軸1.6mである（第52図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.18mである。主



第52図　土坑(SK10・11・12・13・15・16・17・18)実測図

軸方向はN-０°-Eを指す。断面形状はすり鉢状となっており，中央に円形のピットがみられることから柱穴の可能性もあるが，これに対応する柱列は確認されていない。覆土は２層に分層され，人為的堆積の様相を呈している。

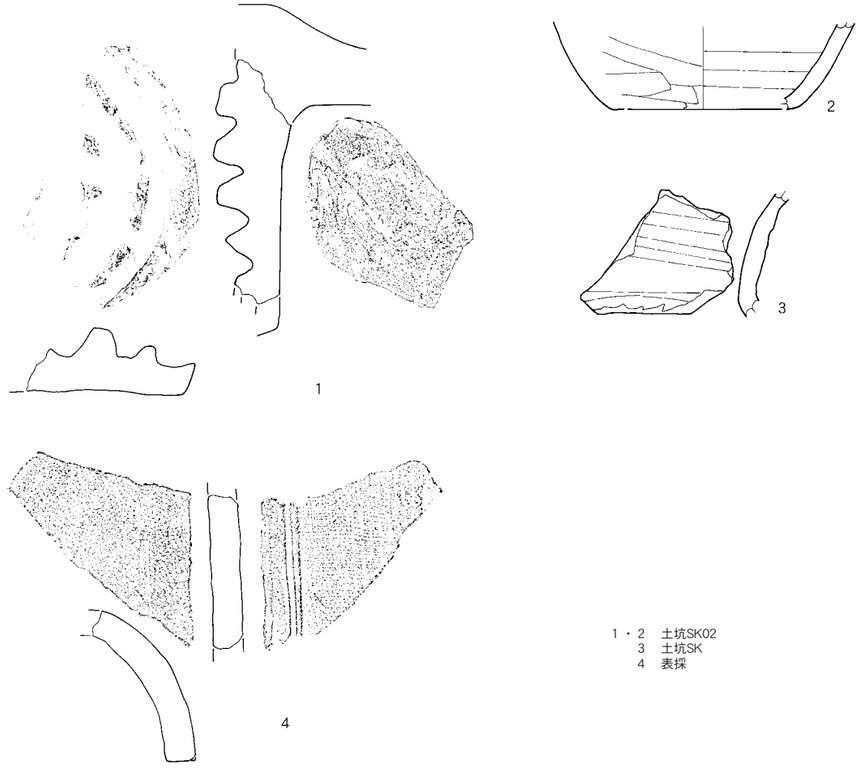
（18）17号土坑（SK17）

調査区の南東部の位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SD03の東4.6mの位置である（第４図）。形態は不整円形を呈し，規模は東西軸1.25m，南北軸1.2mである（第52図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.2～0.25mである。主軸方向はN-０°-Eを指す。断面形状はすり鉢状となっている。覆土は３層に分層され，自然堆積の様相を呈している。

（19）18号土坑（SK18）

調査区の西側の位置にあり，遺構確認面である関東ローム層上面で検出された。SD01に接している（第４図）。形態は円形を呈し，規模は東西軸0.68m，南北軸0.7mである（第52図）。遺構確認面から下底面までの深さは0.12mである。主軸方向はN-０°-Eを指す。断面形状はすり鉢状となっている。覆土は３層に分層され，自然堆積の様相を呈している。

（小川・大渕・川口）



第53図　土坑・その他出土遺物

第４章　総　括

前章では大串遺跡第７地点の発掘調査により確認された遺構と遺物について事実記載を行ってきた。本章ではまず，調査成果を再確認する意味も含めて，個々の時代毎に展開した土地利用の変遷を明らかにする。次に本遺跡の主体を占める奈良・平安時代の遺構のうち，官衙遺構の性格を具体的に物語る床束建物SB04の構造と性格，区画溝SD03から出土した炭化米との関連について考察する。さらに調査区内から出土している瓦のうち，軒瓦と文字瓦について類例を参照しながら検討し，最後に今後の課題と展望を提示したい。

（川口）

４－１　土地利用の変遷

（１） 縄文時代

縄文時代に比定される遺構と遺物がわずかであるが検出されている。まず遺構として，陥し穴状土坑２基と土坑３基が検出された。陥し穴状土坑SK01は調査区南端，SK06は北東側で確認されたもので，いずれも長軸３ｍ前後，深さ２ｍの楕円型陥し穴に分類されるものである。つまり開口部が狭く，底部が膨らみ，底面に逆茂木等の付帯施設を伴わないタイプである。これら２基の主軸方位は異なっているものの，調査区の北西から南東方向に向かって埋没谷が入り込んでおり，その等高線に沿って主軸を設置したものであろう。また土坑３基は調査区西側に寄って検出された。出土遺物はないものの，埋土の締りが良好で，堅緻であることから縄文時代に属する遺構と判断した。また出土遺物として縄文土器の石器が検出されている。土器はいずれも小片のみであるが，数点口縁部破片があり，中期後半から後期前半に比定される。まず中期は加曽利Ｅ３式期で，磨消懸垂文を施文したものである。また後期初頭・称名寺式期は二本の平行描線による交互充填施文がみられる。次いで後期前半・堀之内１式は縄文地文に竹管の内側を用いた平行沈線で意匠文を描いている。さらに堀之内２式期では波状口縁の波頂部下に８字状貼付を付し，幾何学文を施文する。石器として磨石類と石鏃が出土している。磨石類は定型化したものではなく，自然円礫の側縁部に使用痕が認められるものである。また石鏃はチャート製のもので，基部が突出する凸基有茎鏃と尖頭器状の尖基鏃である。これらはいずれも縄文時代に比定された遺構に伴わないが，この地が確実に縄文時代の生活跡として残置されていた傍証でもある。

（２） 古墳時代

古墳時代後期末葉に比定される竪穴建物SI01が１棟検出されている。調査区の北端に位置し，規模や柱穴等の状況証拠から単独の建物ではないと判断できることから，北側の未調査区域側に集落が展開しているものと推定される。なお，検出された竪穴建物は南側の半分で全体の様相を全く伺うことができない状況であったが，それでも検出された柱穴２本は掘形を見る限り，しっかりした掘削で，しかも抜き取り痕が明瞭である。また南壁辺中央には壁溝と連続するように突出部がみられ出入り口施設と推定される。さらに南東側柱穴に接してやや寸詰まりの間仕切り溝が掘削されている。また遺物は決して多くはないが，土師器・須恵器・鉄製品の出土をみる。土師器は模倣坏のみで，丸底に近い底部から体部は内彎気味に開き，口縁部は短く立ち上がる。体部との境に明瞭な稜を有している。また須恵器・坏蓋は天井部を欠損するものの，内面にカエリをもつ。そのほか高坏もしくは高台付埦の脚部破片の出土がある。鉄製品としてはほぼ完存する鎌の出土は特筆される。いずれにせよ出土遺物から７世紀末葉に比定され，次いで南東端に位置するSI03が構築されている。

（３） 奈良・平安時代

今回の調査で検出された中心的な遺構群が８世紀から９世紀にかけたものであり，掘立柱建物跡５棟，竪穴建物２棟，溝２条が調査区全体で確認されている。竪穴建物２棟はいずれも規模は小さいものの，出土遺物からある程度時期が判明している。すなわち調査区南東端に位置するSI03が８世紀第１四半期であり，北東隅に位置するSI02は９世紀第１四半期に比定されており，その間に掘立柱建物の構築や溝の掘削などの主要建物を配する官衙の造営が行われたと推定される。奈良時代の中葉から平安時代の前半期にかけてである。とくに注目されるのは調査区東側に位置する掘立柱建物SB04である。南北棟で桁行６間，梁行３間に５基の束柱を備えた床束建物である。いうまでもなくこの建物の規模からみても重要な官衙的施設のひとつであることは明白である。さらに焼失建物であり，柱痕跡や柱抜取穴には多量の炭化物が包含されていた。その一部から炭化米が検出され注目されている。穎稲等を収納しておく穎屋もしくは倉代としての機能を有していたと推定されているからである（４-２参照）。なお，本建物が竪穴建物SI03を切って造営されていることから，８世紀第２四半期以降の年代が与えられている。他の建物や区画溝を含めてこの段階で大規模な官衙造営が開始されたのは明らかである。また調査区西端には掘立柱建物SB08が配する。東西棟で桁行５間以上，梁行３間の側柱建物である。あいにく西側が未調査区域に延びていくことから平面規模は不明であるが，桁行10間を想定しておりやはり大型建物となろう。そのほか規模は小さくなるが建物跡が検出されており，いずれも南北方向の柱筋がそろえられている。これら遺構群では年代を決定づける出土遺物がほとんどないとはいえ，多少の前後はあったものの柱筋からみてほぼ同時期の建物群として存立したものであろう。またこれら建物群を区画している溝がある。やはり南北の主軸線に沿って走る溝で，調査区内では52mの間隔をおいてSD01とSD03が並行して掘削されており，ほぼ形状が酷似していることから同一溝と理解してよいであろう。したがってこれら建物群を回繞している溝であることは間違いない。水戸市教育委員会による隣接区域における確認調査結果からみても，中心的な機能を有する施設群は本調査区の南東寄りにおかれていた可能性が高いが，まだ十分に正確な配置が確認されたわけではない。今後溝SD01とSD03の区画溝の方向性だけでも検出できれば，本調査区が官衙遺跡の中枢域であるという必要条件を満たすこととなり，そしてこれら溝によって区画された主要建物の配置の企画性と変遷が改めて問題となろう。なお，これら建物群が最終的にいつまで存続していたかは不明だが，区画溝の埋土の年代が出土遺物から９世紀第２四半期とされており，すでにこの時期には区画溝の機能を失っていたことになる。さらに北東隅に位置する竪穴建物SI02の出土遺物が９世紀第１四半期に比定されており，この小型竪穴建物の存在は敷地内の様相を一変させるのに十分である。すくなくとも９世紀第１四半期を境にしてこの地における官衙機能の衰退を想定してよいであろう。

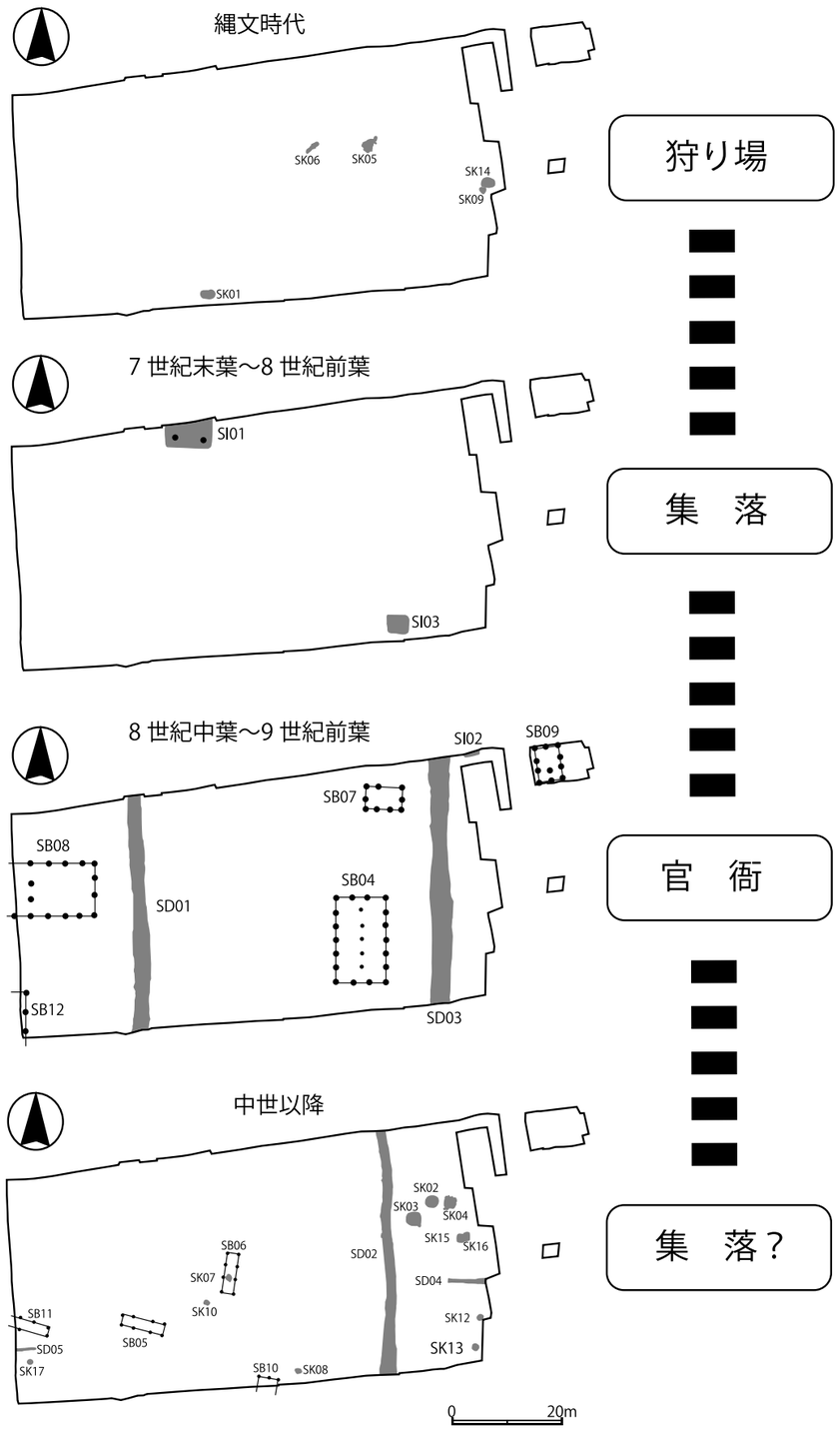
（５） 中世以降

中世の遺構としては，掘立柱建物跡４棟，溝３条，土坑13基が確認された。建物跡から年代を確かにする遺物の出土はないが，桁行３間，梁行１間もしくは２間の柱穴を含め小型化し，さらに柱筋のそろいかたから４棟はほぼ同時期存立と判断した。また正倉区画溝に並行する溝SD02から15世紀代の古瀬戸碗が出土している。なお調査区西側に集中する竪穴状遺構SK02・03・04のうち，SK03は柱穴を伴う小型建物で，倉庫といった小屋的機能をもつ。ここでは少なくとも西側の掘立柱建物群と東側の竪穴状遺構群という土地利用において用途分担による敷地内の様相が読み取れる。

（小川）

４－２　区画溝SD03出土炭化米と床束建物SB04の構造と性格について

前節では土地利用の変遷を確認し，奈良・平安時代には官衙がこの台地に展開していたことが明らかとなった。ここでは，官衙関連遺構のうち，区画溝SD03とSD03 の覆土上層から出土した炭化米，床束建物SB04に着目し，その



第54図　大串遺跡第７地点における土地利用の変遷

性格について若干の考察を提示する。

（１）区画溝SD03出土炭化米

区画溝SD03は，覆土から炭化米が多数出土しており，その東側にある駐車場部分の確認調査で３×３間の正倉とみられる礎石建物が３棟確認されていることから（渥美・木本　2007，木本挙周　2008，川口　2008，水戸市教育委員会　2007）,正倉院の西側を区画する溝と考えられる。調査区の南端においてSD03の土層堆積状況を確認するために設定したサブトレンチでは覆土の上層から炭化米がブロック状に集中して検出され，粒の状態が並んでいる状況が確認されたことから（写真１），穎稲である可能性が高いことが判明した（附編参照）。

穎稲は稲穂を束ねた状態の稲のことで，出挙稲や雑用として倉屋に収納されるほか（山中　1994），不動倉の底に敷く底敷き穎稲もみられる。山中敏史氏によると，天平期の諸国の正税帳では，穎稲の収納施設は倉が約86%を占めており，穀稲の収納施設と同様に高床倉庫が主要な施設であったが，約12%を穎屋や穎借屋が占めており，穀稲の場合に比べて屋に収納される割合が高かったという（山中　2003ａ）。

山中氏の指摘を考慮すると，SD03から出土した穎稲は，不動倉に使用された底敷き穎稲であった可能性もあるが，水戸市教育委員会による駐車場部分の確認調査で検出された３×３間の高床倉庫と見られる3棟の礎石建物のうち，最も北側のSB01の検出位置と炭化米の検出位置は約17mと離れている感もある。そうすると，穎屋など別の施設に収納されていた可能性も十分に考えられるのではないだろうか。

（２）床束建物SB04の構造と性格

掘立柱建物SB04は，桁行６間，梁行３間の南北棟であるが，建物の中央に５基の束柱とみられる柱穴を持つことから，床束建物とみられる。床束建物は山中敏史氏によって次のように定義されている。「総柱建物の場合に比べて，

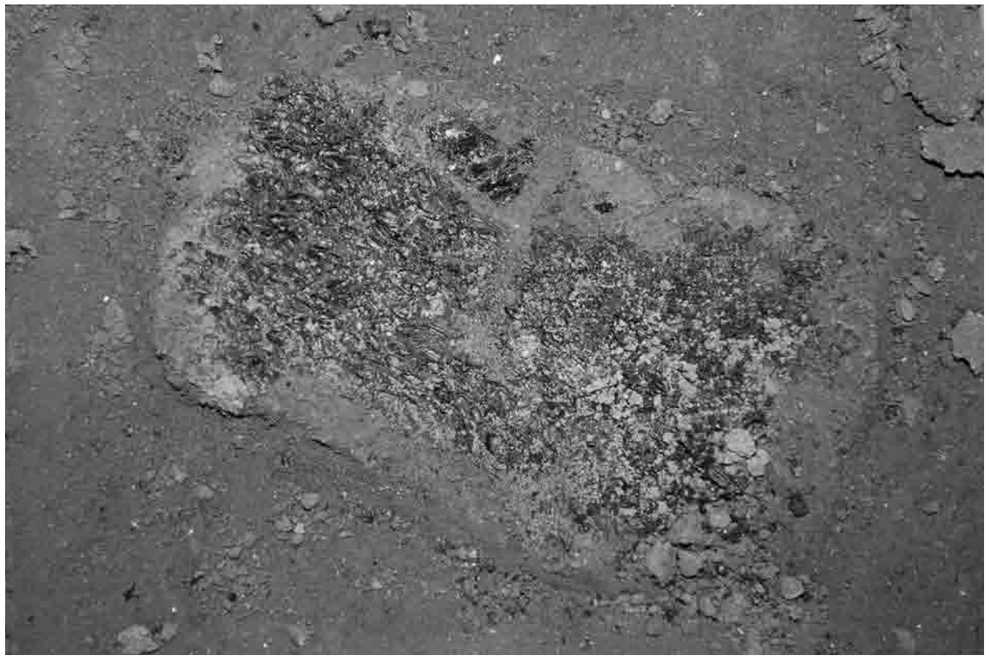
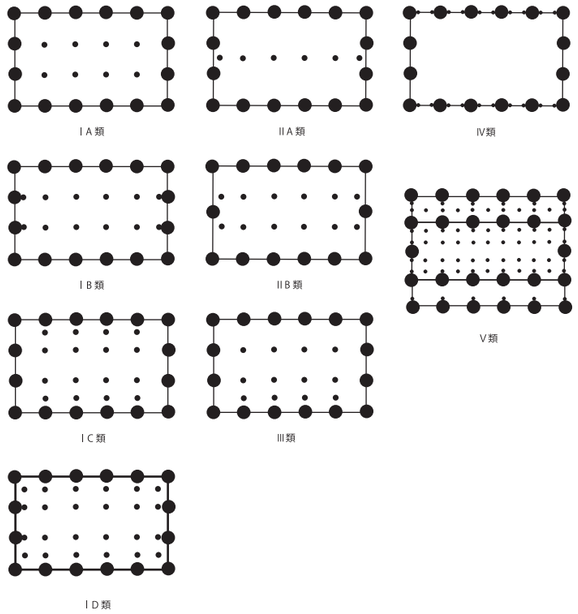


写真１　区画溝SD03穎稲検出状況

建物内部の柱（柱穴・礎石）が【主柱（本柱）】（側柱・入側柱）より格段に小規模な建物がある。建物内部の小規模な柱の根入れは本柱に比べて浅く，床板・根太受けの大引を支える柱とみられる。この小規模な柱を【床束】，床束を伴う建物を【床束建物】と仮称する」（山中　2007：５頁）。この床束建物は，添束の有無と床束の配置から第54図のように９類型に分類されている。SB04は桁行６間，梁行３間であり，内部の床束が平側の相対する両側柱を結ぶ柱上にのるが，妻柱を結ぶ柱筋上にはのらないことから，梁行３間の棟通り上に内部の床束がのるⅡA類に分類される。さらに山中氏はこの構造の建物の床について「総柱建物に伴うような高床ではなく，法隆寺東院伝法堂のように通常の床下利用は困難な低い床高であったとみられる。このような低い床を【揚床】と呼び，総柱建物の高床とは区別する。床束建物の床は，床束の規模からみて，稲倉のような重貨に耐える堅固なものではなく，通常の生活などに対応した構造のものであったと推定しうる」（山中　2007前掲）とその上部構造の床についても言及されている。



第55図　床束建物の緒類型

SB04の桁行の柱間は2.6m（8.7尺）等間で，梁行の柱間は3.0m（10尺）等間であることから，建物の規模は桁行15.6m，梁行9.0mであり，建物面積は140.4㎡となる。これだけの規模の床束建物は那賀郡域でも常陸国全域でも発見されていない。第12表は山中敏史氏が集成した官衙遺跡で確認されている床束建物のうち，郡衙遺跡から発見されている床束建物（山中　2007）を抽出し,一覧にしたものである。現状では大串遺跡第7地点の床束建物SB04も含めて28例の床束建物が確認されている。大串遺跡第7地点の床束建物SB04は，名生館官衙遺跡SB01のように郡庁正殿や東山遺跡SB326のように郡庁東脇殿とは建物の性格が異なると考えられるが,それ以外の性格を持つ床束建物と規模だけを比べてみると,岡遺跡SB01-AとSB01-B，大郡遺跡のSB1406に次いで全国でも4番目に規模が大きい建物であることが理解できる。

第13表は山中敏史氏が集成した官衙遺跡および官衙関連遺跡で確認されている床束建物のうち，ⅡA類に分類される床束建物（山中　2007）を抽出し,一覧にしたものである。現状では大串遺跡第７地点の床束建物SB04も含めて12例の床束建物ⅡA類が確認されている。遺跡の性格別にみると，城柵が４例，居宅が１例，郡衙遺跡３例，官衙関連遺跡1例，その他の官衙遺跡２例，集落遺跡１例である。平面形式は上之宮遺跡SB06のように四面廂を持つものや宮沢遺跡SB185のように片廂を持つ例もあるが，圧倒的に無廂のものが多いことが理解できる。桁行と梁行の柱間数は宮沢遺跡SB53のように３×２間や同遺跡SB185のように４×３間，関和久遺跡SB126aのように５×２間のような事例もあるが，圧倒的に６×３間，５×３間のものが多いことが読み取れる。次に規模をみてみよう。桁行総長と梁行総長，建物面積をみると，大串遺跡第7地点の床束建物SB04は上之宮遺跡SB06に次いで全国で２番目に大きい床束建物（ⅡA類）であることが理解できる。また郡衙遺跡に限定してみると，全国で最も大きい床束建物（ⅡA類）であることが読み取れる。

第12表　郡衙遺跡で確認されている床束建物一覧

遺跡名（地点・調査次数）	遺構名	床束建物分類	平面形式	桁行柱間数	梁行柱間数	桁行総長(m)	梁行総長(m)	建物面積(㎡)	桁行柱間寸法平均値	梁行柱間寸法平均値	年　代	建物の性格
泉廃寺	SB18-4b	ⅠD類	低床張り	4	2	8.60	4.50	38.70	2.15	2.25	8世紀第Ⅱ四半期～	
大串遺跡(第7地点)	SB04	ⅡA類	無廂	6	3	15.60	9.00	140.40	2.60	3.00	8世紀前半	穎屋もしくは倉代
岡遺跡	SB-01A	ⅠA類	四面廂	8	4	16.80	10.20	171.36	2.10	2.55	8世紀中葉	
岡遺跡	SB-01B	ⅠA類	四面廂	8	4	16.80	10.20	171.36	2.10	2.55	8世紀後半	
岡遺跡	SB-18	ⅠA類	無廂	6	2	12.80	4.80	61.44	2.13	2.40	8世紀前葉	
金田西遺跡	SB27	ⅠA類	四面廂	6	3	13.63	8.16	111.22	2.27	2.72	8世紀中葉	
金田西遺跡	SB31	ⅡB類	無廂	3	2	5.89	4.24	24.97	1.96	2.12	9世紀前葉	
金田西遺跡	SB68	その他	無廂	4	3	9.69	6.81	65.99	2.42	2.27	8世紀中葉	倉
狐塚遺跡	SB62	不明	低床張り	6	3	12.60	5.70	71.82	2.10	1.90	8世紀後半	
郡山五番遺跡	SB08	Ⅲ類	無廂	5	2	11.10	5.30	58.83	2.22	2.65	奈良・平安時代	
嶋戸東遺跡	SB8	ⅠA類	無廂	6	2	17.00	4.20	71.40	2.83	2.10	8世紀第Ⅰ四半期後半～第2四半期初め	館ヵ
下寺尾西方A遺跡	H6	その他	無廂	4	3	8.10	6.30	51.03	2.03	2.10		借屋ヵ
関和久遺跡	SB126d	ⅠA類	無廂	5	2	11.70	5.50	64.35	2.34	2.75	9世紀前半	
関和久遺跡	SB126a	ⅡA類	無廂	5	2	11.70	5.50	64.35	2.34	2.75	9世紀前半	
関和久遺跡	SB24b	ⅡB類	無廂	5	2	15.12	6.13	92.69	3.02	3.07	9世紀前半	
関和久遺跡	SB24a	ⅡB類	無廂	5	2	15.12	6.13	92.69	3.02	3.07	8世紀後半	
千年伊勢山台遺跡	5号	ⅠA類	無廂	3	2	6.45	4.50	29.03	2.15	2.25	8世紀～9世紀前半	
千年伊勢山台遺跡	3次A区SB03	ⅠA類	無廂	6	3	14.40	7.80	112.32	2.40	2.60	10世紀前葉	
大郡遺跡	SB1406	ⅠA類	低床張り	8	4	20.20	8.00	161.60	2.53	2.00	8世紀前葉～後葉	
那須官衙(梅曽)遺跡	SB340	ⅠA類	無廂	3	3	7.50	6.00	45.00	2.50	2.00	8世紀前葉～後葉	
那須官衙(梅曽)遺跡	SB213	ⅠD類	無廂	5	3	9.20	5.10	46.92	1.84	1.70		
原古賀黒木	SB03	ⅡA類	無廂	6	3	18.60	6.60	122.76	3.10	2.20	8世紀後半	郡庁東脇殿
東山遺跡	SB326	ⅠA類	片廂	5	3	12.31	8.17	100.57	2.46	2.72		
東山遺跡	SB485	ⅠA類	無廂	2	2	4.44	4.25	18.87	2.22	2.13	8世紀中葉	
東山遺跡	SB342	Ⅲ類	無廂	3	2	6.65	5.15	34.25	2.22	2.58	8世紀～9世紀	
日秀西遺跡	4号	不明	無廂	6	2	12.60	5.40	68.04	2.10	2.70	7世紀末葉～8世紀前葉	郡庁正殿
名生館官衙遺跡	SB01	ⅠA類	四面廂	7	5	17.15	12.10	207.52	2.45	2.42	7世紀後半～8世紀初め	
弥勒寺東遺跡	前身建物6	不明	無廂	8	3	13.10	4.20	55.02	1.64	1.40		

第13表　官衙および官衙関連遺跡で確認されている床床建物ⅡA類一覧

遺跡名（地点・調査次数）	遺構名	平面形式	桁行柱間数	梁行柱間数	桁行総長(m)	梁行総長(m)	建物面積(㎡)	桁行柱間寸法平均値	梁行柱間寸法平均値	年　代	建物の性格	遺跡の性格
伊治城	SB310b	無廂	5	3	13.20	7.00	92.40	2.64	2.33	780年以前	西脇殿	城柵
伊治城	SB310c	無廂	5	3	13.00	6.50	84.50	2.60	2.17	780年以降	西脇殿	城柵
上之宮遺跡	SB06	四面廂	6	5	13.60	11.40	155.04	2.27	2.28	6世紀末～7世紀初め		居宅
大串遺跡(第7地点)	SB04	無廂	6	3	15.60	9.00	140.40	2.60	3.00	8世紀第Ⅱ四半期～	穎屋もしくは倉代	郡衙正倉別院/平津駅家関連
御子ヶ谷遺跡	SB04b	無廂	5	3	11.60	5.40	62.64	2.32	1.80	8世紀後半	Ⅱb期正殿	その他官衙
御子ヶ谷遺跡	SB04a	無廂	5	3	11.60	5.40	62.64	2.32	1.80	8世紀後半	Ⅱa期正殿	その他官衙
貝野遺跡	AH7	無廂	6	3	12.50	5.40	67.50	2.08	1.80			集落
郡家川西遺跡	45-L地区SB31	無廂	6	3	17.10	6.30	107.73	2.85	2.10	8世紀後半		官衙関連
関和久遺跡	SB126a	無廂	5	2	11.70	5.50	64.35	2.34	2.75	9世紀前半		郡衙
原古賀黒木	SB03	無廂	6	3	18.60	6.60	122.76	3.10	2.20			郡衙
宮沢遺跡	SB53	無廂	3	2	7.30	4.80	35.04	2.43	2.40	8世紀末葉～9世紀初め		城柵
宮沢遺跡	SB185	片廂	4	3	8.10	7.30	59.13	2.03	2.43	8世紀後半頃		城柵

このように床束建物SB04は規模だけを取り上げてみても全国的にかなり大型の床束建物であることが指摘できよう。

次に床束建物SB04の性格について考えてみたい。床束建物SB04の性格を考えるうえで最も重要な点は，柱穴に残されている柱痕跡や柱抜取穴から炭化粒子や炭化材，炭化米が出土している点にある。炭化粒子や炭化材が出土していることから，本建物は焼失したとみられる。また，炭化米が出土していることから，床束建物SB04は，租税として集められた穎稲を収納しておく屋であった可能性が高い。

柱抜取穴等に堆積していた土壌のプラントオパール分析を行っていないため，これらの炭化米が穎稲であったのか穀稲であったのかは定かではない。しかしながら，床束建物SB04はその構造から，高床を持つ穀倉とは異なり，板敷きの揚床を持っていたと考えられることから，穀稲を天井に近い位置まで大量に収納していたとは考えにくい。従って，仮に穀稲を収納した動用穀屋であったとした場合，一時的な保管施設であった可能性が高い。

また，SB04の検出位置が正倉院区画溝SD03から外側に7.5mと近接しているうえに主軸方位もSD03と一致している点も重要である。このことは，SB04はSD03の内側に広がる正倉院と無関係に造営されたのではなく，有機的な関連性を持って造営されたことを物語っている。

SD03から出土している炭化米がSB04に収納されていたものであると断定することはできないが，SD03からは炭化した頴稲が出土している。この頴稲の検出位置は，水戸市教育委員会による駐車場部分の確認調査で検出された３×３間の正倉と見られる3棟の礎石建物のうち，最も北側のSB01の検出位置よりも，SB04の方に10m以上近い。このような状況証拠からSB04は，頴稲を収納しておく頴屋の可能性が高いと考える。

山中敏史氏によると，頴屋は天平期の正税帳にも認められるが，福島県白河市関和久遺跡や栃木県那珂川町梅曽遺跡（那須官衙遺跡），栃木県真岡市中村遺跡では，屋とみられる建物は8世紀後半以降に造営されており，正倉の主要な構成要素として当初からは存在していなかったことが指摘されている（山中　1994前掲）。SB04の造営年代が，８世紀第Ⅰ四半期に帰属するとみられるSI03を切って造営されていることから，８世紀第Ⅱ四半期以降に造営されたと考えられることは山中氏の指摘と符合するものである。

この頴稲は，永年貯蓄されるものではなく，出挙本稲や地方官衙の維持活動経費などとして頻繁に支出されるものであり，出挙の返済により更新されるものであった（山中　1994前掲）。

もし，床束建物SB04に収納されていた稲穀が頴稲であったとすると，本建物は頴屋であった可能性が高いことになり，出挙本稲や地方官衙の維持活動経費などとして頻繁に支出されるために新たに設置されたと理解することができる。ただし，床束建物SB04は正倉院の区画溝の内側ではなく，外側にある点で福島県白河市関和久遺跡や栃木県那珂川町梅曽遺跡（那須官衙遺跡），栃木県真岡市中村遺跡の頴屋の在り方と異なっている。正倉院の区画の内側ではなく外側に設けられているということは，恒久的に頴穀を保管する為ではなく，一時的な収納・保管のために設置されたとも考えられる。そのようにみると，倉の代用として建築された揚床の建物である「倉代」と呼ばれた建物であった可能性も考えられよう。それでは，床束建物SB04にはどのくらいの頴稲が収納されていたのであろうか。

山中敏史氏は頴倉・頴屋の平面積と収納可能量についても検討されており，500～1,000束程度の誤差が生じる場合もあるが，平面積が10㎡前後で1,000束，30㎡前後で6,000束，60㎡前後で9,000束程度収納できたと推定されている（山中　2003a）。この計算方法に基づくと，SB04は平面積が140.4㎡もあることから，最大でも22,000束程度は収納できたことになり，非常に多量の頴稲を収納できた建物ということができる。

以上のように筆者は，床束建物SB04が頴稲を収納した「頴屋」や倉の代わりに頴穀を収納する揚床の「倉代」と呼ばれた建物であった可能性が極めて高いと理解しており，床束建物SB04は「頴屋」や「倉代」の構造や性格を考えていくうえで貴重な調査例であると認識している。

これだけの規模と収納量を持つ床束建物は，那賀郡内の官衙遺跡のみならず旧常陸国内の官衙遺跡でも発見されておらず，全国的にみても，床束建物としては規模が大きい部類に入ることから，地方官衙の正倉院の成り立ちや空間構成，正倉院における頴稲の出納の在り方を考えていくうえでも大変重要な調査成果であることを指摘しておく。

（川口）

４－３　出土瓦の考察

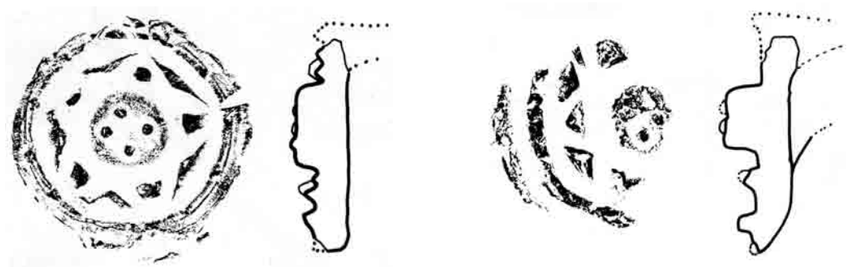
今回の大串遺跡第７地点の発掘調査で，軒丸瓦１点，軒平瓦２点，丸瓦13点，平瓦37点が確認された。これらは，今回の調査区で確認された掘立柱建物ではなく，水戸市教育委員会の調査区で確認された礎石建物に葺かれていたものと考えられる。遺跡全体における出土瓦の量は，水戸市教育委員会調査区分をあわせてもさほど多くなく，これらの建物が総瓦葺建物であった可能性はきわめて低いと考えられる。ではこれらの建物群はいつの時期に帰属し，どのような性格を有していたのであろうか。本稿では，重弁五葉花文軒丸瓦[1)]（第53図-１）と重弧文軒平瓦（第36図-１・第49図-１）の各軒瓦を中心に検討を加えることによってこれらの瓦の年代とその系統を検討し，これら建物群の性格について考察してみたい。

（１）軒瓦

重弁五葉花文軒丸瓦（第53図-1）は，茨城県立歴史館が設定する3121型式（黒澤　1994）と同文である。現在，3121型式は水戸市田谷廃寺跡から出土している出土3121a型式と台渡里廃寺跡長者山地区から出土している3121b型式の2種類（第56図）が確認されているが，当該地点出土資料は内区文様部と外縁部の間に珠文を有する圏線があることから，3121b型式に相当する。

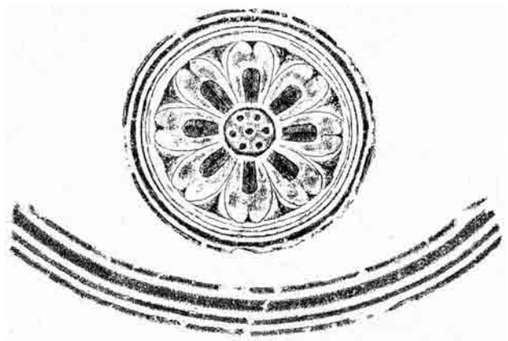
3121型式軒丸瓦は，いわゆる「多賀城系」に分類される軒瓦であり，那賀郡内では台渡里廃寺跡長者山地区（那賀郡衙正倉院）や田谷廃寺跡（推定河内駅家），原の寺瓦窯などからも出土している。

常陸国那賀郡出土軒丸瓦の瓦当文様は，台渡里廃寺跡出土軒丸瓦などの検討から，従来「山田寺系」・「多賀城系」・「那賀郡系」・「常陸国分寺系」・「新治廃寺系」・「系統不明」の６群に分類されていた（黒澤　1998・川口ほか　2005）。また，台渡里廃寺跡の寺院域である観音堂山・南方地区（那賀郡衙周辺寺院）では，「山田寺系」

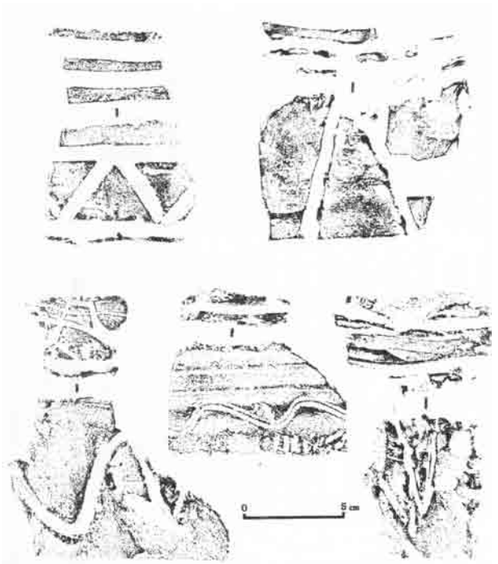


１．3121a 型式軒丸瓦 (田谷廃寺跡)　　２．3121b 型式軒丸瓦 (台渡里廃寺跡長者山地区)

第56図　3121型式軒丸瓦（1：4）



第57図　山田寺跡出土軒瓦（1：4）

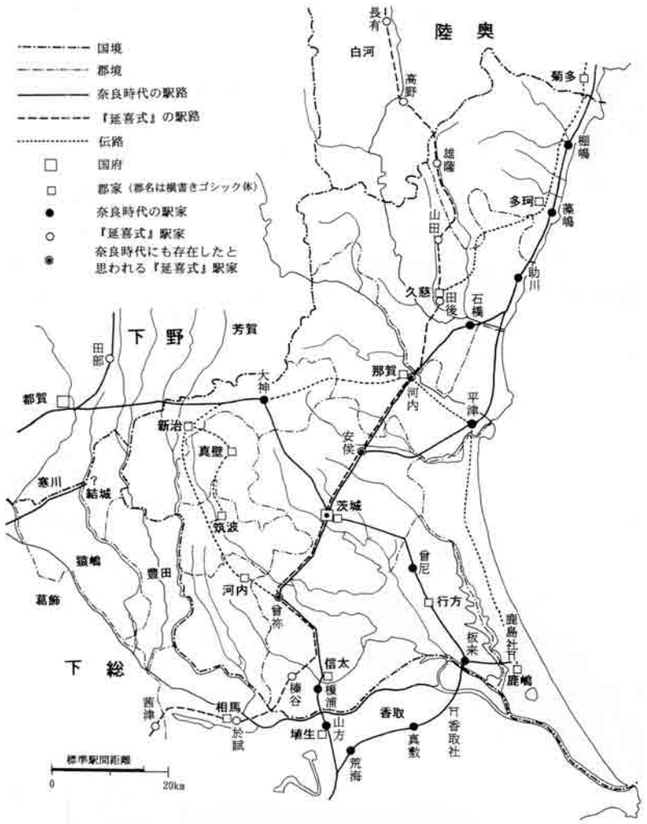


第58図　台渡里廃寺跡長者山地区出土重弧文軒平瓦

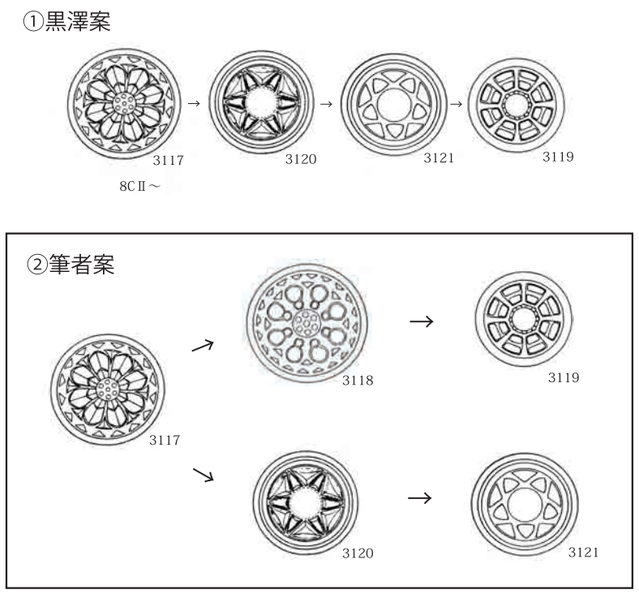
とされる軒丸瓦の１群及び「無文」・「格子叩き文」・「菱文」の各軒平瓦，無段式丸瓦，凸面に格子叩きを施す平瓦が主体的となるのに対して，官衙域である長者山地区（郡衙正倉院）では，「多賀城系」とされる軒丸瓦の1群や「重弧文」の軒平瓦，有段式丸瓦，凸面ヘラケズリ調整や凹凸両面に糸切痕が残る平瓦が主体的となる。さらに，軒丸瓦にいたっては，寺域・官衙域それぞれで主体的となるものは，一方では全く出土しないことが明らかとなっている（高井　1964，黒澤　1998）。

観音堂山地区創建軒丸瓦3101型式を含む「山田寺系」の祖形である重圏文縁単弁八弁蓮華文軒丸瓦を有する奈良県高市郡明日香村山田寺跡では，重弧文軒平瓦とセット関係があることがわかっている（第57図）。しかし，台渡里廃寺跡においては先にも述べたように重弧文軒平瓦は，「多賀城系」軒丸瓦と同様の出土傾向にある。すなわち，官衙域である長者山地区のみで出土する（第58図）。また軒平瓦顎面は，棒状工具により鋸歯文あるいは波線文が描かれるが，これは山田寺跡出土例にはない。さらに多賀城で重弁文軒丸瓦と重弧文軒平瓦がセット関係であることを考慮すれば，これは重弁文軒丸瓦とともに那賀郡に取り入れられたと考えて間違いないであろう。したがって今回出土した重弧文軒平瓦も「多賀城系」に位置づけることができると考える。

以上のことから，那賀郡においては瓦の製作技法からみて，郡衙周辺寺院が官衙に先行して瓦葺建物の造営が行われていることは間違いな



第59図　常陸国古代交通路



第60図　多賀城系軒丸瓦変遷図

く，さらには官衙と寺院で軒瓦の瓦当文様を意図的に使い分けている様子がうかがえる。また，瓦の製作技法にも差があることから，寺院と官衙ではそれぞれ別に瓦を製作する生産地及び製作集団を抱えていた可能性を指摘できるであろう[2)]。

（２）出土瓦にみる大串遺跡第７地点の性格

次に大串遺跡第7地点にて検出された遺構群（建物群）の性格について考えてみたい。出土瓦は「多賀城系」軒瓦や有段式丸瓦，凸面ヘラケズリ調整や凹凸両面に糸切痕が残る平瓦が主体的であり，正倉と考えられる遺構の確認や炭化米が出土することなど，台渡里廃寺跡長者山地区の特徴と一致していることからも官衙関連遺跡であるとみてよい。現地説明会資料では当該地点は，水戸市教育委員会によって常陸国那賀郡の郡衙正倉別院との理解が示された（水戸市教育委員会　2007）。しかし筆者は，これらをこの付近に推定されている『常陸国風土記』記載の平津駅家（第59図）に関連する遺構として考えている（木本挙周　2008，川口　2008）。

那賀郡衙正倉院と考えられる台渡里廃寺跡長者山地区は，水戸市教育委員会によって継続的に調査が行なわれており，区画溝の覆土より灰釉陶器の瓶類が出土していることから９世紀後葉頃までには埋没していたと考えられている。ところが，大串遺跡第７地点で確認されたSD03などの官衙に関連する溝は，９世紀前葉頃までに埋め戻されていることが確認された。仮に当該地点が，郡衙の支所的な役割を果たす郡衙正倉別院と考える場合，郡衙正倉院である台渡里廃寺跡長者山地区と廃絶期が異なることに疑問を感じる。

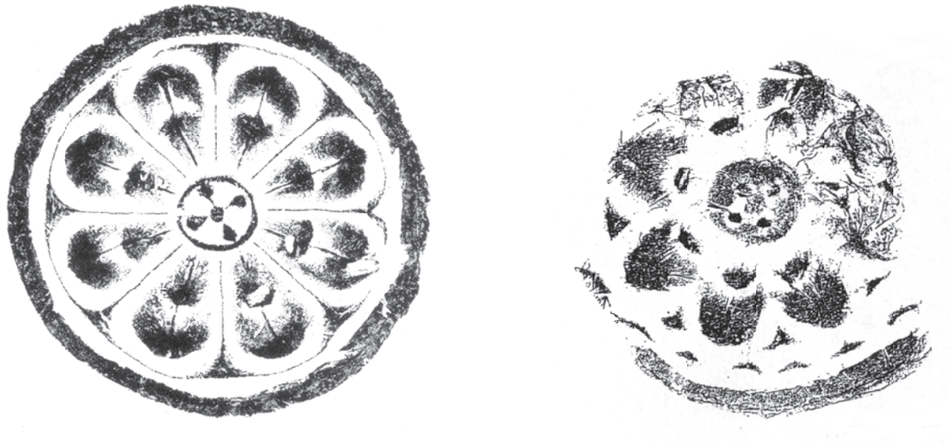
一方，河内駅家に推定されている田谷廃寺跡（伊東　1975，黒澤　1998）では当該地点同様に同文の「多賀城系」軒瓦3121型式が出土しており，同じく「駅」である平津駅家にも瓦葺正倉が存在していた可能性が高い。さらに，水戸市酒門町にある町付遺跡では，平成19年度に行われた共同住宅建築に伴う発掘調査の際に大串遺跡第７地点に向かって伸びる伝路とみられる道路状遺構が確認されていることなどからも（川口　2008），当地点の遺構群は平津駅家に設置された正倉院と理解する方が妥当であると筆者は考える。後述のとおり，平津駅家の記載が和名類聚抄にみえないことも当該地点における遺構の廃絶時期と整合性があることを考えればうなずける。

（３）3121型式の年代観（試論）

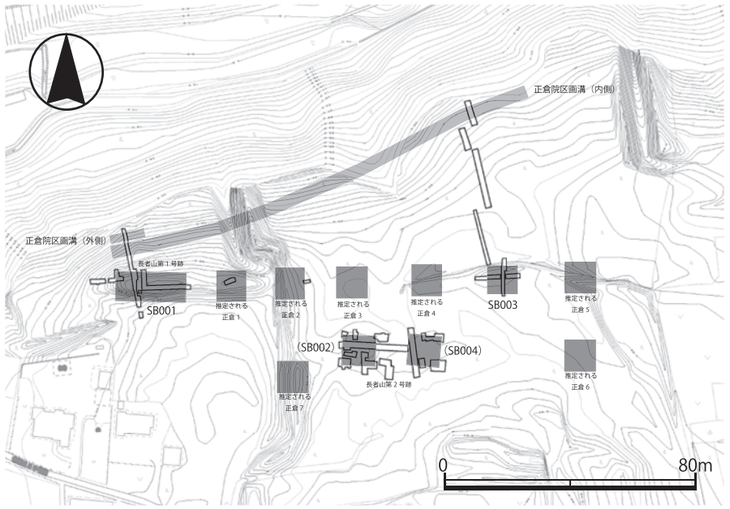
当該地点出土の3121型式は，第60図にあるように「多賀城系」の重弁八葉蓮華文軒丸瓦3117型式から，3120型式を経て文様変化したと考えられる。「多賀城系」軒丸瓦導入の契機は，高井悌三郎氏（高井　1964）や黒澤彰哉氏（黒澤　1998）が那賀郡大領・宇治部直荒山による陸奥国鎮所への軍粮献納に対する恩賞の一つとして，那賀郡に導入されたものと指摘する。さらに，黒澤氏はその年代を，森郁夫氏が台渡里廃寺跡出土郷里名文字瓦を郷里制廃止の天平十二年（740）以前としたことを受け（森　1973），養老七年（723）から天平十四年（740）までの間とした。

他方，須田　勉氏は多賀城Ⅰ期の文字瓦生産システムに那賀郡家の瓦生産システムが伝播したと逆の経路を推定する（須田　2005a・2005b）。この須田説に対して山路直充氏は，3117型式の祖型を多賀城創建期の単弁八弁蓮華文軒丸瓦（第61図）であるとし，瓦当文様の型式変化から郡山遺跡→多賀城→那賀郡家とするほうが自然であると反論した（山路 2005）。山路氏は，郷里の記銘された文字瓦は，那賀郡司が多賀城の造営システムに習い，郡家の瓦葺正倉造営時にその負担を郡内の諸郷に求めたためと考えている。瓦当文様の系譜関係からすれば，高井・黒澤・山路各氏の見解が穏当であろう。すると，多賀城と深い関係である常陸国那賀郡への「多賀城系」軒丸瓦の祖形と考えられる3117型式の導入は，ともに屋根に葺かれていたと思われる文字瓦から８世紀第２四半期頃であり，3117型式から文様変化していると考えられる3121型式の上限はこれ以降の年代が与えられることになる。

さて，那賀郡の官衙遺跡，特に正倉に「多賀城系」軒瓦の3121型式が用いられている歴史的背景としては，平安時代初頭から前期にかけて，大規模に行われた蝦夷征討（対蝦夷政策）があげられる。蝦夷征討に伴い多量の軍事物資輸送の必要性が生じ，常陸国はじめ東国の駅家に正倉が造営されるようになったと考えられるからである[3)]。平津



第61図　多賀城出土軒丸瓦(左)と台渡里廃寺跡長者山地区出土3117型式軒丸瓦(右)
（『平成18年度　台渡里廃寺跡長者山地区－範囲確認調査現地説明会資料－』より転載）



第62図　長者山地区正倉配置図
（『平成18年度　台渡里廃寺跡長者山地区－範囲確認調査現地説明会資料－』より転載）

駅家自体に関しては『常陸国風土記』に記載されていることから，これが成立した養老五年（721）頃には既に駅家として機能していたのであろう。しかし，常陸国那賀郡における「多賀城系」軒丸瓦の祖形である3117型式は大串遺跡第7地点，また田谷廃寺跡でも現時点では出土していない。これは，少なくとも常陸国那賀郡における駅家に設置された正倉の本格的な瓦葺化[4]が郡衙正倉院である台渡里廃寺跡長者山地区よりも遅れることを示している。

3121型式は第60図下段のように，3117型式から3120型式を挟んで様式変遷すると考えられる。その年代の上限を考えるうえで筆者が注目したいのが，天応元年（781）の那賀郡大領・宇治部全成による軍粮献納である。宇治部全成はおそらく宇治部直荒山の子か孫であろう。この那賀郡大領・宇治部全成による軍粮献納の頃は，対蝦夷政策が本格化する時期であり，それに伴い正倉の整備が行われ，3121型式が導入されたのではないだろうか。その後，いわゆる徳政論争による藤原緒嗣の提言によって桓武天皇は延暦24年（805），蝦夷征討である軍事と平安京造営の造作を中止する。その後，平津駅家の名が和名類聚抄に無く，駅家としての機能が廃絶されたことは，蝦夷征討が中止となった為に，多賀城へ多量の軍事物資輸送の必要がなくなったためと想像できるだろう。これは当該地点の官衙関連遺構の廃絶年代とも大差ない。以上のことから「多賀城系」軒瓦である3121型式の年代は，781年～805年頃と推定したい。

（４）文字瓦

当該地点からは，文字瓦が5点出土している。第42図-25の「小川里」銘文字瓦は，台渡里廃寺跡長者山地区からも同様の文字瓦の出土が確認されている。「小川里」は，現在の茨城県常陸大宮市（旧緒川村）付近であると推定される。第42図-24は凹面側に「マ（部）」と記銘されているようにみえるが，一文字だけで構成されていたのか，分割により失われてしまったのかは不明である。第42図-21は凸面に「上」の文字が押印されたもので，那賀郡内では出土例がなく初見である。那賀郡における出土文字瓦のうち，押印のものは郷名のものがほとんどであることから，「石上郷」を示している可能性を指摘しておきたい。第49図-４は凹面側にヘラ書き文字の一部がみられる。第37図-８はヘラ書きによる数字の「十」とみられる。第37図-９は他の資料とは異なる墨書瓦である。墨書は２文字あり，おそらく「廣嶋」であると思われる[5]。那賀郡の「廣嶋郷」を指すものと考えられるのではないだろうか。仮に郷名である場合，その性格や那賀郡内で多数出土が確認されているヘラ書きによるものとの違いを今後検討していかなければならない。なお，『茨城県史料　考古資料編　奈良・平安時代』に同様の墨書瓦が，台渡里廃寺跡においても出土しているとの記載があるが，詳細は不明である。

（木本）

４－４　課題と展望

今般の調査により，正倉院に関連する遺構が多数確認された。また，正倉院造営以前の古墳時代終末期～奈良時代前葉の集落も確認された。竪穴建物SI01は7世紀末葉に位置づけられる一辺が8.7mもあると推定される大型の竪穴建物で，人為的に埋め戻されていたことから，正倉院の造営に伴い埋め戻された可能性が高い。また，竪穴建物SI02は８世紀第Ⅰ四半期頃に位置づけられるものであるが，掘立柱建物SB04に切られる形で検出されており，両遺構は正倉院の造営年代の上限を示す有力な手がかりと言えよう。

正倉院に関連する遺構のうち掘立柱建物跡SB04は，束柱が確認されたことから，低い板張りの床を持つ構造の床束建物であり，柱抜取り穴から炭化米が出土したことから，穎稲等を収納しておく穎屋あるいは，倉の代用として建築された上床の建物である倉代の可能性が高いことが判明した。これにより，正倉院に営まれた床束建物が，穎屋あるいは倉代として機能していたと推定できるようになったことは地方官衙における穎穀収取の実態を考えるうえで大変大きな成果である。

床束建物SB04の東側に構築された区画溝SD03からは，炭化米が塊状で検出され，粒の並びを詳細に観察した結果，一定方向に並ぶことから，炭化した穎稲であることが明らかとなった。調査後には塊のまま取り上げ，保存・強化処理を行い，展示資料として活用できる状態にした。穎稲を塊の状態で取り上げ・保存に成功したのは国内では初めての例である。

また，区画溝SD01およびSD03からは那賀郡衙正倉本院と理解されている台渡里廃寺跡長者山地区と共通する軒先瓦や文字瓦が少量，出土しており，那賀郡では郡衙正倉本院のみならず，郡衙正倉本院以外の官衙遺跡にも熨斗棟あるいは甍棟の瓦葺建物を採用していたことが明らかとなった。しかしながら，部分的な調査であるため，課題も多く残された。以下，課題を列挙してみる。

まず，今般の報告は介護老人保健施設のうち，建物が建設される部分を対象としたものであるが，同時期に水戸市

教育委員会が駐車場として盛土保存される部分について，保存目的の確認調査を実施している（渥美・木本　2007，木本挙周　2008，川口　2008，水戸市教育委員会　2007）。水戸市教育委員会の調査区は，今般の調査区の南東部分に設定されたものであるが，正倉とみられる掘込総地業による礎石建物３棟のほか，その周辺や下層から掘立柱建物も多数確認されており，正倉院がさらに東側に展開している状況が確認されている。

さらに，当該地点の東方畑地からは集中して文字瓦が出土する地点があり，台渡里廃寺跡長者山地区で確認されているSB001のような法倉の存在も推定されている（木本挙周　2008）。このような隣接地点の状況や遺構の検出状況から，正倉院本体がさらに東方へ展開する事はほぼ間違いなく，確認された官衙関連遺構はその大部分が遺跡外に広く展開していることは想像に難くない。今後，水戸市教育委員会の調査で確認された遺構群も対象として，空間的な検討を行うとともに，官衙遺構の造営過程についても詳しく検討していく必要がある。

遺物については，区画溝SD01およびSD03から那賀郡衙正倉本院と理解されている台渡里廃寺跡長者山地区と共通する軒瓦や文字瓦が少量出土しており，それらが葺かれた建物の性格や年代観について考察したが，今般の調査区で確認された遺構は掘立柱建物であり，瓦が葺かれた建物とは考えにくい。また，水戸市教育委員会による調査で確認された正倉とみられる礎石建物3棟からも瓦は殆ど出土していない。今後，瓦が葺かれた建物を特定していくとともに，非瓦葺建物と瓦葺建物の配置なども検討していく必要がある。

また，本章では木本挙周氏によって，当地点の遺構群が平津駅家に設置された正倉院としての理解が示されたが，常陸国では笠間市（旧岩間町）東平遺跡（安侯駅家推定地），日立市長者山遺跡（藻島駅家推定地）のように駅家推定地から穀倉が検出される事例が増えており（黒澤・海老澤・川口・渥美　2001，片平　2007），こうした事例については，駅家と郡衙正倉別院が複合している可能性も指摘されている（山中　2006b，木本雅康　2008）。正倉院が駅家に付随すると理解するのか，郡衙正倉別院と駅家が複合していると理解するのか遺跡の性格についても，今後検討していく必要がある。

以上に挙げた課題をひとつずつ克服していくことにより，大串の台地に展開した官衙遺跡の往事の姿を復元していくことが可能となるだろう。

（川口）

註

1)　那賀郡内における瓦の名称については（黒澤　1994）に準拠した。

2)　那賀郡における寺院と官衙にみられる瓦の相違は，寺院に供給する瓦を在地の製作集団が，官衙に供給する瓦を多賀城での生産システム（あるいは多賀城造営に関わった工人そのものが那賀郡に派遣及び帰還・招聘など）が導入された製作集団と分業して請け負っていたためとも推定できる。

3)　正倉別院としての機能も併せ持っていた可能性は充分に考えられる。

4)　大串遺跡第7地点の東方畑地に「乙万呂」や「占色万呂」などの人名文字瓦，「禾」などの押印文字瓦がまとまって出土する地点がある。那賀郡衙正倉院である台渡里廃寺跡長者山地区では，　SB001という桁行が20mを超える法倉とみられる礎石建物から同様の文字瓦が多数出土していることから，当地点においても法倉のような建物の存在が推定される（木本挙周　2008）。台渡里廃寺跡長者山地区の文字瓦には，「阿波郷大田里」のような表記を持つものがあることから，郷里制施行期（714年～742年）の所産とみられ，大串遺跡においても同時期に法倉が瓦葺化された可能性が高いと考えている。

5)　特殊光撮影は，有限会社三井考測の三井 猛氏のご厚意によるものである。また，文字の釈読は独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所史料調査室の馬場　基氏，山本　崇氏，浅野啓介氏，甲子園女子短期大学の木本好信氏，藤沢市教育委員会の荒井秀規氏，群馬県埋蔵文化財調査事業団の高島英之氏の御教示によるものである。また，早稲田大学文学学術院の川尻秋生氏からは「廣山■」という人名の可能性も御指摘頂いた。

附編　正倉院区画溝SD03出土炭化米の保存・強化処理

正倉院区画溝SD03の覆土上層から炭化米が多数出土した。炭化米の多くは散漫に出土していることから，脱穀を経た穀稲とみられるが，調査区の南端に近い地点でブロック状に集中して出土する箇所が確認された。調査期間中に独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所文化遺産部の山中敏史氏を招聘し，現地で指導・助言を仰いだところ，炭化米の粒が同一方向に並んでいることから頴稲である可能性が高いことを御教示いただくとともに原状のまま取り上げ，展示資料として活用できるよう保存・強化処理等を行うべきであるとの助言を頂戴した。水戸市域ではこれまで台渡里遺跡（24次）調査の際に正倉院の区画溝から炭化米が多数検出され，取り上げに成功したが炭化米の粒の方向が不均一であることから，穀稲である可能性が高いことが判明している（小川・大渕・川口・松谷　2006）。従って，頴稲は水戸市域では初めての出土例となり，全国的にも取り上げに成功した例はないことから，原状のまま取り上げ，調査後に展示等で活用できるよう，保存・強化処理を行うことにした。保存・強化処理は，国・県費補助による平成19年度市内遺跡発掘調査事業の委託費を用いて，株式会社京都科学工芸部製作課に業務委託した。

（川口）

（１）炭化米の取り上げ方法

正倉院区画溝SD03から出土した炭化米は，台渡里遺跡（24次）調査の方法を用いて取り上げた。まず，炭化米のブロックの周囲の土壌を13cmほど掘り下げ，20cm×15cmのタワーを作成した。その後，ワイヤーを用いてタワーの底面を切り，厚さ1.1cmのベニヤ板を組み合わせた木枠をタワーの上から被せる。そしてワイヤーで切って生じた隙間にタワーと同じ大きさに切った厚さ0.2cmのベニヤ板を滑り込ませ，ブロックを取り上げる。そして，底面から厚さ1.1cmのベニヤ板を木枠に組み合わせ，底面の強化を図った。

この方法で，20cm×15cm×13cmのブロックを取り上げることに成功したが，土壌の水分が徐々に抜けていくため，保存・強化処理を行うまで，定期的に霧吹きなどで水分を与え，日の当たらない棚の中に保管した。

（川口）

（２）保存・強化処理の方法と工程

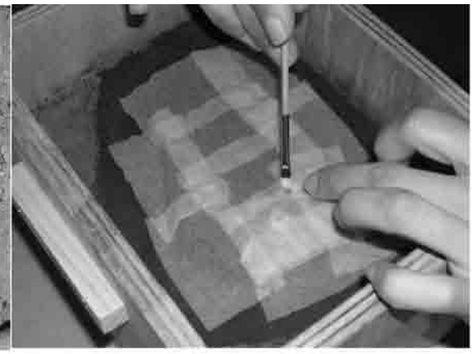
保存・強化処理は株式会社京都科学工芸部製作課に運び込み実施した。まず，サンプルとして採取した炭化米および土壌で保存強化・処理を試験的に実施し，保存・強化できることを確認したうえで実施した。

今回，取り上げた炭化米のブロックは，厚さが13cmもあるため，表面強化に使用する薬剤（アクリル樹脂パラロイドＢ72，キシレン5％・10％・20％溶液）の浸透は困難であると判断された。そこで，厚さを１cmまで減少させるために，炭化米の表面を筆と綿棒を用いてクリーニングし，養生を行い，木枠を開梱した。

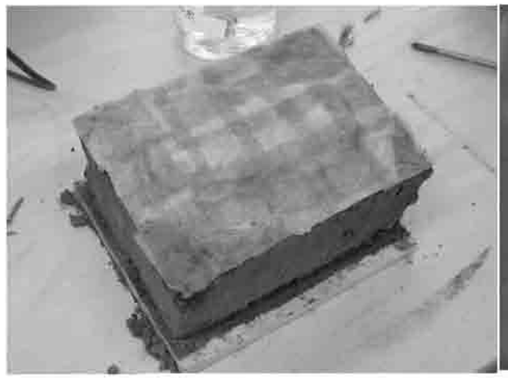
そして，発砲ウレタンを用いて表面を丁寧に梱包し，表面が崩れないように養生した後，反転して裏面に堆積している土壌を丁寧に除去していった。除去の段階で確認された炭化米については，今後の研究・分析試料として活用できるため，出来る限り採取した。厚さ1.0cmまで裏面の土壌を除去した段階で裏面から強化樹脂を塗布し，裏打ち補強を行ってから裏面のベース補強を行った。そして再反転し，養生の為に用いた発砲ウレタン等を除去し，疑土の作成を行い，最終的に長さ21cm，奥行き16cm，厚さ3.5cmのアクリル製の支持台に固定し，展示・活用できるようにした。

（株式会社京都科学）

1.　処理前



2.　表面養生



3.　木枠開梱

4.　反転準備

5.　発砲ウレタン梱包

6.　反転後

写真２　保存・強化処理の工程(1)

7.　裏面土除去(1)

8.　裏面土除去(2)

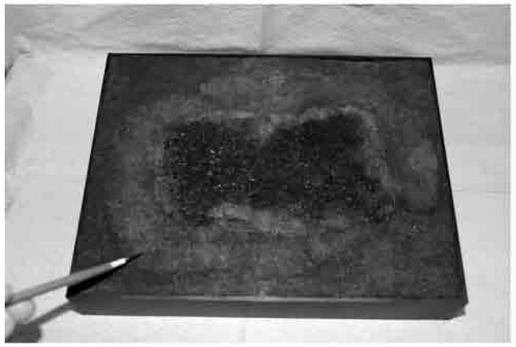
9.　裏面からの樹脂塗布

10.　裏打ち補強

11.　裏面ベース補強

12.　再反転後

写真３　保存・強化処理の工程(2)



13. 疑土作成

14. 処理後

写真４　保存・強化処理の工程(3)

依頼先	水戸市教育委員会	担当者	川口武彦　様	製番	TA710025	処理番号	－	搬入日	－
遺跡名	大串遺跡	資料名	炭化米	総点数	1	樹種など	－	搬出日	－

処理項目	処理項目
搬入先・作業場所	社内
処理前記録	デジタルカメラ
クリーニング	筆・綿棒などを使用
強化処理使用薬剤	アクリル樹脂（パラロイドB72)キシレン5％・10％・20％溶液を適宜使用
養生・反転作業	発砲ウレタンを使用
支持台・擬土作製	アクリル板・エポキシ樹脂・アクリル樹脂・木綿・残土
処理後記録	デジタルカメラ

引用・参考文献

渥美賢吾　2004　「第7章　2. 土器」『台渡里廃寺跡―集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告―』水戸市教育委員会

渥美賢吾・吉澤　悟　2003　「二つの『灰釉』短頸壷」『婆良岐考古』第25号　婆良岐考古同人会

渥美賢吾・木本挙周　2007　『海のみえる丘の正倉院―大串遺跡第7地点出土遺物特別陳列―（展示解説リーフレット)』水戸市教育委員会

伊東重敏　1975　『水戸市田谷廃寺跡出土古瓦雑考』常陸考古学研究所

伊東重敏　1976　『大六天古墳』常澄村教育委員会

井上義安　1989　『大串遺跡（仮称）大串貝塚周辺におけるふれあいのまちづくり事業計画予定地の調査報告』茨城県常澄村教育委員会

井上義安　1991　『大串貝塚』茨城県常澄村教育委員会

井上義安　1994　『水戸市大串遺跡　市道常澄8―1495号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市

井上義安　1995a　『水戸市梶内遺跡　市道常澄7―0057号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市

井上義安・千葉隆司　1995　『水戸市北屋敷古墳　市道常澄6―0008号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市

井上義安・金子浩昌　1996　『水戸市大串遺跡　常澄中学校増改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市

井上義安・蓼沼香未由・仁平妙子・根本睦子　1998　『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書　平成10年度版』水戸市教育委員会

井上義安・千葉隆司　1995　『水戸市台渡里廃寺跡　都市計画道路3・6・30号線埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市台渡里廃寺跡発掘調査会

茨城県教育委員会　2000　『茨城県遺跡地図』

茨城県教育財団　1993　『現地説明会資料　水戸市常澄地区梶内遺跡』

内山俊身　1998　「征夷事業における軍事物資輸送について―関東の二大河川水系の問題から―」『茨城県立歴史館報』第25号　茨城県立歴史館

黒澤彰哉・海老澤稔・川口武彦・渥美賢吾　2001　『茨城県岩間町　東平遺跡発掘調査報告書―推定安候駅家跡―』岩間町教育委員会，東平遺跡発掘調査会

大橋泰夫　1999　「古代における瓦倉について」『瓦衣千年―森郁夫先生還暦記念論文集―』森郁夫先生還暦記念論文集刊行会

小川和博・大渕淳志・川口武彦・松谷暁子　2006　『台渡里遺跡 ―集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

梶山雅彦　1993　『一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　中ノ割遺跡・小山遺跡・諏訪前遺跡・高原古墳群・沢幡遺跡・高原遺跡・北屋敷遺跡』財団法人茨城県教育財団

樫村宜行　1995　『一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　梶内遺跡』建設省・財団法人茨城県教育財団

片平雅俊　2007　「古代道路跡と藻島駅家跡比定地の調査―日立市十王町伊師所在　藻島駅路跡・長者山遺跡―」『考古学ジャーナル』566号　ニュー・サイエンス社

川井正一　2004　「常陸国」『日本古代道路辞典』八木書店

川口武彦・小川和博・大渕淳志　2002　『水戸市元石川町所在　小仲根遺跡発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

川口武彦・小松崎博一・新垣清貴編　2005　『台渡里廃寺跡―範囲確認調査報告書―』水戸市教育委員会

川口武彦　2005　「常陸国那賀郡における郡衙と周辺寺院―国指定史跡「台渡里廃寺跡範囲確認調査成果を中心に―」『地方官衙と寺院―郡衙周辺寺院を中心として―』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

川口武彦　2008　「茨城県水戸市台渡里廃寺跡長者山地区　大串遺跡第７地点」『アヅマの国の道路と景観―古代交通研究会第14回大会資料集―』古代交通研究会

川崎純徳・鈴木素行・吹野富美夫　1986　『大串貝塚』常澄村教育委員会

川尻秋生　1997　「古代東国の外洋交通」『歴史学研究』703号　歴史学研究会

瓦吹　堅　1991　「水戸市台渡里廃寺覚書Ⅲ―観音堂山・南方・長者山地区の性格について―」『婆良岐考古』第13号　婆良岐考古同人会

岸本直文　1992　「茨城県水戸市出土の三角縁神獣鏡」『考古學雑誌』78―1　日本考古學會明―』第一法規出版

木下　良　1984　「常陸国古代駅路に関する一考察」『國學院雑誌』85巻1号　國學院大學

木本挙周　2008　「水戸市大串遺跡第7地点出土文字瓦の検討」『帝塚山大学大学院人文科学研究科紀要―発刊10周年記念号―』第10号　帝塚山大学大学院人文科学研究科紀要編集委員会

木本雅康　2008　『遺跡からみた古代の駅家』山川出版社

黒澤彰哉　1988　「常陸における古代寺院の一考察―各郡の造瓦活動を中心として―」『婆良岐考古』第10号　婆良岐考古同人会

黒澤彰哉　1994　『学術調査報告書Ⅳ　茨城県における古代瓦の研究』茨城県立歴史館

黒澤彰哉　1998　「常陸国那賀郡における寺と官衙について」『茨城県立歴史館報』第25号　茨城県立歴史館

黒澤彰哉　2000　「台渡廃寺と那賀郡衙」『文字瓦と考古学』国士舘大学実行委員会

郡司良一　1973　「常澄村森戸発見の底部穿孔土器」『茨城考古学』5　茨城考古学会

志田諄一　1985　「蝦夷経営と常陸国」『茨城県史』（原始古代編）　茨城県

須田　勉　2005a　「多賀城様式瓦の故地」『古代東国の考古学』慶友社

須田　勉　2005b　「多賀城様式瓦の成立とその意義」『国士館大学文学部人文学会紀要』第37号　国士館大学文学部人文学会

高井悌三郎　1964　『常陸台渡廃寺跡・下総結城八幡瓦窯跡』茨城県教育委員会

東京国立博物館　1980　『東京国立博物館図版目録（古墳・関東篇１）』

中村太一　1994　「古代東国の水上交通―その構造と特質―」『古代東国の民衆と社会』名著出版

中村太一　1996　『日本古代国家と計画道路』吉川弘文館

森　郁夫　1973　「奈良時代の文字瓦」『日本史研究』136号　日本史研究会

水戸市教育委員会　2006　『平成18年度茨城県指定史跡　台渡里廃寺跡長者山地区―範囲確認調査現地説明会資料―』

水戸市教育委員会　2007　『大串遺跡第7地点現地説明会資料』

水戸市教育委員会　2008　『平成19年度　台渡里廃寺跡長者山地区―範囲確認調査現地説明会資料Ⅱ―』

山路直充　2005　「文字瓦の生産―七・八世紀の坂東諸国と陸奥国を中心に―」『文字瓦と古代日本３―流通と文字―』吉川弘文館

山中敏史　1994　「第四節　正倉の構造と機能」『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房

山中敏史　2003a　『古代の穎穀収取に関する考古学的研究　平成12年度～平成14年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書』山中敏史

山中敏史　2003b　「Ⅵ-4　床束建物と床束」『古代の官衙遺跡　Ⅰ　遺構編』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

山中敏史　2006a　「地方官衙と周辺寺院をめぐる諸問題―氏寺論の再検討―」『地方官衙と寺院―郡衙周辺寺院を中心として―』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

山中敏史　2006b　「古代地方官衙と交通―共同研究『郡・評と交通』に寄せて―」『官衙と交通―古代交通研究会第13回大会資料集―』古代交通研究会

山中敏史　2007　「Ⅰ　古代官衙建物の諸属性　2建物の形式（4）床束建物」『古代官衙の造営技術に関する考古学的研究　平成15年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書』山中敏史

吉川明宏　1991　「常澄村森戸出土の人物埴輪片」『年報』10　財団法人茨城県教育財団

付表１．土器観察表

遺構	挿図番号	種別	口径	器高	底径	胎土・色調	手法の特徴	備考
SI01	第９図1	土師器 坏	12.6	4.3	2.0	海綿骨針・石英・長石を含む にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、 内面ヘラナデ	赤彩 1/2残存
	第９図2	土師器 坏	12.4	4.1	4.0	黒色粒子・石英・長石を含む 浅黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面ヘラナデ、底部木葉痕	黒色処理 1/3残存
	第９図3	土師器 坏	12.8	4.0	4.0	雲母・スコリア・石英・長石を含む にぶい褐色	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、 内面ナデ	ほぼ完形品
	第９図4	土師器 坏	12.0	4.3	1.5	チャート・黒色粒子・石英・長石を含む 明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、 内面ナデ	赤彩 口縁1/3欠損
	第９図5	須恵器 蓋	15.0	(2.9)	-	黒色粒子・石英・長石を含む 灰白色	ロクロ成形、内面カエリ	木葉下産ヵ 口縁1/3残存
	第９図6	須恵器 高坏	-	(3.8)	9.2	黒色粒子・石英・長石を含む 灰色	ロクロ成形、坏部貼付	木葉下産ヵ 脚部破片
	第９図7	須恵器 高坏	-	(2.6)	14.6	黒色粒子・石英・長石を含む 灰色	ロクロ成形	木葉下産ヵ 底部1/4残存
SB04	第17図3	土師器 坏	13.6	(2.8)	-	石英・長石を含む 浅黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、 内面ナデ	黒色処理 口縁1/8残存
	第17図4	須恵器 甕	-	-	-	黒色粒子・石英・長石を含む 灰色	円板再利用　周縁打欠き	円板 胴部破片
SB08	第26図1	土師器 坏	-	-	-	黒色粒子・石英・長石を含む 浅黄橙色	ロクロ成形、内面ヘラミガキの後内黒処理	黒色処理　墨書土器 口縁部破片
	第26図2	土師器 坏	-	(1.2)	6.6	黒色粒子・石英・長石を含む 橙色	ロクロ成形、底部回転ヘラ切りヘラケズリ、 内面ヘラミガキ・黒色処理	黒色処理 底部1/4残存
	第26図3	土師器 高台付坏	-	(2.6)	-	海綿骨針・石英・長石を含む 橙色	ロクロ成形、外面体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラ切り、高台貼付、内面ヘラミガキ・黒色処理	底部1/4残存
	第26図4	須恵器 坏	-	(3.2)	7.2	石英・長石を含む 灰色	ロクロ成形、底部手持ちヘラケズリ、ヘラ記号「廾」	木葉下産ヵ 底部残存
	第26図5	須恵器 高坏	-	(2.1)	-	黒色粒子・石英・長石を含む 灰色	ロクロ成形、脚部貼付	脚接合部残存
SI02	第32図1	土師器 甕	24.6	(5.0)	-	黒色粒子・石英・長石を含む 橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、 内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	口縁1/8残存
	第32図2	須恵器 坏	13.2	4.4	6.6	黒色粒子・石英・長石を含む 褐灰色	ロクロ成形、外面体部下端手持ちヘラケズリ	木葉下産ヵ 口縁部破片
SI03	第34図1	土師器 甕	12.0	17.8	2.5	海綿骨針・チャート・石英・長石を含む にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、 内面口縁部ヨコナデ、体部ナデ	外面スス付着 体部1/3欠損
	第34図2	須恵器 坏	15.4	4.8	9.6	チャート・黒色粒子・石英・長石を含む 灰白色	ロクロ成形、底部回転ヘラ切り	木葉下産ヵ 口縁1/4・底面2/3残存
	第34図3	須恵器 坏	15.0	4.0	9.6	海綿骨針・石英・長石を含む 灰色	ロクロ成形、外面体部下端手持ちヘラケズリ、 底部回転ヘラ切りのち手持ちヘラケズリ	木葉下産ヵ 1/2残存
	第34図4	須恵器 坏	15.0	3.9	5.5	雲母・石英・長石を含む にぶい黄橙色	ロクロ成形、底部回転ヘラケズリ	新治産 1/2残存
	第34図5	須恵器 坏	-	(3.2)	2.0	雲母・石英・長石を含む 灰白色	ロクロ成形、外面底部ヘラケズリ	新治産 口縁欠損
	第34図6	須恵器 蓋	17.4	4.1	3.3	海綿骨針・黒色粒子・石英・長石を含む 灰白色	ロクロ成形、ツマミ貼付	木葉下産ヵ 口縁1/2残存
	第34図7	須恵器 甕	19.8	(31.1)	5.0	黒色粒子・石英・長石を含む 緑黒色	外面ナデ・平行タタキ、内面ヘラナデ	自然釉　口縁1/4・底部 1/2残存、体部一部残存
SD01	第37図10	須恵器 蓋	16.2	3.7	ツマミ3.0	海綿骨針・黒色粒子・石英・長石を含む 灰オリーブ色	ロクロ成形、天井部回転ヘラケズリ、 ツマミ貼付	木葉下産ヵ 口縁1/4残存
	第37図11	須恵器 甕	24.4	(5.3)	-	海綿骨針・黒色粒子・石英・長石を含む 灰黄色	ロクロ成形	木葉下産ヵ 口縁1/5残存
SD03	第43図33	須恵器 高台付坏	19.0	7.2	12.1	海綿骨針・黒色粒子・石英・長石を含む 灰色	ロクロ成形、外面体部下端回転ヘラケズリ、 底部回転ヘラ切り、高台貼付	木葉下産ヵ 口縁1/8・高台1/3残存
	第43図34	須恵器 高台付坏	-	(2.5)	9.2	海綿骨針・石英・長石を含む 灰色	ロクロ成形、外面体部下端回転ヘラケズリ、 底部回転ヘラ切り、高台貼付	木葉下産ヵ 底部1/2残存
	第43図35	須恵器 蓋	-	(2.1)	ツマミ4.0	雲母・石英・長石を含む 灰色	ロクロ成形、天井部回転ヘラケズリ、 ツマミ貼付	新治産 口縁部欠損
	第43図36	須恵器 蓋	15.6	(2.4)	-	海綿骨針・石英・長石を含む 灰色	ロクロ成形、天井部回転ヘラケズリ	木葉下産ヵ 1/4残存
	第43図37	須恵器 瓶	-	(6.5)	9.4	石英・長石を含む 灰色	ロクロ成形	木葉下産ヵ 底部1/4残存
	第43図38	土師器 壺	-	(3.0)	3.4	黒色粒子・石英・長石を含む 明赤褐色	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ、底部ヘラナデ	4世紀後半ヵ 底部残存
SD02	第49図7	土師器 甕	-	(4.7)	6.6	チャート・黒色粒子・石英・長石を含む にぶい黄褐色	外面ヘラナデ、内面ヘラナデ、底部ヘラナデ	4世紀後半 底部残存
	第49図8	須恵器 高台付坏	-	(2.1)	8.2	海綿骨針・チャート・石英・長石を含む にぶい赤褐色	ロクロ成形、外面体部回転ヘラケズリ、底部 回転ヘラ切り、高台貼付	木葉下産ヵ 底部残存
	第49図9	古瀬戸 灰釉平碗	15.0	(5.0)	-	石英・長石を含む 浅黄色	ロクロ成形、内外面灰釉	15世紀代 口縁部1/8残存
SK02	第53図2	須恵器 甕	-	(4.2)	9.0	黒色粒子・石英・長石を含む 灰色	ロクロ成形、外面体部下端手持ちヘラケズリ	木葉下産ヵ 底部1/10残存
SK04	第53図3	須恵器 ―	-	-	-	海綿骨針・石英・長石を含む 灰色	ロクロ成形	木葉下産ヵ 破片

付表２．瓦観察表

挿図番号	遺構番号	種類	長さ（ｃｍ）	幅（ｃｍ）	厚さ（ｃｍ）	側面幅（ｃｍ）	端部幅（ｃｍ）	面取幅（ｃｍ）	重量（ｇ）	凸面	凹面	狭端部	広端部	側面部	胎土鉱物	色調	焼成	備考	注記
第17図１	ＳＢ04	平瓦	【10.7】	【10.0】	1.6	1.2	1.1 1.6	0.2 0.7	208	粗い縄叩き痕	糸切痕＋布目痕	不明	横方向ヘラケズリ	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・チャートを含む	灰黄色(2.5Y6/2)	硬質		ミ176-7, SB04P10-1
第17図２	ＳＢ04	平瓦	【6.7】	【6.75】	1.8	1.4	1.5 1.6	不明	92	糸切痕+縦方向のヘラケズリ	糸切痕＋不正方向のヘラケズリ	横方向ヘラケズリ	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・チャートを含む	灰色(5Y5/1)	硬質		ミ176-7, SB04P7-1
第34図８	ＳＩ03	丸瓦	【8.1】	【8.6】	1.8	不明	不明	不明	144	横方向のナデ	布目痕+輪積み痕	不明	不明	不明	長石・石英・チャートを含む	灰黄色(2.5Y7/2)	軟質	粘土紐巻き上げもしくは輪積み成形による	ミ176-7, SI3-1
第34図９	ＳＩ03	丸瓦	【8.3】	【8.5】	1.9	不明	1.5 1.8	不明	202	横方向のヘラケズリ	布目痕	不明	横方向ヘラケズリ	不明	長石・石英を含む	灰色(7.5Y5/1)	硬質		ミ176-7, SI3-5

挿図番号	遺構番号	種類	瓦当厚（ｃｍ）	瓦当側面幅（ｃｍ）	重量（ｇ）	残存率	胎土鉱物	色調	焼成	備考	注記
第36図１	SD01	三重弧文軒平瓦	2.9	5.1	169	約1/8	石英・長石・チャート・雲母を含む	灰色(5Y6/1)	硬質		ミ176-7, SD1-9

挿図番号	遺構番号	種類	長さ（ｃｍ）	幅（ｃｍ）	厚さ（ｃｍ）	側面幅（ｃｍ）	端部幅（ｃｍ）	面取幅（ｃｍ）	重量（ｇ）	凸面	凹面	狭端部	広端部	側面部	胎土鉱物	色調	焼成	備考	注記
第36図２	SD01	丸瓦	【12.3】	【6.2】	1.8	1.7	不明	不明	287	縦方向のヘラケズリ	布目痕	不明	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・チャート・雲母を含む	淡黄色(2.5Y8/3)	普通	二次焼成(火災)痕か？	ミ176-7, SD1-11
第36図３	SD01	平瓦	【9.9】	【7.6】	1.8	1.6 1.8	不明	不明	153	糸切痕＋指紋	糸切痕＋布目痕	不明	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・チャートを含む	灰黄色(2.5Y7/2)	軟質		ミ176-7, SD1-7
第36図４	SD01	平瓦	【7.9】	【8.1】	1.6	不明	不明	不明	124	糸切痕＋指紋	糸切痕＋布目痕	不明	不明	不明	長石・チャートを含む	灰白色(5Y8/1)	普通		ミ176-7, SD1-4
第36図５	SD01	平瓦	【8.6】	【9.8】	2.4	不明	1.9 2.3	不明	254	縦方向のヘラケズリ	布目痕	不明	横方向ヘラケズリ	不明	長石・石英・チャートを含む	灰色(2.5Y5/1)	硬質		ミ176-7, SD1-10
第36図６	SD01	平瓦	【9.2】	【7.1】	2.4	不明	2.0	不明	150	不整方向のケズリ	布目痕+不正方向のヘラケズリ	不明	横方向ヘラケズリ	不明	長石・石英・チャートを含む	灰色(5Y6/1)	硬質		ミ176-7, SD01-5
第36図７	SD01	平瓦	【19.5】	【14.0】	1.9	1.5	1.8	不明	537	叩き痕＋縦方向のヘラケズリ	糸切痕＋布目痕	横方向ケズリ	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・チャート・雲母を含む	灰色(5Y6/1)	硬質		ミ176-7, SD1-6
第37図８	SD01	平瓦	【10.5】	【12.5】	2.1	不明	不明	不明	248	粗い縄叩き痕	布目痕	不明	不明	不明	長石・石英を含む	にぶい黄橙色(10YR6/3)	やや硬質	凹面に「＋」か？	ミ176-7, SD2-8
第37図９	SD01	平瓦	【4.4】	【10.5】	1.3	不明	1.2	不明	97	糸切痕＋縦方向ヘラケズリ	布目痕＋縦方向ヘラケズリ	横方向ヘラケズリ	不明	不明	長石・石英・雲母を含む	凸面：明黄褐色(10YR7/6), 凹面：にぶい黄橙色(10YR6/4)	硬質	凸面横方向に墨書。「廣嶋□ヵ」	ミ176-7, SD01一括
第４０図１	SD0３	有段式丸瓦	【8.8】	【5.9】	2.5	2.4	不明	不明	165	玉縁側は横方向のヘラケズリ，広端部側は縦方向のヘラケズリ	布目痕	不明	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・チャート・雲母を含む	浅黄色(2.5Y7/4)	やや硬質	丸瓦凹面から玉縁部まで一連の布目痕，模骨で製作された可能性が高い	ミ176-7, SD3-2
第４０図２	SD0３	有段式丸瓦	【9.2】	【4.4】	1.6	不明	0.9 1.3	不明	83	横方向のヘラナデ	布目痕	横方向ナデ	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英を含む	灰色(5Y6/1)	硬質	玉縁部分を後から接合，赤32・44と同一個体	ミ176-7, SD3-17
第４０図３	SD0３	有段式丸瓦	【9.7】	【3.4】	2.0	1.3	1.4	1.0 1.2	159	横方向のヘラナデ	布目痕＋模骨痕	横方向ナデ	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英を含む	灰色(5Y6/1)	硬質	玉縁部分を後から接合，赤43・44と同一個体	ミ176-7, SD3-19
第４０図４	SD0３	有段式丸瓦	【9.1】	【3.7】	2.0	1.7 1.9	1.1 1.7	不明	183	横方向のヘラナデ	布目痕	横方向ナデ	不明	縦方向のヘラケズリ	海綿状骨針・長石・石英を含む	灰色(7.5Y6/1)	硬質	玉縁部分を後から接合	ミ176-7, SD3-8
第４０図５	SD0３	有段式丸瓦	【10.1】	【8.7】	2.2	不明	不明	不明	179	横方向のヘラナデ	布目痕＋模骨痕	不明	不明	不明	長石・石英を含む	灰色(5Y6/1)	硬質	玉縁部分を後から接合，赤32・43と同一個体	ミ176-7, SD3-12
第４０図６	SD0３	丸瓦	【8.6】	【9.8】	1.9	不明	不明	不明	189	縦方向のヘラケズリ	布目痕	不明	不明	不明	海綿状骨針・長石・石英・雲母を含む	黄灰色(2.5Y5/1)	普通		ミ176-7, SD3-56
第４０図７	SD0３	丸瓦	【7.5】	【3.4】	1.45	1.3	0.5	0.5	74	不整方向のケズリ	布目痕+輪積み痕	不明	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・雲母を含む	浅黄色(2.5Y7/4)	やや軟質	粘土紐巻き上げもしくは輪積み成形による	ミ176-7, SD3-48
第４０図８	SD0３	丸瓦	【4.0】	【5.0】	1.7	不明	1.0 1.3	不明	38	横方向のケズリ	布目痕	横方向のヘラケズリ	不明	不明	長石・石英を含む	灰色(5Y4/1)	軟質	全体的に黒色に変色，二次焼成(火災)痕か？	ミ176-7, SD03フク土
第４０図９	SD0３	丸瓦	【6.0】	【3.8】	1.2	0.7 0.9	不明	0.4 0.5	66	ナデ	布目痕＋模骨痕+糸切り痕	不明	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英を含む	灰色(5Y5/1)	普通		ミ176-7, SD03フク土
第４１図10	SD0３	平瓦	【8.4】	【11.5】	2.3	不明	2.0	不明	226	粗い縄叩き痕	布目痕	不明	横方向ヘラケズリ	不明	長石・石英・チャート・雲母を含む	灰白色(2.5Y8/2)	軟質		ミ176-7, SD3-51
第４１図11	SD0３	平瓦	【9.5】	【6.1】	1.3	1.3	不明	0.5	86	粗い縄叩き痕	布目痕	不明	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・雲母を含む	灰褐色(7.5Y6/2)	硬質	熨斗瓦ヵ	ミ176-7, SD3-54
第４１図12	SD0３	平瓦	【8.3】	【9.6】	1.7	不明	不明	不明	131	粗い縄叩き痕	布目痕+指紋	不明	不明	不明	長石・石英・チャートを含む	暗灰黄色(2.5Y5/2)	普通		ミ176-7, SD03フク土
第４１図13	SD0３	平瓦	【9.7】	【8.3】	2.4	不明	不明	不明	144	粗い縄叩き痕	布目痕	不明	不明	不明	長石・石英・雲母を含む	灰白色(2.5Y8/2)	軟質		ミ176-7, SD3-24
第４１図14	SD0３	平瓦	【8.6】	【5.9】	1.9	不明	不明	不明	118	細い縄叩き痕	布目痕	不明	不明	不明	長石・石英を含む	灰黄色(2.5Y7/2)	普通		ミ176-7, SD3-6
第４１図15	SD0３	平瓦	【7.0】	【9.6】	1.8	1.2	不明	0.7 1.3	140	平行叩き+縦方向のヘラケズリ	布目痕+不正方向のナデ	不明	横方向ヘラケズリ	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・チャートを含む	灰色(7.5Y5/1)	硬質		ミ176-7, SD3-29
第４１図16	SD0３	平瓦	【7.05】	【9.3】	2.0	1.3 1.4	不明	1.3 1.7	140	平行叩き	布目痕	不明	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・チャートを含む	灰色(5Y5/1)	硬質		ミ176-7, SD3-4
第４１図17	SD0３	平瓦	【7.0】	【7.2】	2.2	不明	2.0 2.3	不明	117	指紋	布目痕+模骨痕	不明	設置面に敷いた藁の痕跡	不明	長石・石英を含む	灰色(5Y5/1)	硬質		ミ176-7, SD3-26
第４１図18	SD0３	平瓦	【7.6】	【9.0】	2.0	1.7	1.7	不明	199	糸切痕	糸切痕＋布目痕	横方向ナデ	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・チャートを含む	灰オリーブ色(5Y6/2)	硬質	道具瓦ヵ	ミ176-7, SD3-3
第４１図19	SD0３	平瓦	【8.0】	【5.0】	1.5	1.1	不明	不明	65	不整方向のケズリ	布目痕	不明	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英を含む	凸面：黄灰色(2.5Y5/1), 凹面：鈍い黄橙色(10YR6/3)	普通		ミ176-7, SD03フク土
第42図20	SD0３	平瓦	【10.1】	【10.3】	2.6	不明	不明	不明	297	縦方向のヘラケズリ	糸切痕＋布目痕	不明	不明	不明	長石・石英・チャートを含む	灰色(5Y6/1)	硬質		ミ176-7, SD3-53
第42図21	SD0３	平瓦	【7.5】	【7.2】	1.7	不明	不明	不明	135	不整方向ケズリ	糸切痕＋布目痕	不明	不明	不明	長石・石英・チャート・雲母を含む	灰色(5Y5/1)	やや硬質	凸面に「上」銘の押印あり	ミ176-7, SD03フク土
第42図22	SD0３	平瓦	【4.7】	【3.4】	1.8	0.8	不明	0.9 1.2	51	不整方向のケズリ	布目痕	不明	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英を含む	にぶい黄橙色(10YR6/4)	やや軟質		ミ176-7, SD03フク土

挿図番号	遺構番号	種類	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	側面幅（cm）	端部幅（cm）	重量（g）	重量（g）	凸面	凹面	狭端部	
第42図23	SD03	平瓦	【9.6】	【9.9】	2.5	不明	不明	不明	234	縦方向のヘラケズリ	糸切痕＋布目痕	不明	
第42図24	SD03	平瓦	【7.1】	【12.1】	2.6	1.7	1.8 2.1	0.3	277	縦方向のヘラケズリ	布目痕	不明	
第42図25	SD03	平瓦	【6.5】	【7.2】	1.8	不明	不明	不明	94	糸切痕＋横方向ナデ	糸切痕＋布目痕	不明	
第42図26	SD03	平瓦	【6.4】	【7.7】	1.6	1.1 1.3	不明	0.1 1.0	94	糸切痕	糸切痕＋布目痕	不明	
第42図27	SD03	平瓦	【16.9】	【9.3】	2.1	不明	不明	不明	350	叩き痕＋ナデ	粗い布目痕	不明	
第42図28	SD03	平瓦	【8.0】	【7.8】	2.0	不明	不明	不明	120	糸切痕+不整方向のヘラケズリ	糸切痕	不明	
第43図29	SD03	平瓦	【9.9】	【13.6】	3.0	1.5 1.7	2.0 2.1	不明	380	指紋	布目痕+不正方向のヘラケズリ	横方向ヘラケズリ	
第43図30	SD03	平瓦	【5.2】	【8.1】	2.5	不明	不明	不明	121	糸切痕＋指紋	布目痕	不明	
第43図31	SD03	平瓦	【5.7】	【6.0】	1.5	不明	1.2 1.3	不明	44	ナデ	糸切痕	横方向のヘラケズリ	
第43図32	SD03	平瓦	【7.7】	【7.4】	2.0	不明	1.8	不明	92	不整方向のケズリ	縦方向のヘラケズリ＋糸切り痕	不明	
挿図番号	遺構番号	種類	瓦当厚（cm）		瓦当側面幅（cm）		重量（g）		残存率				
第49図1	SD02	三重弧文軒平瓦	4.8		3.1		228		約1/4				
挿図番号	遺構番号	種類	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	側面幅（cm）	端部幅（cm）	面取幅（cm）	重量（g）	凸面	凹面	狭端部	
第49図2	SD02	平瓦	【8.1】	【8.5】	2.2	1.0 1.3	1.8	不明	248	細い縄叩き痕	布目痕+横方向のヘラケズリ	不明	
第49図3	SD02	平瓦	【6.7】	【8.0】	1.9	不明	1.4 2.0	不明	106	細い縄叩き痕	糸切痕＋布目痕	不明	
第49図4	SD02	平瓦	【10.5】	【12.5】	2.1	不明	不明	不明	248	粗い縄叩き痕	布目痕	不明	
第49図5	SD02	平瓦	【9.2】	【10.7】	2.1	不明	不明	不明	204	粗い縄叩き痕+縦方向のヘラケズリ+指紋	布目痕	不明	
第49図6	SD02	平瓦	【12.6】	【7.0】	2.1	不明	2.0	不明	229	不整方向のケズリ	糸切痕＋縦方向のヘラケズリ	縦方向のヘラケズリ	
挿図番号	遺構番号	種類	直径（cm）	瓦当厚（cm）		瓦当側面幅（cm）			重量（g）	残存率			
第53図1	SK02	重弁五葉花文軒丸瓦	6.4	1.6		2.2			201	約1/4			
挿図番号	遺構番号	種類	直径（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	側面幅（cm）	端部幅（cm）	面取幅（cm）	重量（g）	凸面	凹面	狭端部	
第53図4	表面採集	丸瓦	【9.4】	【4.9】	1.4	1.2	不明	0.3	99	縦方向＋横方向のヘラケズリ	布目痕	不明	

	広端部	側面部	胎土鉱物	色調	焼成	備考	注記
	不明	不明	海綿状骨針・長石・石英・チャートを含む	灰オリーブ色(5Y6/2)	硬質		ミ176-7, SD3-3
	横方向ヘラケズリ	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・雲母を含む	灰白色(2.5Y8/2)	軟質		ミ176-7, SD3-10
	不明	不明	海綿状骨針・長石を含む	灰白色(2.5Y7/1)	硬質	凹面に「□小川里」銘あり	ミ176-7,SD3-16
	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・チャートを含む	灰オリーブ色(5Y5/2)	硬質		ミ176-7, SD3-9
	不明	不明	長石・石英を含む	灰黄色(2.5Y6/2)	硬質	凸面に「⇒」のような記号？あり	ミ176-7, SD3-47
	不明	不明	長石・石英を含む	にぶい黄褐色(10YR5/3)	やや軟質		ミ176-7, SD03フク土
	不明	縦方向のヘラケズリ	海綿状骨針・長石・石英・雲母を含む	灰色(5Y6/1)	やや軟質	凹面側に黒色の付着あり，二次焼成(火災)痕か？	ミ176-7, SD3-55
	不明	不明	長石・石英を含む	灰黄色(2.5Y6/2)	普通	道具瓦ヵ,横断面にゆるいS字状の反りあり	ミ176-7, SD03フク土
	不明	不明	長石・石英を含む	灰色(5Y5/1)	普通		ミ176-7, SD03フク土
	横方向ナデ	不明	長石・石英・雲母を含む	凸面：黄灰色(2.5Y4/1)，凹面：灰白色(2.5Y8/1)	軟質	広端面と凸面が黒色に変色，二次焼成(火災)痕か？	ミ176-7, SD3-1
	胎土鉱物			色調	焼成	備考	注記
	海綿状骨針・長石・チャート・雲母を含む			凸面：明黄褐色(10YR7/6)，凹面：にぶい黄橙色(10YR6/4)	硬質		ミ176-7, SD02-15
	広端部	側面部	胎土鉱物	色調	焼成	備考	注記
	横方向ヘラケズリ	縦方向のヘラケズリ	長石・石英・雲母を含む	灰色(7.5Y4/1)	硬質	道具瓦ヵ，焼成時に歪みが発生	ミ176-7, SD2-23
	横方向ヘラケズリ	不明	長石・石英・チャートを含む	暗灰黄色(2.5Y5/2)	硬質		ミ176-7, SD2-6
	不明	不明	長石・石英を含む	にぶい黄橙色(10YR6/3)	やや硬質	凹面に「ヘラ書き	ミ176-7, SD2-8
	不明	不明	長石・石英・チャートを含む	にぶい黄橙色(10YR7/4)	やや軟質		ミ176-7, SD2-7
	不明	不明	長石・石英・チャートを含む	灰オリーブ色(5Y5/2)	硬質		ミ176-7, SD2-24
	胎土鉱物			色調	焼成	備考	注記
	海綿状骨針・長石・チャートを含む			灰色(5Y6/1)	硬質		ミ176-7, SK2-1
	広端部	側面部	胎土鉱物	色調	焼成	備考	注記
	不明	縦方向のヘラケズリ	長石・石英を含む	灰白色(2.5Y8/2)	普通		ミ176-7,フク土

付表３．鉄製品観察表

遺構	挿図番号	種別	計測値				備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
SI01	第９図8	鉄鎌	18.26	3.45	0.37	110.0	完存品　薄手のつくり
	第９図9	棒状鉄製品	10.86	0.94	0.49	25.9	断面長方形　片端が折り曲げてある
	第９図10	板状鉄製品	6.24	1.45	0.18	4.4	刃部が付く　鏃ヵ
	第９図11	鉄釘	3.05	0.32	0.32	3.5	頭部欠損
	第９図12	鉄釘	7.98	0.61	0.61	8.0	頭部欠損
	第９図13	鉄釘	(9.83)	0.47	0.47	7.9	頭部欠損
	第９図14	鉄釘	10.46	0.46	0.51	6.2	頭部欠損
SB04	第17図5	鉄釘	15.41	0.95	0.92	60.0	折頭釘　先端部欠損
	第17図6	鉄釘	5.62	0.87	0.92	9.0	折頭釘　先端部欠損
SB08	第26図6	鉄釘	9.61	1.56	0.66	22.0	頭部欠損
SI03	第34図10	鉄鎌	15.17	3.43	0.39	51.3	ほぼ完存品　薄手のつくり
	第34図11	刀子	9.71	1.60	0.94	11.2	平造り角棟の刀子　茎部欠損
	第34図12	刀子	4.65	2.09	0.67	9.9	関部破片
	第34図13	鉄鏃	4.65	0.42	0.39	4.5	茎部のみ

付表４．土製品観察表

遺構	挿図番号	種別	計測値				胎土・色調	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
SD01	第37図12	土玉	3.09	3.05	2.33	0.65	石英・長石 にぶい橙色	ヘラ状工具痕
SD03	第43図39	土玉	31.50	3.02	2.67	0.65	黒色粒子・石英・長石 浅黄橙色	面取り 赤彩

写 真 図 版

遺跡遠景

先土器時代試掘グリット

1号陥し穴状土坑(SK01)

5号陥し穴状土坑(SK05)

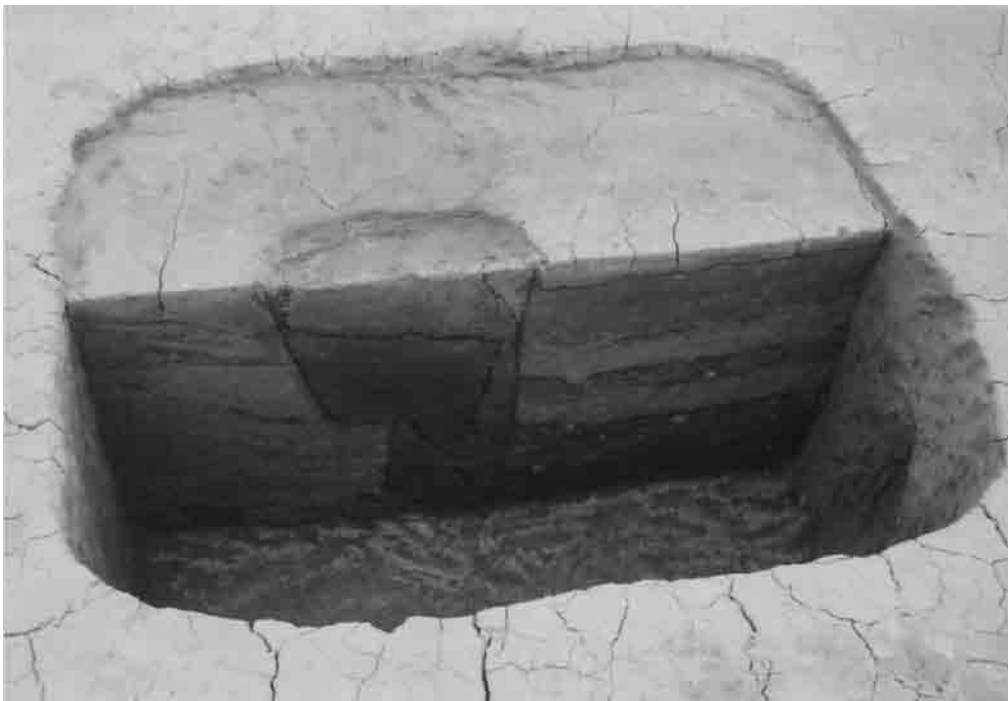
1　1号竪穴建物跡(SI01)

2.3　1号竪穴建物跡(SI01)
遺物出土状況

4　3号竪穴建物跡(SI03)　　5　3号竪穴建物跡(SI03)遺物出土状況

4号建物跡(SB04)全景

4号建物跡(SB04)　P1



4号建物跡(SB04)　P2

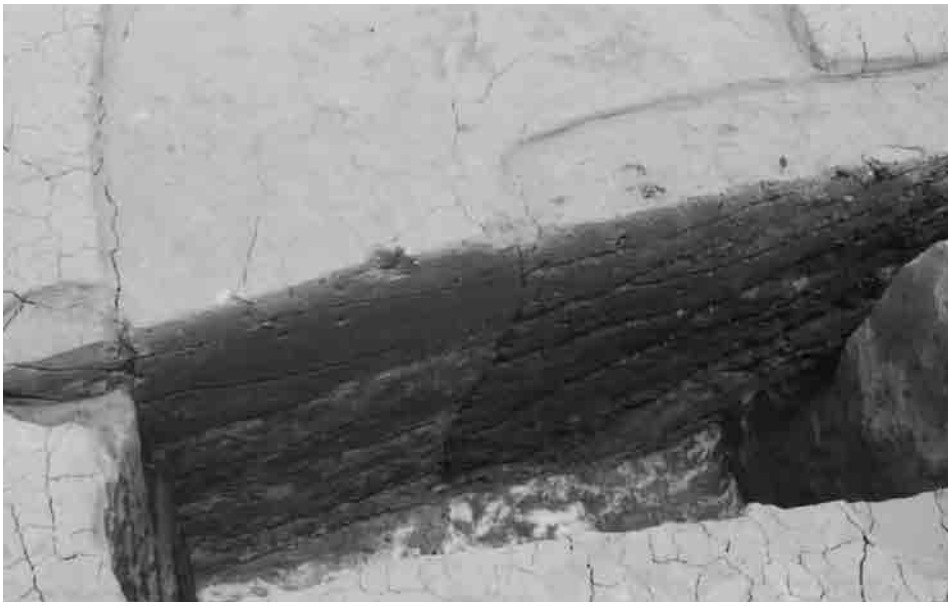
4号建物跡(SB04)　P3

4号建物跡(SB04)　P4

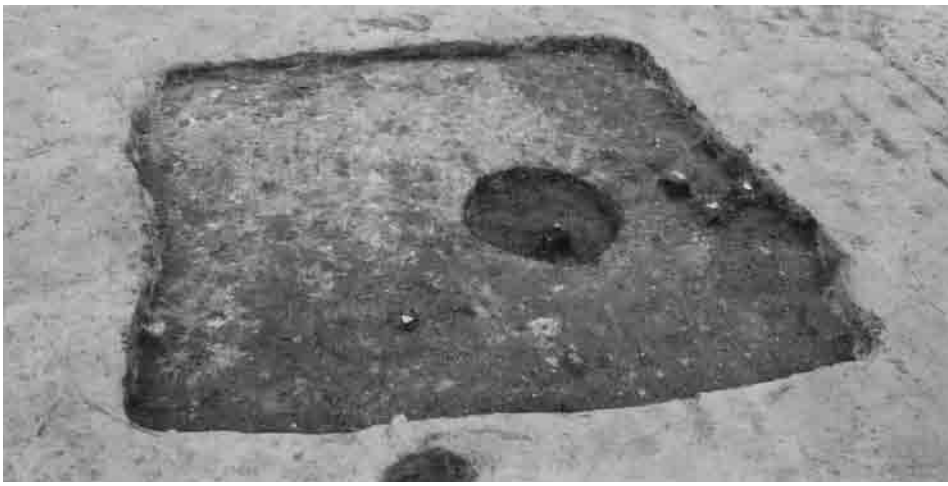
4号建物跡(SB04)　P9

4号建物跡(SB04)　P10

4号建物跡(SB04)　P11



4号建物跡(SB04)　P12・P30・P31



4号建物跡(SB04)　P13

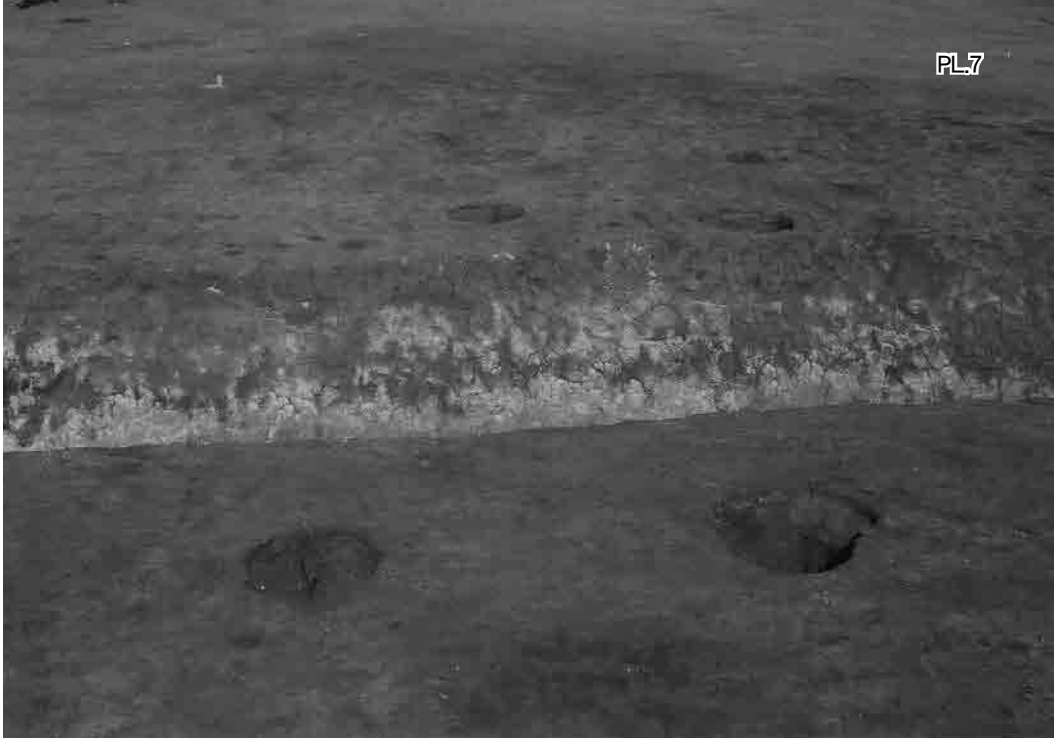
4号建物跡(SB04)　P13

4号建物跡(SB04)　P15

4号建物跡(SB04)　P16

4号建物跡(SB04)　P17

4号建物跡(SB04)　P18



5号建物跡(SB05)

6号建物跡(SB06)

7号建物跡(SB07)

8号建物跡(SB08)
全景

8号建物跡(SB08)

8号建物跡(SB08)　P1・P35

8号建物跡(SB08)　P2・P23・P24

8号建物跡(SB08)　P9・P20・P21

9号建物跡(SB09)

1号溝跡(SD01)

1号溝跡(SD01)硬化面

1号溝跡(SD01)遺物出土状況

3号溝跡(SD03)全景

3号溝跡(SD03)遺物出土状況

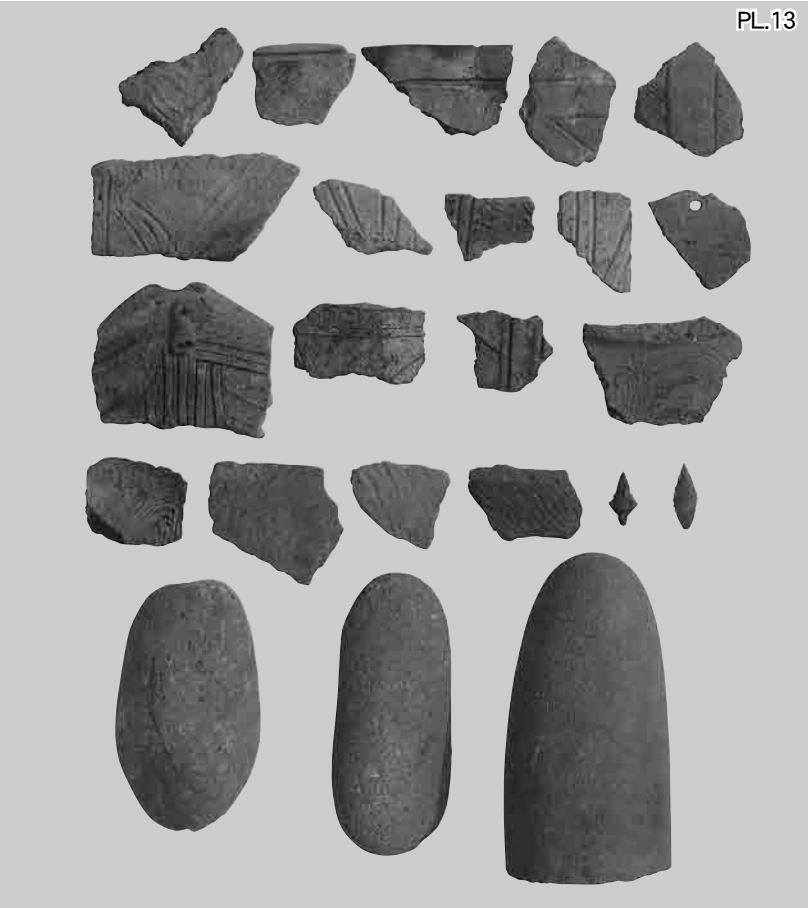
3号溝跡(SD03)遺物出土状況

3号溝跡(SD03)炭化米出土状況

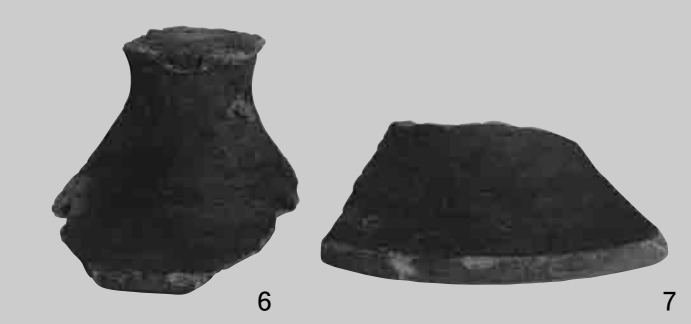
土坑SK01

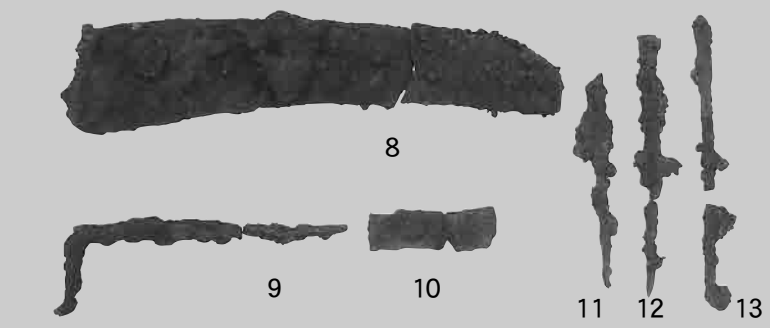
土坑SK04

土坑SK11

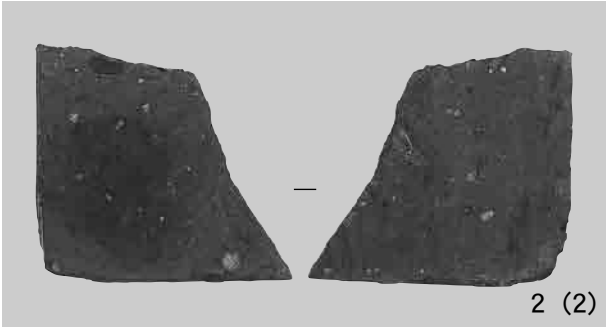


1. 調査区内出土の縄文時代遺物

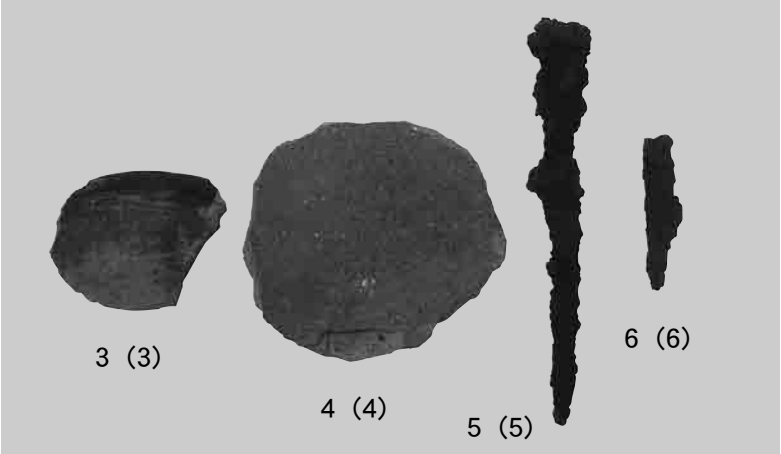




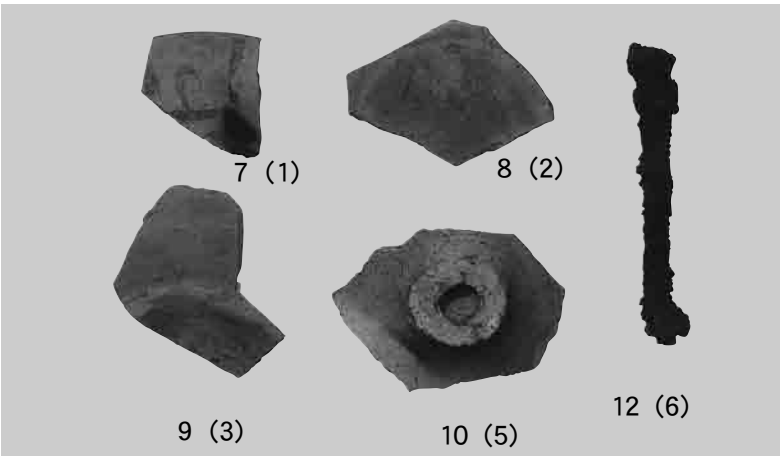
2. 1号竪穴建物跡(SI01)出土遺物　※挿図番号と一致

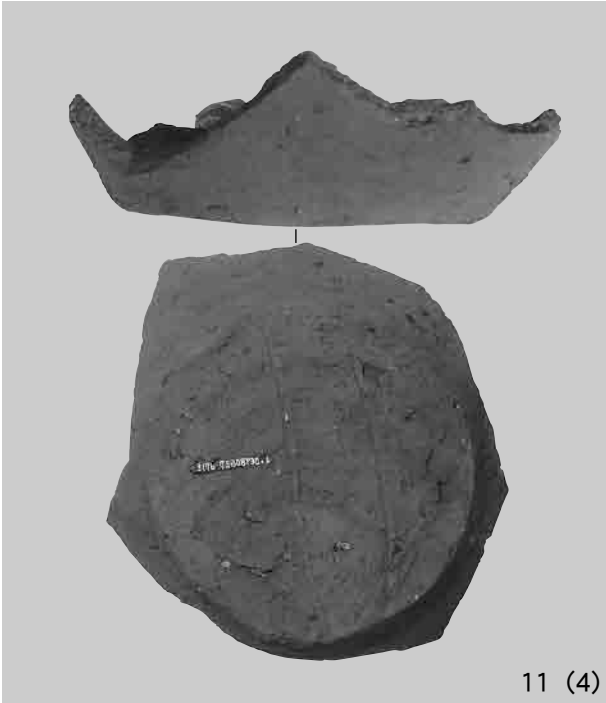


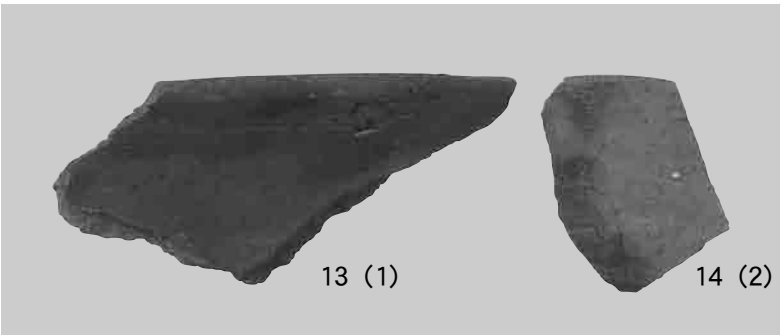
1～6　4号建物跡(SB04)出土遺物
※(　)内は挿図番号と一致



7～12　8号建物跡(SB08)出土遺物
※(　)内は挿図番号と一致

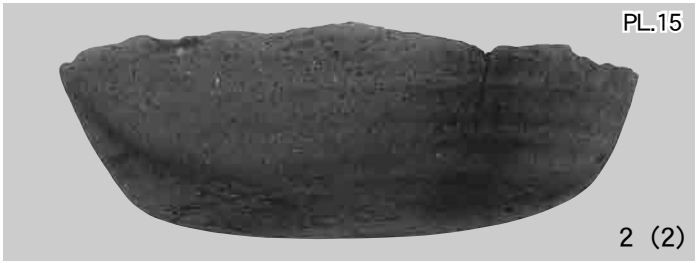


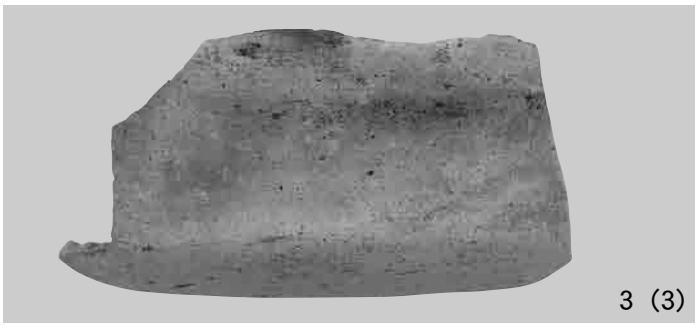


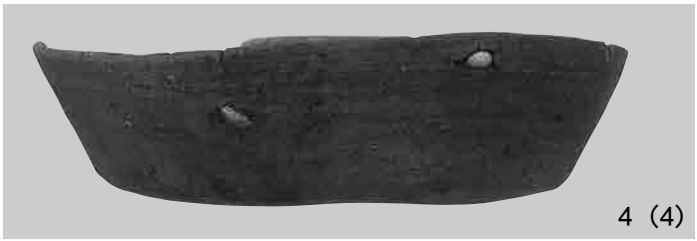


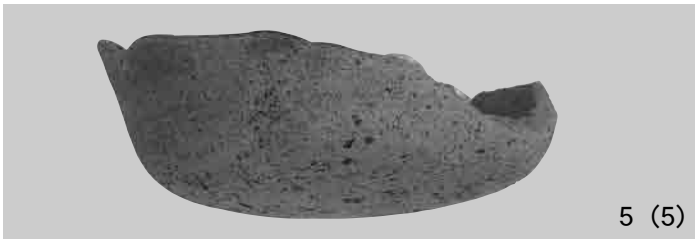
13・14　2号竪穴建物跡(SI02)出土遺物
※(　)内は挿図番号と一致

1（1）


2（2）

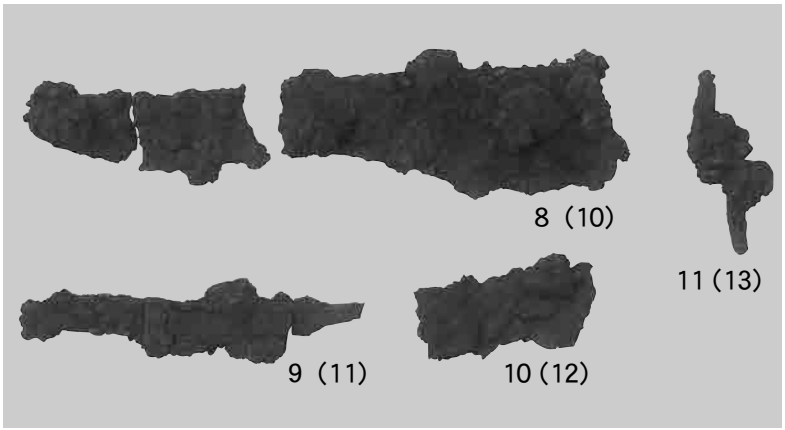

3（3）

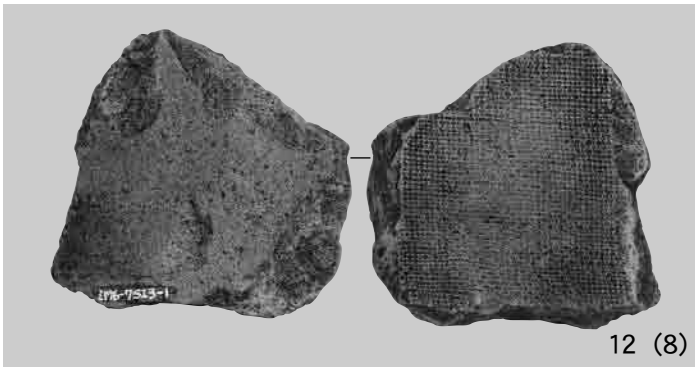

4（4）


5（5）

7（7）

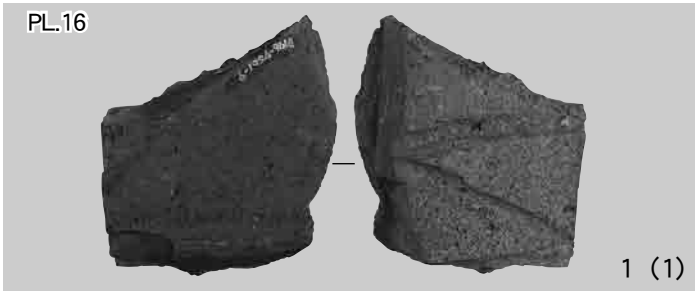
6（6）

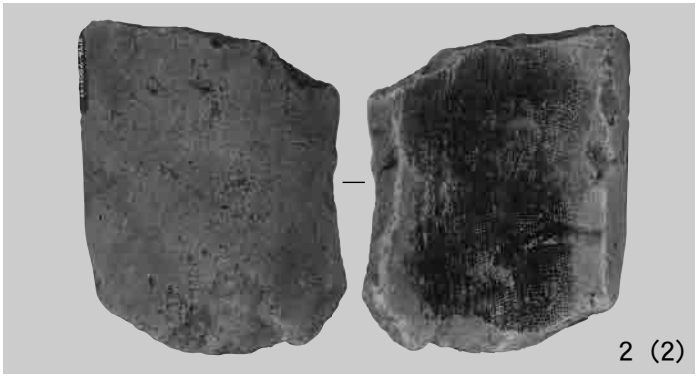

8（10）
11（13）
9（11）
10（12）

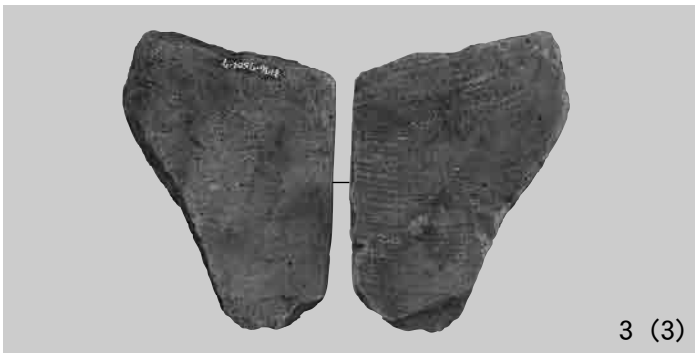

12（8）

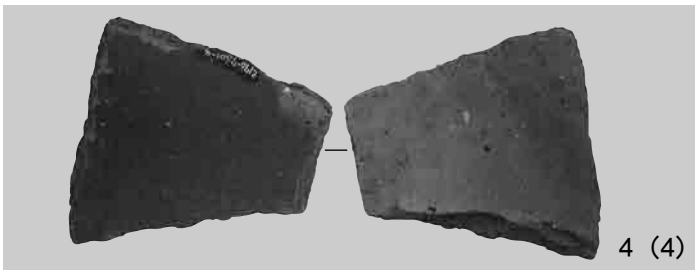
13（9）

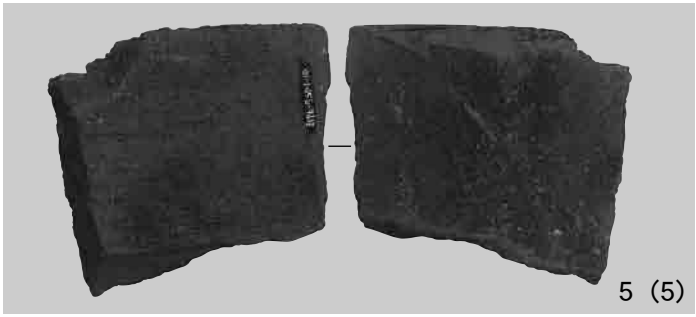
3号竪穴建物跡(SI03)出土遺物　※(　)内は挿図番号と一致

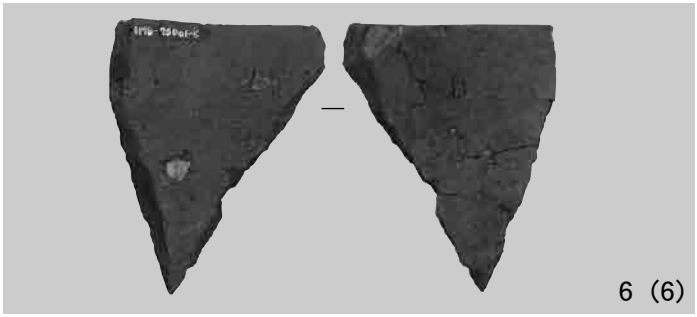


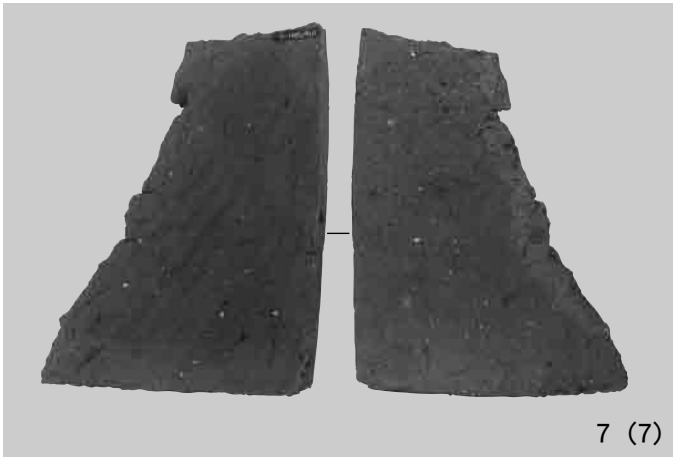


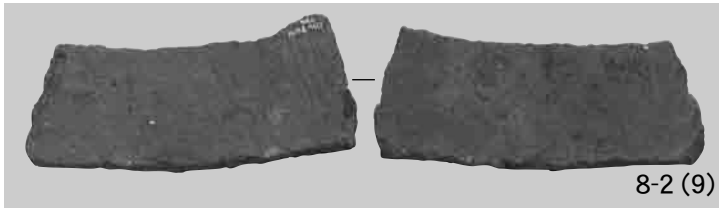


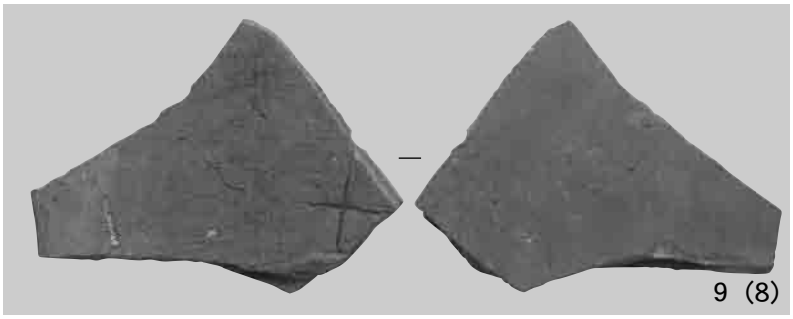


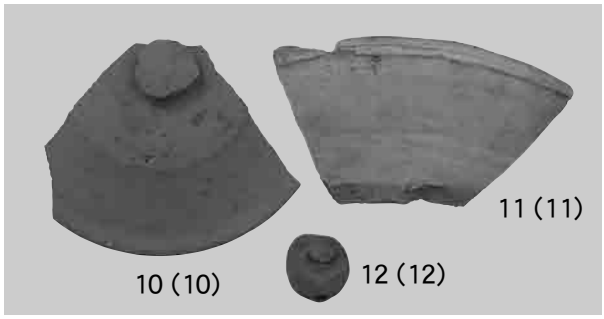


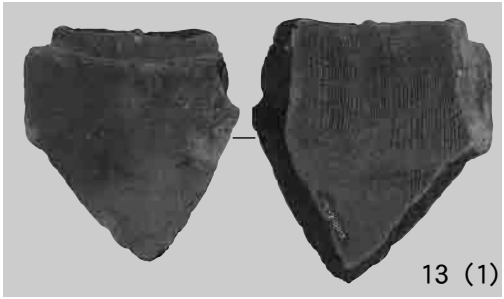


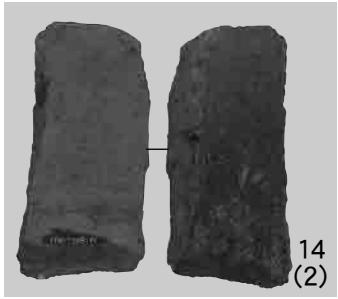


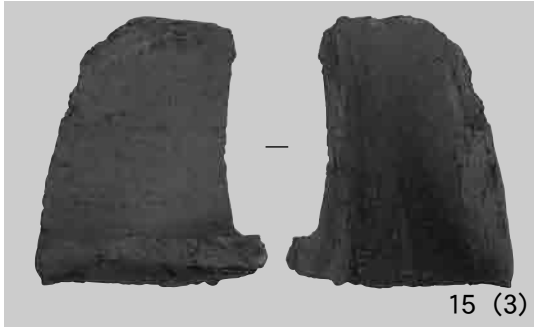




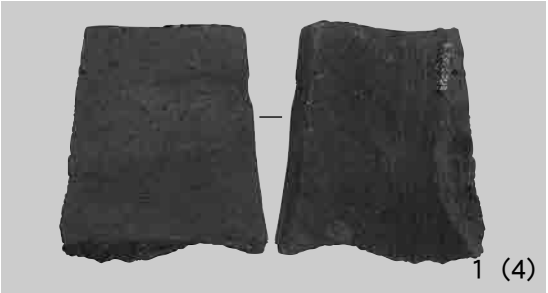


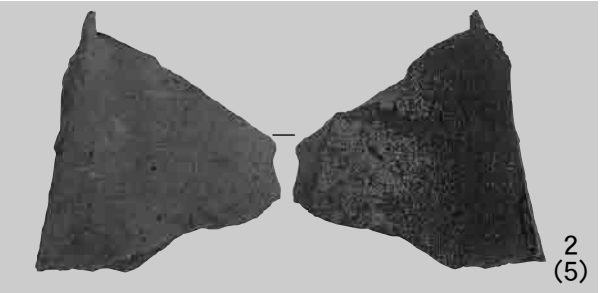




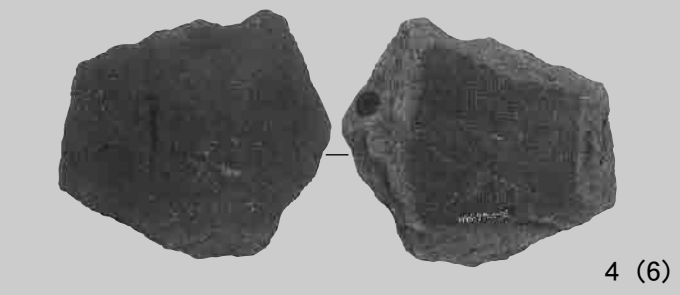


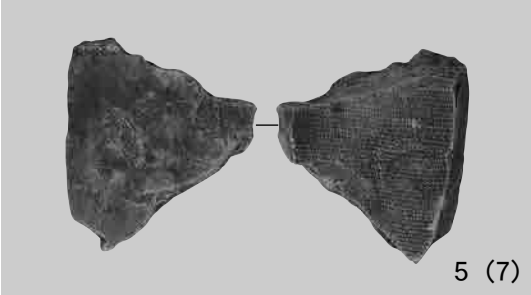
1～12　溝跡(SD01)出土遺物　※(　)内は挿図番号と一致
13～15　溝跡(SD03)出土遺物(1)　※8-1赤外線撮影（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室撮影）

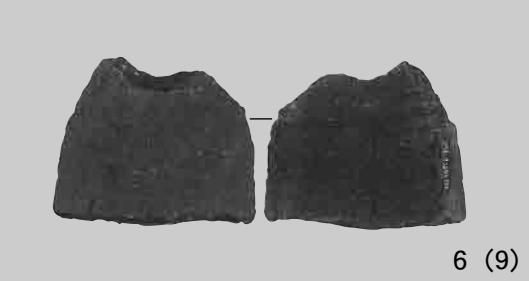

1（4）

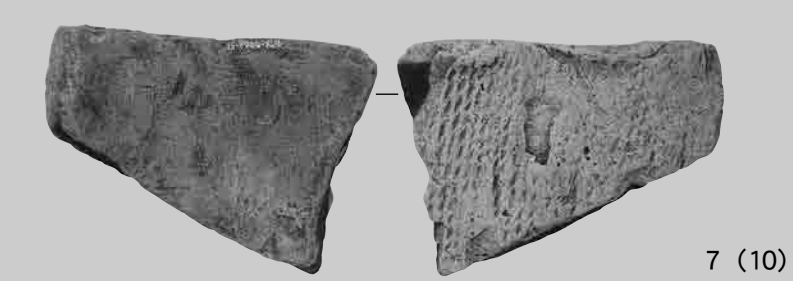

2（5）

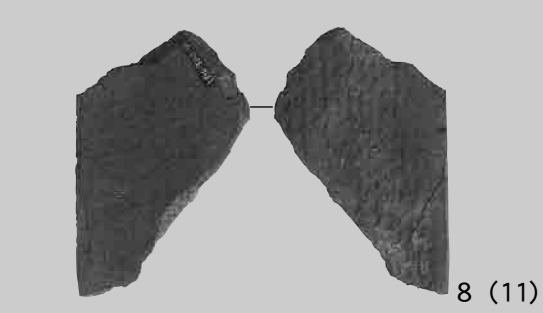
3（8）

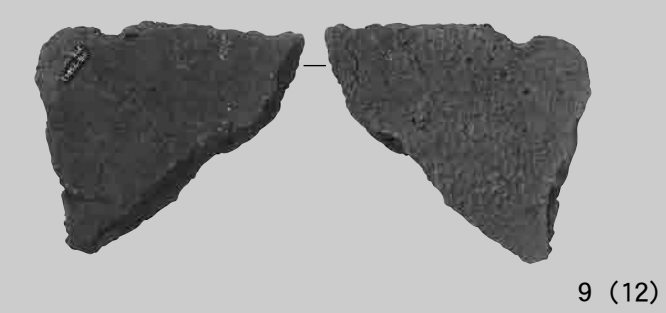

4（6）

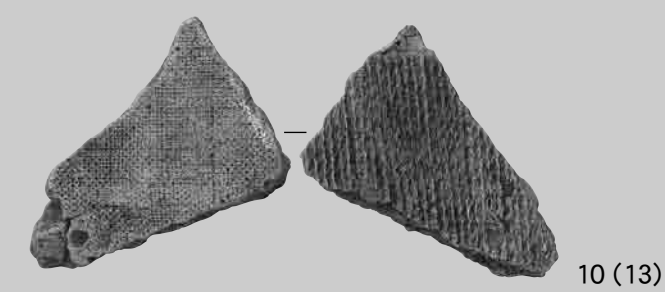

5（7）

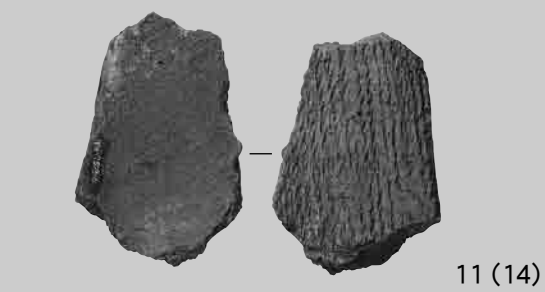

6（9）

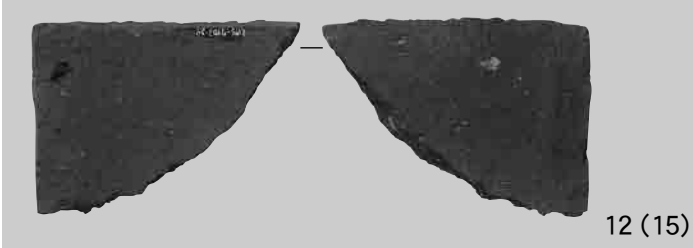

7（10）

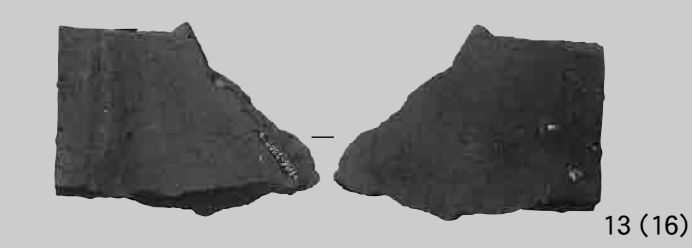

8（11）

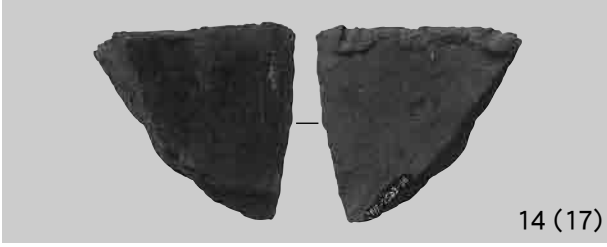

9（12）

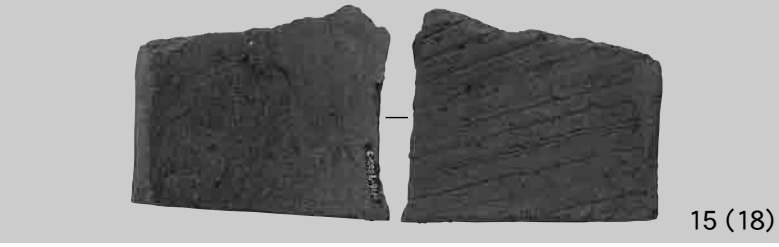

10（13）


11（14）


12（15）

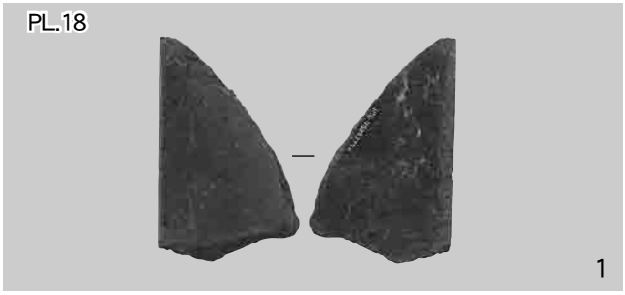

13（16）

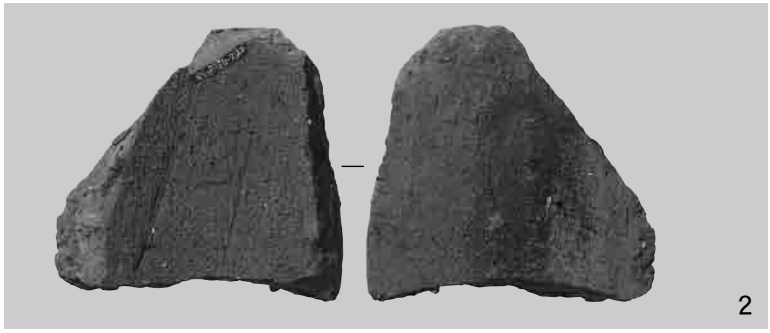

14（17）

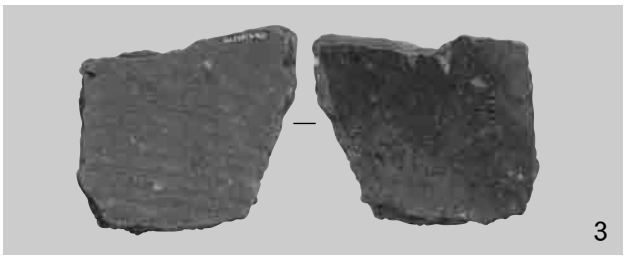

15（18）

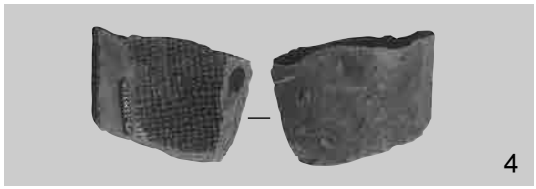
1～15　溝跡(SD03)出土遺物(2)　　※(　)内は挿図番号と一致

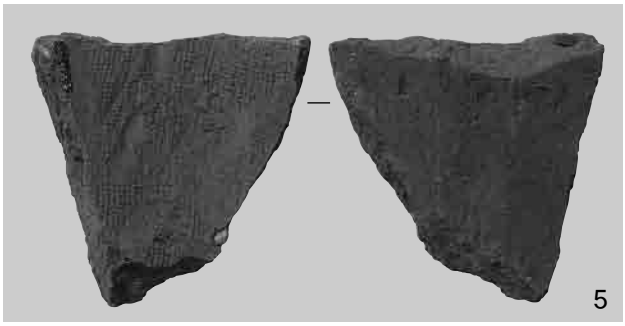
PL.18

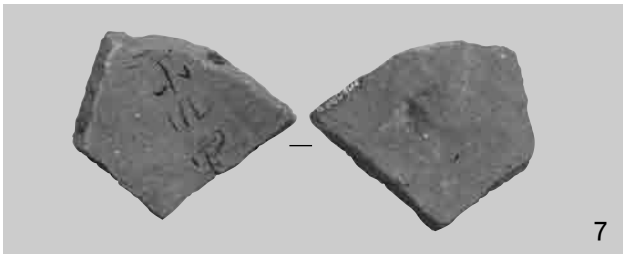


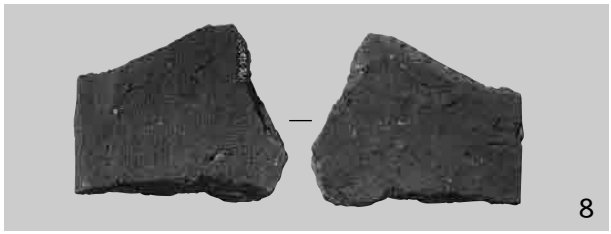


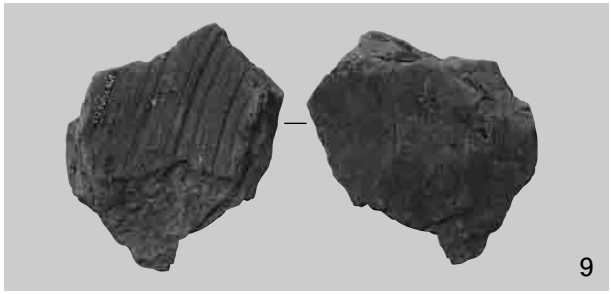


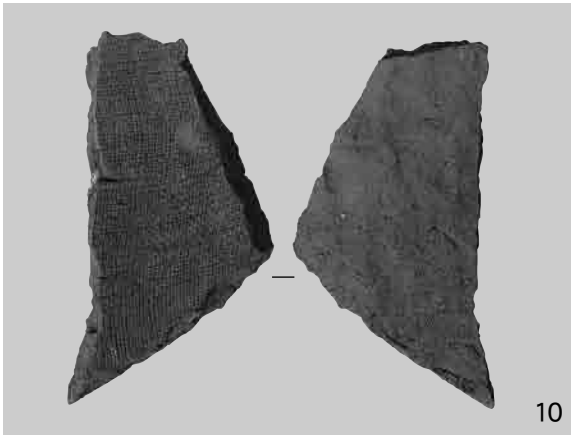


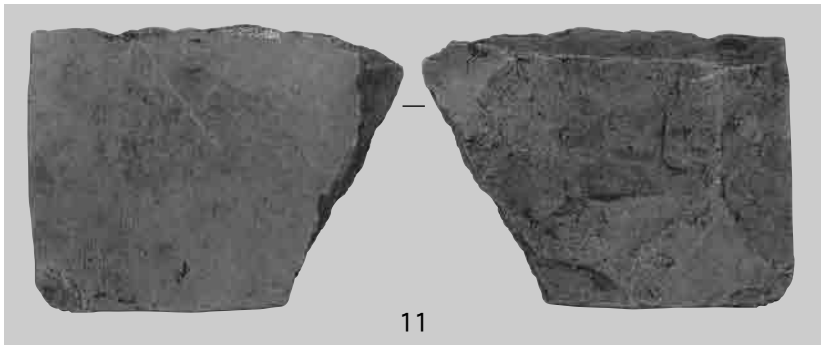


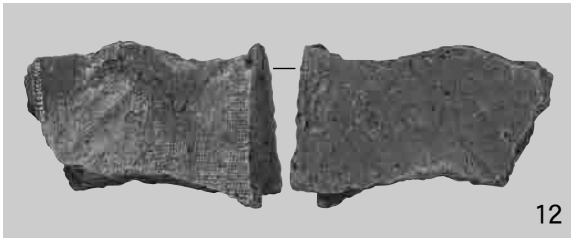


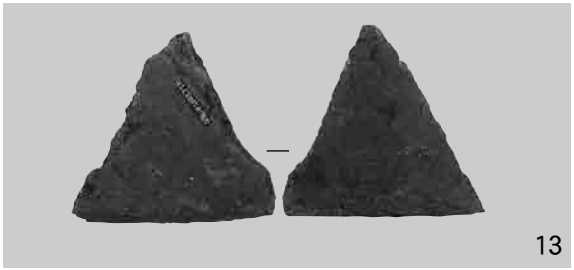


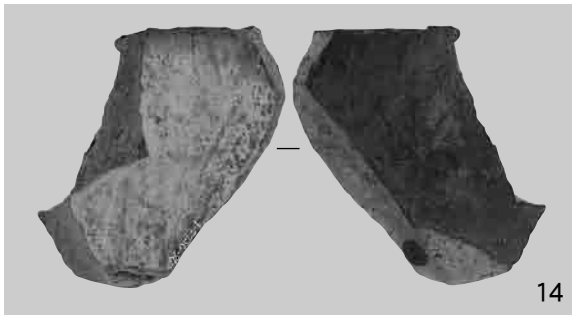




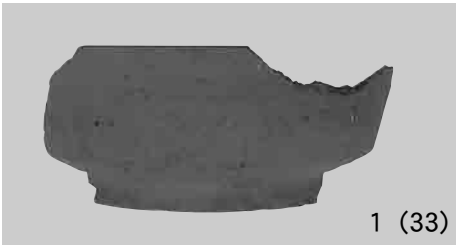


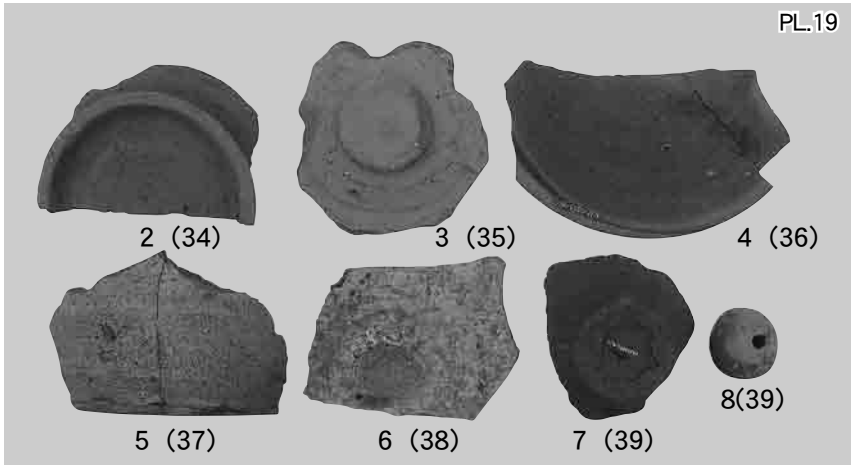


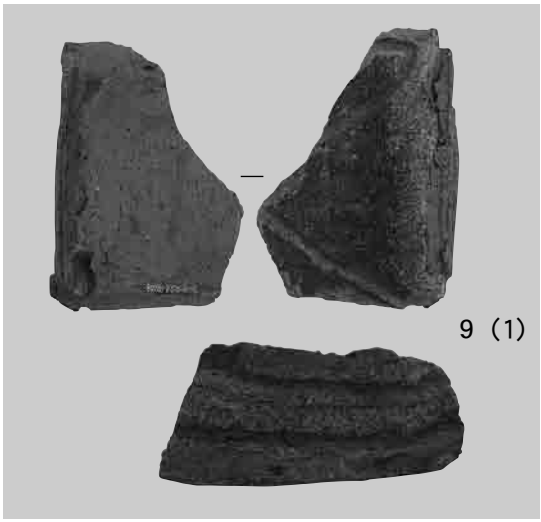


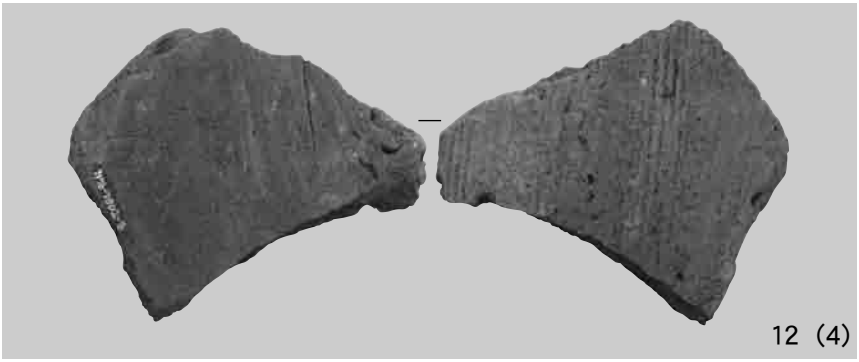


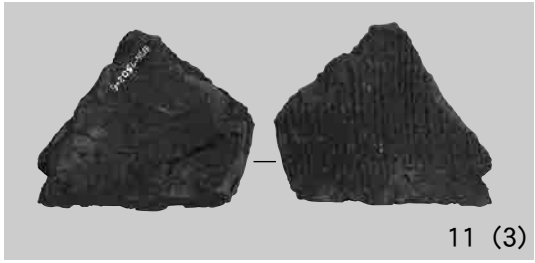
1～14　溝跡(SD03)出土遺物(3)　※(　)内は挿図番号と一致

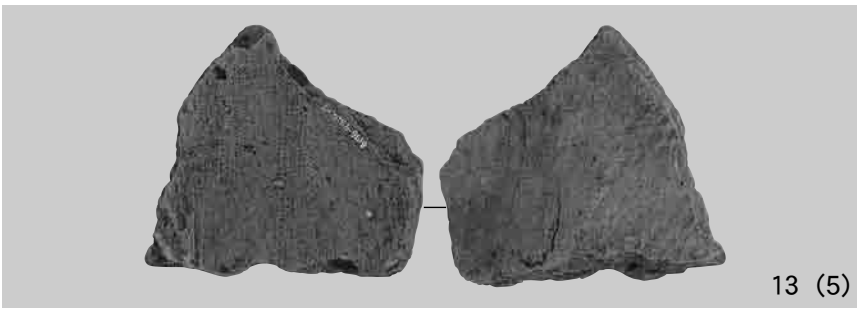


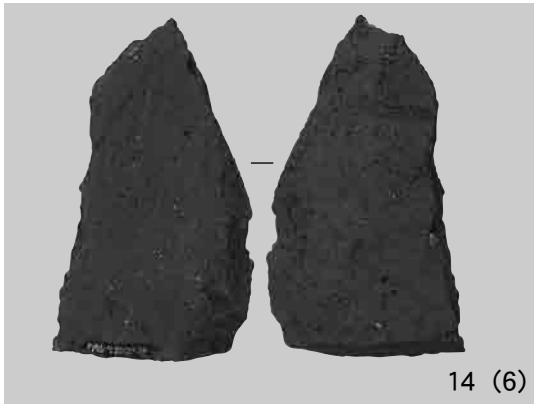


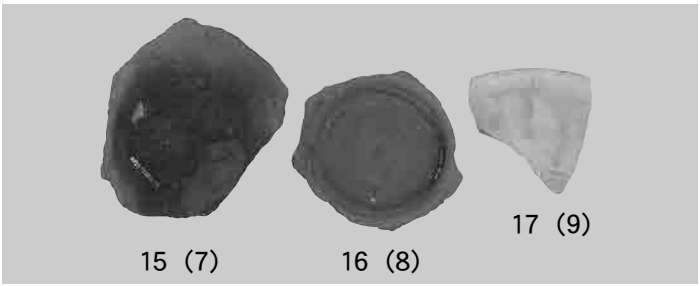












1～8　溝跡(SD03)出土遺物(4)　　※(　)内は挿図番号と一致
9～17　溝跡(SD02)出土遺物　※(　)内は挿図番号と一致
18　土坑SK02出土遺物
19　表採資料

報告書抄録

ふりがな	おおくしいせき(だいななちてん)		
書　　名	大串遺跡（第７地点）		
副　書　名	介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第14集		
編集者名	小川和博・大渕淳志		
著　者　名	小川和博・大渕淳志・川口武彦・木本挙周・渥美賢吾・関口慶久・株式会社京都科学		
編集機関	有限会社 日考研茨城	所在地	〒300-0508　茨城県稲敷市佐倉3321-1　☎029-892-1112
発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒310-8610　茨城県水戸市中央1-4-1　☎029-224-1111(代)
発行年月日	2008(平成20)年３月25日		

所収遺跡（ふりがな）	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
大串遺跡（おおくしいせき） (第７地点)	水戸市大串町字（みとしおおくしちょうあざ）仲道（なかみち）584-1 外	08201	176	36° 19′ 26″	140° 32′ 30″	2007.4.6 ～ 2007.6.10	3,874㎡	介護老人保健施設建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大串遺跡 (第７地点)	集落跡 官衙跡	縄文	陥し穴	縄文土器，磨石類 石鏃	正倉院に関連するとみられる区画溝と掘立柱建物跡やそれらに先行する竪穴建物跡が確認された。掘立柱建物跡SB04は，束柱が確認されたことから，低い板張りの床を持つ構造の床束建物であり，柱抜取穴から炭化米が出土したことから，頴稲等を収納しておく頴屋あるいは，倉の代用として建築された揚床の建物である倉代の可能性が高いことが判明した。これにより，正倉院に営まれた床束建物が，頴屋あるいは倉代として機能していたと推定できるようになったことは大きな成果である。 SB04の東側に構築された区画溝SD03からは，炭化米が塊状で検出され，粒の並びを観察した結果，一定方向に並ぶことから，炭化した頴稲であることが明らかとなった。取り上げに成功したのは日本で初めての例である。 また，区画溝SD01およびSD03からは那賀郡衙正倉本院と理解されている台渡里廃寺跡長者山地区と共通する軒先瓦や文字瓦が少量，出土しており，那賀郡では郡衙正倉本院以外の官衙遺跡にも熨斗棟あるいは甍棟の瓦葺建物を採用していたことが明らかとなった。
		古墳	竪穴建物跡	土師器，須恵器	
		奈良・平安	掘立柱建物跡， 溝跡，竪穴建物跡	土師器，須恵器， 瓦，炭化米	
		中世以降	掘立柱建物跡， 土坑，溝跡		

※北緯・東経は測地系2000対応。Web版TKY2JD(Ver.1.3.79)による変換。

水戸市埋蔵文化財調査報告

第１集　**台渡里廃寺跡**―範囲確認調査報告書―　2005年3月発行

第２集　**台渡里廃寺跡**
―市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）―　2005年4月発行

第３集　**大鋸町遺跡**
―グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―　2005年8月発行

第４集　**台渡里廃寺跡**
―市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2）―　2006年3月発行

第５集　**台渡里遺跡**―集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―　2005年3月発行

第６集　**吉田古墳Ⅰ**
―史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第1次・第2次発掘調査報告書―　2006年3月発行

第７集　**大鋸町遺跡（第3地点）**
―市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―　2006年3月発行

第８集　**圷遺跡（第3地点）**
―ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―　2007年3月発行

第９集　**圷遺跡（第4地点）**
―プランタンコリーヌⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―　2007年3月発行

第10集　**吉田古墳Ⅱ**
―史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告書―　2007年3月発行

第11集　**平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書**　2007年3月発行

第12集　**アラヤ遺跡（第2地点）**
―市道常磐10号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―　2007年3月発行

第13集　**米沢町遺跡（第5地点）**
―住宅展示場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―　2007年3月発行

第14集　**大串遺跡（第7地点）**
―介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―　2008年3月発行

水戸市埋蔵文化財調査報告第14集

大 串 遺 跡（第７地点）

－介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

印刷　平成20年３月25日
発行　平成20年３月25日

編集　有限会社　日考研茨城
発行　水戸市教育委員会
印刷　有限会社　田辺印刷
茨城県稲敷市佐倉3321-5